

---

熊谷市

---

# 北島遺跡 XIII

---

熊谷スポーツ文化公園建設事業関係  
埋蔵文化財発掘調査報告

—VIII—

2005

埼玉県

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

# 序

平成16年10月から11月にかけて、「とどけ この夢 この歓声」をメインテーマとする、第59回国民体育大会「彩の国まごころ国体」秋季大会と、第4回全国障害者スポーツ大会「彩の国まごころ大会」が熊谷スポーツ文化公園をメイン会場として開催されました。

熊谷スポーツ文化公園は、平成3年4月にオープンした広域都市公園で、県民の文化・スポーツ・レクリエーションの拠点として、また「親しみをもたれる緑豊かで魅力ある公園」として整備が進められてまいりました。

埼玉県埋蔵文化財調査事業団は、昭和61年以来、公園の整備工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査を行い、これまでに縄文時代から中世にわたる竪穴住居跡や建物跡、土器や石器などを発見するなど多くの成果を挙げてまいりました。

国体開催にあたり、この公園内に屋内競技場や陸上競技場、調節池などの建設が予定され、予定地内に存在する埋蔵文化財の取り扱いについて、関係機関が慎重に協議を重ねてまいりました。

その結果、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課の調整により、やむを得ず現状で保存が困難となる範囲について、当事業団が埼玉県県土整備部の委託を受け、発掘調査を行うこととなりました。

調査の結果、弥生時代から平安時代にわたる「ムラ」の姿が明らかになり、多くの土器や石器、木製品などが出土しました。なかでも、弥生時代の水田、埴輪を並べた古墳、古代の豪族館跡などは、大変貴重な発見となりました。

本書はこれらの調査成果のうち、古墳時代前期から奈良・平安時代の木製品についてまとめたものです。

埋蔵文化財の保護、学術研究の基礎資料として、また埋蔵文化財の普及・啓発や学校教育、生涯学習の参考資料として、広く活用いただければ幸いです。

本書の刊行にあたり、発掘調査に関する諸調整に御尽力いただきました埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課をはじめ、埼玉県県土整備部都市公園課、埼玉県熊谷スポーツ文化公園建設事務所、熊谷市教育委員会並びに地元の関係者各位に深く感謝申し上げます。

平成17年3月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 福田 陽 充

# 例 言

1. 本書は、埼玉県熊谷市に所在する北島遺跡の発掘調査報告書である。本編では北島遺跡第19地点から出土した木製品について掲載した。
2. 遺跡のコード番号と、各年度の発掘調査届に記載した代表地番及びこれに対する埼玉県教育委員会教育長の指示通知は、以下のとおりである。

平成11年度  
北島遺跡 第12次 (No.59-058)  
熊谷市大字上川上字町田364他  
平成11年4月16日付け 教文第2-5号

平成12年度  
北島遺跡 第15次 (No.59-058)  
熊谷市大字上川上字323・192他  
平成12年4月19日付け 教文第2-3号
3. 発掘調査は、第59回国民体育大会「彩の国まごころ国体」・第4回全国身体障害者スポーツ大会「彩の国まごころ大会」開催に伴う熊谷スポーツ文化公園拡張整備事業に先立つ記録保存のための事前調査であり、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課が調整し、埼玉県熊谷県土整備事務所の委託を受け、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
4. 熊谷スポーツ文化公園建設事業関係埋蔵文化財の既刊発掘調査報告書は以下の通りである。

『北島遺跡』第81集 (1989)  
『北島遺跡Ⅱ』第88集 (1989)  
『北島遺跡Ⅲ』第103集 (1991)  
『北島遺跡Ⅴ』第278集 (2002)  
『北島遺跡Ⅵ』第286集 (2003)  
『北島遺跡Ⅶ』第291集 (2004)  
『北島Ⅷ／田谷』第292集 (2004)  
『北島遺跡Ⅸ』第293集 (2004)  
『北島遺跡Ⅹ』第302集 (2004)  
『北島遺跡ⅩⅠ』第303集 (2005)  
『北島遺跡ⅩⅡ』第304集 (2005)
5. 本事業は、I-3に示す組織により実施した。発掘事業は、平成11年4月8日から平成12年3月24日及び平成12年4月10日から平成12年12月28日まで実施し、今井宏・小野美代子・利根川章彦・若松良一・細田勝・富田和夫・鈴木孝之・石井伸明・黒坂禎二・吉田稔・村田章人・田中広明・岩田明広・福田聖・渡辺清志・宮井英一・赤熊浩一・大谷徹・君島勝秀・山本靖が担当した。整理報告書作成事業は磯崎一が担当し、平成15年4月8日から平成17年3月10日まで実施した。
6. 遺跡の基準点測量及び空中写真撮影は株式会社シン技術コンサルに、出土した骨及び樹種の同定はパリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。なお、樹種同定の分析結果は附編に概要を掲載した。
7. 発掘における遺構写真は、発掘担当者が撮影した。遺物写真は大屋道則が撮影し、大和田瞳の協力を得た。
8. 出土品の整理および図版の作成は磯崎、山本靖、大和田が行った。
9. 本書の執筆は、I-1を埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課が、V-1を大和田、V-2を福田 聖が、その他を磯崎が行い大和田の協力を得た。
10. 本書の編集は磯崎が行い、大和田の協力を得た。
11. 本書にかかる資料は、平成17年度以降、埼玉県立埋蔵文化財センターが管理・保管する。
12. 発掘調査から本書の刊行にあたり、下記の方々から御教示、御協力を賜った。記して謝意を表します。(敬称略) 飯塚武司 金子正之 小林正 寺社下博 高橋 和 松田 哲 山川守男 山田昌久 吉野 健 熊谷市教育委員会

# 凡 例

本報告書における挿図等の指示は、以下のとおりである。

1. 北島遺跡におけるX・Yの数値は、国土標準平面直角座標IX系（原点：北緯36度00分00秒、東経139度00分00秒）に基づく座標値を示す。また、各挿図における方位は全て座標北を示す。
2. 遺跡におけるグリッドの設定は、国土標準平面直角座標に基づき、10m×10mの方眼を基本グリッドとしている。
3. 遺跡におけるグリッドの名称は、北西杭を基準として、南北方向は北から順にA・B・C…とアルファベットを付し、東西方向は西から1・2・3…と算用数字を付し、A1グリッド等の名称を付けた。
4. 本報告書における本文・挿図・表に示す遺構の略号は以下のとおりである。
 

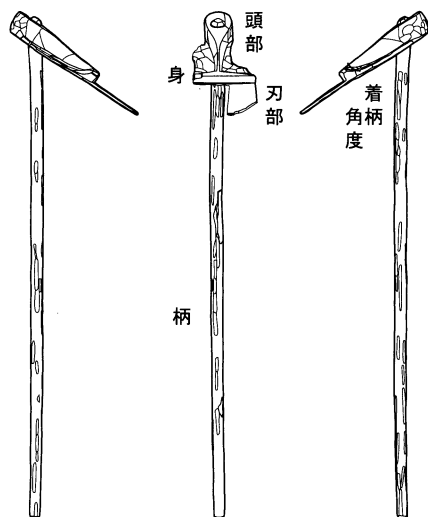
P…ピット	SJ…竪穴住居跡
SD…溝跡	SK…土壌
SR…方形周溝墓	
5. 本報告書における挿図の縮尺は、原則として以下のとおりである。

- |    |       |   |              |
|----|-------|---|--------------|
| 遺構 | 全体図   | … | 1/1200・1/600 |
|    | 遺構図   | … | 1/200・1/60   |
| 遺物 | (木製品) |   |              |
|    | 農具    | … | 1/4・1/6      |
|    | 建築部材  | … | 1/4・1/6・1/8  |
|    | 杭     | … | 1/6          |

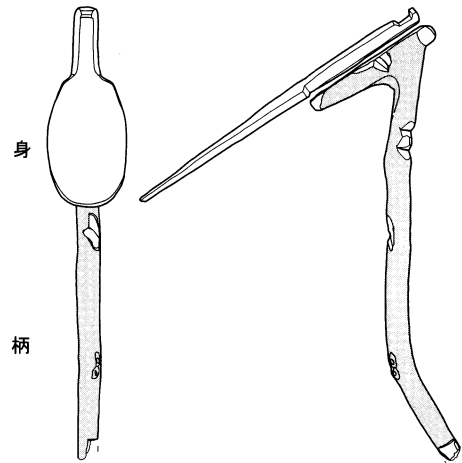
その他のものに関しては、スケール及び縮尺率等をその都度表記している。

6. 実測図の網かけは、樹皮面が10%、被熱が25%である。
7. 木製品の木取りについては、実測図の断面方向へ模式的に木目を図示した。
8. 遺構断面図に表記した水準数値は、海拔標高を示しており、単位はmである。
9. 遺物観察表の表記方法は、以下のとおりである。
  - ・単位はcmである。
  - ・( )を付した数値は、残存値である。
  - ・残存率は5%刻みで表示した。あくまで目安の表示である。
10. 本報告書に掲載した地形図は、国土地理院発行の1/25,000と熊谷市都市計画図の1/2,500を使用した。

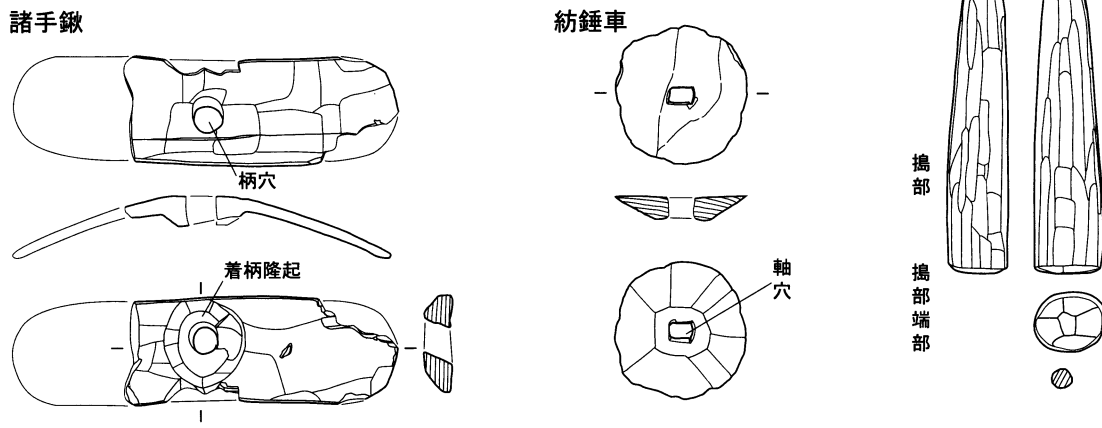
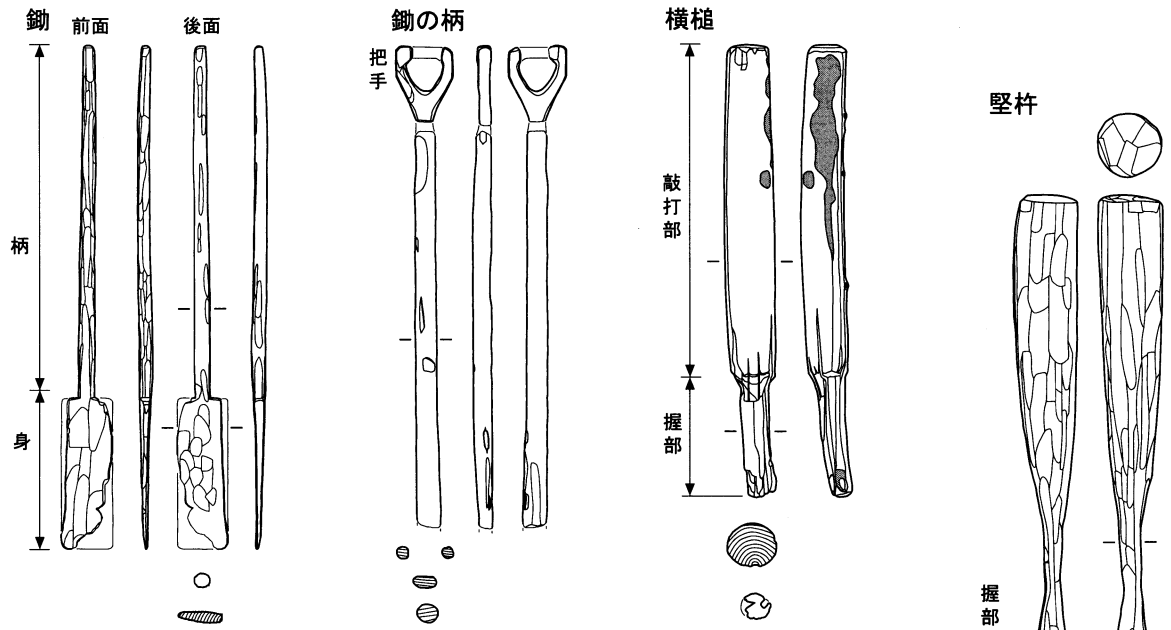
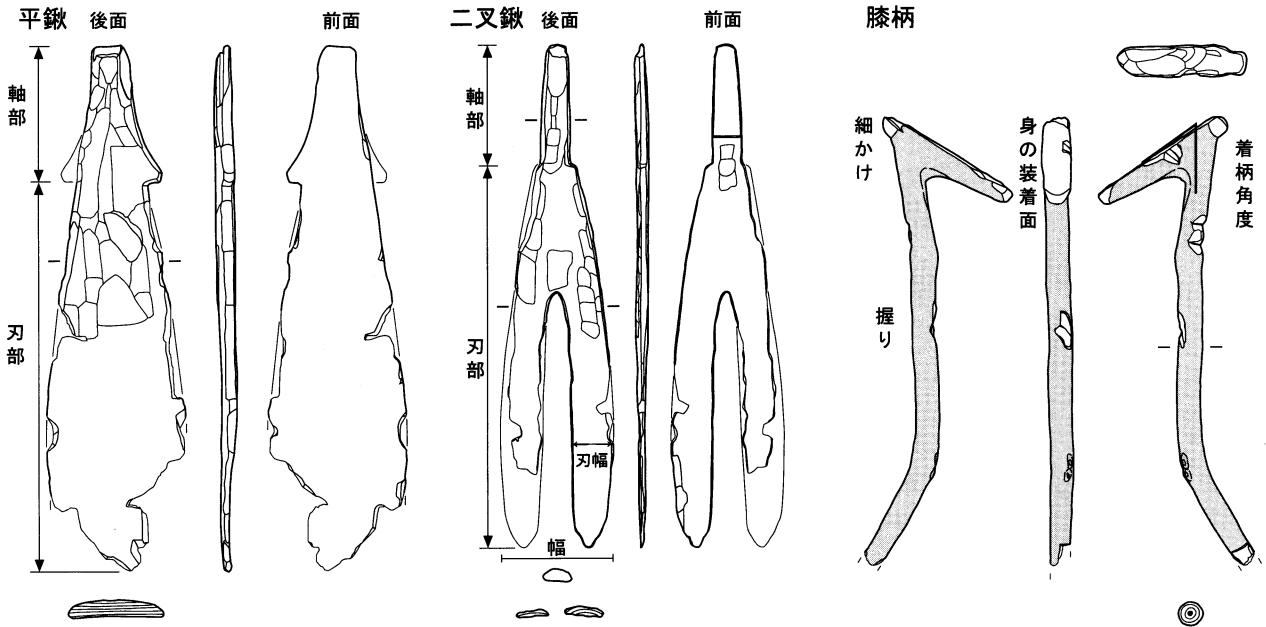
直柄鍬



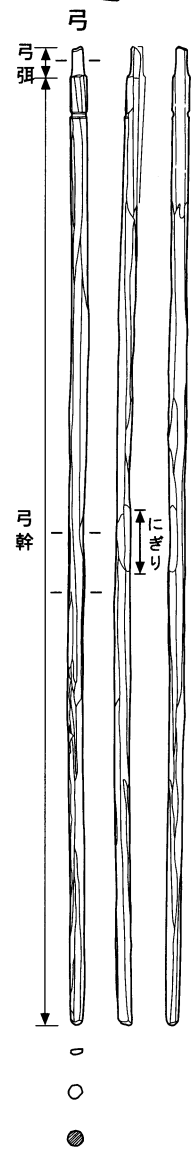
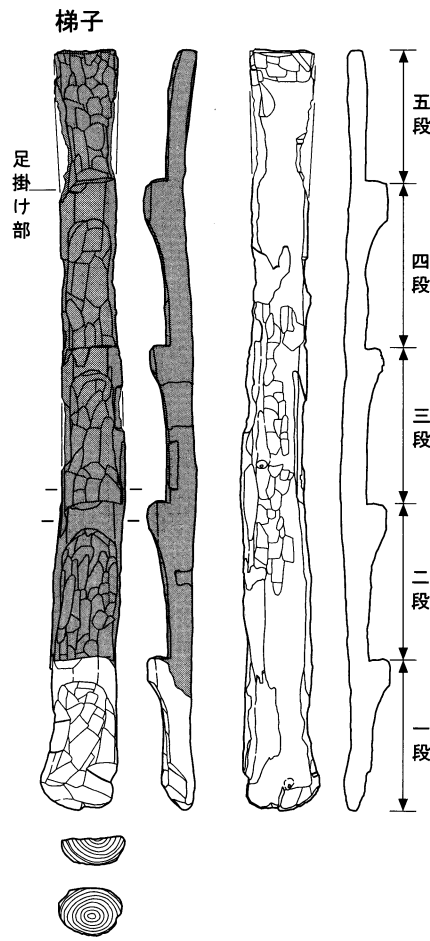
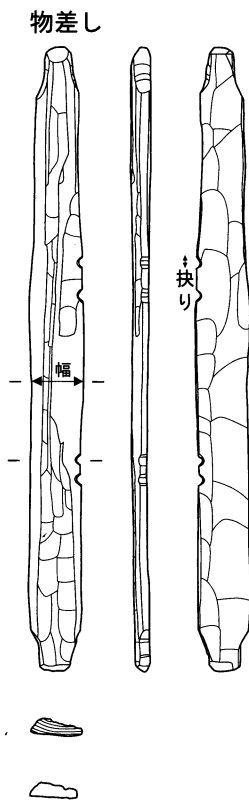
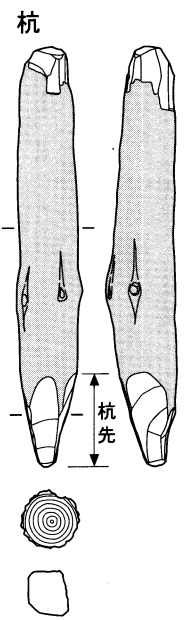
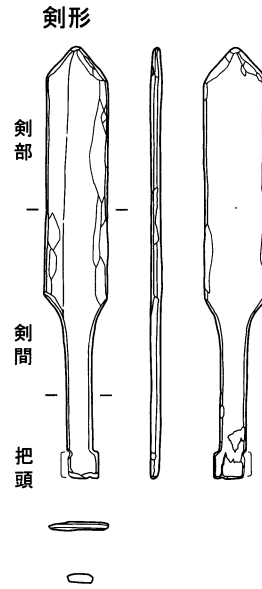
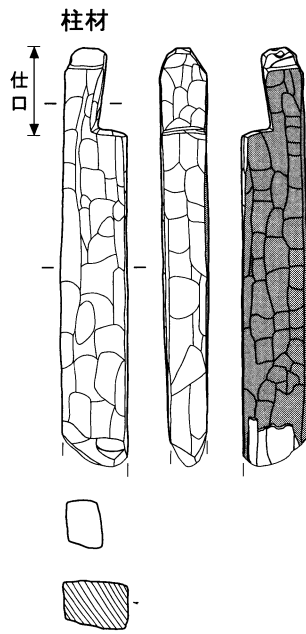
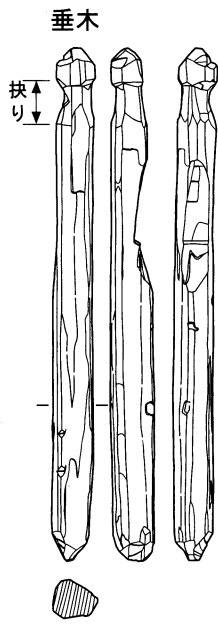
曲柄鍬模式図



木製品各部名称・計測位置(1)



木製品各部名称・計測位置 (2)



木製品各部名称・計測位置 (3)

# 目次

序  
例言  
凡例  
目次

I 発掘調査の概要	1	(3) 堰跡	159
1. 発掘調査に至る経過	1	(4) 谷	167
2. 発掘調査・報告書作成の経過	2	(5) ピット	176
3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織	4	(6) グリッド	177
II 遺跡の立地と環境	6	3. 奈良・平安時代	183
III 遺跡の概要	17	(1) 土壇	183
IV 遺構と遺物	74	(2) 溝跡	188
1. 北島遺跡第19地点の概要	74	V 結語	191
2. 古墳時代	78	1. 北島遺跡における木製品の様相	191
(1) 溝跡	78	2. 古墳時代前期の出土土器について	205
(2) 河川跡	147	3. まとめ	216

附編

写真図版

# 挿 図 目 次

第 1 図	埼玉県 の 地形 区分	6	第 36 図	第 423 号 溝 跡 出 土 遺 物 ( 4 )	104
第 2 図	周 辺 の 遺 跡	8	第 37 図	第 423 号 溝 跡 出 土 遺 物 ( 5 )	105
第 3 図	北 島 遺 跡 周 辺 の 地 形	18	第 38 図	第 423 号 溝 跡 出 土 遺 物 ( 6 )	106
第 4 図	遺 跡 全 体 図 ( 1 )	22	第 39 図	第 423 号 溝 跡 出 土 遺 物 ( 7 )	107
第 5 図	遺 跡 全 体 図 ( 2 )	23	第 40 図	第 423 号 溝 跡 出 土 遺 物 ( 8 )	108
第 6 図	遺 跡 全 体 図 ( 3 )	24	第 41 図	第 423 号 溝 跡 出 土 遺 物 ( 9 )	109
第 7 図	遺 跡 全 体 図 ( 4 )	25	第 42 図	第 423 号 溝 跡 出 土 遺 物 ( 10 )	110
第 8 図	第 423 号 溝 跡 出 土 木 製 遺 物 構 成	76	第 43 図	第 423 号 溝 跡 出 土 遺 物 ( 11 )	112
第 9 図	第 423 号 溝 跡 出 土 木 製 品 構 成	76	第 44 図	第 423 号 溝 跡 出 土 遺 物 ( 12 )	113
第 10 図	溝 跡 全 体 図	77	第 45 図	第 423 号 溝 跡 出 土 遺 物 ( 13 )	114
第 11 図	第 423 号 溝 跡 区 割 図 ( 1 )	78	第 46 図	第 423 号 溝 跡 出 土 遺 物 ( 14 )	115
第 12 図	第 423 号 溝 跡 区 割 図 ( 2 )	79	第 47 図	第 423 号 溝 跡 出 土 遺 物 ( 15 )	116
第 13 図	第 423 号 溝 跡 区 割 図 ( 3 )	80	第 48 図	第 423 号 溝 跡 出 土 遺 物 ( 16 )	118
第 14 図	第 423 号 溝 跡 区 割 図 ( 4 )	81	第 49 図	第 423 号 溝 跡 出 土 遺 物 ( 17 )	120
第 15 図	第 423 号 溝 跡 遺 物 出 土 状 況 ( 1 )	82	第 50 図	第 423 号 溝 跡 出 土 遺 物 ( 18 )	121
第 16 図	第 423 号 溝 跡 遺 物 出 土 状 況 ( 2 )	83	第 51 図	第 423 号 溝 跡 出 土 遺 物 ( 19 )	122
第 17 図	第 423 号 溝 跡 遺 物 出 土 状 況 ( 3 )	84	第 52 図	第 423 号 溝 跡 出 土 遺 物 ( 20 )	123
第 18 図	第 423 号 溝 跡 遺 物 出 土 状 況 ( 4 )	85	第 53 図	第 423 号 溝 跡 出 土 遺 物 ( 21 )	124
第 19 図	第 423 号 溝 跡 遺 物 出 土 状 況 ( 5 )	86	第 54 図	第 423 号 溝 跡 出 土 遺 物 ( 22 )	126
第 20 図	第 423 号 溝 跡 遺 物 出 土 状 況 ( 6 )	87	第 55 図	第 423 号 溝 跡 出 土 遺 物 ( 23 )	127
第 21 図	第 423 号 溝 跡 遺 物 出 土 状 況 ( 7 )	88	第 56 図	第 423 号 溝 跡 出 土 遺 物 ( 24 )	128
第 22 図	第 423 号 溝 跡 遺 物 出 土 状 況 ( 8 )	89	第 57 図	第 423 号 溝 跡 出 土 遺 物 ( 25 )	129
第 23 図	第 423 号 溝 跡 遺 物 出 土 状 況 ( 9 )	90	第 58 図	第 423 号 溝 跡 出 土 遺 物 ( 26 )	130
第 24 図	第 423 号 溝 跡 遺 物 出 土 状 況 ( 10 )	91	第 59 図	第 423 号 溝 跡 出 土 遺 物 ( 27 )	131
第 25 図	第 423 号 溝 跡 遺 物 出 土 状 況 ( 11 )	92	第 60 図	第 423 号 溝 跡 出 土 遺 物 ( 28 )	132
第 26 図	第 423 号 溝 跡 遺 物 出 土 状 況 ( 12 )	93	第 61 図	第 464 号 溝 跡 出 土 木 製 遺 物 構 成	136
第 27 図	第 423 号 溝 跡 遺 物 出 土 状 況 ( 13 )	94	第 62 図	第 464 号 溝 跡 出 土 木 製 品 構 成	136
第 28 図	第 423 号 溝 跡 遺 物 出 土 状 況 ( 14 )	95	第 63 図	第 464 号 溝 跡 区 割 図 ( 1 )	137
第 29 図	第 423 号 溝 跡 遺 物 出 土 状 況 ( 15 )	96	第 64 図	第 464 号 溝 跡 区 割 図 ( 2 )	138
第 30 図	第 423 号 溝 跡 遺 物 出 土 状 況 ( 16 )	97	第 65 図	第 464 号 溝 跡 遺 物 出 土 状 況 ( 1 )	140
第 31 図	第 423 号 溝 跡 遺 物 出 土 状 況 ( 17 )	98	第 66 図	第 464 号 溝 跡 遺 物 出 土 状 況 ( 2 )	141
第 32 図	第 423 号 溝 跡 遺 物 出 土 状 況 ( 18 )	99	第 67 図	木 造 橋 模 式 図	141
第 33 図	第 423 号 溝 跡 出 土 遺 物 ( 1 )	101	第 68 図	第 464 号 溝 跡 遺 物 出 土 状 況 ( 3 )	142
第 34 図	第 423 号 溝 跡 出 土 遺 物 ( 2 )	102	第 69 図	第 464 号 溝 跡 遺 物 出 土 状 況 ( 4 )	143
第 35 図	第 423 号 溝 跡 出 土 遺 物 ( 3 )	103	第 70 図	第 464 号 溝 跡 出 土 遺 物 ( 1 )	144



第 71 図	第464号溝跡出土遺物 (2) ……………	145	第 102 図	田舟区割図 ……………	177
第 72 図	第464・530号溝跡出土遺物 ……………	146	第 103 図	田舟出土状況 ……………	177
第 73 図	河川跡出土木製遺物構成 ……………	147	第 104 図	グリッド出土遺物 (1) ……………	178
第 74 図	河川跡出土木製品構成 ……………	147	第 105 図	グリッド出土遺物 (2) ……………	179
第 75 図	河川跡全体図 ……………	148	第 106 図	グリッド出土遺物 (3) ……………	180
第 76 図	河川跡区割図 (1) ……………	149	第 107 図	グリッド出土遺物 (4) ……………	181
第 77 図	河川跡遺物出土状況 (1) ……………	150	第 108 図	第160号土壌出土遺物構成 ……………	183
第 78 図	河川跡遺物出土状況 (2) ……………	151	第 109 図	第160号土壌出土木製遺物構成 ……………	183
第 79 図	河川跡区割図 (2) ……………	152	第 110 図	土壌全体図 ……………	184
第 80 図	河川跡遺物出土状況 (3) ……………	153	第 111 図	第160号土壌図 ……………	185
第 81 図	河川跡出土遺物 (1) ……………	154	第 112 図	第160号土壌遺物出土状況 ……………	186
第 82 図	河川跡出土遺物 (2) ……………	156	第 113 図	第160号土壌出土遺物 (1) ……………	187
第 83 図	河川跡出土遺物 (3) ……………	157	第 114 図	第160号土壌出土遺物 (2) ……………	188
第 84 図	河川跡出土遺物 (4) ……………	158	第 115 図	第24号溝跡遺物出土状況 ……………	189
第 85 図	堰跡全体図 (1) ……………	160	第 116 図	第24号溝跡出土遺物 ……………	190
第 86 図	堰跡全体図 (2) ……………	161	第 117 図	直柄鍬変遷図 ……………	193
第 87 図	堰跡区割図 ……………	162	第 118 図	曲柄変遷図 ……………	194
第 88 図	堰跡遺物出土状況 (1) ……………	163	第 119 図	曲柄・膝柄・馬鍬変遷図 ……………	195
第 89 図	堰跡遺物出土状況 (2) ……………	164	第 120 図	鋤変遷図 ……………	196
第 90 図	堰跡出土遺物 (1) ……………	165	第 121 図	横槌変遷図 ……………	197
第 91 図	堰跡出土遺物 (2) ……………	166	第 122 図	竪杵変遷図 ……………	199
第 92 図	谷出土木製遺物構成 ……………	167	第 123 図	大足・田下駄変遷図 ……………	201
第 93 図	谷出土木製品構成 ……………	167	第 124 図	梯子変遷図 ……………	203
第 94 図	谷全体図 (1) ……………	168	第 125 図	北島遺跡第19地点変遷図 (1) ……………	206
第 95 図	谷全体図 (2) ……………	169	第 126 図	北島遺跡第19地点変遷図 (2) ……………	207
第 96 図	谷出土遺物 (1) ……………	170	第 127 図	北島遺跡第19地点変遷図 (3) ……………	208
第 97 図	谷出土遺物 (2) ……………	171	第 128 図	北島遺跡第19地点変遷図 (4) ……………	209
第 98 図	谷出土遺物 (3) ……………	172	第 129 図	北島遺跡の居住域と生産領域 ……………	217
第 99 図	谷出土遺物 (4) ……………	173	第 130 図	木器分析資料 (1) ……………	225
第 100 図	谷出土遺物 (5) ……………	174	第 131 図	木器分析資料 (2) ……………	226
第 101 図	ピット出土遺物 ……………	176	第 132 図	木器分析資料 (3) ……………	227

# 表 目 次

第 1 表	発掘調査の経過	2	第 11 表	河川跡出土遺物観察表	155
第 2 表	整理・報告書作成の経過	3	第 12 表	堰跡出土遺物観察表	167
第 3 表	周辺遺跡一覧表	11	第 13 表	谷出土遺物構成	171
第 4 表	北島遺跡調査概要	21	第 14 表	谷出土遺物観察表	175
第 5 表	第423号溝跡出土遺物構成	100	第 15 表	ピット出土遺物観察表	176
第 6 表	第423号溝跡出土遺物観察表	134	第 16 表	グリッド出土遺物観察表	182
第 7 表	第530号溝跡出土遺物観察表	135	第 17 表	第160号土壌出土遺物構成	183
第 8 表	第464号溝跡出土遺物構成	136	第 18 表	第160号土壌出土遺物観察表	185
第 9 表	第464号溝跡出土遺物観察表	139	第 19 表	第24号溝跡出土遺物観察表	189
第 10 表	河川跡（堰跡）出土遺物構成	147			

# 図 版 目 次

図版 1	第423号溝跡遺物出土状況 (W14・15G東から)	第423号溝跡鍬出土状況	図版 14	第423号溝跡竪杵出土状況
	第423号溝跡遺物出土状況 (W16G 南から)			第423号溝跡杭出土状況
図版 2	第423号溝跡遺物出土状況 (W16G 東から)		図版 15	第423号溝跡鋤出土状況
図版 3	第423号溝跡遺物出土状況 (W17G 東から)			第423号溝跡梯子出土状況
	第423号溝跡遺物出土状況 (W17G 西から)		図版 16	第423号溝跡錯出土状況
図版 4	第423号溝跡遺物出土状況 (W17・18G北から)			第423号溝跡錯先端部出土状況
	第423号溝跡遺物出土状況 (南から)		図版 17	第423号溝跡横槌出土状況
図版 5	第423号溝跡遺物出土状況			第423号溝跡遺物出土状況
図版 6	第423号溝跡遺物出土状況		図版 18	第464号溝跡遺物出土状況 (南東から)
	第423号溝跡槽出土状況			第464号溝跡橋脚 (南東から)
図版 7	第423号溝跡遺物出土状況		図版 19	第464号溝跡橋脚 (北西から)
図版 8	第423号溝跡鋤出土状況			第464号溝跡遺物出土状況
	第423号溝跡遺物出土状況		図版 20	第464号溝跡遺物出土状況
図版 9	第423号溝跡遺物出土状況		図版 21	第464号溝跡遺物出土状況 (北東から)
	第423号溝跡鋤出土状況		図版 22	第464号溝跡遺物出土状況
図版 10	第423号溝跡鍬出土状況			第464号溝跡剣形出土状況
	第423号溝跡遺物出土状況		図版 23	第464号溝跡鍬出土状況
図版 11	第423号溝跡鍬出土状況		図版 24	堰跡M23G (北東から)
	第423号溝跡梯子出土状況			堰跡M23G (南西から)
図版 12	第423号溝跡鍬出土状況		図版 25	河川跡垂木出土状況
	第423号溝跡梯子出土状況			河川跡跡杵出土状況
図版 13	第423号溝跡垂木出土状況			

図版26	河川跡弓出土状況 ピット杭出土状況	図版60	第423号溝跡出土遺物
図版27	グリッド田舟出土状況 (南西から) グリッド鍬出土状況	図版61	第464号溝跡出土遺物
図版28	第160号土壌 第160号土壌弓出土状況	図版62	第464号溝跡出土遺物
図版29	第423号溝跡出土遺物	図版63	第464号溝跡出土遺物
図版30	第423号溝跡出土遺物	図版64	河川跡出土遺物
図版31	第423号溝跡出土遺物	図版65	河川跡出土遺物
図版32	第423号溝跡出土遺物	図版66	河川跡出土遺物
図版33	第423号溝跡出土遺物	図版67	河川跡出土遺物
図版34	第423号溝跡出土遺物	図版68	河川跡出土遺物 堰跡出土遺物
図版35	第423号溝跡出土遺物	図版69	堰跡出土遺物
図版36	第423号溝跡出土遺物	図版70	谷出土遺物
図版37	第423号溝跡出土遺物	図版71	谷出土遺物
図版38	第423号溝跡出土遺物	図版72	谷出土遺物
図版39	第423号溝跡出土遺物	図版73	谷出土遺物
図版40	第423号溝跡出土遺物	図版74	谷出土遺物
図版41	第423号溝跡出土遺物	図版75	ピット出土遺物
図版42	第423号溝跡出土遺物	図版76	グリッド出土遺物
図版43	第423号溝跡出土遺物	図版77	グリッド出土遺物
図版44	第423号溝跡出土遺物	図版78	グリッド出土遺物
図版45	第423号溝跡出土遺物	図版79	グリッド出土遺物
図版46	第423号溝跡出土遺物	図版80	グリッド出土遺物
図版47	第423号溝跡出土遺物	図版81	第160号土壌出土遺物
図版48	第423号溝跡出土遺物	図版82	第160号土壌出土遺物
図版49	第423号溝跡出土遺物	図版83	第24号溝跡出土遺物
図版50	第423号溝跡出土遺物	図版84	第160号土壌出土遺物 弓(弓弭) 谷出土遺物 弓(弓弭)
図版51	第423号溝跡出土遺物		第423号溝跡出土遺物 竪杵(搗部先端)
図版52	第423号溝跡出土遺物	図版85	第423号溝跡出土遺物 横槌(敲打部)
図版53	第423号溝跡出土遺物		第464号溝跡出土遺物 鍬(身 後面)
図版54	第423号溝跡出土遺物		第423号溝跡出土遺物 鍬(身 後面)
図版55	第423号溝跡出土遺物		第423号溝跡出土遺物 鍬(身 前面)
図版56	第423号溝跡出土遺物		第423号溝跡出土遺物 鍬(身 後面)
図版57	第423号溝跡出土遺物		第423号溝跡出土遺物 鍬(身 前面)
図版58	第423号溝跡出土遺物	図版86	第423号溝跡出土遺物 鍬(身 軸部)
図版59	第423号溝跡出土遺物		第464号溝跡出土遺物 鍬(身 軸部) 谷出土遺物 鍬(身 軸部)

- |      |                     |      |                     |
|------|---------------------|------|---------------------|
|      | 堰跡出土遺物 鍬(身 軸部)      |      | 第423号溝跡出土遺物 建築材(仕口) |
|      | 堰跡出土遺物 鍬(柄)         |      | 第423号溝跡出土遺物 建築材(柄穴) |
|      | 第423号溝跡出土遺物 鍬(柄)    |      | 第160号土壙出土遺物 建築材(柄穴) |
| 図版87 | 第423号溝跡出土遺物 斧(柄)    | 図版91 | 第423号溝跡出土遺物 建築材(柄穴) |
|      | 第423号溝跡出土遺物 梯子(足掛け) |      | 谷出土遺物 建築材(柄穴)       |
| 図版88 | 第423号溝跡出土遺物 梯子(足掛け) |      | 第423号溝跡出土遺物 建築材(柄穴) |
|      | 第423号溝跡出土遺物 梯子(下端)  |      | 第423号溝跡出土遺物 紡錘車     |
| 図版89 | 第423号溝跡出土遺物 垂木(頭部)  |      | 第464号溝跡出土遺物 (柄穴)    |
|      | 第423号溝跡出土遺物 垂木(仕口)  |      | 第464号溝跡出土遺物 不明製品    |
|      | 河川跡出土遺物 垂木(頭部)      | 図版92 | 第464号溝跡出土遺物 剣形      |
|      | 第423号溝跡出土遺物 垂木(頭部)  |      | グリッド出土遺物 建築材(仕口)    |
|      | 第423号溝跡出土遺物 建築材(仕口) |      | グリッド出土遺物 田舟(把手)     |
| 図版90 | 第464号溝跡出土遺物 建築材(仕口) |      | グリッド出土遺物 田舟(木取り)    |

# I 発掘調査の概要

## 1. 調査に至るまでの経過

埼玉県は、「環境優先・生活重視」、「埼玉の新しいくづくりにづくり」を基本理念として、豊かな彩の国づくりを推進するため、種々の施策を講じている。各種大型のスポーツ大会の開催やスポーツ施設の整備を進めてきたのは、本県におけるスポーツの振興を図り時代を担う人づくりを目標とした施策である。

2004年に開催される第59回国民体育大会、第4回全国障害者スポーツ大会に向けそのメイン会場となる熊谷スポーツ文化公園の拡張整備事業も、その一環として計画されたものである。

熊谷スポーツ文化公園の拡張整備事業に先立ち、公園課長から平成9年7月18日付け公園第277号で、埋蔵文化財の所有の有無およびその取り扱いについて、文化財保護課長あて照会があった。それに対して文化財保護課は、平成9年12月2日～5日に遺跡範囲確認のため試掘調査を実施し、その結果、埋蔵文化財の所有が明確になったことから、平成9年12月22日付け教文第1254号で、概ね次のような回答をした。

### 1 埋蔵文化財の所在

名称	種別	時代	所在地
天神遺跡 (59-101)	集落跡 古墳・墓	弥生・古墳・奈良 平安・中世・近世	熊谷市大字 上川上
北島遺跡 (59-058)	集落跡・ 墓	弥生・古墳・奈良 平安・中世	熊谷市大字 今井
田谷遺跡 (59-071)	集落跡	古墳・奈良・平安	熊谷市大字 上中条
天神東遺跡 (59-078)	集落跡	古墳・奈良・平安	熊谷市大字 上川上

### 2 取扱い

上記の埋蔵文化財包蔵地は現状保存することが、事業計画上やむを得ず現状変更する場合は、事前に文化財保護法第57条の3の規定に基づき発掘調査を提出し、記録保存のための発掘調査を実施してください。なお、発掘調査の実施については、当課と別途協議してください。

さらに、公園外周道路については、平成11年9月2日付け公園第355号で照会があり、平成11年

9月16・17日に遺跡範囲確認調査を行い、平成11年9月22日付け教文第622号で次のとおり回答した。

### 1 埋蔵文化財の所在

名称	種別	時代	所在地
赤城遺跡 (59-100)	集落跡	古墳・奈良・平安	熊谷市大字 今井
北島遺跡 (59-058)	集落跡・ 墓	弥生・古墳・奈良 平安・室町	熊谷市大字 上中条
田谷遺跡 (59-071)	集落跡	古墳・奈良・平安	熊谷市大字 上中条

### 2 取扱い

文化財保護課は、公園課や北部公園建設事務所と協議を重ねて工事と埋蔵文化財との調整を図り、できるだけ盛土による現状保存の措置を講じた。

しかし、工事の経過変更が不可能であるメイン陸上競技場、調節池、屋内競技場、外周道路などについては、やむを得ず記録保存の発掘調査を実施することとし、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団に発掘調査を依頼した。

調査は、平成10年7月～平成12年12月まで2年5ヶ月にわたって行われた。

財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団から文化財保護法第57条第1項にもとづき、埼玉県教育委員会教育長あてに埋蔵文化財発掘調査届けが、また、埼玉県知事から第57条の3にもとづく発掘通知が提出された。それに対する指示通知は以下のとおりである。

発掘調査届：平成10年7月27日付け教文第2-77号

平成10年10月5日付け教文第2-120号

平成11年1月21日付け教文第2-178号

平成11年4月16日付け教文第2-5号

平成12年1月24日付け教文第2-129号

平成12年1月24日付け教文第2-130号

平成12年1月24日付け教文第2-131号

平成12年4月19日付け教文第2-3号

発掘通知：平成10年7月28日付け教文第3-278号

平成10年7月28日付け教文第3-279号

(文化財保護課)

## 2. 発掘調査・報告書作成の経過

### (1) 発掘調査

北島遺跡19地点の発掘調査は、第12次調査を平成11年4月8日から平成12年3月24日、第15次調査を平成12年4月8日から平成12年12月28日まで行った。発掘調査の経過は以下のとおりである。

#### 平成11年度 第12次調査

平成11年4月 調査事務所を設置し、調査を開始した。調査区西側で、江戸時代の埴樋跡や平安時代の大量の遺物が出土した。

5月 調査区西端部の埴樋を完掘し、また西南隅で古墳時代前期の河川跡を調査した。

6・7月 調査区内周の表土除去が終了し、引き続き調査区内の表土除去に移行した。

8月 調査区西側における古代の遺構面の調査で、二重の区画溝に囲まれた施設を確認した。

9月 古墳群の調査を開始した。

10月 23日には、埼玉県埋蔵文化財センターによる遺跡見学会が開催され、見学者は500名を越した。

11・12月 古墳群全体を完掘し、11月下旬に空中撮影を行った。

平成12年1月 調査区東側の古墳群の下層で、古墳

時代前期の遺構を確認した。

2月 調査区西側でも古墳時代前期及び弥生時代中期の遺構群が存在することが確認された。

3月 弥生時代中期の堰跡を伴う大規模な水利施設が確認された。また、弥生時代の集落跡が存在することが確認された。

#### 平成12年度 第15次調査

4月 先年度未了であった弥生時代中期の住居跡・堰跡などの遺構の調査、調査区北側の未買収地、及び西側スロープ部分の表土除去・精査を開始した。

5月 西側スロープ部分で、古代・古墳時代前期・弥生時代中期の三面にわたる遺構面が検出された。

6・7月 弥生時代堰跡について新聞発表を行った。

8月 スロープ部調査区の古代の遺構について調査終了後、古墳時代前期の遺構確認面まで重機によって掘削を行い、遺構を調査した。

9月 北側調査区の弥生時代の遺構を調査した。

10・11月 スロープ部調査区でも、古墳時代前期の遺構の調査終了後、弥生時代の遺構調査を行った。

12月 弥生時代の遺構を全て調査し、12月末に遺物搬出、写真・図面類の搬出、機材の撤収を行い、仮

第1表 発掘調査の経過

		面積	平成10年度		平成11年度		平成12年度		平成14年度	
室内運動施設 (第19地点)	奈良・平安	18,300								
	古墳後期	16,900						12/28		
	古墳前期	25,000								
	弥生中期	11,000								
外周道路 (第20地点)	奈良・平安	1,780			1/11	5/1	6/30			
オーバブリッジ(第21地点)	古墳前期	2,250						12/28		
	奈良・平安	6,000								
メイン競技場 (第17地点)	古墳前期	4,000	7/1			12/8				
	弥生中期	5,000					7/1	10/31		
調整池 (第18地点)	平安	13,000				11/16	12/10			
外周道路 (田谷遺跡)	古墳後期	4,620				1/6	3/3		10/1	10/31
面積		107,850								

設事務所を撤去した。北島遺跡第19地点の調査を終了した。

(2) 整理・報告書刊行

北島遺跡第19地点における古墳時代を主とした木製品の整理・報告書作成事業は、平成15年4月から開始し、平成17年3月をもって完了した。

平成15年度 木製遺物の洗浄から着手した。その後、製品の分類・実測遺物の選別を行い、遺物実測を順次行った。樹種同定分析を委託した。

平成16年4月 遺構図の整理を行い第二原図を作成した。遺物の実測を引き続き行い、完成した実測図から順に電子トレースを開始した。

6月 遺構図の電子トレースを開始した。

7月 引き続き遺構図・遺物図の電子トレース。

8月 遺物の実測を終え観察表の作成を行った。遺構図の電子トレースを終了した。

9月 遺構図版に修正を加え、遺構図版の作成をす

べて終了した。

遺物写真の撮影を行った。本文の執筆を開始した。農具や弓など一部の木製品については樹種同定分析を委託した。

10月 遺構写真と遺物写真の整理を行った。遺物の電子トレースを終了し、遺物の仮版組とレイアウトを行った。

11月 遺構写真の図版作成、遺物写真の図版作成を開始した。

12月・平成17年1月 遺構・遺物写真図版の作成を終了した。本文の執筆、校正が終了したところで、遺物図版・遺構図版・文章の割付を行った。

2月～3月 台割表を作成し、入札を行った。入札後に三回の校正を経て報告書を印刷・刊行した。また、本報告書で取り扱った図面・写真類・遺物などを整理・分類し、収納作業を行った。

第2表 整理・報告書作成の経過

		平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度 (平成15年度繰越)	面積 ㎡
外周道路 (田谷遺跡)	古墳後期				4,620		4,620
室内運動施設 (第19地点)	奈良・平安	3,300	5,000	5,000	5,000		18,300
	古墳後期				7,000		7,000
	古墳前期				10,000	10,000	20,000
						5,000	5,000
	弥生中期		5,000	5,000	1,000		11,000
	木製品				5,000	4,900	9,900
外周道路 (第20地点)	奈良・平安				1,780		1,780
オーバブリッジ (第21地点)	古墳前期					2,250	2,250
メイン競技場 (第17地点)	奈良・平安				6,000		6,000
	古墳前期					4,000	4,000
	弥生中期				5,000		5,000
調整池 (第18地点)	平安					13,000	13,000
立会い調査							
面積		3,300	10,000	10,000	45,400	39,150	107,850
報告書集数		278		286	293～295	302～305	

### 3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織

主体者 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

#### (1) 発掘事業

平成11年度

理事長	荒井 桂
副理事長	飯塚誠一郎
常務理事兼管理部長	広木 卓
管 理 部	
副部長兼経理課長 (庶務課)	関野 栄一
庶務課長	金子 隆
主 査	田中 裕二
主 任	江田 和美
主 任	長滝美智子
(経理課)	
主 任	福田 昭美
主 任	腰塚 雄二
主 任	菊池 久
調 査 部	
調査部長	増田 逸朗
調査部副部長	水村 孝行
主席調査員(調査第三担当)	今井 宏
主席調査員(調査第五担当)	小野美代子
統括調査員	利根川章彦
統括調査員	若松 良一
統括調査員	細田 勝
統括調査員	富田 和夫
統括調査員	鈴木 孝之
統括調査員	石井 伸明
主任調査員	黒坂 禎二
主任調査員	吉田 稔
主任調査員	村田 章人
主任調査員	田中 広明
主任調査員	岩田 明広
主任調査員	福田 聖
主任調査員	渡辺 清志

平成12年度

理事長	中野 健一
副理事長	飯塚誠一郎
常務理事兼管理部長	広木 卓
管 理 部	
管理部副部長	関野 栄一
主席(庶務担当)	阿部 正浩
主席(施設担当)	野中 廣幸
主 任	菊池 久
主席(経理担当)	江田 和美
主 任	長滝美智子
主 任	福田 昭美
主 任	腰塚 雄二
調 査 部	
調査部長	高橋 一夫
調査部副部長	石岡 憲雄
主席調査員(調査第三担当)	小野美代子
統括調査員	宮井 英一
統括調査員	鈴木 孝之
統括調査員	赤熊 浩一
主任調査員	吉田 稔
主任調査員	大谷 徹
主任調査員	君島 勝秀
主任調査員	山本 靖
主任調査員	福田 聖



(2) 整理・報告書作成事業

平成15年度

理事長	桐川 卓雄
副理事長	飯塚誠一郎
常務理事兼管理部長	中村 英樹
管 理 部	
管理部副部長	村田 健二
主 席	田中 由夫
主 任	江田 和美
主 任	長滝美智子
主 任	福田 昭美
主 任	腰塚 雄二
主 任	菊池 久
調 査 部	
調査部長	宮崎 朝雄
調査部副部長	坂野 和信
主席調査員(資料整理担当)	礒崎 一
統括調査員	富田 和夫
統括調査員	吉田 稔
統括調査員	大谷 徹
主任調査員	田中 広明
主任調査員	山本 靖

平成16年度

理事長	福田 陽充
副理事長	飯塚誠一郎
常務理事兼管理部長	中村 英樹
管 理 部	
管理部副部長	村田 健二
主 席	田中 由夫
主 任 (～6月30日)	江田 和美
主 任	長滝美智子
主 任	福田 昭美
主 任	菊池 久
主 事 (6月1日～)	海老名 健
主 事 (6月1日～)	石原 良子
調 査 部	
調査部長	宮崎 朝雄
調査部副部長	坂野 和信
主席調査員(資料整理担当)	礒崎 一
統括調査員	鈴木 孝之
主任調査員	山本 靖
調 査 員	宅間 清公

## Ⅱ 遺跡の立地と環境

### 1. 歴史的環境

北島遺跡については既に8冊の報告書が刊行されている。遺跡の立地と環境及び各時代の歴史的環境については既刊報告に詳述されているので、それらの報告書を参照していただきたい。

本報告では主に古墳時代前期の木製品について扱うため、木材資源を中心に周辺地域の歴史的環境について述べることにする。

熊谷市周辺では旧石器から縄文時代の遺跡は極めて少ない。

旧石器時代の遺跡は櫛挽台地上の籠原裏遺跡などが知られているに過ぎない。

縄文時代の遺跡は、櫛挽台地上の三ヶ尻遺跡群内の林遺跡（前期黒浜期）、三ヶ尻天王遺跡（中期から後期）、妻沼低地上の寺東遺跡（前期関山期）がある。

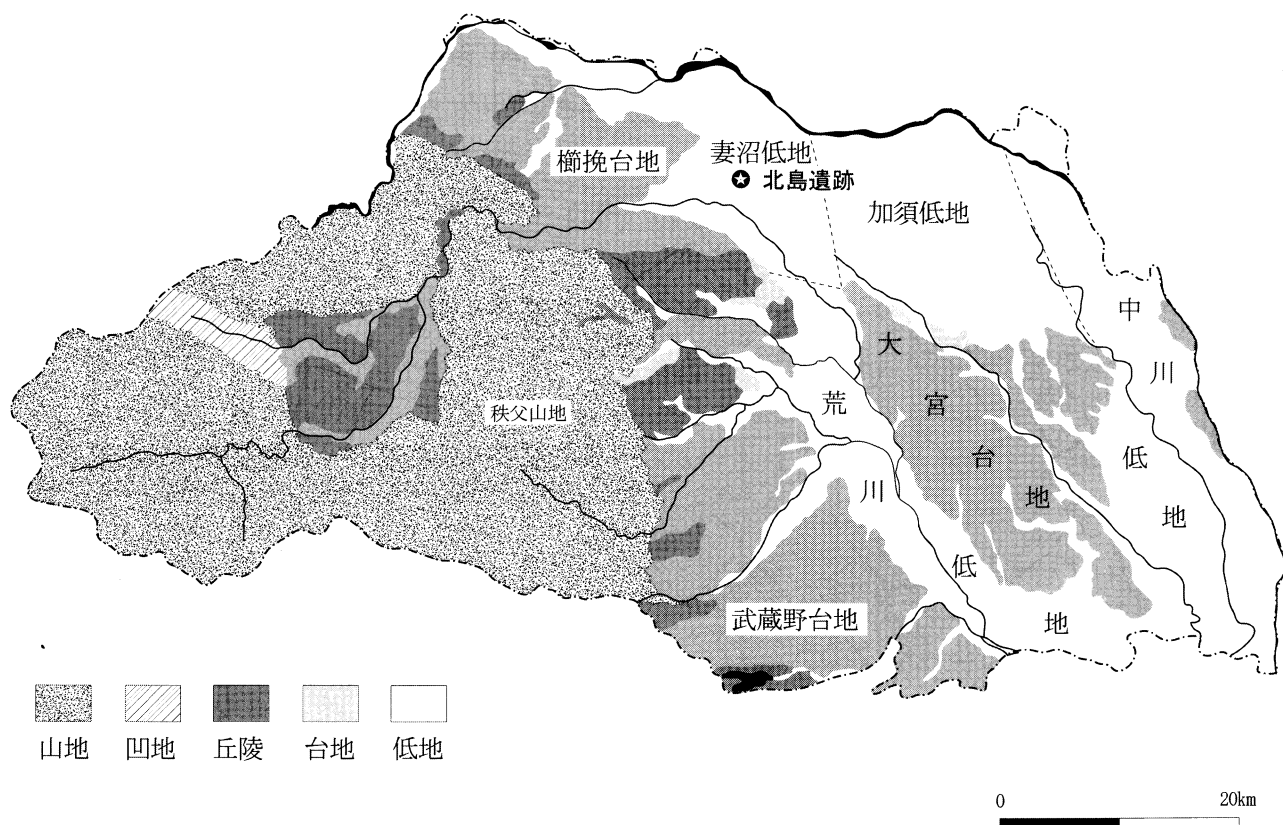
妻沼低地では、縄文時代後期から遺跡が進出し寺東遺跡、石田遺跡などが知られている。現在整理中の諏訪木遺跡では、後期から晩期の遺構及び包含層が発見されている。

現状では、本遺跡周辺部で縄文時代の木製品出土例は無いが、大宮台地とその周辺部では、若干出土例がある。

川里町赤城遺跡は縄文時代後晩期の遺跡であるが、多量の植物遺体、木材等が出土している。

花粉化石の分析によると、縄文時代の古植生は、台地上には、「コナラ亜属を主としてエノキ属・ムクノキ属・アカガシ亜属を交えた広葉樹林」が推定されている。

大型植物遺体の分析から温帯性落葉広葉樹や落葉広葉樹の生育があったとされた。



第 1 図 埼玉県の地形区分

また出土木材の鑑定結果から、「基本的にはクリが柱材や杭材として選択され、それ以外の広葉樹材がそれを補完する形で用いられていた」と分析されている。

桶川市後谷遺跡は、縄文時代後期から晩期の遺跡であるが、第4次発掘調査において出土した木道及び木組遺構の木材と旧河道中の自然木81点について樹種分析が実施された。

この結果、縄文時代後期の自然木が38点、木組、木道に用いた木材が40点、晩期の木道3点であった。自然木37点中「ヤナギ属(13点)とクリ(10点)が優占し、それ以外の樹種はすべて3点以下で、「アカガシ亜属を除くとすべて落葉広葉樹」とされた。遺構に利用された樹種との差異は、自然木、立株にはイヌガヤ、コナラ属クヌギ属が認められていない。

また「木組、および木道の樹種はクリが半数ほどを占め」、他の樹種はイヌガヤ、オニグルミ、ヤナギ属、ハンノキ属ハンノキ節、コナラ属コナラ節、ヤマダマ、ヤマウルシ、ムクロジ、トネリコ属の8種であった。木材利用における「クリの選択的な利用」が推定されている。

さいたま市(旧大宮市)寿能泥炭層遺跡は、縄文時代の木器を多量に出土した遺跡としてつとに知られている。花粉分析、流木の樹種鑑定から、同遺跡を取り巻く古植生について分析している。

縄文時代中期～後期は、前期以来の「コナラ亜属を主体とする落葉広葉樹林が徐々に減少し、ハンノキ属が増加し」、「広葉樹の種類も多くなり、クルミ属、クリ属、クリカシ属、ケヤキ属、クマシデ属等の樹木も、コナラ亜属、ハンノキ属に混在する植生が考えられる」とし、針葉樹は、モミ属、マツ属、スギ科等が確認されている。

縄文時代後期～古墳時代は、「コナラ亜属がさらに減少し、ハンノキ属が増加し樹木の優占種はハンノキ属に代わり、コナラ亜属が最も減少する時期とされた。「ハンノキ属を主体とし、コナラ亜属、

ケヤキ属、エノキ属に常緑のアカガシ亜属が加わり、「クリ属、クマシデ属、クルミ属等は少なくなる」。針葉樹の種類は減り、スギ科が安定するとされた。

流木の鑑定結果からは、縄文時代後期は「基本的傾向は中期と同じであるが、ハンノキ・ヤナギが殖え、水湿の環境が続いていること」「この時期を中心として特徴的な樹種はイヌガヤとムクロジ」で、「中期同様、落葉樹を中心とした冬に明るい林であった」とされた。晩期は後期と同じ傾向とされた。

また「この地域では縄文時代から平安時代国分期に至るまで」、「常緑樹の優占する林ではなく、クリークヌギーナラ類を主体とする、いわゆる二次林的な林であったことが明らか」とされ、現在の二次林と比較して古植生は、①現在の房総半島の林に見られるようにイヌガヤを混えること、②マツをほとんど欠くこと、③オニグルミ、ナナカマド類、キハダ、ニガキ、ムクロジ、トネリコ類など現在の宮付近ではあまり見られない樹種があること等を挙げている。縄文時代には、暖地性と冷涼な要素があり、現在の植相よりも種類が豊富であったことを示すとされた。豊富な古植相の変化の原因を森林への火入れ、耕地化、たび重なる伐採等人間活動の結果と分析されている。

木製品は、漆製品と共に寿能遺跡では多量に出土している。木製品は、縄文時代中期～後期前葉のスコップ状木製品、剣形木製品、木皿、後期中葉の丸木弓、櫛状木製品、木皿、櫛状木製品等がある。

縄文時代後期では自然木は31種類、加工木は26種類が検出され、うち20種類が自然木と共通していた。クリークヌギーコナラの落葉広葉樹林から、比較的量の多い木材を使用し、周囲に生育しない樹木でも他地域から移入するなどによってその材質を生かした利用を行っていたと分析されている。

川口市赤山遺跡では、縄文時代後晩期の木本質泥炭層が調査され、木材遺体群の分析が行われている。

分析の結果、縄文時代前期から後期は、照葉樹林





周辺の遺跡 (1)

の要素がほとんどない落葉広葉樹林が考えられている。

縄文後・晩期の加工木の大部分は「枡の実加工場跡」と「板囲」に利用された割材、杭材、板材で、大部分はクリ、トネリコ属、コナラ属コナラ節でその他9種同定されている。クリ40.8%、トネリコ属14.6%、コナラ属コナラ節10.6%で、全体の66%になる。自然木と共通するものは33種あるが、クリとコナラ節、イヌガヤ、モミ属、ケヤキ等が加工木として利用されていた。

一般的には「縄文時代の埼玉平野の森林は、コナラ亜属によって代表されるナラ型林（台地）と、ハンノキ属（低湿地）を中心とする落葉広葉樹林が特徴」とされ、「クヌギとクリは縄文時代前期頃から集落の周辺に栽培された可能性を考慮する必要がある。」とされている。

内陸部の扇状地と台地あるいは、海洋性気候の影響如何など地形条件の相違もあり、単純に比較できないが、縄文時代の植生としてクリ・クヌギ・コナラの落葉広葉樹林が考えられ、赤城遺跡では、クリが柱材や杭材として選択され、後谷遺跡では、木組遺構、木道の樹種はクリが半数ほどを占め、赤山遺跡では、クリ材が加工木の40.8%に上っていたように、加工木へのクリの選択的利用がうかがえる。また特定器種に特定樹種が使われることがあり、寿能泥炭層遺跡ではトチノキ、ニシキギ類がそれぞれ漆器と飾り弓に用いられていた。今後北島遺跡周辺部の縄文時代の低地遺跡を調査することによって、県北部の該期の植生、木材利用に関する実態が明らかになると考えられる。

弥生時代になると、自然堤防上の遺跡が多く発見されるようになる。

本遺跡では、今までの調査で前期末から後期の遺構、遺物が検出されている。木製品は弥生時代中期から近世までにわたって多量に出土した。

弥生時代中期と奈良・平安時代以後のものについては報告済みである。

弥生時代中期の妻沼低地の遺跡は、熊谷市横間栗遺跡、関下遺跡、一本木前遺跡、深谷市上敷免遺跡、堀東遺跡、妻沼町飯塚遺跡、飯塚北遺跡、飯塚南遺跡がある。

櫛挽台地上では三ヶ尻上古遺跡がある。

熊谷新扇状地上では、中期の遺跡は平戸遺跡、前中西遺跡、諏訪木遺跡、古宮遺跡、行田市池上遺跡、小敷田遺跡等がある。

弥生時代後期では、天神遺跡、東沢遺跡、行田市池守遺跡、小敷田遺跡がある。

弥生時代の木製品は、本遺跡以外にも行田市池上遺跡、小敷田遺跡で出土している。

弥生時代の植生については、埼玉平野では弥生初頭に「後氷期以降気候的極相林として常緑広葉樹林（照葉樹林）がコナラ亜属を中核とする落葉広葉樹林よりも卓越した」。「縄文時代に卓越していたコナラ亜属が晩期以降次第に減少化するにともなって、アカガシ亜属が徐々に増加する。このアカガシ亜属は、弥生時代初頭に全花粉量の約30%に達し、コナラ亜属の約17%を越える。」とされている。

弥生時代中期の池上遺跡、小敷田遺跡、北島遺跡で樹種同定、花粉分析等が実施されている。

池上遺跡では3地点の花粉分析結果から、古植生について、No.19地点は「イネ科、ヨモギ属を種とする草地で周辺にスギ属、コナラ亜属等の樹木が生育していた」、No.26地点は「カヤツリグサ科、イネ科が主として生育する沼沢地的環境で周辺にはコナラ亜属等の広葉樹が生育していた」、No.24地点は「沼沢地的環境でイネ科、カヤツリグサ科が主として生育し」、「周辺にはアカガシ亜属、コナラ亜属等の広葉樹が生育していた」としている。

また住居跡と環濠から出土した炭化材について樹種同定を行った結果、キハダが非常に多い点が指摘されている。

小敷田遺跡では花粉分析結果から、弥生時代中期～古墳時代初頭の植生として「コナラ亜属を主体とし、これにエノキ属・ムクノキ属を伴う落葉広葉樹

第 3 表 周辺遺跡一覧表

1 ウツギ内遺跡	2 砂田遺跡	3 柳町遺跡	4 城北遺跡	5 飯塚北遺跡
6 飯塚遺跡	7 飯塚南遺跡	8 道ヶ谷戸遺跡	9 弥藤吾新田遺跡	10 皿沼城遺跡
11 上敷免遺跡	12 上敷免北遺跡	13 本郷前東遺跡	14 新屋敷東遺跡	15 新田裏遺跡
16 明戸東遺跡	17 宮ヶ谷戸堀ノ内遺跡	18 原遺跡	19 居立遺跡	20 前遺跡
21 東川端遺跡	22 清水上遺跡	23 根絡遺跡	24 横間栗遺跡	25 関下遺跡
26 西別府遺跡	27 石田遺跡	28 原遺跡	29 別府古墳群	30 別府氏館跡
31 一本木前遺跡	32 中耕地遺跡	33 西通遺跡	34 土用ヶ谷戸遺跡	35 在家遺跡
36 籠原裏古墳群	37 玉井古墳群	38 樋之上遺跡	39 上辻遺跡	40 下辻遺跡
41 黒沢遺跡	42 三ヶ尻古墳群	43 広瀬古墳群	44 坪井古墳群	45 石原古墳群
46 東通遺跡	47 横塚山古墳	48 奈良東耕地遺跡	49 鶉森入胎遺跡	50 光屋敷遺跡
51 中条氏遺跡	52 権現山古墳	53 天神遺跡	54 中島遺跡	55 南河原条里遺跡
56 肥塚館跡	57 河上氏館跡	58 北島遺跡	59 田谷遺跡	60 天神東遺跡
61 中条条里遺跡	62 東沢遺跡	63 熊谷氏館跡	64 箱田氏館跡	65 諏訪木遺跡
66 前中西遺跡	67 平戸遺跡	68 成田氏館跡	69 池上遺跡	70 古宮遺跡
71 小敷田遺跡	72 持田藤の宮遺跡	73 池守遺跡	74 皿尾城遺跡	75 星宮皿尾遺跡
76 村岡館跡				

林が成立していた」こと、また弥生時代中期は「コナラ亜属が多く、これにアカガシ亜属、エノキ・ムクノキ属がついで多く、大型植物遺体でもムクノキ、タラノキ近似種、フジなど」、材化石は「エノキ属、ヤマグワ、ヤナギ属、カエデ属などが比較的多」とされた。

樹種同定の結果、弥生時代中期のものは60点で加工木18点、自然木42点であった。製品の樹種はイヌガヤ、ケヤキが多く、加工木はキハダ、イヌガヤが多い。自然木ではヤマグワ、エノキ属がともに6例検出されている。加工木と自然木の樹種の対応関係を見ると、共通するものはコナラ属クヌギ節、ヤマグワ、オニグルミ、カツラ、キハダである。加工木で検出されたイヌガヤ、ケヤキ、スギ、ムクノキ、ムクロジ、クリは、自然木では未検出でトネリコ属、ニワトコ、モミ属、ヤナギ属等がある。

木製品は弓、斧柄がイヌガヤ、槽、鉢がケヤキ、柄がコナラ属クヌギ節、田下駄がスギ、柱はキハダ、ヤマグワ、イヌガヤであった。

北島遺跡でも今までの調査で花粉分析等による該

当期の植生が復元されている。時期的に幅を持つが、「XIX層から浅間C軽石（As-C、4世紀中葉）直下のVII層にかけては、少量ながらクリ、シイ属、コナラ属アカガシ亜属（カシ類）、イネ科、ヨモギ属などが検出され、遺跡周辺にこれらの樹木や草本が分布していた可能性」が指摘されている。

また木製品、堰構築材、立木等について樹種同定を実施した結果、針葉樹1種類（イヌガヤ）と広葉樹11種類（ヤナギ属・コナラ属・アカガシ亜属・クリ・ムクノキ・ケヤキ・ヤマグワ・カツラ・ヌルデ・カエデ属・ムクロジ・ハリギリ）が同定された。

木製品と堰構築材の樹種の対応関係を見ると、共通するものはヤマグワ、カエデ属で、構築材は43点中21点がヤマグワで、カエデ属が5点ある。他にカツラ、ヤナギ属、ムクロジ、ヌルデ、クリ、ハリギリが認められた。ヤマグワを主とした木材利用が推定されたが、「利用する木材を選定する際に材質が考慮された可能性」以外に、「周辺で入手可能な木材を利用し、偶然ヤマグワが多くなった可能性」も指摘されている。

木製品では、容器未製品にヤマグワ、小型容器にケヤキ、台付容器にムクノキ、形代にカエデ属、膝柄斧にイヌガヤ、直柄斧にコナラ属アカガシ亜属が認められ、特に纏まりはない。自然木はムクノキであった。

弥生時代後期の植生については、現状では木製品の出土例が無く不詳である。

以上のように木材資源の利用からみると、縄文時代から弥生時代の移行は、現状では縄文晩期から弥生前期の出土例がなく不詳であるが、時代区分できるほどのものはなかったとみられる。調査例からすると弥生時代中期に画期あるとした方が妥当で、本格的な水田農耕の開始の時期にも重なっている。

古墳時代前期の遺跡は、台地部や低地の自然堤防上などに分布する。低地部の遺構検出が増加したことで木製品等の遺物の出土例も増えている。

本遺跡周辺部では東沢遺跡、天神東遺跡、中条遺跡群、一本木前遺跡、諏訪木遺跡、行田市弥藤吾新田遺跡、池上遺跡、池守遺跡、小敷田遺跡などがある。東沢遺跡、小敷田遺跡、諏訪木遺跡からは多量の木製品が出土している。

古墳時代の一般的な植生については、「埼玉平野の古森林に地域性が認められるようになり」、「県北地方（羽生市宝蔵寺沼泥炭層）ではハンノキ属が極端に減少するが、大宮台地では平安・奈良時代に入ってから激減する（寿能遺跡）。」またコナラ亜属は、「縄文時代後期における減少化を契機として、古墳時代以降現代に至るまで、徐々に減少」するが「森林としては最も安定していた」。「弥生時代初頭にピークに達したアカガシ亜属は、古墳時代（約6世紀）に入って再び平野全域で増加のきざしを示すが、それ以降は優占しないまま現代に至る」とされている。

東沢遺跡では古墳時代前期の河川跡から鋏、四叉鋏、横槌、木製容器、その他杭等が出土している。樹種については鋏、横槌がカヤ、四叉鋏がカシ、その他ムクロジ2点、ケヤキ、カエデ、ヤナギ、トチ

ノキ、ヒノキ各1点と同定されている。

北島遺跡第14～16地点では花粉、珪藻土分析により、古植生は、「おおむねX I層からI層までナラ類・カシ類などの落葉・常緑樹からなる広葉樹林が成立していたと推定され」、「その林分は時代を経るにつれて縮小した可能性」が指摘されている。主に古墳時代後半の遺物を出土するのはⅦ～Ⅵ層で、Ⅷ層は弥生から古墳時代にかけての年代が与えられている。

行田市小針北遺跡では古墳時代前期の住居跡、溝跡が検出されている。花粉分析の結果、古植生は「クリ属やカシ属の広葉樹」が「第6層を境として、広葉樹中心→針葉樹中心へと変化していることがうかがえる。」とされた。

小敷田遺跡では花粉分析、樹種同定等による該期の植生が以下のように復元されている。

「小敷田遺跡周辺では弥生時代中期以降、全体的には森林環境にはなく、部分的に二次林的な落葉広葉樹林があったものの、その後の小河川の堆積と湿地化の進行により湿地草原状になっていき、そして水田として開発されて現在に至ったことが分かった。」とされた。また「当遺跡の周辺にはそうとう人為の加わった二次林、あるいは疎林しか存在しなかったと推定され、関東山地よりには針葉樹をまじえた山地性の落葉広葉樹林が成立していたと考えられる。」とされた。

木製品については総数936点、加工木639点、自然木297点が分析の対象になっている。

自然木で最も多いのは「ヤマグワ（21.5%）で、それにエノキ属（7.7%）やヤナギ属（6.4%）、カエデ属（5.4%）、トネリコ属（4.0%）、イヌガヤ（3.4%）、コナラ属クヌギ節（3.4%）、ヤマウルシ（3.4%）、オニグルミ（2.7%）、そしてモモ（2.7%）などが続く」。「そのほか比較的多いものとしては、モミ属やサワラといった針葉樹や、コナラ属コナラ節やムクノキ、コウゾ属、カツラ、キハダ、ヌルデ、トチノキ、クサギなどの広葉樹などがあり、常緑広葉樹としてはコナラ属アカガシ亜属がやや多い」。



加工木で最も多いのは、「モミ属 (23.3%)」であり、以下スギ (8.8%)、ヤマグワ (7.5%)、クヌギ節 (6.6%)、アカガシ亜属 (6.3%)、ムクロジ (5.8%)、ヒノキ (5.3%)、トネリコ属 (3.3%)、イヌガヤ (2.5%)、サワラ (2.3%)、コナラ節 (2.2%)、エノキ属 (2.2%)、サクラ属 (2.2%)、そしてカエデ属 (2.0%) と続く。「また針葉樹の比率が高く、加工木全体の45%を占めるのにたいし、自然木では8%しか占めていない。こうした組成の相連から考えて、加工木に用いられた樹種は当遺跡の周辺に生育しているもののみでなく、明らかによそから運び込まれたものが相当数を占めている。」

木製品としては、農具では鋤、鍬、砧 (横槌を含む) 堅杵、田下駄、えぶり、ムシロ編み、農具の柄などがある。容器としては槽や曲物、組合せ箱など、また弓や発火具、下駄、櫛、鏡、案なども出土した。

建築、構造材としては、梯子や角材、柱材、部材、板材、割材、杭、丸太、棒などが出土している。

戸田市鍛冶谷・新田口遺跡は、荒川左岸の自然堤防上に形成された遺跡で、五領期の井戸跡、溝跡とくに第27号溝跡から多数の木製品が出土している。

花粉、珪藻の分析から該期の古環境について、大きく2つの花粉帯が設定され、「下部帯はコナラ亜属が優占し、上部帯はスギ属・マツ属の比較的高率な出現により特徴づけられる」とされた。

出土木材による古植生について、花粉分析の結果とは一致しないが、「古墳時代の当遺跡周辺は、落葉広葉樹林が広がっていた」と推定されている。

出土木材の樹種同定 (176点) は、木製品では28種が、自然木は1種が同定された。木製品は、クヌギが52点 (29.5%)、クリが28点 (15.9%)、ナラ類が14点 (8.0%)、ヤマグワが12点 (6.8%) 等である。漆器および容器にはトチノキをはじめとする6種類が、農具などの木器47点にはクヌギやクリ、モミ類等19種類が、板や角材、分割材など、建築、構造材95点にはクヌギやクリ、ナラ類等16種が、杭や杭状木製品15点にはヤマグワをはじめとする6種類

が、その他加工材9点には6種が同定された。

大宮台地の寿能泥炭層遺跡では、花粉分析の結果は時期区分が大まかではあるが、「縄文時代後期～古墳時代」の植生について「コナラ亜属がさらに減少し、ハンノキ属が増加し、樹木の優占種はハンノキ属に代わる。コナラ亜属は (中略) 最も減少する時期」とされた。

流木の樹種同定から古墳時代前期の植生について「クリークヌギを主体とした林が続いていたこと」、「ヤナギ類がハンノキ類と入れ替わって優先し」、縄文時代と比較して「植生の単純化の傾向が認められる。」とされた。

加工木の樹種からも「クリークヌギ・ナラ類を中心とした落葉広葉樹林がつづいていたこと」、「照葉樹林が成立したことを示す兆候はない」、「木材の樹種の選択は、当時身近にあったと思われるものを中心」に行ったとされた。

木製品は分割材、板材、角材、杭、削り出し棒、有孔材、加工材、舟形木製品、梯子、弓、横槌、紡織具等がある。生活用具、建築材が比較的多く、農具は出土していない。製品にはクヌギ、カシ、ナラ類が利用されている。

加工木と自然木の樹種鑑定結果から、自然木の特徴は縄文後期と比較して、「ヤナギ類、クヌギ類が増え」、「樹種も少なく、19種類」また「照葉樹林が成立した気配はみられない。加工木は「クヌギ、ナラ類、クリなどがよく用いられ」、「クヌギ、ナラ類の利用が多い傾向」にあり、特徴的なのは「スギの比較的多量の出現である。」とされた。

古墳時代後期になると北島遺跡周辺の自然堤防上には、大規模な集落が形成された。

北島遺跡周辺は、熊谷市光屋敷遺跡、中条遺跡群、天神遺跡、中島遺跡、肥塚中島遺跡、出口上遺跡、前中西遺跡、平戸遺跡、諏訪木遺跡、小敷田遺跡、天神東遺跡、行田市池守遺跡等がある。

櫛挽台地では、熊谷市三ヶ尻天王遺跡、樋の上遺跡、東方遺跡、籠原裏遺跡、在家遺跡、下辻遺跡、

上辻遺跡、西別府祭祀遺跡等の遺跡がある。

妻沼低地の福川流域では、深谷市上敷免遺跡、上敷免北遺跡、本郷前東遺跡、新屋敷東遺跡、宮ヶ谷戸遺跡、東川端遺跡、清水上遺跡、前遺跡、居立遺跡、城北遺跡、砂田遺跡、柳町遺跡、ウツギ遺跡、妻沼町飯塚南遺跡、弥藤吾新田遺跡、熊谷市土用ヶ谷戸遺跡、一本木遺跡、中耕地遺跡、西通遺跡、東通遺跡、奈良東耕地遺跡がある。

なお古墳群は、妻沼低地上の中条古墳群、上之古墳群、熊谷扇状地上の玉井古墳群、広瀬古墳群、坪井古墳群、石原古墳群、肥塚古墳群、櫛挽台地上の別府古墳群、籠原裏古墳群、三ヶ尻古墳群、荒川右岸では村岡古墳群等がある。

小敷田遺跡の古墳時代後期（鬼高期）の木製品は、3区、4区、6区から出土し、主に6区から多量に出土している。総数150点で、竪杵、砧、横槌、大足、田下駄、木錘、鎌柄、木製容器、板材、柱材、部材、加工材、割材、自然木等がある。

樹種はモミ属が34点、コナラ属アカガシ亜属20点、スギ14点、ヒノキ12点、サワラ、ヤナギ属、コナラ属クヌギ節各9点、カヤ7点、ヤマグワ5点、ムクロジ3点、以下カエデ属、コナラ属コナラ節、イヌガヤ、ムクノキ、アキニレ、トネリコ属、ニワトコ各2点、その他クリ、オニグルミ、ヤマウルシ、トチノキ、ネズコ、アスナロ、アサダ、エノキ属、カバノキ属、サクラ属、ウコギ属各1点と続く。

針葉樹が比較的に利用されているが、モミ属は割材等の建築材、杭材等に使用される例が多い。スギは田下駄、外枠、横木を含めて7点、大足が1点出土している。ヒノキは槽1点、木製容器1点、その他板材、割材に使用されている。サワラは建築材使用例が多い。

コナラ属アカガシ亜属は、田下駄、竪杵、横槌、柄、又鋏基部、建築材に、コナラ属クヌギ節は、竪杵、木製容器、木錘に利用され、ヤナギ属は自然木、加工材の利用が多い。

北島遺跡第7地点では、河川跡から「7世紀代を

中心とするおびたしい土器、木器を検出」した。

各々の樹種は不詳であるが、板材、木製容器、竪杵、杭、桶底板、槽、弓、建築部材、田舟、鋏、その他多数の自然木が出土している。

遺物の出土状態から、「極めて短期間に一括投棄された」可能性が指摘されたが、祭祀的遺物は出土していない。

熊谷市諏訪木遺跡では時期的な幅を持つが、河川跡C地点で多量の木製品が出土している。

農耕具、紡織具、丸木弓、木製容器、建築部材等が出土している。

樹種については、農耕具ではコナラ属アカガシ亜属を中心として、ヒノキ、ヒノキ属が続きサワラ、カバノキ属、クリ?がみられる。紡織具では、ヒノキが多く、マキ属、サワラ、スギがある。丸木弓はカヤが多く、モミ属、イヌガヤがみられる。木製容器はヒノキ、スギ、クリ等があり一定しない。

行田市小針遺跡B地区では、鬼高期の住居跡ピット内から一括して加工材、柱根、編錘が出土している。

行田市池守遺跡では、上・下池守地区（北部）A、B地点で花粉分析が行われ、樹木植物の主要構成植物としてスギ属、コナラ属が挙げられている。また中里地区の沼地No.1、No.6でも花粉分析が行われている。特に沼地No.6では五領期から鬼高期の遺物が出土し、木製品は樹種は不詳であるが二又鋤、柄が出土した。

古植生については、「コナラ属、スギ科が主体となって草地の周囲に林地を形成していたもの」と推定された。

また他地点でも、古墳時代前期～後期の沼跡、溝跡で木器が出土し、建築部材を中心に農耕具、木製容器、下駄、壺鐙等が出土している。

奈良・平安時代になると、本遺跡周辺部では、別府条里・妻沼条里・中条条里・池守条里・池上条里・大里条里等の条里型地割が確認されている。

集落遺跡は、櫛挽台地では原遺跡、妻沼低地では

上敷免遺跡・上敷免北遺跡・宮ヶ谷戸遺跡、諏訪木遺跡、居立遺跡等である。

一般的には、時期はややずれるが「アカマツとスギの造林開始時期は奈良・平安時代末期、ないし鎌倉時代を推定するのが妥当」とされ、それ以前の植生については、古墳時代からの延長で考えられている。

北島遺跡第14～16地点では、花粉、珪藻分析結果から、「コナラ属、アカガシ属の木本花粉が多く、台地縁辺部等の植生を反映している。また「針葉樹が多く、特にモミ属、ツガ属が低地に比べて高い傾向にある。」とされた。

柱材を中心とした樹種同定結果からは、杭がマツ属複雑維管束亜属、柱材5点はクリ、棒、板、曲物の底はヒノキ属、自然木はカヤであった。

第11地点では、奈良時代の3棟の掘立柱建物跡の柱根5点の樹種同定が行われ、4点がクリ、1点がヤマグワであった。

第13地点では、平安時代の掘立柱建物跡の柱根1点の樹種同定の結果は、クリであった。時期不明ではあるが、第12地点の加工材3点、自然木2点、柱材1点も、クリが4点で他はコナラ属アカガシ亜属、ヒノキであった。

第17地点の花粉分析結果からは、やや時期的な幅を持つが「As-C混のXI層から浅間Bテフラ直下のVII層にかけては」、「森林植生としては、コナラ属コナラ亜属（ナラ類）などの落葉広葉樹林、コナラ属アカガシ亜属（カシ類）などの常緑広葉森林、およびスギなどの針葉樹林が、近接するか混在して分布していたと推定され」ている。

「IV層上部から遺構確認面のII層にかけては、水田の環境であったと考えられ、周囲にはイネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属などの人里植物や耕地雑草が分布していたと推定される。また、この時期には遺跡周辺でクリ林やマツの二次林が増加したと推定される。」とされた。

第19地点では奈良・平安時代（古代）の井戸跡、

溝跡出土の木製品（転用材）15点について樹種同定が行われている。

井戸杵、家具、建築材、容器、紡織具がある。

針葉樹4種類（モミ属、スギ、ヒノキ、ヒノキ属）、広葉樹4種類（エノキ属、ヤマグワ、キハダ）が確認された。ヒノキは製品が持ち込まれた可能性が指摘されている。広葉樹は遺跡周辺のものを利用したことが指摘されている。

本報告でも第19地点の樹種同定が行われ、その結果は、前回報告分を含めて分析がなされた。

古代の木製品21点は、針葉樹5種類（モミ属・スギ・ヒノキ・ヒノキ属・カヤ）、広葉樹4種類（エノキ属・ヤマグワ・キハダ・散孔材）が確認された。

針葉樹利用の器種は、井戸杵、机、扉、壁、柱、柄杓、曲物である。ヒノキ属の利用が多い傾向がある。広葉樹は、井戸杵材でエノキ属3点、ヤマグワ2点である。この他、梁にエノキ属、柱にキハダがある。

小敷田遺跡の7世紀末から奈良・平安時代の樹種同定の結果は、総数212点で、針葉樹が56.6%を占める。ヒノキ35点、ヒノキ属4点、モミ属29点、スギ34点、サワラ10点、カヤ3点、イヌガヤ3点、ツガ属2点である。広葉樹は22種類に及び、コナラ属クヌギ節16点、コナラ属アカガシ亜属12点、ヤマグワ12点、ヤナギ属10点、クリ7点、エノキ属5点、カナメモチ、ヌルデ各4点、ヤマザクラ3点、ムラサキシキブ属、カエデ属、クサギ、サカキ、トネリコ属各2点で、その他トチノキ、ケヤキ、キハダ等がある。

製品としては壺罎、組合せ箱、蓋、曲物、櫛、筵編、俵叩、火臼、下駄、田下駄、竪杵、鋤先、弓、柄、棒等の他、建築材、杭、自然木が出土している。

自然木は広葉樹で占められ、ヤマグワ、ヤナギ属、コナラ属クヌギ節が多い。また角材、丸太材等は約半数が針葉樹材で、ヒノキ、ヒノキ属、モミ属で64%を占める。広葉樹は11種類でクリが6点と多くコナラ属アカガシ亜属、ヤナギ属各3点と続く。

板、板材等はスギ19点、ヒノキ14点、モミ属9点と多く、サワラ、カヤで86.5%を占める。広葉樹はコナラ属アカガシ亜属、コナラ属クヌギ節がほとんどで、ケヤキが1点ある。

杭は13点出土し、モミ属が1点ある他は全て広葉樹で、50%がコナラ属クヌギ節である。他にヌルデ、ヤマグワ、ヤマザクラ各2点である。

農耕具、日常用具等の製品は部分も含めて、総数56点出土しているが、34点が針葉樹で60.7%、その内ヒノキ11点、スギ9点、モミ属7点が約80%を占め、その他サワラ、イヌガヤ、カヤがある。

櫛はカナメモチのみで4点出土している。その他鋤先？がクリ、皿がトチノキである。部分ではっきりしないが棒、柄が14点あり、コナラ属アカガシ亜属をはじめとする広葉樹10種で作られている。

和田吉野川水系の大里町下田町遺跡でも奈良・平安時代の木製品19点について樹種同定を実施している。

奈良時代の樹種の内約半数が針葉樹で、板材と井戸枠に使用されている。製品は縦杵がサカキ、杭がコナラ属アカガシ亜属である。

平安時代の木製品は針葉樹の利用は少なく、スギ、ヒノキ、モミ属、カヤで、それぞれ槽、井戸枠、曲物、柱根に使用されている。広葉樹は主に建築材に使われ、柱材、梯子、杭があり、その他鞍、井戸枠

が出土している。

寿能泥炭層遺跡では花粉分析結果から平安時代以降について、「樹木としてはコナラ亜属、スギ科を主体に、ハンノキ属、マツ属等が林地を形成していた」とされた。また流木50点の樹種同定の結果から、植生は「古墳時代の林に似た林であったと考えて矛盾」はなく、「クヌギの占める割合が多」かったとしている。

奈良・平安時代の木製品については加工木、分割材、板材、角材、杭、有孔材、製品は櫛、縦杵、曲物底、折敷等が出土している。

樹種鑑定の結果奈良～平安時代については、自然木46点、加工木41点で、自然木は広葉樹のみ確認された。クヌギ18点、ヤナギ類11点、クリ10点、ハンノキ類7点である。

加工木はクヌギ22点、ケヤキ7点、クリ4点、イヌガヤ、ナラ類各3点、ヒノキ類2点で針葉樹が含まれる。当該期にケヤキの加工木が比較的多数出土するようになったとされている。

平安時代末から中世になると、武蔵七党や在地武士団の館跡が作られるようになり、本遺跡周辺部でも成田氏館跡、中条氏館跡や光屋敷遺跡などの中世遺跡がある。当該期は荘園体制の形成に伴い木製品のもつ意義は大きいですが、出土例は多くなく、今後の調査によって解明されるであろう。

### Ⅲ 遺跡の概要

北島遺跡は、これまでに第1地点から第21地点まで、各種の開発行為に伴う発掘調査が行われてきた(第4表参照)。

以下では北島遺跡の既調査各地点と田谷遺跡について概要を述べることにする。

既に当事業団報告書第278集、第291集で、地点別の発掘調査概要について、記述されているので参照願いたい。

#### 第1地点

ラグビー場(Aグラウンド)の建設に伴う発掘調査。

遺構の大半は、調査区の西半分に限る。東半分は、溝跡群と浅間山B軽石層によって覆われた平安時代の水田跡で、集落は、竪穴住居跡と掘立柱建物跡で構成される。

#### 第2地点

ソフトボール場の建設に伴う発掘調査。

大形の掘立柱建物跡群や大形の竪穴住居跡が検出された。北島遺跡の西半の中心的建物群である。

#### 第3地点

公園内道路の建設に伴う発掘調査。

竪穴住居跡が調査区に一律に検出されたが、特に東側に多く見られる。中世の溝跡や水田跡にかかる溝跡も見ることができる。

#### 第4地点

公園内道路の建設に伴う発掘調査。

調査区の西半部は、第1地点から続く浅間山B軽石層によって覆われた平安時代の水田跡であった。東半部は、第3地点から続く竪穴住居跡群で掘立柱建物跡も数棟確認することができた。

#### 第5地点

さいたま博覧会シンボルタワーの建設に伴う発掘調査。

自然堤防上に集落が完出された。比較的集中した竪穴住居跡群を検出した。

#### 第6地点

公園内道路の建設に伴う発掘調査。

調査区全体にわたって、竪穴住居跡をやや疎らに検出した。第6地点の西側は、やや距離を置いて天神遺跡が所在する。

#### 第7地点

公園内の調節池の建設に伴う発掘調査。

調査区の南半部は、なだらかに傾斜し旧流路へと続く。調査区の北半部には、小規模な竪穴住居跡とピット群を検出した。

#### 第8地点

用水路建設に伴う発掘調査。

遺構は、掘立柱建物跡群と竪穴住居跡、及びピット群を検出した。

#### 第9地点

用水路建設に伴う発掘調査。

埋没河川と自然堤防上の集落が検出された。その他多数の溝跡群を検出した。

#### 第10地点

公園内の調節池の建設に伴う発掘調査。

大形の溝跡群と、条里地割にかかる大形の溝跡を検出した。調査区南側では、掘立柱建物跡群を検出した。

#### 第11地点

用水路建設に伴う発掘調査。

自然堤防上に溝跡群や土壙を検出した。

#### 第12地点

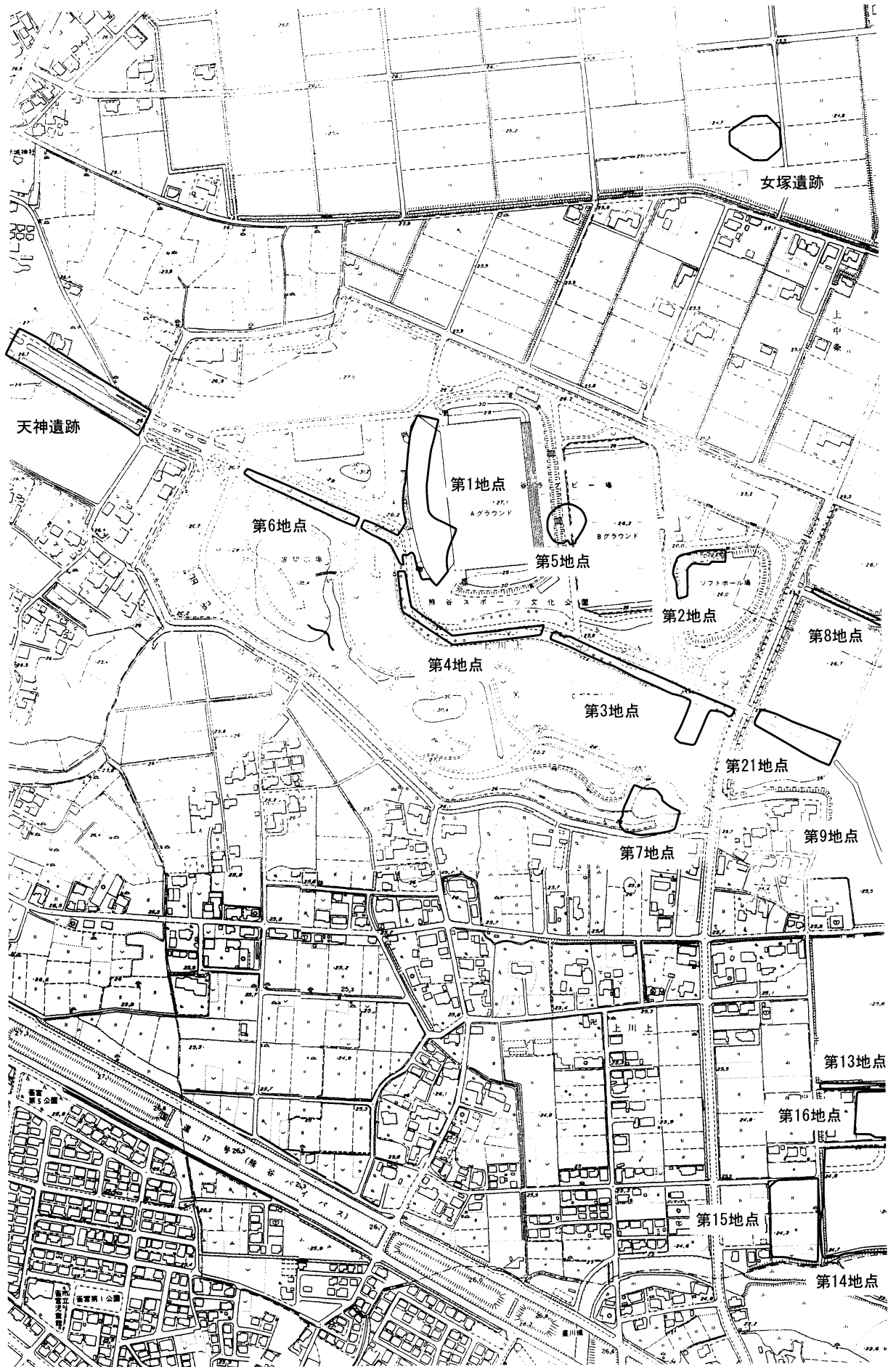
用水路建設に伴う発掘調査。

竪穴住居跡や土壙群を検出したが、古代の遺構は、僅かしか確認されていない。第19地点で検出した古代の区画溝や、古墳時代前期の区画溝など掘削深度の深い遺構は確認できた。

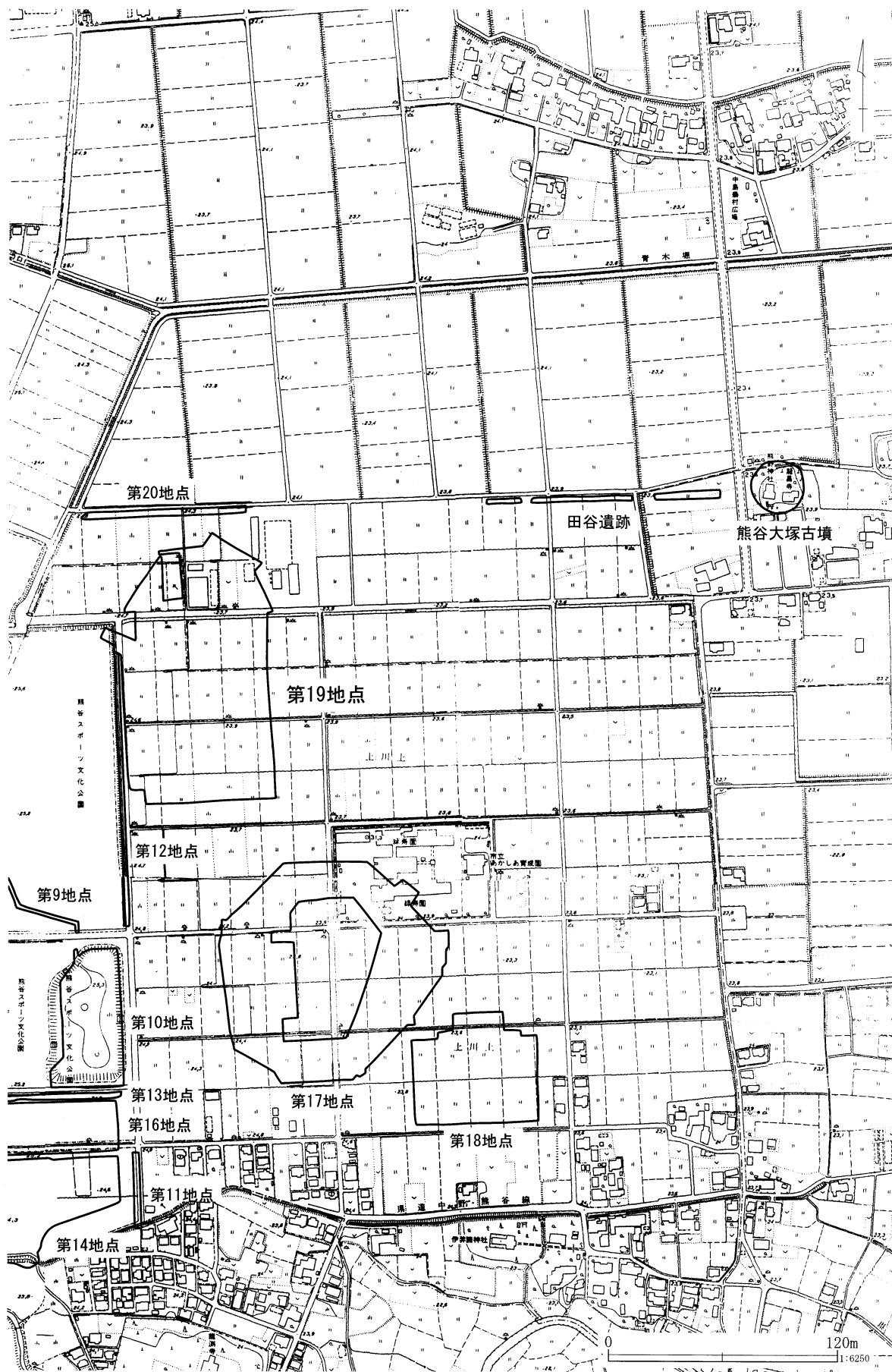
#### 第13地点

用水路建設に伴う発掘調査。

第10地点の南側に位置し、東西に細長い調査区で、



第 3 図



北島遺跡周辺の地形

自然堤防上に掘立柱建物跡と複数の溝跡群を検出した。

#### 第14地点

上之調節池建設に伴う発掘調査。

これまでの調査区の最南端部で、河川跡と自然堤防上の集落が検出された。

溝跡群や掘立柱建物跡、竪穴住居跡を多数検出した。調査区の西寄りに、大形の河川跡が検出され、この河川跡は第13地点でも確認されている。

#### 第15地点

上之調節池建設に伴う発掘調査。

南半部では、掘立柱建物跡を迂回する道路跡と、竪穴住居跡群、北半部では竪穴住居跡群はやや疎らであった。また第14地点に続く大形の溝跡も検出した。

第14・15地点の南側は、星川の旧河道で遺構は検出されていない。

#### 第16地点

上之調節池建設に伴う発掘調査。

小規模な掘立柱建物跡や竪穴住居跡を検出した。多数の溝跡群を検出し、第13・14地点に続く溝跡も多い。

#### 第17地点

メインスタジアム建設に伴う発掘調査。

古墳時代前期の竪穴住居跡及び畠作遺構、奈良・平安時代の大型掘立柱建物跡を伴う集落跡が検出されている。弥生時代中期以降平安時代までの水田跡が検出された。

#### 第18地点

遺跡範囲の東南端、第17地点の東側に位置し、建設に伴う発掘調査であった。

上層の水田跡下は沼沢地となっていた。

#### 第19地点

屋内競技場建設に伴う発掘調査。

弥生時代中期後半の集落跡、古墳時代前期の集落跡と墓域、古墳時代後期の古墳跡、奈良・平安時代の集落跡、中・近世の遺構等が検出された。

古墳時代前期の遺構数は、竪穴住居跡153軒、方形周溝墓27基、土壙214基、木棺墓1基、溝跡110条である。

#### 第20地点

公園外周道路建設に伴う発掘調査。

埋没河川と自然堤防上の集落が検出された。

埋没河川は調査区西側で検出された。古墳時代前期の竪穴住居跡及び畠跡、奈良・平安時代の掘立柱建物跡を伴う集落が検出されている。

#### 第21地点

オーバブリッジ建設に伴う発掘調査。

調査区の中央部に埋没河川があり、両岸から古墳時代から奈良・平安時代の溝跡及び土壙が検出されている。

#### 田谷遺跡 第2次、第3次

公園外周道路建設に伴う発掘調査。

本遺跡は、北島遺跡範囲の北東部に隣接する。

調査区は遺跡範囲の北東端に位置し、東西に細長い調査区で、自然堤防上の集落、墓域等が検出された。

重複する文化層が4枚検出され、古墳跡、竪穴住居跡、溝跡、土壙等が調査された。

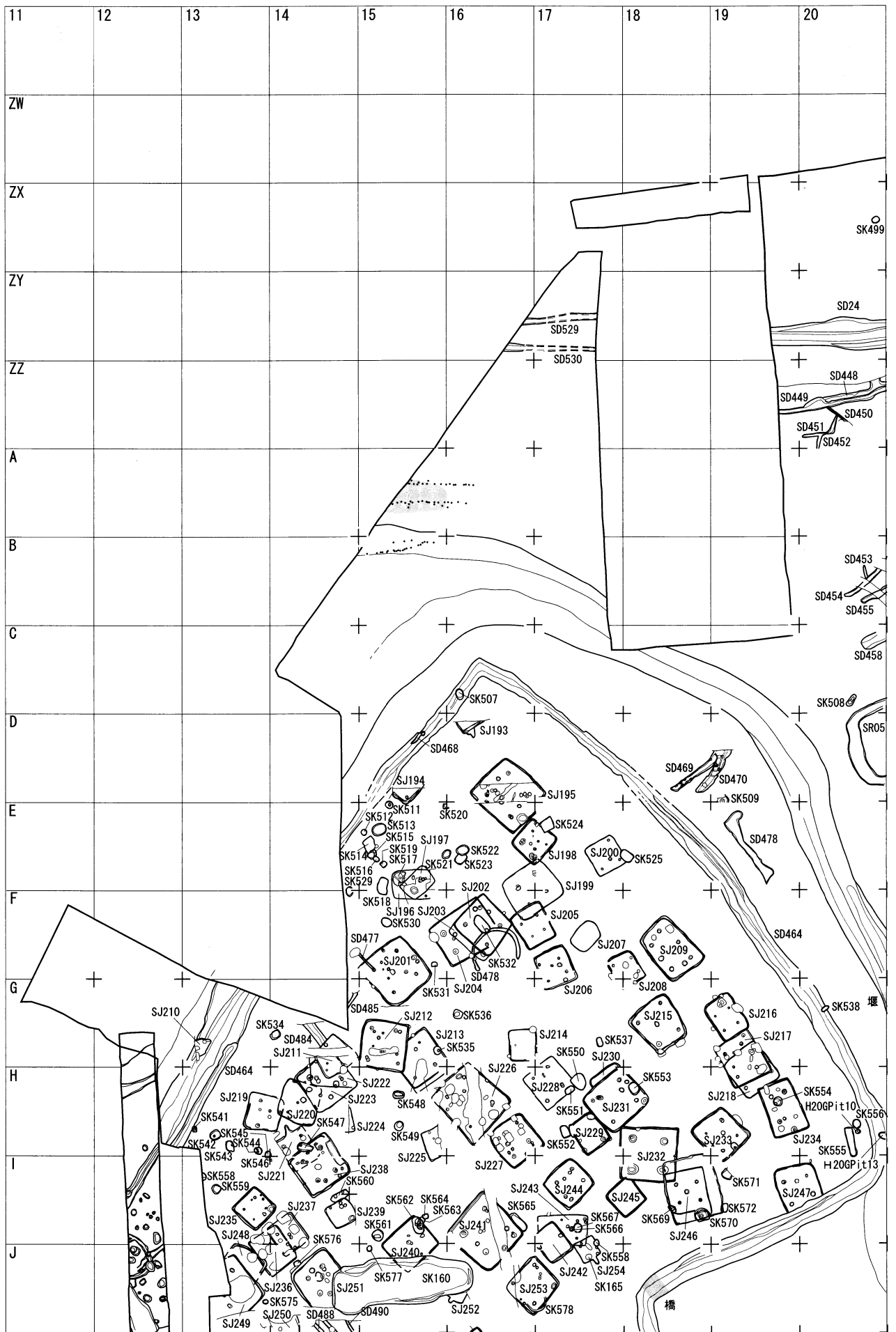
なお熊谷市教育委員会によって公園北側外周道路建設に伴う発掘調査が行われているが、古墳時代前期、奈良・平安時代の竪穴住居跡、畠跡等が検出されている。

以上、これまでの北島遺跡、田谷遺跡の調査をまとめると、竪穴住居跡849軒、掘立柱建物跡225棟、井戸跡163基、土壙1,449基、溝跡1,227条、柵列9条、道路跡6条、その他多数の遺構が検出された。



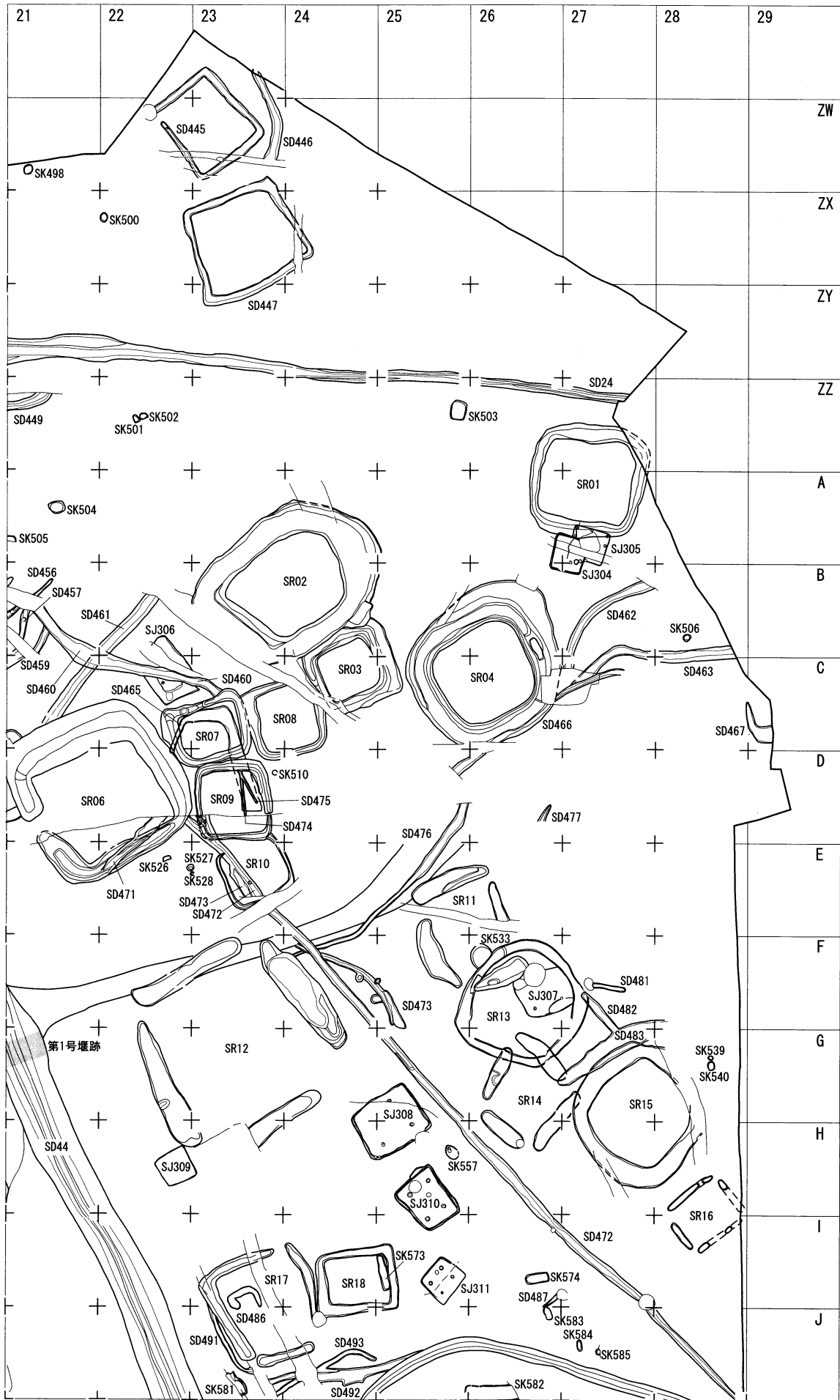
第 4 表 北島遺跡調査概要

地点名	面積	竪穴 住居跡	掘立柱 建物跡	井戸跡	土壌	溝跡	柵列	道路跡	水田跡	その他	文献
第1地点	5,800	21	9	5	24	17			○		i
第2地点	1,300	9	13	2	13	24					i
第3地点	2,900	54	1	9	34	65					i
第4地点	1,800	45	7	3	17	17					i
第5地点	1,600	37	2	2	44	25					i
第6地点	1,000	29	6	5	38	14				墓塚(1)	i
第7地点	2,200	4	15	1	18	20					i
第8地点	300	2	3	0	4	3					i
第9地点	900	4	1	1	7	35				火葬墓(2)	ii
第10地点	10,000	2	8	0	15	35					ii
第11地点	150	0	0	0	7	15					ii
第12地点	1,250	21	2	2	114	30					iii
第13地点	1,400	0	3	1	19	31					iii
第14地点	19,100	72	43	15	78	102	6			再葬墓(1)	iv
第15地点	4,200	34	9	0	28	29		1			iv
第16地点	8,480	11	15	20	48	119	2				iv
第17地点	10,000	20	6	0	114	4	1		○	河川跡(1) 竪穴状遺構(42)	vii xi xii
第18地点	13,000					5			○		xii
第19地点	10,000	423	78	95	790	537		5	○	x iv	v vi viii ix x xi
第20地点	1,780	45	4	1	21	44			○	畠跡(1) 河川跡(1)	vii
第21地点	2,250	4			30	35					xi
——	1,175	16		1	16	56				竪穴(1) 畠跡(3)	xiii
i	『北島遺跡』	1989	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団								第81集
ii	『北島遺跡Ⅱ』	1989	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団								第88集
iii	『北島遺跡Ⅲ』	1991	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団								第103集
iv	『北島遺跡Ⅳ』	1998	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団								第195集
v	『北島遺跡Ⅴ』	2002	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団								第260集
vi	『北島遺跡Ⅵ』	2003	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団								第286集
vii	『北島遺跡Ⅶ』	2004	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団								第291集
viii	『北島Ⅷ／田谷』	2004	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団								第292集
ix	『北島遺跡Ⅸ』	2004	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団								第293集
x	『北島遺跡Ⅹ』	2005	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団								第302集
x i	『北島遺跡ⅩⅠ』	2005	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団								第303集
x ii	『北島遺跡ⅩⅡ』	2005	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団								第304集
x iii	『北島遺跡』	2002	埼玉県熊谷市教育委員会								
x iv	地鎮跡(1)古墳跡(8)水路(1)堰跡(4)河川跡										集石遺構(1)木器集石遺構(1)木棺墓(1)方形周溝墓(27)

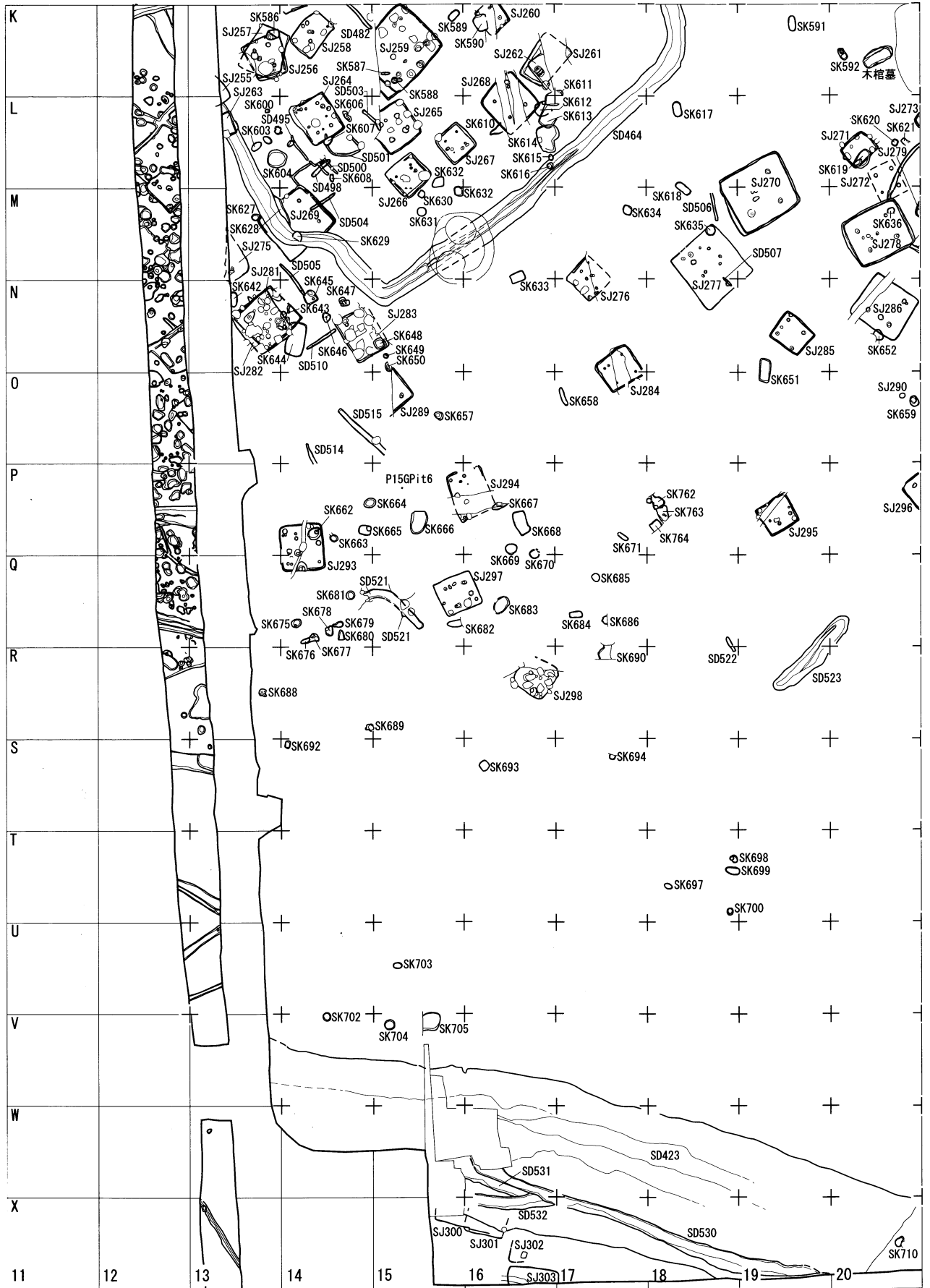


第 4 図 遺跡全体図 (1)

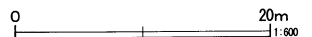


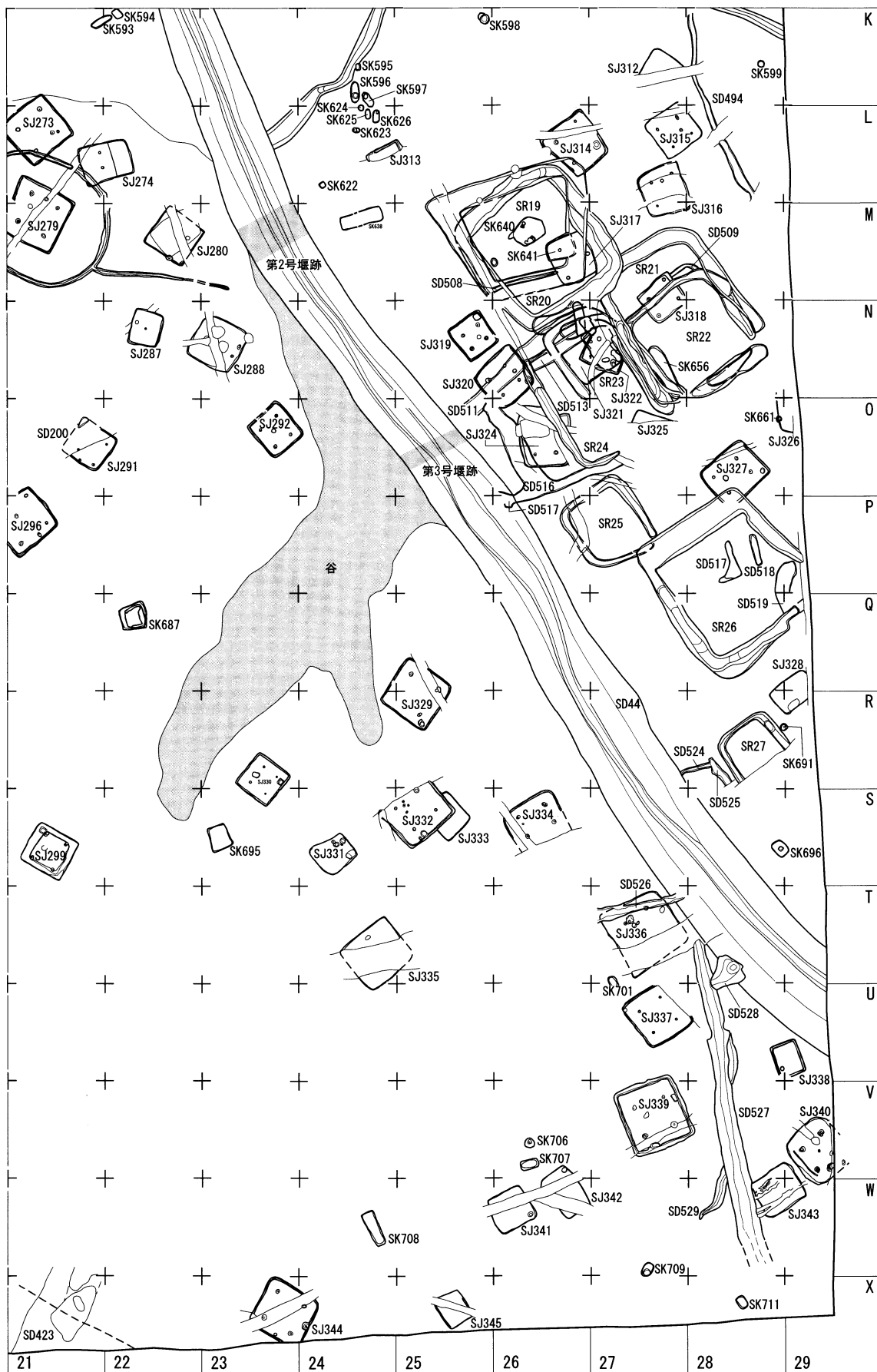


第 5 図 遺跡全体図 (2)



第 6 図 遺跡全体図 (3)





第 7 図 遺跡全体図 (4)

# 北島遺跡第19地点遺構索引

## 竪穴式住居跡

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第1号住居跡	ZY 24~25	V 84	V 85	V 185 IX 379		IX 図版 102	SJ386
第2号住居跡	B 26	V 84	V 85	V 185	V 図版 2		SJ383
第3号住居跡	B 27	V 84	V 85	V 185 IX 267	V 図版 2	IX 図版 116	SJ382
第4号住居跡	C 26	V 84	V 85	V 185	V 図版 3		SJ381
第5号住居跡	C 26~27	V 84	V 87	V 185 IX 268	V 図版 3	IX 図版 12 117	SJ380
第6号住居跡	D~E 16	V 85 86	V 87	V 185	V 図版 3	IX 図版 12	SJ43
第7号住居跡	D~E 16	V 86	V 87	V 185 IX 242		V 図版 90	SJ80
第8号住居跡	D~E 17	V 86	V 87	V 185 IX 227	V 図版 3	IX 図版 12	SJ61
第9号住居跡	D~E 17~18	V 86	V 87	V 185	V 図版 4		SJ331
第10号住居跡	D 18	V 86 87	V 89	V 185			SJ422
第11号住居跡	D~E 18	V 87 88	V 89	V 185	V 図版 3 4	IX 図版 12	SJ57
第12号住居跡	D~E 18~19	V 88	V 89	V 185			SJ81
第13号住居跡	D 18~19			V 185			
第14号住居跡	D 19	V 88	V 89	V 185 IX 380		IX 図版 107	SJ424
第15号住居跡	D~E 23	V 88 89	V 89	V 185 187	V 図版 4	IX 図版 12 96	SJ20
第16号住居跡	D~E 23~24	V 90	V 91	V 187	V 図版 4		SJ19
第17号住居跡	D~E 23~24	V 90	V 91	V 187 IX 240	V 図版 4	IX 図版 90	SJ18
第18号住居跡	D~E 23~24	V 90	V 91	V 187 IX240	V 図版 4	IX 図版 12 90	SJ20
第19号住居跡	D 24	V 90 91	V 91	V 187	V 図版 4		SJ21
第20号住居跡	D~E 24	V 91 92	V 93	V 187	V 図版 4	IX 図版 12 13	SJ50
第21号住居跡	D~E 24	V 92 93	V 93 V 243	V 187 IX 242 243	V 図版 5	IX 図版 90 96	SJ21
第22号住居跡	D~E 24~25	V 93	V 95	V 187 189	V 図版 5	IX 図版 12	SJ46
第23号住居跡	D~E 24~25	V 93 94	V 95	V 189	V 図版 5	IX 図版 13	SJ23
第24号住居跡	D~E 25	V 94	V 95	V 189	V 図版 5		SJ47
第25号住居跡	D~E 25~26	V 94	V 95	V 189	V 図版 5		SJ53
第26号住居跡	E~F 14~15	V 95	V 97	V 189 IX 242	V 図版 5 6	IX 図版 90	SJ28
第27号住居跡	E~F 14~15	V 96	V 97	V 189 IX 240 241	V 図版 6	IX 図版 13 90	SJ31
第28号住居跡	E 14~15	V 96	V 97	V 189	V 図版 6	IX 図版 13	SJ28
第29号住居跡	E 15						
第30号住居跡	E 15~16	V 97	V 97	V 189			
第31号住居跡	E 15	V 98	V 99	V 191	V 図版 6	IX 図版 13 96	SJ34
第32号住居跡	E 15	V 98	V 99	V 191 IX 241	V 図版 6 7	IX 図版 13	SJ39
第33号住居跡	E 15~16						
第34号住居跡	E~F 15~16	V 98	V 99	V 191 IX 236 239 IX 243	V 図版 7	IX 図版 13 90 IX 図版 101	SJ38
第35号住居跡	E~F 15	V 99	V 99	V 191 193	V 図版 7	IX 図版 13	SJ29

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第36号住居跡	E 15~16	V 99 100	V 103	V 193	V 図版 7	IX 図版 13 14 IX 図版 99	SJ54
第37号住居跡	E 16	V 101	V 103	V 193	V 図版 8		SJ55
第38号住居跡	E 16	V 101	V 103	V 193	V 図版 8		SJ48
第39号住居跡	E~F 16			V 193			SJ41
第40号住居跡	E~F 16	V 101 102	V 103	V 193	V 図版 8	IX 図版 14	SJ75
第41号住居跡	E~F 16~17	V 102	V 105		V 図版 8		SJ72
第42号住居跡	E 17	V 102 104	V 105	V 197	V 図版 8 9		SJ51
第43号住居跡	E 17	V 104	V 105	V 197 IX 240	V 図版 8 9	IX 図版 14 IX 図版 90 96	SJ40
第44号住居跡	E 17~18	V 104~106	V 105	V 197 199 IX 239	V 図版 9	IX 図版 14 90	SJ37
第45号住居跡	E 17	V 106	V 107	V 199		IX 図版 14	SJ59
第46号住居跡	E~F 17~18	V 106	V 107		V 図版 9 10		SJ77
第47号住居跡	F 17~18	V 106~108	V 107	V 199	V 図版 10	IX 図版 14 15 IX 図版 96	SJ69
第48号住居跡	E 18	V 108~110	V 107	V 199 IX 242		IX 図版 90	SJ36
第49号住居跡	E~F 18	V 108	V 109	V 199 IX 185	V 図版 10	IX 図版 15	SJ74
第50号住居跡	E~F 18	V 110	V 109		V 図版 10		SJ67
第51号住居跡	E 23~24	V 110	V 109	V 199	V 図版 10		
第52号住居跡	E 24~25	V 110	V 109	V 199	V 図版 11		SJ180
第53号住居跡	E 25	V 110 111	V 109 111	V 199	V 図版 11		SJ45
第54号住居跡	E 25	V 111 112	V 111	V 199	V 図版 11		SJ181
第55号住居跡	F 14	V 112		V 201 IX 243		IX 図版 15 90	SJ32
第56号住居跡	F 15	V 112	V 111		V 図版 11		SJ35
第57号住居跡	F 15~16	V 112	V 111 113	V 201	V 図版 11 12		SJ49
第58号住居跡	F~G 15~16	V 113	V 115	V 201	V 図版 11 12	IX 図版 16	SJ44
第59号住居跡	F 15~16	V 113	V 114 115	V 201	V 図版 11 12	IX 図版 96	SJ76
第60号住居跡	F 16	V 114	V 115	V 201			SJ120
第61号住居跡	F 16	V 114	V 115	V 201 IX 236	V 図版 12	IX 図版 15 90	SJ79
第62号住居跡	F 16	V 114	V 117	V 201			SJ66
第63号住居跡	F 16	V 116	V 117	V 203 IX 268	V 図版 12	IX 図版 15 117	SJ49
第64号住居跡	F 16	V 116	V 117	V 203	V 図版 12		SJ119
第65号住居跡	F 17	V 116	V 117 118	V 203 IX 268	V 図版 13	IX 図版 117	SJ70
第66号住居跡	F~G 17~18	V 118	V 117	V 203	V 図版 13	IX 図版 15 16	SJ73
第67号住居跡	F~G 17~18	V 119	V 121	V 203 205	V 図版 13	IX 図版 17	SJ146
第68号住居跡	F 18	V 119	V 121	V 205		IX 図版 16	SJ77
第69号住居跡	F 18	V 119 120	V 121		V 図版 13		SJ78
第70号住居跡	F 18	V 120	V 121	V 205	V 図版 14		SJ68
第71号住居跡	F 18	V 120	V 121	V 205		IX 図版 17	SJ62
第72号住居跡	F 18~19	V 120	V 123	V 205	V 図版 14		SJ122
第73号住居跡	F~G 19	V 121	V 123	V 205	V 図版 14	IX 図版 17	SJ137
第74号住居跡	F 24~25	V 122	V 123	V 205	V 図版 14	IX 図版 17	SJ179
第75号住居跡	F 25	V 122~124	V 123	V 207	V 図版 14	IX 図版 96	SJ194
第76号住居跡	F 28	V 124	V 127	V 207	V 図版 15	IX 図版 17 96	SJ182
第77号住居跡	F~G 28	V 124 125	V 127	V 207	V 図版 15		SJ125

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第78号住居跡	G 13	V 125	V 127				SJ354
第79号住居跡	G 13~14	V 125	V 127				SJ353
第80号住居跡	G 14	V 125	V 127				SJ352
第81号住居跡	G~H 14~15	V 125					
第82号住居跡	G~H 14~15	V 125	V 127	V 207	V 図版 15	IX 図版 17	SJ24
第83号住居跡	G~H 15	V 126					
第84号住居跡	G 15	V 126	V 129	V 207			SJ30
第85号住居跡	G~H 15	V 126					
第86号住居跡	G 15	V 126	V 129	V 207	V 図版 15	IX 図版 17	SJ33
第87号住居跡	G 16	V 128	V 129	V 209		IX 図版 17	SJ64
第88号住居跡	G~H 17~18	V 128	V 129	V 209	V 図版 16		SJ187
第89号住居跡	G 18	V 128	V 131	V 209	V 図版 16	IX 図版 18	SJ134
第90号住居跡	G~H 18	V 129 130	V 131	V 209 211 IX 236	V 図版 16	IX 図版 18 90	SJ136
第91号住居跡	G 26	V 130	V 131		V 図版 16		SJ184
第92号住居跡	H 13	V 130	V 131	V 211			SJ350
第93号住居跡	H 13	V 130	V 131				SJ351
第94号住居跡	H 13	V 132	V 131	V 211			SJ362
第95号住居跡	H 13~14	V 132	V 133	V 211 IX 238		IX 図版 90	SJ363
第96号住居跡	H 13	V 132	V 133	V 211			SJ357
第97号住居跡	H~I 13~14	V 132	V 133	V 211 IX 236		IX 図版 18 90 IX 図版 96	SJ358
第98号住居跡	H~I 13~14	V 132 133	V 133	V 213		IX 図版 18	SJ360
第99号住居跡	H 14	V 134	V 135	V 213	V 図版 16	IX 図版 18	SJ355
第100号住居跡	H 15	V 134	V 135	V 213	V 図版 16 17		SJ16
第101号住居跡	H 15~16	V 134~136	V 135	V 213			SJ313
第102号住居跡	H 16	V 136	V 135	V 213	V 図版 17	IX 図版 18	SJ63
第103号住居跡	H~I 16~17	V 136 138	V 137	V 213 IX 196	V 図版 17	IX 図版 18 101	SJ71
第104号住居跡	H~I 17	V 138	V 137	V 213 IX 243	V 図版 17	IX 図版 18 90	SJ188
第105号住居跡	H 17~18	V 138	V 137	V 215	V 図版 17	IX 図版 18	SJ186
第106号住居跡	H~I 17~18	V 138 139	V 137	V 215 IX 187	V 図版 17	IX 図版 18	SJ196
第107号住居跡	H 18	V 139	V 141	V 215	V 図版 17		SJ150
第108号住居跡	H 18	V 139	V 141	V 215 IX 241 242	V 図版 18	IX 図版 90	SJ135
第109号住居跡	H 17~18	V 139 140	V 141	V 215	V 図版 18	IX 図版 18	SJ177
第110号住居跡	H 18	V 140	V 141	V 215 217 IX 197	V 図版 18	IX 図版 18 19	SJ138
第111号住居跡	H~I 18~19	V 140	V 143	V 217 IX 241	V 図版 19	V 図版 19 IX 図版 90	SJ152
第112号住居跡	I 13	V 140 142	V 143	V 217		V 図版 19	SJ371
第113号住居跡	I 13~14	V 142	V 143	V 217 IX 236	V 図版 18	IX 図版 90 101	SJ356
第114号住居跡	I~J 14	V 142 143	V 143	V 217 219	V 図版 18	IX 図版 19	SJ15
第115号住居跡	I~J 15	V 144	V 145	V 219	V 図版 19		SJ14
第116号住居跡	I~J 16	V 144	V 145	V 219	V 図版 19	IX 図版 19	SJ107
第117号住居跡	I 16~17	V 14 146	V 145	V 219 221 IX 240 243		V 図版 19 IX 図版 90 117	SJ115



遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第118号住居跡	I 16~17	V 146	V 145	IX 269 V 221	V 図版 19		SJ72
第119号住居跡	I 17	V 146	V 145	V 221	V 図版 19	IX 図版 19	SJ116
第120号住居跡	I 17	V 146	V 149	V 221			SJ118
第121号住居跡	I 18~19	V 147	V 149	V 221 223 IX 193	V 図版 19 20	IX 図版 19 20 IX 図版 99	SJ151
第122号住居跡	J 13	V 147	V 149				SJ367
第123号住居跡	J 14	V 147	V 149				SJ364
第124号住居跡	J 15~16	V 147	V 149	V 223			SJ101
第125号住居跡	J 16	V 147	V 149	V 223 V 375			SJ108
第126号住居跡	J 16~17	V 148	V 151	V 223			SJ109
第127号住居跡	J 17	V 148	V 151	V 223 V 194	V 図版 20	IX 図版 20	SJ106
第128号住居跡	J~K 18	V 148~150	V 151				
第129号住居跡	K 14	V 150	V 151	V 223 225	V 図版 20		SJ368
第130号住居跡	K~L 14	V 150	V 153	V 225	V 図版 20	IX 図版 20	SJ370
第131号住居跡	K 15	V 150	V 153	V 225 227	V 図版 20 21	IX 図版 20	SJ13
第132号住居跡	K 15	V 150~152	V 153	V 227			SJ112
第133号住居跡	K 15	V 152	V 153		V 図版 21		SJ25
第134号住居跡	K~L 15	V 152	V 153	V 227	V 図版 21	IX 図版 21	SJ113
第135号住居跡	K~L 16	V 152~154	V 155	V 227 IX 238	V 図版 21	IX 図版 90	SJ91
第136号住居跡	K~L 16~17	V 154	V 155	V 227	V 図版 22	IX 図版 96	SJ232
第137号住居跡	K 19	V 154	V 155	V 227			SJ212
第138号住居跡	K~L 20	V 154	V 155				SJ213b
第139号住居跡	K~L 20	V 154	V 155	V 227			SJ213c
第140号住居跡	K~L 20	V 154 156	V 157	V 227		IX 図版 21	SJ213a
第141号住居跡	L 15	V 156	V 157	V 227 IX 238	V 図版 22	IX 図版 90	SJ12
第142号住居跡	L 15	V 156	V 157	V 227	V 図版 22	IX 図版 21	SJ56
第143号住居跡	L~M 15	V 158	V 157	V 227	V 図版 22 23		SJ17
第144号住居跡	L 16~17	V 158	V 157	V 227 IX 236 IX 187 240	V 図版 23	IX 図版 90	SJ86
第145号住居跡	L 17	V 158	V 159	V 227 231	V 図版 23	IX 図版 21	SJ191
第146号住居跡	L 17~18	V 160	V 159	V 231 IX 191 196	V 図版 23		SJ204
第147号住居跡	L~M 17	V 160	V 159	V 231	V 図版 23		SJ192
第148号住居跡	L 17~18	V 160 161	V 159	V 231			SJ189
第149号住居跡	L 18	V 161	V 159	V 231 IX 242		IX 図版 21 90	SJ202
第150号住居跡	L 18	V 161	V 163	V 231 233 IX 189		IX 図版 21 101	SJ201
第151号住居跡	L~M 18	V 162	V 163	V 233	V 図版 23	IX 図版 99	SJ183
第152号住居跡	L 18	V 162	V 163	V 233		IX 図版 22	SJ211
第153号住居跡	L 18	V 162	V 163	V 233 235	V 図版 23	IX 図版 22	SJ207
第154号住居跡	L 18~19	V 164	V 163	V 235		IX 図版 22	SJ208
第155号住居跡	L 19	V 164	V 165	V 235	V 図版 23		SJ206
第156号住居跡	L 19	V 166	V 165	V 235	V 図版 24		SJ203
第157号住居跡	L~M 19	V 166	V 165	V 235	V 図版 24	IX 図版 22	SJ185
第158号住居跡	M~N 15	V 166 167	V 165	V 237	V 図版 24	IX 図版 22 90	SJ11

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第159号住居跡	L~M 15	V 167	V 169	IX 236 268 V 237	V 図版 24	IX 図版 117 IX 図版 22	SJ10 SJ93
第160号住居跡	M 16	V 167	V 169				
第161号住居跡	M 17	V 167	V 169	V 237	V 図版 24	IX 図版 22	SJ178
第162号住居跡	M~N 17~18	V 168	V 169	V 237		IX 図版 22	SJ197
第163号住居跡	L~M 18	V 168	V 169	V 237		IX 図版 23	SJ200
第164号住居跡	M~N 18	V 168	V 171	V 239	V 図版 25	IX 図版 23	SJ172
第165号住居跡	M 19	V 170	V 171	V 239			SJ190
第166号住居跡	M 19	V 170	V 171	V 239			SJ168
第167号住居跡	M 19	V 170	V 171	V 239		IX 図版 23	SJ145
第168号住居跡	M~N 19	V 172	V 171	V 239 IX 196			SJ166
第169号住居跡	M~N 19	V 172					
第170号住居跡	M~N 19~20	V 172	V 173	V 239	V 図版 25	IX 図版 23	SJ143b
第171号住居跡	M~N 19~20	V 172	V 173	V 239			SJ143a
第172号住居跡	M~N 19~20	V 172 174	V 173		V 図版 25		SJ143c
第173号住居跡	M 20	V 174	V 173	V 239			SJ219
第174号住居跡	N~O 13~14	V 174	V 173	V 239 IX 185 196 IX 242	V 図版 25	IX 図版 90	SJ373
第175号住居跡	N 16	V 174	V 173				SJ92
第176号住居跡	N~O 17~18	V 174	V 175				SJ193b
第177号住居跡	N~O 18	V 176	V 175	V 239~241			SJ193a
第178号住居跡	N~O 18	V 176	V 175	V 241	V 図版 25	IX 図版 23	SJ175
第179号住居跡	N 18	V 176	V 175	V 241	V 図版 25	IX 図版 23	SJ176
第180号住居跡	N 18	V 177		IX 185			SJ144
第181号住居跡	O 13~14	V 177	V 175	V 241	V 図版 25 26	IX 図版 23 96	SJ374
第182号住居跡	O 13~14	V 177	V 179	V 241	V 図版 25 26		SJ375
第183号住居跡	O 15	V 177 178	V 179	V 241 243	V 図版 26	IX 図版 24	SJ8
第184号住居跡	O 15~16	V 178	V 179	V 243 245 IX 240	V 図版 26	IX 図版 24	SJ7
第185号住居跡	O 16	V 180	V 179	V 245 IX 380		IX 図版 101 107	SJ88
第186号住居跡	P 15~16	V 180 181	V 179	V 245~247	V 図版 26	IX 図版 24	SJ9
第187号住居跡	P 16	V 181 182	V 179	V 247			SJ100
第188号住居跡	P~Q 16	V 182	V 181	V 247		IX 図版 24 101	SJ87
第189号住居跡	P 16	V 182	V 181	V 247 IX 267		IX 図版 116	SJ89
第190号住居跡	P 16~17	V 182	V 181	V 247			SJ90
第191号住居跡	Q 17~18	V 182 183	V 181		V 図版 26		SJ124
第192号住居跡	Q~R 17~18	V 183	V 181		V 図版 27		SJ123
第193号住居跡	D 16	X 97	X 97	IX 186			SJ409
第194号住居跡	D~E 15	X 97	X 97				SJ425
第195号住居跡	D~E 16~17	X 97	X 98	X 99	X 図版 5	X 図版 49	SJ272
第196号住居跡	E~F 15	X 100	X 99	X 100			SJ042
第197号住居跡	E~F 15	X 100	X 100		X 図版 4		SJ296
第198号住居跡	E 16~17	X 101	X 101	X 101	X 図版 4		SJ271
第199号住居跡	E~F 16~17	X 103	X 102	X 103	X 図版 5	X 図版 49 107	SJ332
第200号住居跡	E 17~18	X 103	X 104	X 104	X 図版 5	X 図版 50	SJ260
第201号住居跡	F~G 14~15	X 104	X 105	X 106	X 図版 5	X 図版 50 51	SJ292
第202号住居跡	F 15~16	X 106	X 107		X 図版 5		SJ294
第203号住居跡	F 16	X 109	X 108	X 109		X 図版 51	SJ314

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第204号住居跡	F 16	X 108	X 107	X 106	X 図版 5		SJ295
第205号住居跡	F 16~17	X 109	X 109		X 図版 6		SJ262
第206号住居跡	F~G 16~17	X 111	X 110	X 110	X 図版 6	X 図版 51	SJ263
第207号住居跡	F 17	X 111	X 111				SJ261
第208号住居跡	F~G 17~18	X 111	X 112	X 112	X 図版 6		SJ257
第209号住居跡	F~G 18	X 112	X 113	X 114	X 図版 6	X 図版 51 52	SJ258
第210号住居跡	G 13	X 114	X 114	IX 185	X 図版 6		SJ349
第211号住居跡	G~H 14	X 116	X 115	X 115	X 図版 6	X 図版 52	SJ347
		.		IX 191			
第212号住居跡	G~H 14~15	X 117	X 116		X 図版 6		SJ290
第213号住居跡	G~H 15	X 118	X 117				SJ291
第214号住居跡	G 16	X 119	X 118	X 118	X 図版 7	X 図版 107	SJ298
第215号住居跡	G 18	X 119	X 120	X 121		X 図版 52 53	SJ255
第216号住居跡	G 18~19	X 122	X 121		X 図版 7		SJ254
第217号住居跡	G~H 19	X 123	X 122	X 122			SJ253
第218号住居跡	G~H 19	X 123	X 124	X 124	X 図版 7	X 図版 53 54	SJ328
第219号住居跡	H 13~14	X 127	X 125		X 図版 7		SJ401
第220号住居跡	H 14	X 127	X 125	X 126	X 図版 7	X 図版 54 55	SJ402
第221号住居跡	H~I 14	X 127	X 128	X 128			SJ377
				IX 197			
第222号住居跡	G~H 14	X 116	X 115	X 115	X 図版 6		SJ346
第223号住居跡	G~H 14	X 128	X 129	X 130	X 図版 8	X 図版 55	SJ403
第224号住居跡	H 14	X 130	X 130				SJ026
第225号住居跡	H~I 15	X 131	X 130	IX 185			SJ110
第226号住居跡	G~H 15~16	X 132	X 131		X 図版 8		SJ313
第227号住居跡	H~I 16~17	X 133	X 132	X 132	X 図版 8		SJ297
第228号住居跡	G~H 16~17	X 134	X 133		X 図版 8		SJ265
第229号住居跡	H 17	X 135	X 134	X 134	X 図版 8	X 図版 56	SJ315
第230号住居跡	G~H 17	X 135	X 136				SJ343
第231号住居跡	H 17~18	X 135	X 136	X 135	X 図版 8	X 図版 56	SJ335
第232号住居跡	H~I 17~18	X 137	X 138	X 139		X 図版 56 109	SJ249
第233号住居跡	H~I 18~19	X 141	X 140	X 139	X 図版 9	X 図版 57 58	SJ267
第234号住居跡	H 19~20	X 142	X 141		X 図版 8		SJ252
第235号住居跡	I 13~14	X 144	X 142	X 143	X 図版 9	X 図版 58 59	SJ404
第236号住居跡	I~J 13~14	X 144	X 144				SJ407
第237号住居跡	I~J 13~14	X 145	X 144				SJ405
第238号住居跡	H~I 14	X 145	X 146	X 146	X 図版 9	X 図版 59	SJ400
第239号住居跡	I 14	X 147	X 147	X 147		X 図版 59	SJ376
第240号住居跡	I~J 15	X 149	X 148	X 148	X 図版 10	X 図版 59 60	SJ289
第241号住居跡	I~J 15~16	X 149	X 150	X 151	X 図版 10	X 図版 60 107	SJ285
第242号住居跡	I~J 16~17	X 151	X 151		X 図版 10		SJ273
第243号住居跡	I~J 17	X 152	X 152		X 図版 10		SJ299
第244号住居跡	I 17	X 153	X 153	X 154	X 図版 10	X 図版 60~62	SJ266
第245号住居跡	I 17~18	X 155	X 155	X 155	X 図版 10		SJ327
第246号住居跡	H~I 18~19	X 155	X 156	X 157	X 図版 10	X 図版 62	SJ250
第247号住居跡	I 19~20	X 159	X 159	X 158	X 図版 11	X 図版 62 63	SJ251
第248号住居跡	I~J 13	X 160	X 160				SJ366
第249号住居跡	J 13	X 160	X 161	X 161	X 図版 11	X 図版 107	SJ406
第250号住居跡	J~K 13~14	X 160	X 162	X 162	X 図版 11	X 図版 63	SJ397
第251号住居跡	J 14	X 162	X 163	X 164	X 図版 11	X 図版 63~65	SJ399
						X 図版 107	
第252号住居跡	J 16	X 166	X 165	X 165			SJ097

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第253号住居跡	J 16	X 167	X 166	X 166	X 図版 12		SJ270
第254号住居跡	I~J 17	X 168	X 167				SJ114
第255号住居跡	K~L 13	X 169	X 167		X 図版 12		SJ379
第256号住居跡	K 13~14	X 169	X 168		X 図版 12		SJ396
第257号住居跡	K 13~14	X 170	X 169		X 図版 12		SJ418
第258号住居跡	K 14	X 171	X 170	X 170			SJ395
第259号住居跡	K~L 15	X 171	X 172	X 173	X 図版 12	X 図版 65 107	SJ279
第260号住居跡	J~K 16	X 173	X 174				SJ275
第261号住居跡	K 16~17	X 175	X 174	X 174			SJ282
第262号住居跡	K 16	X 176	X 174				SJ232
第263号住居跡	L 13	X 169	X 167	IX 196	X 図版 12		SJ378
第264号住居跡	K~L 14	X 176	X 175	IX 186	X 図版 12		SJ393
第265号住居跡	L 15	X 177	X 176	X 176	X 図版 13		SJ276
第266号住居跡	L~M 15	X 178	X 177		X 図版 13		SJ278
第267号住居跡	L 15~16	X 178	X 178	X 178	X 図版 13		SJ277
第268号住居跡	K~L 16	X 179	X 179	X 179	X 図版 13		SJ284
第269号住居跡	L~M 13~14	X 181	X 180	X 180			SJ398
第270号住居跡	L~M 18~19	X 183	X 184	X 185	X 図版 14	X 図版 65 66	SJ247
第271号住居跡	L 20	X 185	X 186	X 186	X 図版 14		SJ246
第272号住居跡	L~M 20	X 186	X 186				SJ319
第273号住居跡	K~L 21	X 187	X 187	X 188	X 図版 15	X 図版 66 67	SJ241
第274号住居跡	L 21~22	X 190	X 189	X 189			SJ281
第275号住居跡	M~N 13	X 192	X 189	X 189	X 図版 15	X 図版 68	SJ419
第276号住居跡	M~N 17	X 192	X 190	X 190	X 図版 15		SJ283
第277号住居跡	M~N 18~19	X 192	X 191	X 191		X 図版 107	SJ218
第278号住居跡	M 20	X 192	X 193	X 194 195	X 図版 15 16	X 図版 68~70	SJ245
第279号住居跡	L~M 20~22	X 195	X 196 197	X 198	X 図版 16	X 図版 70 107	SJ242
第280号住居跡	M 22~23	X 199	X 199				SJ129
第281号住居跡	N 13~14	X 200	X 200	IX 185 195 IX 196			SJ372
第282号住居跡	N 13~14	X 200	X 201				SJ374
第283号住居跡	N 14~15	X 206		IX 185 186	X 図版 16		SJ410
第284号住居跡	N~O 17	X 201	X 202	X 202	X 図版 17		SJ280
第285号住居跡	N 19	X 202	X 203	X 203	X 図版 17		SJ248
第286号住居跡	M~N 20	X 203	X 204	X 204		X 図版 107	SJ244
第287号住居跡	N 22	X 207	X 205	X 205	X 図版 17		SJ130
第288号住居跡	N 22~23	X 207	X 206	X 206	X 図版 17	X 図版 70 71 X 図版 107	SJ127
第289号住居跡	N~O 15	X 208	X 207		X 図版 17		SJ286
第290号住居跡	O 20	X 208	X 208				SJ170
第291号住居跡	O 21~22	X 208	X 208	X 208	X 図版 18		SJ141
第292号住居跡	O 23~24	X 210	X 209	X 210	X 図版 18	X 図版 71	SJ221
第293号住居跡	P~Q 13~14	X 211	X 211	X 212	X 図版 18	X 図版 71 72	SJ391
第294号住居跡	P 15~16	X 213	X 213		X 図版 19		SJ111
第295号住居跡	P 19	X 215	X 214	X 214	X 図版 19	X 図版 72 73	SJ233
第296号住居跡	O~P 21~21	X 215	X 216	X 216	X 図版 19	X 図版 73	SJ099
第297号住居跡	Q 15~16	X 217	X 217	X 217	X 図版 19	X 図版 73	SJ104
第298号住居跡	R 16	X 217	X 218	X 218	X 図版 19	X 図版 74	SJ117
第299号住居跡	S 21	X 222	X 220	X 220 IX 186	X 図版 20	X 図版 74	SJ082
第300号住居跡	X 16~17	X 243	X 243				SJ002
第301号住居跡	X 16~17	X 243	X 243				SJ003

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第302号住居跡	X 16	X 244	X 244				SJ004
第303号住居跡	X 16	X 244	X 244				SJ105
第304号住居跡	A~B 26~27	X 246	X 246		X 図版 24		SJ384
第305号住居跡	A~B 26~27	X 246	X 246		X 図版 24		SJ385
第306号住居跡	B~C 22	X 247	X 247	IX 187 190	X 図版 24		SJ388
第307号住居跡	F 26~27	X 250	X 248	X 248	X 図版 24		SJ239
第308号住居跡	G~H 24~25	X 250	X 249	X 248	X 図版 24	X 図版 78	SJ238
第309号住居跡	H 22	X 250	X 250				SJ321
第310号住居跡	H~I 25	X 251	X 251	X 250	X 図版 24	X 図版 78	SJ235
第311号住居跡	I 25	X 252	X 252		X 図版 25		SJ311
第312号住居跡	K 27	X 253	X 254		X 図版 25		SJ223
第313号住居跡	L 24~25	X 253	X 254		VI 図版 23		SJ164
第314号住居跡	L 26~27	X 254	X 255	X 255	X 図版 25	X 図版 78	SJ226
第315号住居跡	K~L 27~28	X 255	X 256		X 図版 25		SJ227
第316号住居跡	L~M 27	X 256	X 257	X 257	X 図版 25	X 図版 78	SJ224
第317号住居跡	M 26	X 260	X 258		X 図版 25		SJ225
第318号住居跡	M 26~27	X 260	X 258	X 259	X 図版 26	X 図版 78 79 X 図版 107	SJ230
第319号住居跡	N 25~26	X 263	X 261	X 261	X 図版 25	X 図版 79 80	SJ148
第320号住居跡	N~O 25~26	X 263	X 262	X 263	X 図版 27	X 図版 80	SJ149
第321号住居跡	N 26~27	X 266	X 264		X 図版 26		SJ220
第322号住居跡	N 26~27	X 266	X 265	X 264	X 図版 27		SJ147
第323号住居跡	N 26~27	X 266	X 265	X 264	X 図版 27	X 図版 80	SJ163
第324号住居跡	O 26	X 267	X 266	X 266 IX 785	X 図版 27		SJ140
第325号住居跡	O 27	X 269	X 267				SJ243
第326号住居跡	O 28~29	X 269	X 267		X 図版 27		SJ222
第327号住居跡	O~P 28	X 269	X 268	X 268	X 図版 28	X 図版 80	SJ139
第328号住居跡	Q~R 28~29	X 270	X 269		X 図版 28		SJ157
第329号住居跡	Q~R 24~25	X 224	X 221		X 図版 20		SJ103
第330号住居跡	R~S 23	X 224	X 222	X 223	X 図版 20	X 図版 74 75	SJ102
第331号住居跡	S 24	X 227	X 225	X 225	X 図版 21		SJ155
第332号住居跡	R~S 24~25	X 227	X 226	X 227	X 図版 21	X 図版 75	SJ153
第333号住居跡	R~S 24~25	X 227	X 226		X 図版 21		SJ154
第334号住居跡	S 26	X 227	X 228		X 図版 22		SJ159
第335号住居跡	T~U 24~25	X 227	X 229	X 229	X 図版 20	X 図版 75	SJ156
第336号住居跡	T 27	X 230	X 230	X 231	X 図版 21	X 図版 109	SJ160
第337号住居跡	U 27	X 231	X 232	X 232	X 図版 22	X 図版 75	SJ161
第338号住居跡	U 28~29	X 233	X 233	X 233	X 図版 22	X 図版 75	SJ158
第339号住居跡	U~V 27~28	X 233	X 234	X 235	X 図版 22	X 図版 76 77	SJ174
第340号住居跡	V~W 29	X 238	X 236	X 237	X 図版 23	X 図版 77 109	SJ162
第341号住居跡	W 25~26	X 238	X 237	X 237	X 図版 23		SJ169
第342号住居跡	V~W 26	X 238	X 239		X 図版 23		SJ171
第343号住居跡	V~W 28~29	X 241	X 239	X 239	X 図版 23		SJ167
第344号住居跡	X 23~24	X 241	X 240	X 241	X 図版 24	X 図版 77	SJ006
第345号住居跡	X 25	X 242	X 241		X 図版 23		SJ001
第Y128号住居跡	M 22~23	VI 22	VI 22	VI 22			SJ128
第Y142号住居跡	M 22	VI 22 23	VI 23	VI 23	VI 図版 5		SJ142
第Y165号住居跡	J 27~28	VI 23	VI 24	VI 26~29	VI 図版 5	VI 図版 71	SJ165
第Y173号住居跡	J 26~27	VI 30	VI 30	VI 31	VI 図版 6	VI 図版 71	SJ173
第Y195号住居跡	E~F 27~28	VI 33	VI 32 33	VI 34~38	VI 図版 6	VI 図版 71 72	SJ195
第Y198号住居跡	E 26~27	VI 38	VI 39	VI 40~42	VI 図版 7	VI 図版 72	SJ198

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第Y199号住居跡	E 27~28	VI 43	VI 44	VI 45	VI 図版 7		SJ199
第Y209号住居跡	R 27~28	VI 43	VI 46	VI 47 48	VI 図版 8	VI 図版 72	SJ209
第Y210号住居跡	I 22~23	VI 45	VI 49	VI 50~56	VI 図版 9	VI 図版 73	SJ210
第Y214号住居跡	J~K 26~27	VI 57	VI 58 59	VI 60~63	VI 図版 9 45	VI 図版 73	SJ214
第Y215号住居跡	J~K 25	VI 64	VI 64	VI 65	VI 図版 10		SJ215
第Y216号住居跡	K~L 25~26	VI 66	VI 67	VI 68 69	VI 図版 10	VI 図版 74	SJ216
第Y217号住居跡	D 27~28	VI 69	VI 70	VI 71 72	VI 図版 11 45	VI 図版 74	SJ217
第Y228号住居跡	L~M 25	VI 73	VI 74	VI 75~77	VI 図版 12	VI 図版 75	SJ228
第Y229号住居跡	M~N 25~26	VI 78	VI 79	VI 80	VI 図版 12		SJ229
第Y231号住居跡	O 27~28	VI 78	VI 81	VI 81	VI 図版 13		SJ231
第Y234号住居跡	H~I 26	VI 80	VI 82	VI 83~87	VI 図版 13 46	VI 図版 75 76	SJ234
第Y256号住居跡	F 17	VI 88	VI 89	VI 89	VI 図版 14	VI 図版 76	SJ256
第Y259号住居跡	E~F 17~18	VI 90	VI 91 92	VI 93~96	VI 図版 14	VI 図版 76 77	SJ259
第Y264号住居跡	G 17	VI 97	VI 98	VI 99~104	VI 図版 15 47	VI 図版 77	SJ264
第Y268号住居跡	I~J 20	VI 105	VI 106	VI 107	VI 図版 15		SJ268
第Y269号住居跡	J~K 19~20	VI 107	VI 108 109	VI 110~112	VI 図版 16	VI 図版 77	SJ269
第Y274号住居跡	K 18	VI 109	VI 113	VI 114~117	VI 図版 16	VI 図版 77 78	SJ274
第Y287号住居跡	O 26~27	VI 117	VI 118	VI 119		VI 図版 78	SJ287
第Y288号住居跡	E 28	VI 120	VI 121	VI 121	VI 図版 17		SJ288
第Y293号住居跡	E~F 14~15	VI 120	VI 122	VI 123 124	VI 図版 17		SJ293
第Y300号住居跡	E 25~26	VI 124	VI 125	VI 126	VI 図版 18	VI 図版 78	SJ300
第Y301号住居跡	N~O 27	VI 124	VI 127	VI 128 129	VI 図版 18	VI 図版 79	SJ301
第Y303号住居跡	F~G 23	VI 126	VI 130 131	VI 132~137	VI 図版 19	VI 図版 79	SJ303
第Y304号住居跡	G~H 24~25	VI 139	VI 138	VI 139	VI 図版 20		SJ304
第Y305号住居跡	H~I 24~25	VI 139	VI 140 141	VI 142~145	VI 図版 20	VI 図版 79 80	SJ305
第Y306号住居跡	G~H 27~28	VI 147	VI 146 147	VI 148~152	VI 図版 21	VI 図版 80~81	SJ306
第Y307号住居跡	F~G 28	VI 154	VI 155	VI 155	VI 図版 21	VI 図版 81	SJ307
第Y309号住居跡	J~K 25	VI 154	VI 156		VI 図版 22		SJ309
第Y310号住居跡	G 25	VI 154	VI 157	VI 158	VI 図版 22		SJ310
第Y312号住居跡	L 18~19	VI 157	VI 159	VI 160	VI 図版 23	VI 図版 81	SJ312
第Y316号住居跡	H~I 20~21	VI 161	VI 162	VI 162	VI 図版 24	VI 図版 81 82	SJ316
第Y317号住居跡	M~N 16~17	VII 163	VII 163	VII 164~168	VI 図版 24 50	VI 図版 82 83	SJ317
第Y318号住居跡	H 22~23	VII 170	VII 169	VII 171 172		VI 図版 83	SJ318
第Y320号住居跡	L 22	VI 171	VI 172	VI 173	VI 図版 25	VI 図版 83	SJ320
第Y322号住居跡	K 16	VI 174	VI 175				SJ322
第Y323号住居跡	I~J 16~17	VI 174	VI 176	VI 177 178	VI 図版 25	VI 図版 83	SJ323
第Y324号住居跡	L 15~16	VI 179	VI 179	VI 180	VI 図版 26		SJ324
第Y325号住居跡	L~M 14~15	VI 181	VI 182	VI 183 184	VI 図版 26		SJ325
第Y326号住居跡	J~K 15~16	VI 184	VI 185	VI 186 187	VI 図版 27	VI 図版 84	SJ326
第Y329号住居跡	F~G 18~19	VI 188	VI 189 190	VI 191~194	VI 図版 27	VI 図版 84 85	SJ329
第Y330号住居跡	E~F 18~19	VI 195	VI 195	VI 196	VI 図版 28	VI 図版 85	SJ330
第Y331号住居跡	D~E 17~18	VI 197	VI 197	VI 198~200	VI 図版 28	VI 図版 85 86	SJ331
第Y333号住居跡	E~F 16~17	VI 202	VI 202	VI 202	VI 図版 29		SJ333
第Y334号住居跡	H~I 18	VI 203	VI 203	VI 203			SJ334
第Y336号住居跡	I~J 15	VI 204	VI 205	VI 206~211	VI 図版 29 51 52	VI 図版 86~88	SJ336
第Y337号住居跡	G 17~18	VI 213	VI 214	VI 215	VI 図版 30		SJ337
第Y338号住居跡	I 15~16	VI 216	VI 217	VI 218 219	VI 図版 30	VI 図版 88	SJ338
第Y339号住居跡	G~H 16~17	VI 219	VI 221	VI 222~226	VI 図版 31	VI 図版 88 89	SJ339
第Y340号住居跡	H 18	VI 228	VI 229	VI 230~233	VI 図版 31	VI 図版 89 90	SJ340
第Y341号住居跡	G 15~16	VI 235	VI 235	VI 236	VI 図版 32	VI 図版 90	SJ341
第Y342号住居跡	G~H 15	VI 236	VI 237	VI 238~241	VI 図版 32	VI 図版 91	SJ342
第Y344号住居跡	F 14~15	VI 242	VI 243	VI 244	VI 図版 33		SJ344

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第Y345号住居跡	F~G 15~16	VI 243	VI 245		VI 図版 33		SJ345
第Y348号住居跡	E~F 16~17	VI 244	VI 246 247	VI 248~253	VI 図版 29 54	VI 図版 91 92	SJ348
第Y359号住居跡	E~F 15~16	VI 254	VI 255 256	VI 257~259	VI 図版 34	VI 図版 93	SJ359
第Y361号住居跡	H 17~18	VI 260	VI 261	VI 261	VI 図版 34		SJ361
		VII 173		VII 173			
第Y369号住居跡	H~I 17	VI 262	VI 263	VI 264~266	VI 図版 35 55	VI 図版 93	SJ369
第Y408号住居跡	H 14	VI 267	VI 268	VI 269	VI 図版 35		SJ408
第Y411号住居跡	H 13	VI 270	VI 270	VI 271	VI 図版 36		SJ411
第Y412号住居跡	G~H 13	VI 272	VI 272	VI 273 274	VI 図版 36		SJ412
第Y413号住居跡	H~I 13~14	VI 274	VI 275	VI 276	VI 図版 37	VI 図版 93 94	SJ413
第Y414号住居跡	I 13	VI 277	VI 278	VI 279	VI 図版 37		SJ414
第Y416号住居跡	I~J 14	VI 277	VI 280	VI 280	VI 図版 38 39		SJ416
第Y417号住居跡	J 14	VI 279	VI 281	VI 282 283	VI 図版 38 39		SJ417
第Y421号住居跡	O 14	VI 281	VI 284	VI 285	VI 図版 39	VI 図版 94	SJ421
第Y426号住居跡	C~D 15~16	VI 283	VI 286	VI 287 288	VI 図版 40 55	VI 図版 94	SJ426
第Y427号住居跡	H 14	VI 289	VI 290	VI 290	VI 図版 40		SJ427
第Y428号住居跡	G~H 14	VI 292	VI 291	VI 292	VI 図版 41		SJ428
第Y429号住居跡	M~N 13	VI 292	VI 293		VI 図版 41		SJ429
第Y430号住居跡	D~E 16	VI 292	VI 294	VI 295	VI 図版 42	VI 図版 94	SJ430
第Y431号住居跡	H~I 14~15	VI 296	VI 297	VI 298 299	VI 図版 42	VI 図版 95	SJ431
第Y432号住居跡	H~I 15	VI 300	VI 301	VI 302	VI 図版 43	VI 図版 95	SJ432

#### 掘立柱建物跡

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第1号掘立柱建物跡	F 17~18	V 268	V 285	V 339	V 図版 27		SB37
第2号掘立柱建物跡	F~G 18	V 284	V 285		V 図版 27		SB38
第3号掘立柱建物跡	G 11	V 284	V 285	V 339	V 図版 27		SB77
第4号掘立柱建物跡	G~H 16~17	V 284	V 286	V 339	V 図版 27 28		SB26
第5号掘立柱建物跡	F~G 17~18	V 284	V 286	V 339	V 図版 28	IX 図版 102	SB40
第6号掘立柱建物跡	G~H 18~19	V 287	V 287	V 339	V 図版 28	IX 図版 101	SB50
第7号掘立柱建物跡	G~H 18~19	V 288	V 288	V 339	V 図版 28		SB51
第8号掘立柱建物跡	G~H 18~19	V 288	V 289	V 339	V 図版 28		SB52
第9号掘立柱建物跡	G 19	V 289	V 290	V 339	V 図版 28		SB49
第10号掘立柱建物跡	G 19	V 290	V 290				SB48
第11号掘立柱建物跡	G~H 19~20	V 291	V 291	V 339	V 図版 28		SB27
第12号掘立柱建物跡	H 12~13	V 291	V 291				SB78
第13号掘立柱建物跡	H 15~16	V 292	V 293	V 339	V 図版 28	IX 図版 24	SB16
第14号掘立柱建物跡	H 15~16	V 292	V 293	V 341	V 図版 29		SB58
第15号掘立柱建物跡	H 16	V 292	V 294	V 341	V 図版 29		SB41
第16号掘立柱建物跡	H 16	V 292	V 294		V 図版 29		SB41
第17号掘立柱建物跡	I~J 13~14	V 293	V 295	V 341	V 図版 29		SB67
第18号掘立柱建物跡	I 16	V 294	V 295				I16GrP6 13
第19号掘立柱建物跡	J~K 13~14	V 295	V 296	V 341			SB68
第20号掘立柱建物跡	J~K 14~15	V 296	V 296	V 341	V 図版 30		SB59
第21号掘立柱建物跡	K~L 13~14	V 297	V 297		V 図版 29		SB74
第22号掘立柱建物跡	J~K 15	V 297	V 298	V 341	V 図版 29 30		SB24
第23号掘立柱建物跡	J~K 15	V 298	V 299	V 341	V 図版 30		SB24
第24号掘立柱建物跡	J~K 15	V 298	V 299	V 341	V 図版 30	IX 図版 101	SB24
第25号掘立柱建物跡	K~L 15	V 299	V 300		V 図版 30		SB24
第26号掘立柱建物跡	L 15~16	V 300	V 301	V 341 777	V 図版 30		SB44
第27号掘立柱建物跡	L 15~16	V 300	V 302	V 779	V 図版 31		SB43
第28号掘立柱建物跡	K~L 18	V 301	V 302				L18Gr6 7

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第29号掘立柱建物跡	K 19~20	V 301	V 303		V 図版 31		SB46
第30号掘立柱建物跡	K 20	V 302	V 303		V 図版 31		SB42
第31号掘立柱建物跡	L~M 17~18	V 302	V 304	V 341	V 図版 31		SB57
第32号掘立柱建物跡	L~M 17~18	V 303	V 305	V 341	V 図版 31		SB56
第33号掘立柱建物跡	L 20	V 304	V 305		V 図版 31		SB55
第34号掘立柱建物跡	M 13~14	V 304	V 306				
第35号掘立柱建物跡	M~N 13	V 304	V 307	IX 236	V 図版 31	IX 図版 90	SB69
第36号掘立柱建物跡	L~N 15~16	V 305	V 308 309	V 341 343	V 図版 31	IX 図版 24 101	SB4
第37号掘立柱建物跡	M~N 17	V 307	V 310	V 345			SB36
第38号掘立柱建物跡	M 20	V 307	V 310	V 345	V 図版 32		SB34
第39号掘立柱建物跡	M~N 21	V 311	V 311		V 図版 32		SB29
第40号掘立柱建物跡	M~N 21	V 311	V 311				SB29
第41号掘立柱建物跡	M~N 13~14	V 312	V 311	V 345	V 図版 32		SB70
第42号掘立柱建物跡	M~N 13~14	V 312	V 312		V 図版 32		SB71
第43号掘立柱建物跡	N 14~15	V 312	V 313		V 図版 32		SB72
第44号掘立柱建物跡	N 14	V 313	V 313		V 図版 32		SB73
第45号掘立柱建物跡	N~O 13~14	V 313	V 314	V 791		IX 図版 51	
第46号掘立柱建物跡	N~O 14~15	V 314	V 315	V 345	V 図版 32 33		SB62
第47号掘立柱建物跡	N~O 14~15	V 314	V 316	V 345	V 図版 33		SB63
第48号掘立柱建物跡	N~O 13~14	V 315	V 317	V 345	V 図版 33	IX 図版 101	SB61
第49号掘立柱建物跡	N 16	V 316	V 317				SB45
第50号掘立柱建物跡	N 16	V 316	V 318	IX 236	V 図版 33	IX 図版 90	SB47
第51号掘立柱建物跡	N 17	V 316	V 318	V 346	V 図版 33		
第52号掘立柱建物跡	N~O 20	V 318	V 319	V 345	V 図版 34		SB18
第53号掘立柱建物跡	N~O 20	V 320	V 320				SB33
第54号掘立柱建物跡	O~P 14~15	V 321	V 320	V 345	V 図版 34	IX 図版 96	SB64
第55号掘立柱建物跡	O~P 14~15	V 321	V 321	V 345 346	V 図版 34		SB65
第56号掘立柱建物跡	O~P 17~18	V 322	V 323		V 図版 34		SB53
第57号掘立柱建物跡	O~P 17~18	V 322	V 323	V 346			SB25
第58号掘立柱建物跡	P~Q 13~14	V 322	V 324				
第59号掘立柱建物跡	P 15	V 324	V 325	V 346			SB17
第60号掘立柱建物跡	P 14~15	V 325	V 325	V 346	V 図版 34		SB21
第61号掘立柱建物跡	P~Q 15	V 325	V 326				SB19
第62号掘立柱建物跡	P 17~18	V 326	V 326	V 346			SB28
第63号掘立柱建物跡	P~Q 13~14	V 326	V 327	V 346	V 図版 34		SB66
第64号掘立柱建物跡	Q 13~14	V 327	V 328		V 図版 34		
第65号掘立柱建物跡	Q~R 16	V 327	V 329				SB22
第66号掘立柱建物跡	R 16	V 328	V 330		V 図版 34		SB14
第67号掘立柱建物跡	R 16	V 328	V 330		V 図版 35		SB15
第68号掘立柱建物跡	R 16~17	V 329	V 331				
第69号掘立柱建物跡	R~S 17~18	V 329	V 332		V 図版 35		SB30
第70号掘立柱建物跡	Q~R 20~21	V 331	V 333		V 図版 35		SB8
第71号掘立柱建物跡	R~S 15~16	V 332	V 333				SB3
第72号掘立柱建物跡	S 17~18	V 333	V 334		V 図版 35		SB31
第73号掘立柱建物跡	S~T 18	V 333	V 334				SB32
第74号掘立柱建物跡	U 15~16	V 334	V 335 IX 242	V 346		IX 図版 90	SB2
第75号掘立柱建物跡	U~V 15~16	V 334	V 335	V 346	V 図版 35		SB1
第76号掘立柱建物跡	U~V 16~17	V 335	V 336				SB7
第77号掘立柱建物跡	U~V 16	V 335	V 336	V 346			SB6
第78号掘立柱建物跡	T 19	V 336	V 337		V 図版 35		SK152 SK153



遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第Y60号掘立柱建物跡	E~F 15~16	VI 304	VI 303~304		VI 図版 43		SK160 SK164 SK168 SK169 SB60

井戸跡

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第1号井戸跡	ZW 22	V 352	V 373		V 図版 35		SE99
第2号井戸跡	ZY~ZZ 22~23	V 352	V 373	V 393		IX 図版 24	SE100
第3号井戸跡	A 27~28	V 352	V 373	V 393	V 図版 35		SE98
第4号井戸跡	E 18	V 372	V 373	V 393	V 図版 36	IX 図版 24	SE36
第5号井戸跡	E 24	V 372	V 373	V 393			SE75
第6号井戸跡	E 25	V 372	V 373	V 393			SE62
第7号井戸跡	E 25~26	V 372	V 373		V 図版 36		SE64
第8号井戸跡	F 28	V 372	V 373		V 図版 36		SE63
第9号井戸跡	F 26	V 372	V 373	IX 377			SE74
第10号井戸跡	F 27	V 372	V 373	V 393			SE73
第11号井戸跡	H 17	V 372	V 373	V 393	V 図版 36		SE41
第12号井戸跡	H 20	V 372 IX 156	V 373	V 393 IX 157 241 IX 361	V 図版 36 37	IX 図版 90 113	SE61
第13号井戸跡	H 25	V 374 IX 156	V 373	IX 157 241 IX 373		IX 図版 90 IX 図版 102 103	SE70
第14号井戸跡	H 25	V 374	V 375				SE71
第15号井戸跡	H 26	V 374	V 375				SE72
第16号井戸跡	I~J 21	V 374	V 375	V 393		IX 図版 24 25	SE76
第17号井戸跡	I 26	V 374	V 375				
第18号井戸跡	I 26	V 374 IX 156	V 375	V 394 IX 157 376	V 図版 37 IX 図版 5		SE51
第19号井戸跡	I~J 27	V 374	V 375				SK324
第20号井戸跡	I~J 27	V 374	V 375	IX 380 IX 386~389	V 図版 37 IX 図版 5	IX 図版 107 111 IX 図版 112 114	SE47
第21号井戸跡	J 13	V 376 IX 123	V 375	V 394 395 IX 125 126 IX 228 229 IX 379	V 図版 37 38 IX 図版 5	IX 図版 25~27 IX 図版 80 102	SE77
第22号井戸跡	J 13~14	V 376	V 375		V 図版 39		SE86
第23号井戸跡	J 13~14	V 376	V 375				SE87
第24号井戸跡	J 20	V 376	V 377	V 394~395 IX 236 242 IX 390	V 図版 39	IX 図版 90 96	SE52
第25号井戸跡	J 21	V 376 IX 156	V 377	IX 39 44 47 IX 51 53 54 IX 59 61 67 IX 72 75 76 IX 49 80 81 IX 91 157 IX 242	V 図版 39	IX 図版 90	SE44
第26号井戸跡	J 25	V 376	V 377				SE60
第27号井戸跡	J 25	V 378	V 377	IX 390		IX 図版 112	SE58
第28号井戸跡	J 25	V 378	V 377				SE57

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第29号井戸跡	J 25	V 378	V 377	IX 386		IX 図版 112	SE59
第30号井戸跡	J~K 25	V 378	V 377				SE34
第31号井戸跡	J 27	V 378	V 377		V 図版 39		SE46
第32号井戸跡	J 27	V 378	V 377		V 図版 39		SE45
第33号井戸跡	J~K 27	V 378	V 377				SE48
第34号井戸跡	K 13	V 378	V 377	IX 378 402	V 図版 40	IX 図版 109	SE82
第35号井戸跡	K 13	V 378	V 381	V 397	V 図版 40		SE84
第36号井戸跡	K 13	V 378	V 381				SE83
第37号井戸跡	K 14~15	V 379	V 381	V 397	V 図版 40	IX 図版 27	SE79
第38号井戸跡	L 13	V 379	V 381		IX 図版 6		SE85
第39号井戸跡	L 14	V 379	V 381		V 図版 40		SE80
第40号井戸跡	L 15	V 379	V 381	V 397	V 図版 40	IX 図版 116	SE8
第41号井戸跡	L 26	V 379	V 381		V 図版 40		SK321
第42号井戸跡	M~N 15~16	V 379 IX 124		IX 128~143 IX 361	V 図版 40~42 IX 図版 6	IX 図版 27 42 IX 図版 80~84 IX 図版 101 110 IX 図版 112 114	SE5
第43号井戸跡	M 15~16	V 379	V 381	V 399	V 図版 42	IX 図版 116	SE6
第44号井戸跡	M 15	V 380	V 381	IX 225			SE4
第45号井戸跡	M 17	V 380	V 383		V 図版 43		SE15
第46号井戸跡	M 17	V 380	V 383	IX 241	V 図版 43		SE16
第47号井戸跡	M 17	V 380	V 383	V 399	V 図版 43		SE27
第48号井戸跡	M 18	V 380	V 383		V 図版 43		SE55
第49号井戸跡	M 18	V 380	V 383				SE53
第50号井戸跡	M 18~19	V 380	V 383	V 401 IX 374~377	V 図版 43	IX 図版 103	SE42
第51号井戸跡	N 18	V 380	V 383	IX 386~387	V 図版 43 44		SE54
第52号井戸跡	M 19	V 380	V 383	V 401	V 図版 43		SE43
第53号井戸跡	M 19	V 380	V 383				SE56
第54号井戸跡	N 14	V 382	V 383		V 図版 44		SE78
第55号井戸跡	N 15	V 382 IX 156	V 385	V 401 IX 157 237 IX 240	V 図版 44	IX 図版 27 90	SE1
第56号井戸跡	N~O 15	V 382	V 385				SE68
第57号井戸跡	N 16	V 382	V 385		V 図版 44		SE29
第58号井戸跡	N 16	V 382 IX 156	V 385	V 401 IX 157 237 IX 377 379 IX 386	V 図版 44	IX 図版 102 103	SE26
第59号井戸跡	N 16	V 382	V 385		V 図版 45		SE22
第60号井戸跡	N~O 16	V 382	V 385	V 401 IX 238 375	V 図版 7		SE31
第61号井戸跡	O 13	V 382	V 385	V 401 403	V 図版 45	IX 図版 27 114	SE81
第62号井戸跡	O~P 13~14	V 382	V 385	V 403 IX 379	V 図版 45	IX 図版 102	SE89
第63号井戸跡	O 14	V 384	V 385	IX 379		IX 図版 102	SE88
第64号井戸跡	O 15	V 384	V 385				SE32
第65号井戸跡	O 15	V 384	V 385	V 403	V 図版 45	IX 図版 27	SE7
第66号井戸跡	O 15~16	V 384	V 387	V 403			SE25
第67号井戸跡	O 16	V 384	V 387	V 403			SE24
第68号井戸跡	O 16	V 384	V 387				SE23
第69号井戸跡	O 16	V 384	V 387	IX 157	V 図版 45	IX 図版 113	SE65

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第70号井戸跡	0 16	IX 157 V 384	V 387				SE69
第71号井戸跡	0 17	V 384	V 387	V 403	V 図版 46		SE14
第72号井戸跡	0 17	V 384	V 387	V 403 IX 377	V 図版 46		SE20
第73号井戸跡	0 17~18	V 386	V 387		V 図版 46		SE37
第74号井戸跡	0 18	V 386 IX 157	V 387	IX 157 386	V 図版 46	IX 図版 113	SE40
第75号井戸跡	0 18	V 386	V 387		V 図版 46		SE38
第76号井戸跡	0 18	V 386	V 387				SE39
第77号井戸跡	P 13	V 386	V 387	V 403 IX 375 380		IX 図版 102 107	SE93
第78号井戸跡	P 14	V 386	V 387		V 図版 46		SE97
第79号井戸跡	P 16~17	V 386	V 389	V 403	V 図版 47	IX 図版 77	SE18
第80号井戸跡	P 17	V 386 IX 157 373 IX 374 378	V 389	V 405 IX 157 IX 373 374 IX 378 390	V 図版 47 IX 図版 7	IX 図版 89 103 IX 図版 104	SE19
第81号井戸跡	P 17	V 386	V 389	IX 386		IX 図版 113	SE17
第82号井戸跡	Q 13~14	V 388	V 389	V 405	V 図版 47		SE90
第83号井戸跡	Q 13	V 388	V 389	V 405			SE91
第84号井戸跡	Q 13	V 388	V 389	V 405			SE92
第85号井戸跡	Q 15	V 388 IX 136	V 389	V 405 407 IX 236~243 IX 361 362	V 図版 48	IX 図版 74 IX 図版 84~90 IX 図版 110~112 IX 図版 115	SE2
第86号井戸跡	Q 15~16	V 388	V 390	V 407			SK10
第87号井戸跡	Q 17	V 388	V 389	IX 361	IX 図版 8		SE33
第88号井戸跡	Q 18	V 388	V 390				SE35
第89号井戸跡	Q 22	V 390	V 390		V 図版 49		SE28
第90号井戸跡	R 17	V 390	V 390				SE11
第91号井戸跡	S 13~14	V 390	V 390				SE96
第92号井戸跡	S 14	V 390	V 390				SE95
第93号井戸跡	S 15	V 390	V 390				SE3
第94号井戸跡	T 17	V 390	V 390	V 407			SE9
第95号井戸跡	W 23	V 391	V 390				SE23

#### 土壌

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第1号土壌	ZV 23		V 465	V 495			SK704
第2号土壌	ZW 24		V 465	V 495			SK697
第3号土壌	ZW 24		V 465				SK693
第4号土壌	ZW 25		V 465				SK692
第5号土壌	ZX 20		V 465				SK723
第6号土壌	ZX~ZY 20		V 465				SK722
第7号土壌	ZX~ZY 20		V 465	V 495			SK725
第8号土壌	ZX 24		V 465				SK694
第9号土壌	ZX 25		V 465				SK695
第10号土壌	ZX 25		V 465				SK691
第11号土壌	ZY 20		V 465				SK724
第12号土壌	ZY 23		V 465				SK739
第13号土壌	ZY 26		V 465				SK709

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第14号土壇	ZZ 25	X I 38	V 465				SK698
第15号土壇	A 24		V 465				SK743
第16号土壇	A~B 24		V 465				SK744
第17号土壇	B~C 23		V 465			IX 図版 51	SK740
第18号土壇	B 25		V 465				SK690
第19号土壇	C 17		V 466				SK738
第20号土壇	C 20		V 466				SK736
第21号土壇	C 21		V 466				SK741
第22号土壇	C 22		V 466				SK730
第23号土壇	C 22		V 466				SK729
第24号土壇	C 23		V 466	V 798			SK734
第25号土壇	C 23		V 466				SK733
第26号土壇	C 23		V 466				SK731
第27号土壇	C 23		V 466				SK730
第28号土壇	D~E 18		V 466	V 495		IX 図版 101	SK145
第29号土壇	D 19		V 466	V 495			SK772
第30号土壇	D 23		V 466				SK137
第31号土壇	D 24		V 466	V 495		IX 図版 101	SK140
第32号土壇	E~F 14~15		V 466				SK119
第33号土壇	E 15						SK135
第34号土壇	E~F 15		V 466	V 798			SK118
第35号土壇	E 16		V 466				SK127
第36号土壇	E 16		V 466				SK128
第37号土壇	E 16		V 466				
第38号土壇	E 17		V 466	V 793		IX 図版 115	SK274
第39号土壇	E 18~19		V 466				SK294
第40号土壇	E 18~19		V 466				SK295
第41号土壇	E 18		V 467				
第42号土壇	E 19		V 467	V 495		VI 図版 28	SK282
第43号土壇	E 19		V 467	V 495		IX 図版 66	SK289
第44号土壇	E 24		V 467	V 495 785		IX 図版 50 101	SK80
第45号土壇	E 24		V 467				SK141
第46号土壇	E 24		V 467	V 495			SK78
第47号土壇	E 24		V 467	V 495			SK77
第48号土壇	E 24		V 467				SK79
第49号土壇	E 24		V 467	V 495 791			SK138
第50号土壇	E 25		V 467				SK81
第51号土壇	E 25~26		V 467	V 787			SK139
第52号土壇	E~F 12~13		V 467	V 495		IX 図版 28	SK792
第53号土壇	F 14		V 467				SK110
第54号土壇	F 14		V 467				SK134
第55号土壇	F 15		V 467				SK113
第56号土壇	F 16	V 459	V 467	V 497		IX 図版 115	SK285
第57号土壇	F 17		V 467	IX 185 196			SK275
第58号土壇	F~G 17		V 467				SK290
第59号土壇	F 18		V 467				SK277
第60号土壇	F 19		V 468				SK283
第61号土壇	G 12		V 468				SK794
第62号土壇	G 12		V 468				SK793
第63号土壇	G 12		V 468				SK791
第64号土壇	G~H 13		V 468	V 497		IX 図版 28	SK557
第65号土壇	G 14		V 468				SK125

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第66号土壇	G 15		V 468	V 497			SK106
第67号土壇	G 15		V 468				SK123
第68号土壇	G~H 17		V 468				SK292
第69号土壇	G~H 17		V 468				SK291
第70号土壇	G~H 17		V 468				SK465
第71号土壇	G 18		V 468				SK377
第72号土壇	G 18		V 468	IX 190			SK315
第73号土壇	G 18		V 468	V 497			SK316
第74号土壇	G 18		V 468				SK317
第75号土壇	G 20	V 459	V 468	V 497	V 図版 49	IX 図版 28	SK296
第76号土壇	G 20		V 469				SK286
第77号土壇	G~H 20		V 469				
第78号土壇	H 13		V 469				SK565
第79号土壇	H 13~14		V 469				SK575
第80号土壇	H 13		V 469				SK559
第81号土壇	H 14		V 469				SK54
第82号土壇	H 14		V 469				SK566
第83号土壇	H 14	V 459	V 469	V 497	V 図版 49		SK560
第84号土壇	H 14		V 469				SK103
第85号土壇	H 15		V 469				SK74
第86号土壇	H 15		V 469				SK75
第87号土壇	H 15		V 469	V 497		IX 図版 115	SK248
第88号土壇	H 16~17		V 469				
第89号土壇	H 17		V 469				SK446
第90号土壇	H 17		V 469				SK293
第91号土壇	H 16~17	V 459	V 469	V 497		IX 図版 28	SK304
				IX 326			
第92号土壇	H 17		V 470	V 497			SK461
第93号土壇	H~I 17		V 470				SK425
第94号土壇	H 18		V 470	V 497			SK459
第95号土壇	H 18		V 470				SK460
第96号土壇	H 18		V 470				SK472
第97号土壇	H 19		V 470				SK453
第98号土壇	H 19		V 470				SK454
第99号土壇	H~I 19		V 470	V 497			SK455
第100号土壇	H~I 19		V 470	V 497 501		IX 図版 28	SK447
第101号土壇	H 19~20		V 470	V 501		IX 図版 118	SB27
				IX 368			
第102号土壇	H 20						SK297
第103号土壇	H 20		V 470	IX 376		IX 図版 103	
第104号土壇	H 20		V 470	V 501			SK421
第105号土壇	H 20~21		V 470				H20Gr Pit13
第106号土壇	H 25		V 470				
第107号土壇	I 13		V 470				SK572
第108号土壇	I 13		V 470				SK573
第109号土壇	I 13		V 470				SK567
第110号土壇	I 13		V 470	V 501			SK588
第111号土壇	I 13		V 470				SK558
第112号土壇	I 13		V 471				SK628
第113号土壇	I 13		V 471				SK735
第114号土壇	I 13		V 471				SK590
第115号土壇	I 13		V 471				SK589

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第116号土壌	I~J 13		V 471				SK577
第117号土壌	I 14		V 471				SK566
第118号土壌	I 14	V 460	V 471	V 501		IX 図版 29	SK569
第119号土壌	I 14	V 40	V 471				SK582
第120号土壌	I 14		V 471	IX 376		IX 図版 102	SK580
第121号土壌	I 14		V 471				SK581
第122号土壌	I 15		V 471				SK120
第123号土壌	I 14~15	V 460	V 471	V 501		IX 図版 29	SK101
第124号土壌	I 15		V 471	V 501			SK58
第125号土壌	I 14~15		V 471	V 501			SK102
第126号土壌	I~J 15		V 471				SK96
第127号土壌	I~J 15		V 471				SK97
第128号土壌	I 17		V 471				
第129号土壌	I~J 17		V 471				SK268
第130号土壌	I 18		V 471				
第131号土壌	I 18		V 471				SK406
第132号土壌	I 18		V 471				SK463
第133号土壌	I 18		V 471				SK405
第134号土壌	I 19		V 472				SK476
第135号土壌	I 19		V 472	V 501			SK478
第136号土壌	I 19		V 472	V 501			SK481
第137号土壌	I 19		V 472	V 501		IX 図版 29	SK482
第138号土壌	I 19		V 472	V 501			SK474
第139号土壌	I 19		V 472	V 501			SK475
第140号土壌	I 19		V 472				SK480
第141号土壌	I 19		V 472				SK483
第142号土壌	I 19~20		V 472	V 777			SK358
第143号土壌	I~J 19		V 472				SK397
第144号土壌	I 20	V 460	V 472	V 501		IX 図版 29	SK387
第145号土壌	I 20~21		V 472	V 501		IX 図版 29	SK551
第146号土壌	I 20		V 472				SK359
第147号土壌	I 20	V 460	V 472	V 501			SK427
第148号土壌	I 20		V 472	V 503		IX 図版 29	SK426
第149号土壌	I~J 19~20	V 460	V 472	V 503		IX 図版 100	SK344
第150号土壌	I 20		V 473	V 503		IX 図版 29	SK360
第151号土壌	I 20		V 473				SK361
第152号土壌	I 20		V 473	IX 240		IX 図版 90	I20Gr Pit17
第153号土壌	I 20		V 473				SK360
第154号土壌	I 20~21		V 473				SK549
第155号土壌	J 13		V 473	IX 236		IX 図版 90	SK579
第156号土壌	J 13		V 473				SK634
第157号土壌	J~K 13~14		V 473	V 503 505			SK611
第158号土壌	J 14		V 473	V 505		IX 図版 29	SK584
第159号土壌	J 13~14	V	V 473				SK583
第160号土壌	J 14~16	V 461 X III 183 185	V 473	V 505~513 IX 236 IX 238~241 IX 243 258 IX 259 361 IX 380 X III 187 188 X III 190	V 図版 49 50	IX 図版 90 97 IX 図版 98 100 IX 図版 112 X III 図版 81 82	SD59

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第161号土壌	J 15		V 474	V 513		IX 図版 32	SK105
第162号土壌	J 16		V 474				SK450
第163号土壌	J 16		V 474	V 513 515			SK249
第164号土壌	J 16		V 474				SK456
第165号土壌	J 17		V 474	V 515 798		IX 図版 52	SK267
第166号土壌	J 17		V 474	V 515 IX 236 241 IX 243	IX 図版 90		SK269
第167号土壌	J 18~19		V 474	V 515			SK407
第168号土壌	J 18		V 474	V 515			SK235
第169号土壌	J 18		V 473				SK236
第170号土壌	J 18						SK237
第171号土壌	J 18~19		V 473				SK449
第172号土壌	J~K 18~19		V 474				SK404
第173号土壌	J 19		V 474	V 515			SK391
第174号土壌	J 19		V 474	V 515			SK392
第175号土壌	J 19		V 474				SK396
第176号土壌	J 20		V 474				SK363
第177号土壌	J 20		V 474	V 515		IX 図版 32	SK448
第178号土壌	J 20		V 478				SK362
第179号土壌	J 20		V 474				SK385
第180号土壌	J 20		V 474	V 515			SK393
第181号土壌	J 20	V 461	V 475	V 515		IX 図版 32	SK451
第182号土壌	J 21		V 475				SK548
第183号土壌	J 21		V 475				SK547
第184号土壌	J 21	V 461	V 475	V 515 798		IX 図版 32 52	SK508
第185号土壌	J~K 21		V 475				SK543
第186号土壌	J 23		V 475				SK416
第187号土壌	K 23		V 475				SK265
第188号土壌	J 25		V 475				SK45
第189号土壌	K 13	V 462	V 475	V 515 IX 340		IX 図版 78	SK610
第190号土壌	K~L 13~14		V 475				SK707
第191号土壌	K 14		V 475				SK616
第192号土壌	K 15		V 475				SK70
第193号土壌	K 15		V 475	V 515 517 IX 196		IX 図版 32	SK43
第194号土壌	K 15		V 475	V 517		IX 図版 32	SK89
第195号土壌	K 15		V 475				SK92
第196号土壌	K 15		V 475	V 517		IX 図版 115	SK93
第197号土壌	K 15		V 476	V 517			SK94
第198号土壌	K 15		V 476				SK95
第199号土壌	K 16		V 476				SK489
第200号土壌	K~L 17	V 462	V 476	V 517~519 V 521~522	V 図版 50 IX 図版 100	IX 図版 32 33 IX 図版 96	SK193
第201号土壌	K 18		V 476	V 522			SK430
第202号土壌	K 18		V 476	V 522			SK431
第203号土壌	K 19		V 477	V 522		IX 図版 33	SK432
第204号土壌	K 19		V 477				SK442
第205号土壌	K 20		V 477				SK439
第206号土壌	K 21		V 477				SK554
第207号土壌	K 21		V 477				SK545

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第208号土壇	K 22		V 477				
第209号土壇	K~L 22		V 477				
第210号土壇	K 25		V 477	IX 373	V 図版 50	IX 図版 105	SK271
第211号土壇	L 13~14		V 477	V 522			SK629
第212号土壇	L 13~14		V 477	V 522			SK623
第213号土壇	L 13		V 477				SK620
第214号土壇	L 13		V 477	V 522			SK617
第215号土壇	L 13		V 477				SK618
第216号土壇	L~M 13		V 477	V 522			SK614
第217号土壇	L 14		V 477	V 522			SK630
第218号土壇	L 14		V 478	V 522		IX 図版 90	SK627
				IX 197 243			
第219号土壇	L 14		V 478	V 522		IX 図版 115	SK626
第220号土壇	L 14		V 478				SK631
第221号土壇	L 14	V 462	V 478	V 522 523			SK600
第222号土壇	L 14		V 478				SK619
第223号土壇	L~M 14~15	V 462	V 478	V 523		IX 図版 33	SK599
				IX 241			
第224号土壇	L 15		V 478	IX 185 194			SK69
				IX 195			
第225号土壇	L 15		V 478				SK64
第226号土壇	L 15		V 478	V 795 797		IX 図版 52	SK63
第227号土壇	L 15		V 478				SK71
第228号土壇	L 15		V 478	V 523			SK72
第229号土壇	L 15		V 478				SK73
第230号土壇	L 15		V 478	V 523			SK65
第231号土壇	L 15		V 478				SK67
第232号土壇	L 15		V 478	IX 267		IX 図版 116	SK68
第233号土壇	L 15		V 478	V 523		IX 図版 90	SK143
				IX 241			
第234号土壇	L~M 15	V 462	V 478	V 523	V 図版 24	IX 図版 90	SK9
				IX 238			
第235号土壇	L~M 15		V 478	V 523			SK51
第236号土壇	L~M 15~16	V 462	V 479				SK212
第237号土壇	L 16		V 479	V 523			SK189
				IX 193			
第238号土壇	L 16		V 479			IX 図版 64	
第239号土壇	L 16		V 479	IX 523		IX 図版 33	SK458
第240号土壇	L~M 16	V 462	V 479	V 523 525		IX 図版 33 34	SK211
				V 527~529		IX 図版 115	
				IX 186 190			
				IX 325			
第241号土壇	L~M 16		V 479	IX 186 190			SK211
第242号土壇	L 16		V 479				
第243号土壇	L 17		V 479				
第244号土壇	L~M 17		V 479				
第245号土壇	LM 18		V 479	V 529			SK422
第246号土壇	L~M 18		V 479				
第247号土壇	L 19		V 480				
第248号土壇	L 19		V 480				
第249号土壇	L 19	V 463	V 480	V 529		IX 図版 34	SK429
第250号土壇	L 20		V 480				SK408



遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第251号土壌	L 20~21		V 480	V 529			SK410
第252号土壌	L~M 23		V 480				
第253号土壌	M 13		V 480	IX 373		IX 図版 103	SK633
第254号土壌	M 13		V 480				SK621
第255号土壌	M 13		V 480				SK622
第256号土壌	M 13~14		V 480				SK608
第257号土壌	M 13		V 480	V 529			M13Gr Pit3
第258号土壌	M 13		V 480	V 529			SK607
第259号土壌	M 13~14		V 480				SK609
第260号土壌	M 14		V 480				SK596
第261号土壌	M 14		V 480	V 529			SK714
第262号土壌	M 14		V 480				SK608
第263号土壌	M 14		V 480				SK594
第264号土壌	M 14		V 480	V 529			SK595
第265号土壌	M 14		V 480	V 529			SK593
				IX 193			
第266号土壌	M 14		V 481	V 531			SK591
第267号土壌	M 14		V 481	V 531			SK592
第268号土壌	M 14		V 481	V 531			SK603
第269号土壌	M 14~15		V 481	V 531		IX 図版 34	SK604
				IX 236		IX 図版 90	
第270号土壌	M 14		V 481				SK384
第271号土壌	M 14						SK561
第272号土壌	M 14		V 481				SK563
第273号土壌	M 14		V 481	V 531		IX 図版 34	SK601
第274号土壌	M 14		V 481				SK602
第275号土壌	M 14~15		V 481				SK597
第276号土壌	M 14~15		V 481				SK598
第277号土壌	M 14		V 481	V 531			SK564
第278号土壌	M 15		V 481	V 531			SK50
第279号土壌	M 14~15	V 463	V 481	V 531		IX 図版 34	SK30
				IX 188 190		IX 図版 115	
第280号土壌	M 15		V 481	V 533			SK31
第281号土壌	M 15		V 481				SK32
第282号土壌	M 15		V 481				SK33
第283号土壌	M 15		V 481				SK486
第284号土壌	M 15		V 481				SK485
第285号土壌	M 15	V 464	V 482	V 533		IX 図版 34	SK42
第286号土壌	M 15		V 482	V 533		IX 図版 34	SK52
第287号土壌	M~N 15		V 482	V 533			SK487
第288号土壌	M 17		V 482				SK437
第289号土壌	M 18		V 482	V 533		IX 図版 35	SK433
第290号土壌	M 18		V 482				SK428
第291号土壌	M 18		V 482				SK511
第292号土壌	M~N 22		V 482				SK301
第293号土壌	M 23		V 482				
第294号土壌	M~N 23		V 482				
第295号土壌	M~N 23~24		V 482				
第296号土壌	M 24		V 482				SK420
第297号土壌	M 14		V 482			IX 図版 35	
第298号土壌	N 14		V 482	V 533		IX 図版 35	SK587
第299号土壌	N 14	V 464	V 482	V 533		IX 図版 35 90	SK576

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第300号土壇	N 14		V 483	IX 242 V 533			SK701-2
第301号土壇	N 14		V 483				SK701-1
第302号土壇	N 14		V 483				SK701-3
第303号土壇	N 14		V 483	V 533			SK701-4
第304号土壇	N 15	V 464	V 483	V 533	V 図版 50	IX 図版 35	SK56
第305号土壇	N 15		V 483				SK57
第306号土壇	N 15		V 483	V 537			SK468
第307号土壇	N 15		V 483	V 537 IX 190			SK46
第308号土壇	N 15		V 483				SK469
第309号土壇	N 15		V 483	V 537		IX 図版 35	SK20
第310号土壇	N 15		V 483				SK47
第311号土壇	N 15~16		V 483	IX 238		IX 図版 90	SK470
第312号土壇	N~0 15		V 483				SK48
第313号土壇	N~0 15		V 483	IX 259		IX 図版 97	SK11
第314号土壇	N 15~16		V 483	V 537			SK59
第315号土壇	N 16		V 483				SK88
第316号土壇	N~0 17		V 483				SK188
第317号土壇	N 18		V 483				SK424
第318号土壇	N 19		V 483				SK386
第319号土壇	N 20		V 483				SK388
第320号土壇	N 20		V 483				SK390
第321号土壇	N 20		V 483				SK394
第322号土壇	N 23		V 484				SK311
第323号土壇	N 23		V 484				SK299
第324号土壇	N 23		V 484				SK300
第325号土壇	N~0 23		V 484	IX 325			
第326号土壇	0 13		V 484	V 537			SK636
第327号土壇	0 13		V 484				SK635
第328号土壇	0 13		V 484				SK637
第329号土壇	0 14		V 484	V 537			SK613
第330号土壇	0 15		V 484	IX 238 239		IX 図版 90	SK39
第331号土壇	0 15		V 484	V 537			SK40
第332号土壇	0 15		V 484	IX 241		IX 図版 90	SK41
第333号土壇	0 15		V 484				SK471
第334号土壇	0 16		V 484	V 537			SK202
第335号土壇	0 16		V 484				SK224
第336号土壇	0 16		V 484				SK225
第337号土壇	0 16		V 484				SK229
第338号土壇	0 16		V 484				SK222
第339号土壇	0~P 16		V 484				SK253
第340号土壇	0~P 16		V 484				SK254
第341号土壇	0~P 16		V 484				SK256
第342号土壇	0 17		V 485				SK215
第343号土壇	0 17		V 485				SK216
第344号土壇	0 18		V 485	V 537			SK281
第345号土壇	0 18		V 485				SK307
第346号土壇	0 18		V 485				SK319
第347号土壇	0 18		V 485				SK309
第348号土壇	0 18		V 485				SK318
第349号土壇	0 18~19		V 485				SK308

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第350号土壌	0 19		V 485	V 537			SK305
第351号土壌	0 20		V 485				SK380
第352号土壌	0 20		V 485				SK381
第353号土壌	0~P 20		V 485				SK378
第354号土壌	0 23		V 485				
第355号土壌	0~P 25		V 485				
第356号土壌	0 26		V 485				SK322
第357号土壌	0 26		V 485				SK323
第358号土壌	P 13		V 485	V 537			SK675
第359号土壌	P 13		V 485	V 537			SK674
第360号土壌	P 13		V 485				SK664
第361号土壌	P~Q 13		V 486	V 537		IX 図版 35	SK665
第362号土壌	P 13		V 486				SK667
第363号土壌	P~Q 13		V 486	V 537			SK666
第364号土壌	P 14		V 486				SK684
第365号土壌	P 14		V 486	V 537			SK685
第366号土壌	P 14		V 486				
第367号土壌	P 14		V 486				SK641
第368号土壌	P 14		V 486	V 537			SK647
第369号土壌	P 14	V 464	V 486	V 537		IX 図版 35	SK682
第370号土壌	P~Q 14~15		V 486	V 537		IX 図版 35	SK643
第371号土壌	P 15		V 486				SK111
第372号土壌	P 15		V 486	V 537			SK22
第373号土壌	P~Q 15		V 486	V 537			SK644
第374号土壌	P~Q 15		V 486	V 537 539 IX 194			SK227
第375号土壌	P 16		V 486				SK255
第376号土壌	P 16		V 486				SK197
第377号土壌	P 16		V 486	V 539		IX 図版 35	
第378号土壌	0~P 17		V 486				SK257
第379号土壌	0~P 17		V 487				SK217
第380号土壌	P 19		V 487				SK317
第381号土壌	P 19		V 487				
第382号土壌	P 24		V 487				
第383号土壌	P 24		V 487				
第384号土壌	P 24~25		V 487				
第385号土壌	P 24		V 487				
第386号土壌	P 24		V 487				
第387号土壌	P~Q 24		V 487				
第388号土壌	P~Q 24		V 487				
第389号土壌	P~Q 24		V 487				
第390号土壌	P~Q 24		V 487				
第391号土壌	Q 24		V 487				SK214
第392号土壌	P 25		V 488				
第393号土壌	P 25~26		V 488				
第394号土壌	P 25		V 488				
第395号土壌	P~Q 25		V 488				
第396号土壌	Q 13		V 488	V 539			SK659
第397号土壌	Q 13		V 488				SK660
第398号土壌	Q 13		V 488				SK661
第399号土壌	Q 13		V 488	V 539			Q13Gr Pit1
第400号土壌	Q 14		V 488	V 539			SK646

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第401号土壇	Q 14~15		V 488	V 539		IX 図版 35 115	SK645
第402号土壇	Q 14		V 480	V 539			SK680
第403号土壇	Q 14		V 488	IX 197			SK651
第404号土壇	Q 14		V 488	V 539			SK681
第405号土壇	Q 14~15		V 488	V 539			SK658
第406号土壇	Q 15		V 488				SK466
第407号土壇	Q 16		V 488				
第408号土壇	Q 17		V 488				SK220
第409号土壇	Q~R 17		V 489	V 539			SK231
第410号土壇	Q 18		V 489	V 539			SK303
第411号土壇	Q 18		V 489				SK278
第412号土壇	Q 18		V 489	IX 390		IX 図版 114	SK279
第413号土壇	Q 20~21		V 489				SK204
第414号土壇	Q 21		V 489				SK223
第415号土壇	Q 24		V 489				
第416号土壇	Q 24		V 489				
第417号土壇	Q 24		V 489				SK213
第418号土壇	Q 24~25		V 489				
第419号土壇	Q 25		V 489				SK240
第420号土壇	R 13~14		V 489				SK672
第421号土壇	R 17		V 489				SK172
第422号土壇	R 23		V 489				SK200
第423号土壇	R~S 23		V 489				SK196
第424号土壇	R 24		V 490				SK239
第425号土壇	R 25~26		V 490				SK242
第426号土壇	R 26		V 490				SK243
第427号土壇	S 14		V 490				SK625
第428号土壇	S 14~15		V 490				SK624
第429号土壇	S 15		V 490	V 539			SK28
第430号土壇	S 15		V 490				SK29
第431号土壇	S 15		V 490				SK104
第432号土壇	S~T 15		V 490	V 539			SK117
第433号土壇	S 16		V 490	V 539			SK181
第434号土壇	S 16		V 490				SK183
第435号土壇	S 16		V 490				SK151
第436号土壇	S 16		V 490				
第437号土壇	S 16		V 491	V 539 541		IX 図版 96	
第438号土壇	S~T 16		V 491				SK99
第439号土壇	S~T 16~17		V 491	V 541			SK144
第440号土壇	S 17		V 491				SK148
第441号土壇	S 17		V 491	V 541			SK147
第442号土壇	S 17		V 491				SK333
第443号土壇	S 17		V 491				SK157
第444号土壇	S 17		V 491				SK334
第445号土壇	S 18		V 491				SK335
第446号土壇	S 19~20		V 491				SK161
第447号土壇	S 19~20		V 491				SK163
第448号土壇	S~T 20		V 491				SK170
第449号土壇	S~T 21		V 491				SK162
第450号土壇	S 22		V 491	V 541		IX 図版 35	SK195
第451号土壇	T 13~14		V 491				SK650
第452号土壇	T 14		V 492				SK639

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第453号土壇	T~U 14		V 492				SK649
第454号土壇	T 15		V 492				SK34
第455号土壇	T 15~16		V 492				SK36
第456号土壇	T 15~16		V 492				SK112
第457号土壇	T 15~16		V 492				SK35
第458号土壇	T 16		V 492				SK37
第459号土壇	T~U 16		V 492				1号道路跡 SK1
第460号土壇	T 19		V 492				SK155
第461号土壇	T 19		V 492				SK154
第462号土壇	T 20		V 492				SK177
第463号土壇	U~V 14		V 492				SK668
第464号土壇	U 15		V 492		IX 図版 197		
第465号土壇	U 15		V 492				SK25
第466号土壇	U 15		V 492	V 541			SK26
第467号土壇	U 15		V 493				SK7
第468号土壇	U~V 15~16		V 493				
第469号土壇	U 16		V 493				1号道路跡 SK2
第470号土壇	U 16		V 493				
第471号土壇	U 16~17		V 493				
第472号土壇	U 16		V 493				SK27
第473号土壇	U 22		V 493				SK205
第474号土壇	U 26		V 493				SK347
第475号土壇	U 27~28		V 493				SK345
第476号土壇	V 15~16		V 493				SK6
第477号土壇	V 17		V 493				SK15
第478号土壇	V 17		V 493	V 541		IX 図版 35 36	SK12
第479号土壇	V 17~18		V 493				SK13
第480号土壇	V 18		V 493				SK16
第481号土壇	V~W 18		V 493				SK14
第482号土壇	V 23		V 493				SK206
第483号土壇	V 23		V 494				SK207
第484号土壇	V~W 23		V 494				SK208
第485号土壇	W 26		V 494	V 541		IX 図版 115	SK60
第486号土壇	W 20		V 494				SK62
第487号土壇	W 20		V 494				SK61
第488号土壇	W 21~22		V 494				SK244
第489号土壇	W 22		V 494	V 541			SK5
第490号土壇	W 23		V 494				SK209
第491号土壇	W 23~24		V 494				SK210
第492号土壇	W 23		V 494				
第493号土壇	W~X 23		V 494				
第494号土壇	X 20		V 494				SK3
第495号土壇	X 21		V 494				SK1
第496号土壇	X 21		V 494	V 541			SK4
第497号土壇	X 27		V 494				SK18
第498号土壇	ZW 21	X 314	X 314				
第499号土壇	ZX 20	X 315	X 314				SK750
第500号土壇	ZX 22	X 315	X 314				SK752
第501号土壇	ZZ 22	X 315	X 314				SK755
第502号土壇	ZZ 22	X 315	X 314				SK754
第503号土壇	ZZ 25	X 315	X 314				SK753

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第504号土壇	A 21	X 315	X 316				SK756
第505号土壇	A 20~21	X 315	X 316				SK757
第506号土壇	B 28	X 315	X 316				SK689
第507号土壇	C 16	X 315	X 316				SK768
第508号土壇	C 20	X 315	X 316				SK746
第509号土壇	D~E 19	X 317	X 316				SK167
第510号土壇	D 23	X 317	X 316		X 図版 35	X 図版 85	SK785
第511号土壇	E 15	X 317	X 316				SK778
第512号土壇	E 15	X 317	X 316				SK132
第513号土壇	E 15	X 317	X 316				SK533
第514号土壇	E 15	X 317	X 318				SK131
第515号土壇	E 15	X 317	X 318				SK130
第516号土壇	E 15	X 317	X 318				SK129
第517号土壇	E 15	X 317	X 318				SK133
第518号土壇	E~F 15	X 317	X 318				SK118
第519号土壇	E 15	X 319	X 318				SK126
第520号土壇	E 15~16	X 319	X 318				SK142
第521号土壇	E 15~16	X 319	X 320				SK535
第522号土壇	E 16	X 319	X 318				SK536
第523号土壇	E 16	X 319	X 318				SK444
第524号土壇	E 17	X 319	X 320				SK273
第525号土壇	E 18	X 319	X 320				SK276
第526号土壇	E 22	X 319	X 320				SK84
第527号土壇	E 22	X 321	X 320				SK82
第528号土壇	E 22	X 321	X 320				SK83
第529号土壇	E~F 14	X 321	X 320				SK121
第530号土壇	F 15	X 319	X 320				SK114
第531号土壇	F 15	X 321	X 320				SK166
第532号土壇	F 16	X 321	X 320				SK284
第533号土壇	F 26	X 321	X 320				SK507
第534号土壇	G 13~14	X 321	X 322				SK687
第535号土壇	G 15	X 321	X 322				SK124
第536号土壇	G 16	X 323	X 322				SK174
第537号土壇	G 17	X 323	X 322				SK464
第538号土壇	G 20	X 323	X 322				SK306
第539号土壇	G 28	X 323	X 322				SK288
第540号土壇	G 28	X 323	X 322				SK287
第541号土壇	H 13	X 323	X 322				SK789
第542号土壇	H 13	X 323	X 322				SK715
第543号土壇	H 13	X 323	X 322				SK716
第544号土壇	H 13	X 323	X 322				SK719
第545号土壇	H 14	X 325	X 324				SK717
第546号土壇	H~I 13	X 325	X 324				SK718
第547号土壇	H 14	X 325	X 324				SK574
第548号土壇	H 15	X 325	X 324				SK076
第549号土壇	H 15	X 325	X 324				SK055
第550号土壇	H 17	X 325	X 324				SK443
第551号土壇	H 17	X 325	X 324				SK462
第552号土壇	H 17	X 325	X 324			X 図版 85	SK531
第553号土壇	H 18	X 325	X 324				SK473
第554号土壇	H 19	X 327	X 326				SK452
第555号土壇	H 20	X 327	X 326				SK522

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第556号土壇	H 20	X 327	X 326				SK523
第557号土壇	H 25	X 327	X 326		X 図版 36	X 図版 85	SK537
第558号土壇	I 13	X 327	X 326				SK571
第559号土壇	I 13	X 327	X 326				SK721
第560号土壇	I 14	X 327	X 326				SK710
第561号土壇	I 15	X 329	X 328				SK85
第562号土壇	I 15	X 327	X 326				SK115
第563号土壇	I 15	X 327	X 326				SK245
第564号土壇	I 15	X 327	X 326				SK116
第565号土壇	I 16	X 329	X 328				SK529
第566号土壇	I 17	X 329	X 328				SK261
第567号土壇	I 17	X 329	X 328				SK262
第568号土壇	I~J 17	X 329	X 328				SK258
第569号土壇	I 18	X 329	X 328				SK414
第570号土壇	I 18	X 329	X 328				SK413
第571号土壇	I 19	X 329	X 328				SK477
第572号土壇	I 19	X 331	X 328				SK479
第573号土壇	I 24~25	X 331	X 328				SK552
第574号土壇	I 26	X 331	X 330				SK339
第575号土壇	J 13	X 331	X 330				SK728
第576号土壇	J 14	X 331	X 330				SK727
第577号土壇	J 15	X 331	X 330				SK098
第578号土壇	J 16~17	X 331	X 330				SK252
第579号土壇	J 16~17	X 331	X 330				SK260
第580号土壇	J 20~21	X 331	X 330				SK496
第581号土壇	J 23	X 333	X 330				SK417
第582号土壇	J 25~26	X 333	X 332				SK270
第583号土壇	I~J 26	X 333	X 332				SK411
第584号土壇	J 27	X 333	X 332				SK329
第585号土壇	J 27	X 333	X 332				SK328
第586号土壇	K 13	X 333	X 332				SK615
第587号土壇	K 15	X 333	X 332				SK090
第588号土壇	K 15	X 333	X 332				SK091
第589号土壇	K 15	X 333	X 332				SK044
第590号土壇	K 16	X 333	X 334				SK518
第591号土壇	K 19	X 335	X 334				SK441
第592号土壇	K 20	X 335	X 334				SK438
第593号土壇	K 21~22	X 335	X 334	IX 193			SK546
第594号土壇	K 22	X 335	X 334				SK550
第595号土壇	K 24	X 335	X 334				SK351
第596号土壇	K~L 24	X 335	X 334				SK352
第597号土壇	K~L 24	X 335	X 334				SK353
第598号土壇	K 25	X 335	X 334				SK434
第599号土壇	K 28	X 335	X 334				SK330
第600号土壇	L 13	X 337	X 336				SK763
第601号土壇	L 13	X 337	X 336				SK760
第602号土壇	L 13	X 337	X 336				SK759
第603号土壇	L 13	X 337	X 336				SK758
第604号土壇	L 13~14	X 337	X 336				SK761
第605号土壇	L 14	X 337	X 336				SK762
第606号土壇	L 14	X 337	X 336				SK764
第607号土壇	L 14	X 337	X 336				SK765

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第608号土壇	L 14	X 337	X 336				SK632
第609号土壇	L 15	X 337	X 336				SK066
第610号土壇	L 16	X 339	X 338				SK457
第611号土壇	K~L 16~17	X 339	X 338				SK520
第612号土壇	L 16	X 339	X 338				SK180
第613号土壇	L 16	X 339	X 338				SK179
第614号土壇	L 16	X 339	X 338				SK178
第615号土壇	L 16	X 339	X 338	V 783		VI 図版 50	SK187
第616号土壇	L 16	X 339	X 338				SK186
第617号土壇	L 18	X 339	X 338				SK539
第618号土壇	L~M 18	X 341	X 340				SK538
第619号土壇	L 20	X 341	X 340				SK540
第620号土壇	L 20	X 341	X 340				SK541
第621号土壇	L 20	X 341	X 340				SK409
第622号土壇	L 24	X 341	X 340				SK418
第623号土壇	L 24	X 341	X 340				SK357
第624号土壇	L 24	X 341	X 340				SK354
第625号土壇	L 24	X 341	X 340				SK356
第626号土壇	L 24	X 341	X 340				SK355
第627号土壇	M 13	X 343	X 342	IX 197			SK767
第628号土壇	M 13~14	X 341	X 342				SK771
第629号土壇	M 14	X 343	X 342				SK766
第630号土壇	M 15	X 343	X 342				SK023
第631号土壇	M 15	X 343	X 342				SK169
第632号土壇	L~M 15	X 343	X 342				SK017
第633号土壇	M 16	X 343	X 342				SK467
第634号土壇	M 17	X 343	X 342				SK519
第635号土壇	M 18	X 343	X 342				SK510
第636号土壇	M 20	X 343	X 342				SK436
第637号土壇	M 22	X 345	X 344				SK310
第638号土壇	M 24	X 345	X 344				SK419
第639号土壇	M 25~26	X 345	X 344				SK313
第640号土壇	M 26	X 345	X 344	V 793		VI 図版 51	SK326
第641号土壇	M 26	X 345	X 344				SK316
第642号土壇	N 13	X 345	X 344				SK648
第643号土壇	N 13~14	X 345	X 344				SK670
第644号土壇	N 14	X 347	X 346				SK770
第645号土壇	N 14	X 345	X 346				SK720
第646号土壇	N 14	X 347	X 346				SK671
第647号土壇	N 14	X 347	X 346				SK586
第648号土壇	N 15	X 347	X 346				SK708
第649号土壇	N 15	X 347	X 346				SK702
第650号土壇	N 15	X 347	X 346				SK703
第651号土壇	N~O 19	X 347	X 348				SK423
第652号土壇	N 20	X 347	X 348	V 793			SK389
第653号土壇	N 26	X 347	X 348				SK395
第654号土壇	N 26	X 347	X 348				SK383
第655号土壇	N 27	X 347	X 348				SK382
第656号土壇	N 27	X 349	X 348				SK532
第657号土壇	O 15	X 349	X 348	V 797			SK232
第658号土壇	O 17	X 349	X 350				SK497
第659号土壇	O 20	X 349	X 350		X 図版 36	X 図版 85	SK500



遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第660号土壌	O 26	X 349	X 350				SK331
第661号土壌	O 28	X 349	X 350				SK445
第662号土壌	P 14	X 351	X 350				SK652
第663号土壌	P 14	X 351	X 350				SK640
第664号土壌	P 14~15	X 351	X 350				SK773
第665号土壌	P 14	X 349	X 350				SK642
第666号土壌	P 15	X 351	X 350				SK226
第667号土壌	P 16	X 351	X 352				SK490
第668号土壌	P 16	X 351	X 352				SK491
第669号土壌	P 16	X 351	X 352				SK493
第670号土壌	P 16	X 351	X 352				SK492
第671号土壌	P 17	X 351	X 352				SK230
第672号土壌	P 18	X 351	X 352				SK131
第673号土壌	P 18	X 351	X 352				SK132
第674号土壌	P 18	X 353	X 352				SK133
第675号土壌	Q 14	X 353	X 352				SK654
第676号土壌	Q 14	X 353	X 352				SK655
第677号土壌	Q 14	X 353	X 352				SK656
第678号土壌	Q 14	X 353	X 352				SK657
第679号土壌	Q 14	X 353	X 354				SK678
第680号土壌	Q 14	X 353	X 354				SK679
第681号土壌	Q 14	X 353	X 354				SK677
第682号土壌	Q 15	X 355	X 354				SK012
第683号土壌	Q 16	X 355	X 354			IX 図版 64	SK198
第684号土壌	Q 17	X 355	X 354				SK199
第685号土壌	Q 17	X 355	X 354				SK484
第686号土壌	Q 17	X 353	X 354				SK488
第687号土壌	Q 22	X 355	X 354				SK176
第688号土壌	R 13	X 355	X 354				SK673
第689号土壌	R 14	X 355	X 356				SK700
第690号土壌	Q~R 17	X 355	X 356				SK218
第691号土壌	R 28	X 355	X 356				SK338
第692号土壌	R~S 14	X 357	X 356				SK699
第693号土壌	S 16	X 357	X 356				SK024
第694号土壌	S 17	X 357	X 356				SK149
第695号土壌	S 23	X 357	X 356				SK194
第696号土壌	S 28	X 357	X 356	IX 186			SK332
第697号土壌	T 18	X 357	X 356				SK336
第698号土壌	T 18	X 357	X 358				SK159
第699号土壌	T 18	X 357	X 358	V 798			SK156
第700号土壌	T 18	X 357	X 358				SK165
第701号土壌	T~U 27	X 357	X 358			X 図版 86	SK342
第702号土壌	U~V 14	X 359	X 358				SK669
第703号土壌	U 15	X 359	X 358				SK662
第704号土壌	V 15	X 359	X 358				SK663
第705号土壌	V 15	X 359	X 358				SK008
第706号土壌	V 26	X 359	X 358				SK348
第707号土壌	V 26	X 359	X 360				SK349
第708号土壌	W 24	X 359	X 360				SK350
第709号土壌	W 27	X 359	X 360				SK053
第710号土壌	X 20	X 359	X 360				SK002
第711号土壌	X 28	X 359	X 360				SK019

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第Y30号土壙	M 15	VI 305		VI 324			SK30
第Y135号土壙	E 14	VI 305	VI 307	VI 324			SK135
第Y143号土壙	L 15	VI 305		VI 324			SK143
第Y241号土壙	Q 25~26	VI 305		VI 324	VI 図版 56		SK241
第Y297号土壙	H 20	VI 306	VI 307	VI 323	VI 図版 56	VI 図版 95	SK297
第Y314号土壙	L 26	VI 306	VI 307				SK314
第Y320号土壙	L 26	VI 306	VI 307	VI 324	VI 図版 56 57	VI 図版 96	SK320
第Y327号土壙	K 26	VI 306	VI 307	VI 323	VI 図版 57		SK327
第Y337号土壙	R 29	VI 306	VI 307				SK337
第Y340号土壙	I 26	VI 308	VI 307				SK340
第Y341号土壙	I 26	VI 308	VI 307				SK341
第Y346号土壙	V 27	VI 308	VI 307				SK346
第Y364号土壙	R 27~28	VI 308	VI 309	VI 323~326	VI 図版 57 58 59	VI 図版 96	SK364
第Y365号土壙	Q~R 28	VI 308	VI 309	VI 325	VI 図版 57 58 59		SK365
第Y366号土壙	R 27~28	VI 310	VI 309		VI 図版 57 58 59		SK366
第Y367号土壙	R 27	VI 310	VI 309	VI 325	VI 図版 57 58 59		SK367
第Y368号土壙	R 27	VI 310	VI 309	VI 325	VI 図版 57 58 59		SK368
第Y369号土壙	R 27~28	VI 310	VI 309	VI 325	VI 図版 57 58 59		SK369
第Y370号土壙	R 27~28	VI 310	VI 309	VI 325	VI 図版 57 58 59	VI 図版 96	SK370
第Y371号土壙	R 28	VI 312	VI 309	VI 325	VI 図版 57 58 59		SK371
第Y372号土壙	R 28	VI 312	VI 309	VI 325	VI 図版 57 58 59		SK372
第Y373号土壙	R 28	VI 312	VI 309	VI 326	VI 図版 57 58 59		SK373
第Y379号土壙	O 20	VI 313	VI 311				SK379
第Y393号土壙	J 20	VI 313					SK393
第Y398号土壙	G 23	VI 314	VI 311	VI 327			SK398
第Y399号土壙	G 23	VI 314	VI 311	VI 327			SK399
第Y400号土壙	G 23	VI 314	VI 311	VI 327			SK400
第Y401号土壙	G 23	VI 314	VI 311	VI 327			SK401
第Y402号土壙	G 23	VI 314	VI 311	VI 327	VI 図版 59		SK402
第Y403号土壙	G 23	VI 316	VI 311	VI 327			SK403
第Y440号土壙	K 19	VI 316	VI 311	VI 328			SK440
第Y459号土壙	H 18	VI 317					SK459
第Y494号土壙	N 16	VI 317	VI 311	VI 328			SK494
第Y498号土壙	I 25~26	VI 317		VI 328			SK498
第Y501号土壙	H 24	VI 317	VI 311	VI 328			SK501
第Y502号土壙	H 24	VI 317	VI 311				SK502
第Y503号土壙	H 24	VI 317	VI 315	VI 328			SK503
第Y504号土壙	H 24	VI 317	VI 315	VI 328			SK504
第Y506号土壙	H 24	VI 318	VI 315				SK506
第Y512号土壙	L 18	VI 318	VI 315	VI 528			SK512
第Y513号土壙	J~K 18	VI 318	VI 315				SK513
第Y514号土壙	J 18~19	VI 318	VI 315				SK514
第Y515号土壙	J 18	VI 318	VI 315				SK515
第Y516号土壙	F 17	VI 318	VI 315				SK516
第Y524号土壙	G~H 18	VI 318	VI 315	VI 328			SK524
第Y527号土壙	H,18	VI 318	VI 315				SK527
第Y528号土壙	H 18	VI 320	VI 315				SK528
第Y530号土壙	I 16~17	VI 320	VI 315	VI 328			SK530
第Y542号土壙	L 20~21	VI 320	VI 315	VI 328			SK542
第Y552号土壙	I 25	VI 320		VI 323			SK552
第Y553号土壙	K 18	VI 320	VI 319	VI 328			SK553
第Y565号土壙	H 13	VI 320	VI 319	VI 328	VI 図版 60		SK565

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第Y570号土壌	H 16	VI 320	VI 319	VI 328			SK570
第Y612号土壌	I 17	VI 321	VI 319				SK612
第Y638号土壌	O 13	VI 321	VI 319	VI 328			SK638
第Y711号土壌	I 14	VI 321	VI 319	VI 328			SK711
第Y713号土壌	M 14	VI 321	VI 319				SK713
第Y749号土壌	H 13	VI 321	VI 319				SK749
第Y769号土壌	K 13	VI 321	VI 319			VI 図版 96	SK769
第Y770号土壌	D 17	VI 321	VI 319				SK770
第Y776号土壌	D 16	VI 321	VI 319				SK776
第Y780号土壌	D~E 17	VI 322	VI 319				SK780
第Y781号土壌	D~E 17	VI 322	VI 322				SK781
第Y782号土壌	E 17	VI 322	VI 322				SK782
第Y783号土壌	D 16~17	VI 322	VI 322				SK783
第Y784号土壌	E 17	VI 322	VI 322				SK784
第Y786号土壌	D 17	VI 323	VI 322				SK786
第Y787号土壌	D 17	VI 331	VI 322				SK787
第Y788号土壌	D 17	VI 331	VI 322				SK788
第Y219号土壌	I~J 23	VI 332	VI 332	VI 339	VI 図版 56	VI 図版 96	SK219
第Y221号土壌	K 24	VI 332	VI 332	VI 332	VI 図版 56	VI 図版 97	SK221
第Y312号土壌	M 25~26	VI 333	VI 332	VI 338	VI 図版 56	VI 図版 97	SK312
第Y521号土壌	K 17	VI 333	VI 335	VI 339	VI 図版 59	VI 図版 97 98	SK521
第Y555号土壌	F 21	VI 334	VI 332	VI 340	VI 図版 59	VI 図版 98	SK555
第Y556号土壌	E 19	VI 334	VI 335	VI 341	VI 図版 60	VI 図版 98	SK556
第Y777号土壌	D 17	VI 336	VI 335	VI 343	VI 図版 60	VI 図版 99	SK777
第Y795号土壌	L 13	VI 336	VI 335	VI 342	VI 図版 60		SJ420
第Y796号土壌	N 28	VI 341	VI 335	VI 343		VI 図版 99	

### 溝 跡

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第1号溝跡	ZV~ZX 22~25	V 589					SD417
第2号溝跡	ZV~ZW 23		V 565A				SD421
第3号溝跡	ZW~ZY 19~20	V 591	V 563B				SD433
第4号溝跡	ZW~ZY 19~20	V 583	V 563AC	V 631			SD434
第5号溝跡	ZW~ZX 21~26	V 591	V 565BDG	V 631			SD418
第6号溝跡	ZW~ZY 19~21	V 587	V 563F	V 631			SD435
第7号溝跡	ZW~ZY 20~21	V 591	V 563D	V 631			SD438
第8号溝跡	ZW 22	V 563	V 565C				SD425
第9号溝跡	ZW 22~25	V 591					SD419
第10号溝跡	ZW~ZY 22~25	V 621					SD429
第11号溝跡	ZW~ZY 21~22	V 591					SD426
第12号溝跡	ZW~A 23~ 24	V 583	V 565EF				SD428
第13号溝跡	ZW 24	V 591					SD424
第14号溝跡	ZX 17~18	V 591					SD441
第15号溝跡	ZX 17	V 591					SD440
第16号溝跡	ZX~ZY 19~23	V 591	V 563I 565H	V 631			SD437
第17号溝跡	ZX~ZY 20~21	V 625	V 563E	V 631			SD439
第18号溝跡	ZX~ZY 24~26	V 587	V 567A				SD410
第19号溝跡	ZX~ZY 25~26	V 587	V 567B				SD407
第20号溝跡	ZY 25~26	V 573					
第21号溝跡	ZX~ZY 26		V 567C				SD408
第22号溝跡	ZX~ZY 25~26	V 587	V 567E				SD407
第23号溝跡	ZX~C 24~27	V 591	V 567H 575B				SD398

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第24号溝跡	ZY~ZZ 19~27	V 583 XⅢ 188 189	V 563GH	V 631 XⅢ 190		XⅢ 図版 83	SD397
第25号溝跡	ZY~A 19~28	V 585	V 577B	V 631~633		IX 図版 36	SD395
第26号溝跡	ZY 24~28	V 587	V 567DFG	V 633			SD409 413
第27号溝跡	ZY 27						SK705
第28号溝跡	ZY 27						SK706
第29号溝跡	A~F 19~28	V 591	V 589A			IX 図版 36	SD447 449
第30号溝跡	ZZ~A 15~17	V 585					
第31号溝跡	ZZ~A 20~28	V 591	V 577C	V 633			SD396
第32-1号溝跡	ZZ~B 20~28	V 593	V 573A 575A	V 633			SD459
第32-2号溝跡	ZZ~B 20~28	V 593	V 573A 575A	V 635			SD459
第33号溝跡	ZZ~A 21~22	V 595	V 573B	V 633			SD458
第34号溝跡	ZZ 24~26	V 585	V 577A				SD414
第35号溝跡	A 16	V 595					
第36号溝跡	B~E 19~22	V 595	V 573CE	V 635			SD455
第37号溝跡	A~F 19~28	V 585	V 575C 577D V 589BC	V 635~643	V 図版 51	IX 図版 36 100 IX 図版 98	SD80 81
第38号溝跡	A~B 19~20	V 595		V 643			
第39号溝跡	A~B 23	V 595					
第40号溝跡	A~B 25~26	V 595					SD399
第41号溝跡	A~B 25~26	V 595					
第42号溝跡	A~B 27	V 595					SD405
第43号溝跡	A~B 27						SD404
第44号溝跡	B 15~29						SD327
第45号溝跡	B~C 16~17	V 595	V 569A	V 643			SD479
第46号溝跡	B~C 19~20	V 625	V 571A	V 643			SD445
第47号溝跡	B~P 20~26	V 585	V 573D 611A	V 643		IX 図版 37	SD177 454
第48号溝跡	B~C 21~22	V 597					SD456
第49号溝跡	C~D 16~17	V 597	V 569B				SD443
第50号溝跡	C 16~17	V 597	V 569C				SD442
第51号溝跡	C 17	V 629				IX 図版 37	
第52号溝跡	C 17	V 597					SD444
第53号溝跡	C 17~18	V 629					SD452
第54号溝跡	C~D 17~18	V 629					SK737
第55号溝跡	C~T 19~25	V	V 571B	IX 43 50 IX 76 79 IX 80 83 IX 91 97			SD131
第56号溝跡	C 22	V 597					SD457
第57号溝跡	D 18			V 645			SD453
第58号溝跡	C~D 18						
第59号溝跡	D 18	V 597					SD485
第60号溝跡	C~D 18~19	V 597					SD27
第61号溝跡	E~D 19	V 573					
第62号溝跡	D~G 19~20	V 597	V 583A	V 645			SD209
第63号溝跡	D~E 22~23	V 573					SD61
第64号溝跡	D~E 22~23	V 573					SD62
第65号溝跡	D~E 24	V 597			IX 241	IX 図版 90	SD68
第66号溝跡	D~F 22~25	V 597					SD382
第67号溝跡	E 15~17	V 597		V 645			SD76
第68号溝跡	E~F 16	V 599					SD78
第69号溝跡	E 17	V 599		V 645			SD77

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第70号溝跡	E~H 18~20	V 585					SD211
第71号溝跡	E 19	V 573					
第72号溝跡	E 19	V 573					
第73号溝跡	E 19	V 573					
第74号溝跡	E~H 18~20	V 599		V 645			SD210
第75号溝跡	E~P 21~29	V 585					SD153 162
第76号溝跡	D~E 22~23	V 587		IX 241		IX 図版 90	SD64
第77号溝跡	D~E 22~23	V 573					SD63
第78号溝跡	E~F 24~26		V 587A	V 645 647		IX 図版 96	SD279
第79号溝跡		V 599					
第80号溝跡		V 599					
第81号溝跡	E~G 25~27						SD275 276
第82号溝跡	E~F 25~28			V 647		IX 図版 100	SD275
第83号溝跡	G~F 25~27						SD307
第84号溝跡	F~J 28		V 589E				SD193
第85号溝跡	F 28		V 589D				SD308
第86号溝跡	F 28						SD309
第87号溝跡	G~N 12~17	V 558	V 579	V 647~658 IX 236~243 IX 267 333 IX 335 337 IX 361 502	V 図版 53 54	IX 図版 37~40 IX 図版 90 96 IX 図版 100 115 IX 図版 116	SD70
第88号溝跡		V 599					
第89号溝跡		V 599					
第90号溝跡	H~G 12~15	V 558	V 579B 581BC	V 658~659		IX 図版 40	SD69
第91号溝跡	G~L 15~16 G~O 15~17		V 593BIN	V 659~668 IX 35 IX 236~240 IX 242		IX 図版 40 41 IX 図版 90 IX 図版 90 96	SD69
第92号溝跡	G 17~18	V 625					SD342
第93号溝跡	G 18	V 573					SD205
第94号溝跡	G 19	V 573					SD260
第95号溝跡	G 19	V 573	V 583B	V 668			SD254
第96号溝跡	G 19	V 573		V 668		IX 図版 42	
第97号溝跡	G 19~20	V 573					
第98号溝跡	G 19	V 573					SD262
第99号溝跡	G 19	V 573					SD265
第100号溝跡	G 19	V 573					SD263
第101号溝跡	G 19	V 573					SD264
第102号溝跡	G~H 19	V 629					SD338
第103号溝跡	G~H 19~20	V 573					SD259
第104号溝跡	G 20	V 599					
第105号溝跡	G~H 20	V 599	V 585A	V 668			SD213
第106号溝跡	H 20~21	V 599		V 668		IX 図版 42	SD219
第107号溝跡	H 19	V 573					SD256
第108号溝跡	H 19	V 573					SD257
第109号溝跡	H 19	V 573					SD258
第110号溝跡	H 20	V 575					
第111号溝跡	H 20	V 575					
第112号溝跡	H 20	V 575					
第113号溝跡	H 20	V 575					
第114号溝跡	H 20	V 575					

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第115号溝跡	H~I 20	V 599	V 585B	V 668~669		IX 図版 42	SD218
第116号溝跡	H~P 22~27	V 600					SD152
第117号溝跡	I~K 18	V 563	V 593E				SD184
第118号溝跡	I 18	V 575					SD311
第119号溝跡	I 18	V 575					SD312
第120号溝跡	I 19	V 575					SD303
第121号溝跡	I~J 19	V 575					SD294
第122号溝跡	I~K 19~20	V 625	V 595AB	V 669			SD287
第123号溝跡	I 26~27	V 598	V 599A				
第124号溝跡	I~J 27						
第125号溝跡	J~Q 13~17	V 559	V 591A 605CI V 607R	V 669 671 IX 236~242 IX 373~379		IX 図版 42 IX 図版 90 91 IX 図版 102 103	SD58 69
第126号溝跡	K 13	V 600					SD390
第127号溝跡	J 14	V 563					SD388
第128号溝跡	J 16~19	V 558	V 593CH	V 671 IX 240			SD183
第129号溝跡	J~K 17~19	V 600	V 593D				SD185 346
第130号溝跡	J 18	V 600		V 671		IX 図版 42	SD293
第131号溝跡	J 18~19	V 575					SD292
第132号溝跡	J 18~19	V 575	V 595C	V 671			SD291
第133号溝跡	J~K 17~19	V 571	V 593FGKL	V 671		IX 図版 42	SD161
第134号溝跡	K 18	V 575					SD310
第135号溝跡	J~K 19	V 627	V 595D	V 671			SD290
第136号溝跡	J 19	V 575					SD295
第137号溝跡	J~K 19~20	V 600	V 595E	V 671 IX 187			SD339
第138号溝跡	I~J 20	V 575					
第139号溝跡	J 20	V 575					SD343
第140号溝跡	J 20	V 575					SD344
第141号溝跡	J 19~20	V 600	V 595E	IX 54 57 IX 69 75 76 IX 77 79 IX 87			
第142号溝跡	J 20	V 600	V 595E				
第143号溝跡	J~K 20	V 575					SD286
第144号溝跡	J~K 20	V 575					SD285
第145号溝跡	J~K 20	V 575					SD284
第146号溝跡	J 21	V 600					
第147号溝跡	J~K 23~24						SD166
第148号溝跡	J~K 23~27		V 597AB	V 671		IX 図版 42	SD167
第149号溝跡	J 25~26	V 600					
第150号溝跡	J~K 28	V 587	V 601A				SD269
第151号溝跡	K~O 13~17	V 559	V 603D  V 607Q	V 671 IX 237 IX 239~241 IX 243		IX 図版 42 90  IX 図版 103 115	SD60 391
第152号溝跡	K 14	V 563		V 673		IX 図版 90 100 IX 図版 115	
第153号溝跡	K 17~20	V 558		V 673		IX 図版 42	SD329
第154号溝跡	K 18	V 563	V 593M				
第155号溝跡	K~L 18~20	V 579					SD332

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第156号溝跡	K~L 18	V 563					SD328
第157号溝跡	K~M 19~20	V 579					SD333
第158号溝跡	K 19	V 575					SD335
第159号溝跡	K 19	V 575					SD336
第160号溝跡	L~K 20~21	V 627	V 595F				SD306
第161号溝跡	K~M 21	V 600		V 673			SD232
第162号溝跡	K~L 21	V 601					SD230
第163号溝跡	L~T 14~22	V 561	V 605F0	V 673			SD54 135 229
第164号溝跡			V 6050 607P				
第165号溝跡	K~L 25						SD157
第166号溝跡	K~L 24~28	V 585	V 597C 599B				SD162 170
			V 601BC				
第167号溝跡	K 28	V 589	V 601BC				SD270
第168号溝跡	K 28	V 601					SD191
第169号溝跡	K~L 25~28	V 589	V 599B 601D				SD162
第170号溝跡	L 14	V 577					
第171号溝跡	L 14	V 577					
第172号溝跡	L 14	V 577					
第173号溝跡	L 14	V 577					
第174号溝跡	L 15~16	V 577					
第175号溝跡	L 16	V 577		V 673		IX 図版 42	SD340
第176号溝跡	L 18	V 601					
第177号溝跡	L 19	V 575					
第178号溝跡	L~M 19~20	V 627		V 673 677	V 図版 51	IX 図版 43	SD330
第179号溝跡	L 20~21	V 627					SD305
第180号溝跡	L~M 21	V 627					SD231
第181号溝跡	L 25	V 601					
第182号溝跡	L~S 22~23	V 601	V 607D	V 677			SD129
第183号溝跡	M~U 13~21	V 561	V 591C 603ACUY	V 677 679		IX 図版 43	SD33 90 114
			V 605NO 615D	IX 267		IX 図版 116	SD115 181
			V 617A				
第184号溝跡	M~N 13~14		V 591C 603B	V 679			SD386
第185号溝跡	M 14	V 577					
第186号溝跡	M~N 15	V 630					
第187号溝跡	M~R 14~16	V 561	V 603ERX	V 679		IX 図版 43	SD180 351
			V 613A				SD394
第188号溝跡	M 16	V 577					SD347
第189号溝跡	M 16	V 577	V 605A				
第190号溝跡	M 17	V 577					
第191号溝跡	M 18~19						SD331
第192号溝跡	M~N 18~19	V 565		V 679			SD321
第193号溝跡	M~N 19						SD326
第194号溝跡	M 20~21	V 579					SD334
第195号溝跡	M~N 20~21	V 565					SD236
第196号溝跡	M 21	V 577					SD233
第197号溝跡	M~N 21	V 627					SD234
第198号溝跡	N~O 20~21	V 565				IX 図版 104	SD214 235
第199号溝跡	M~T 13~23	V 561	V 613BD 615AB	IX 236 V 679~682	V 図版 51~52	IX 図版 43 44	SD141旧
				V 682		IX 図版 90	
第200号溝跡	M~S 13~29			IX 236~240		IX 図版 44	SD1
				IX 269		IX 図版 90 100	
						IX 図版 107~110	

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第201号溝跡	N~0 16	V 565		IX 380 IX 400~403 IX 405~407		IX 図版 113 114 IX 図版 117	SD350
第202号溝跡	N~0 16						SD362
第203号溝跡	N 16	V 577					
第204号溝跡	N 16	V 577					
第205号溝跡	N~0 16~17						SD361
第206号溝跡	N~P 15~17	V 558	V 603MOQST V 605DGJ	V 682~687		IX 図版 44 45 IX 図版 77 90 IX 図版 102 115	SD58
第207号溝跡	N 18	V 577					SD323
第208号溝跡	N 18	V 577					SD321
第209号溝跡	N 18	V 577					SD322
第210号溝跡	N 18~19	V 577					SD319
第211号溝跡	N 18~19	V 577					SD320
第212号溝跡	N 18~19	V 577					SD317
第213号溝跡	N 18~19	V 577					SD318
第214号溝跡	N~0 18	V 577					SD247
第215号溝跡	N 19						SD282
第216号溝跡	N 19	V 577					SD316
第217号溝跡	N~0 17~19	V 565		V 687			SD243
第218号溝跡	N~0 19~20	V 567					SD214
第219-1号溝跡	N~0 20	V 567					SD288
第219-2号溝跡	N 20~21	V 567					SD237
第220号溝跡		V 567					SD237
第221号溝跡	N~Q 17~20	V 561	V 605OM				SD155 198
第222号溝跡	N~0 21	V 601					SD239
第223号溝跡	N~0 21	V 567					
第224号溝跡	N~0 20~21	V 567					SD238
第225-1号溝跡	Q~R 13~20			V 687		IX 図版 45 IX 図版 102 103 IX 図版 45	SD29 112
第225-2号溝跡	Q~R 15~16						SD29 112
第226号溝跡	N~Q 13~19	V 561					
第227号溝跡	N 22	V 567					SD240
第228号溝跡	N 22~23	V 601					SD215
第229号溝跡	N~P 23~26	V 601	V 630A				
第230号溝跡	N~0 25	V 629					SD297
第231号溝跡	N~0 27	V 601					SD296
第232号溝跡	0 14~15	V 571					SD392
第233号溝跡	0~P 15~18	V 605	V 603GMNP	V 691		IX 図版 45 46 IX 図版 90 100	SD25
第234号溝跡	P~Q 16	V 567	V 603F				SD182
第235号溝跡	0~P 16~17	V 558		V 691		IX 図版 46	SD34
第236号溝跡	0 15~16	V 579	V 603HJ	V 693		IX 図版 46	SD176
第237号溝跡	0~Q 15~17	V 569	V 603IK	IX 236		V 図版 90	SD134 174
第238号溝跡	0~Q 13~15	V 569		V 693			SD190
第239号溝跡	P 15	V 579		V 693	V 図版 52		
第240号溝跡	P 15	V 579			IX 図版 8	V 図版 46	SD178
第241号溝跡	0 16	V 579	V 603L				SD173
第242号溝跡	0 16	V 579					SD348
第243号溝跡	0 16	V 579					SD349



遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第244号溝跡	0 16	V 569					SD196
第245号溝跡	0 17	V 579					SK497
第246号溝跡	0 17	V 569					
第247号溝跡	0 17~18						
第248号溝跡	0 18	V 607					
第249号溝跡	0~P 18~19	V 607					
第250号溝跡	0 18						SD248
第251号溝跡	0~P 18	V 569					SD206 244
第252号溝跡	0~P 17~18	V 569					SD206
第253号溝跡	0 19	V 607					
第254号溝跡	0 19	V 607					
第255号溝跡	0 19~20	V 607	V 605E	V 693			SD221
第256号溝跡	0 21	V 607		V 693		V 図版 46	SD141
第257号溝跡	0~R 19~23						SD91
第258号溝跡	0 22~24						SD130
第259号溝跡	0 25~26	V 629		V 693		V 図版 46	SD298
第260号溝跡	0 25~26	V 629					SD299
第261号溝跡	0~P 26	V 607	V 611B				SD223
第262号溝跡	0~P 26	V 607	V 611C				SD177 224
第263号溝跡	0 26~27	V 589					SD225
第264号溝跡	0~P 26~28	V 609					SD226
第265号溝跡	P~Q 14	V 609	V 603V				SD416
第266号溝跡	P 14	V 605L					SD72 112 197
第267号溝跡	P~Q 15	V 569		V 693		IX 図版 90	SD40
第268号溝跡	P~Q 15	V 569				V 図版 46	SD43
第269号溝跡	P~Q 16	V 630					SD42
第270号溝跡	P 16~17	V 571	V 605K	V 693			SD156
第271号溝跡	P~Q 17	V 579				V 図版 46	
第272号溝跡	P 16~17	V 571					SD138
第273号溝跡	P 17	V 579					SD354
第274号溝跡	Q 17	V 579					
第275号溝跡	Q~S 17~18	V 558		V 695			SD114
第276号溝跡	P 16~17	V 571					
第277号溝跡	P~T 17~18	V 558	V 615E	V 695			SD70 113
第278号溝跡	P 18	V 571					
第279号溝跡	P~Q 18	V 579					
第280号溝跡	P~Q 18~22	V 609	V 605M 607C	V 695		IX 図版 115	SD125 199
第281号溝跡	P~Q 18~20	V 609				V 図版 91	SD72 141 200
第282号溝跡	P 20~21	V 571					SD126
第283号溝跡	P~Q 21~22	V 609	V 607B				SD128
第284号溝跡	P~R 21~22	V 609					SD127
第285号溝跡	P~S 20~22	V 627	V 607A	V 695			SD123
第286号溝跡	P~V 24~29	V 609		V 695		IX 図版 46	SD107 149
第287号溝跡	Q 13	V 627					
第288号溝跡	Q 15	V 579		V 695			SD44
第289号溝跡	Q 15	V 579		V 695			SD45
第290号溝跡	Q 16	V 579		V 695			
第291号溝跡	Q 18	V 579					SD202
第292号溝跡	Q 18	V 579					SD203
第293号溝跡	Q~S 17~19		V 615G				SD86 110
第294号溝跡	Q~R 20						SD24
第295号溝跡	Q 25~26	V 609	V 611D				SD186

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第296号溝跡	R~S 23~26	V 585		V 695			SD97
第297号溝跡	Q~R 27~29	V 609					
第298号溝跡	R 13~14						
第299号溝跡	R 14	V 630					
第300号溝跡	R 14~16	V 609		V 695			SD47
第301号溝跡	R 15	V 627		V 695			SD31
第302号溝跡	R 15	V 609		V 695			SD32
第303号溝跡	R~S 15						SD55
第304号溝跡	R~S 15	V 609					SD53
第305号溝跡	R 16	V 627					SD41
第306号溝跡	R~S 16	V 609		V 695		IX 図版 46	SD51
第307号溝跡	R~S 16~17	V 627		V 695		IX 図版 47	SD50 111
第307-1号溝跡	R~S 16~17		V 615AB	V 695		IX 図版 47	SD50 111
第308号溝跡	R~T 16~17	V 611	V 615C	V 695			SD52 116
第309号溝跡	R 17~18	V 611	V 615C				SD120
第310号溝跡	R 17	V 611					SD119
第311号溝跡	R 18	V 611					SD121
第312号溝跡	R 19	V 611					
第313号溝跡	R 19~20	V 611					SD95
第314号溝跡	R~S 23~26	V 585					SD249
第315号溝跡	R~X 20~28	V 581	V 621A 625A	V 695 699			SD8
第316号溝跡	4号道路跡へ						SD30
第317号溝跡	S 14	V 611					
第318号溝跡	S 14~16	V 611		V 701 703			
第319-1号溝跡	3号道路跡へ						SD74
第319-2号溝跡	S~T 15~16	V 581	V 615I	V 703			SD74
第320号溝跡	S 17~19	V 627		V 703			SD85
第321号溝跡	S~U 20~26	V 587	V 617B	V 703 705			SD96
第322号溝跡	S~T 23~25	V 587					SD96 250
第323号溝跡		V 587					
第324号溝跡	S~X 22~29		V 621B 625C				SD10 105 140
							SD148
第325号溝跡	4号道路跡へ						SD12
第326号溝跡	3号道路跡へ						SD390
第327号溝跡	V~W 18~21	V 613	V 625A			IX 図版 64	SD2 28
第328号溝跡	T 13~15	V 613	V 621B				SD251
第329号溝跡	3号道路跡へ						SD74
第330号溝跡	2号道路跡へ						
第331号溝跡	2号道路跡へ						SD101
第332号溝跡	T 18	V 629					SD113
第333号溝跡	T~U 19						SD89
第334号溝跡	T 20~21						SD142
第335号溝跡	T~U 21~22	V 627	V 617C				SD97
第336号溝跡	T~U 22~23		V 617D	V 709			SD98
第337号溝跡	T~V 22~23	V 613					SD143
第338号溝跡	T~U 23	V 615					SD103
第339号溝跡	T~V 23	V 615					SD145
第340号溝跡	T~U 24~25	V 627					SD105
第341号溝跡	T 27~28	V 615					SD273
第342号溝跡	1号道路跡へ						
第343号溝跡	U~W 13~21	V 615		V 709			SD3 26
第344号溝跡	U~V 13~18	V 587	V 613J				SD4 84

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第345号溝跡	U 14~15	V 589					SD389
第346号溝跡	V 15~17	V 589					SD28
第347号溝跡	U 17	V 583					SD1
第348号溝跡	U 17	V 583		V 709			SD2
第349号溝跡		V 583 710		V 710			SD3
第350号溝跡	U 17	V 583					SD4
第351号溝跡	U 17	V 583					SD5
第352号溝跡	U 17	V 583					SD6
第353号溝跡	U 17	V 583					SD7
第354号溝跡	U 17	V 583					SD8
第355号溝跡	U 17	V 583					SD9
第356号溝跡	U 17	V 583					SD10
第357号溝跡	U 17	V 583 710		V 710			SD11
第358号溝跡	U 17	V 583				V 図版 107	SD12
第359号溝跡	U 17	V 583					SD13
第360号溝跡	U 17	V 583					SD14
第361号溝跡	U 17	V 583					SD15
第362号溝跡	U 17	V 583					SD16
第363号溝跡	U 17	V 583					SD17
第364号溝跡	U 17	V 583					SD18
第365号溝跡	U 18	V 583					SD20
第366号溝跡	U~V 18~19	V 583					SD21
第367号溝跡	U 19	V 583					SD22
第368号溝跡	U 19	V 583					SD23
第369号溝跡	U 19	V 583					SD24
第370号溝跡	U~V 19	V 583					SD25
第371号溝跡	U~V 19	V 583					SD26
第372号溝跡	U~V 19	V 583					SD27
第373号溝跡	U~V 19	V 583					SD28
第374号溝跡	U~V 19	V 583					SD29
第375号溝跡	U~V 19	V 583					SD30
第376号溝跡	U~V 19	V 583					SD31
第377号溝跡	U~V 19	V 583					SD32
第378号溝跡	U~V 19	V 583					SD33
第379号溝跡	U~V 20	V 583					SD38
第380号溝跡	U~V 20	V 583					SD39
第381号溝跡	U~V 20	V 583				IX 図版 64	SD40
第382号溝跡	U~V 20	V 583					SD41
第383号溝跡	U~W 20	V 583 710		V 710			SD42
第384号溝跡	U~V 21	V 587	V 617D	V 709			SD102
第385号溝跡	U~V 21~23	V 581					
第386号溝跡	3号道路跡へ						
第387号溝跡	1号道路跡へ						
第388号溝跡	V 13~16	V 617					SD393
第389号溝跡	V 14~16	V 617		V 709		IX 図版 48 90	SD5
第390号溝跡	V 18	V 617					
第391号溝跡	V~W 18~19	V 617					
第392号溝跡	V 19~20	V 617					
第393号溝跡	V 19	V 583					
第394号溝跡	V 19	V 583					
第395号溝跡	V 19	V 583					
第396号溝跡	V 19	V 583					

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第397号溝跡	2号3号道路跡へ						SD100
第398号溝跡	V~W 20~21	V 581					
第399号溝跡	V 20	V 583					SD43
第400号溝跡	V 20	V 617		V 709			SD274
第401号溝跡	V 21	V 629		V 709			
第402号溝跡	V 21	V 583					SD144
第403号溝跡	2号道路跡へ						
第404号溝跡	V 22~23	V 620					SD147
第405号溝跡	V 27~29	V 620					SD301
第406号溝跡	V~X 27~29	V 620					SD39
第407号溝跡	W 21~22		V 625B	V 709			SD9
第408号溝跡	2号道路跡へ						
第409号溝跡	W~X 23	V 620					SD15
第410号溝跡	4号道路跡へ						SD14
第411号溝跡	3号道路跡へ						SD18
第412号溝跡	W~X 23~24	V 620		V 709			SD17
第413号溝跡	W~X 23~24	V 620					SD21
第414号溝跡	W~X 23	V 620					SD22
第415号溝跡	W~X 23~27	V 621					SD19 20
第416号溝跡	W 27	V 621					SD36
第417号溝跡	W 27	V 621					SD37
第418号溝跡	X 16	V 621					
第419号溝跡	T 14~15	V 583					
第420号溝跡	T 15	V 583					
第421号溝跡	U 18	V 583					
第422号溝跡	U 18	V 583					SD19
第423号溝跡	V~X 13~22	X III 78~81 X III 100 106 X III 111 112 X III 117 119 X III 121 125 X III 129 133 X III 134		X III 101~110 X III 112~116 X III 118 X III 120~124 X III 126~132	VI 図版 69 70	X III 図版 29~60	SD007
第424号溝跡	X 16	V 583					
第425号溝跡	X 16	V 583					
第426号溝跡	X 16	V 583					
第427号溝跡	X 17	V 583					
第428号溝跡	X 17	V 583					
第429号溝跡	X 17	V 583					
第430号溝跡	X 17	V 583					
第431号溝跡	X 17	V 583					
第432号溝跡	X 17	V 583					
第433号溝跡	X 17						
第434号溝跡	X 17	V 583					
第435号溝跡	X 17	V 583					
第436号溝跡	X 17	V 583					
第437号溝跡	X 18	V 583					
第438号溝跡	X 18	V 583					
第439号溝跡	X 18	V 583					
第440号溝跡	X 18	V 583					
第441号溝跡	X 18	V 583					
第442号溝跡	X 18	V 583					

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第443号溝跡	ZY 16~17	X 364					
第444号溝跡	ZY 16~17	X 364					
第445号溝跡	ZV~ZW 22~23	X 364	X 363		X 図版 36		SD422
第446号溝跡	ZW 23~24	X 364	X 363				SD420
第447号溝跡	ZW~ZY 22~24	X 364	X 365		X 図版 36		SD427
第448号溝跡	ZZ 19~20	X 365	X 366				SD471
第449号溝跡	ZZ 19~21	X 367	X 366				SD470
第450号溝跡	ZZ 20	X 367	X 366				SD474
第451号溝跡	ZZ 20	X 367	X 366				SD472
第452号溝跡	ZZ 20	X 367	X 366				SD473
第453号溝跡	B 20	X 367	X 366				SD470
第454号溝跡	B 20~21	X 367	X 366				SD469
第455号溝跡	B 20~21	X 367	X 366				SD467
第456号溝跡	B 20~21	X 367	X 366				SD468
第457号溝跡	B 21	X 368	X 366				SD466
第458号溝跡	B~C 20~21	X 368	X 366				
第459号溝跡	B 21	X 368	X 366				SD465
第460号溝跡	B~C 21~23	X 368		X 380		X 図版 86	SD447
第461号溝跡	B~C 21~22	X 368		IX 197			
第462号溝跡	B~C 27	X 368					SD403
第463号溝跡	B~C 27~28	X 368		IX 44			SD402
第464号溝跡	C~D 15~19	X 67	X 69~76	X 85~92	X 図版 2~4	X 図版 37~49	SD179 327
	F~I 12~20	X III 135 136		IX 185~186		X 図版 107	
	M~N 13~15	X III 139		IX 188 197		X III 図版 61~63	
				X III 144~146			
第465号溝跡	C~D 22~23	X 370	X 369				SD448 482
第466号溝跡	C~D 24~27	X 370	X 369				SD464
第467号溝跡	C 28~29	X 370	X 369	IX 191 193			SD463
第468号溝跡	D 25	X 370					SD450
第469号溝跡	D 18~19	X 370					SD484
第470号溝跡	D 18~19	X 370				X 図版 107	SD483
第471号溝跡	D~E 22	X 370		X 380			SD194
第472号溝跡	D~J 22~28	X 371	X 369				SD65 356
第473号溝跡	D~F 23~25	X 371	X 369				SD66 358
第474号溝跡	D 23	X 371					
第475号溝跡	D 23	X 371					
第476号溝跡	D~F 24~25	X 371					
第477号溝跡	D 26	X 371					SD365
第478号溝跡	E~F 19	X 371	X 372				SD208
第479号溝跡	F 14~15	X 372					SD079
第480号溝跡	F 16	X 373					
第481号溝跡	F 27	X 373					
第482号溝跡	F 27	X 373	X 372				SD278
第483号溝跡	F~G 27	X 373					
第484号溝跡	G 14	X 373					
第485号溝跡	G 14	X 373					
第486号溝跡	I 23	X 373					
第487号溝跡	I 26	X 373					SD267
第488号溝跡	J 14	X 373					
第489号溝跡	J~K 14	X 374					
第490号溝跡	J~K 14	X 374					
第491号溝跡	J 23	X 374					

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第492号溝跡	J 23~25	X 374					SD164
第493号溝跡	J 23~24	X 374					SD165
第494号溝跡	L 28	X 374					SD359
第495号溝跡	L 14	X 374					
第496号溝跡	L 14	X 374					
第497号溝跡	L 14	X 375					
第498号溝跡	L 14	X 375					
第499号溝跡	L 14	X 375					
第500号溝跡	L 14	X 375					
第501号溝跡	L 14	X 375					
第502号溝跡	L 14	X 375					
第503号溝跡	L 14~15	X 375					
第504号溝跡	M 14	X 375					
第505号溝跡	M~N 13~14	X 376					SD433
第506号溝跡	M 18	X 376					
第507号溝跡	M~N 18	X 376					
第508号溝跡	M~N 27	X 376					SD192
第509号溝跡	M 27~28	X 376					SD371
第510号溝跡	N 14	X 376					SD432
第511号溝跡	N 26~27	X 376	X 372	X 380			SD360
第512号溝跡	N 26	X 376		IX 186 187			SR007
第513号溝跡	N 26	X 377				X 図版 86	SR005
第514号溝跡	O 14	X 377		X 380			
第515号溝跡	O 14~15		X 372				SD431
第516号溝跡	O 26~27	X 377	X 378				SD370
第517号溝跡	O~P 26	X 377	X 378				SD369
第518号溝跡	P 28	X 377		IX 185			
第519号溝跡	P 28						
第520号溝跡	P~Q 28~29	X 377	X 378				SD241
第521号溝跡	Q 14~15	X 377	X 378				SD188
第522号溝跡	Q~R 18	X 379					
第523号溝跡	Q~R 19~20	X 379					
第524号溝跡	R 27~28	X 379					
第525号溝跡	R 28	X 379					
第526号溝跡	T 27	X 379	X 378				SD272
第527号溝跡	T~W 28	X 379				X 図版 86 87	SD141
第528号溝跡	T 28	X 379		X 380			SD304
第529号溝跡	V~W 28	X 381					SD300
第530号溝跡	W~X 16~19	X 383		X 390~392	X 図版 36	X 図版 89~94	SD011
		X III 78~80		X III 146			
		X III 135					
第531号溝跡	W 16	X 383					SD011b
第532号溝跡	WX 16	X 383					SD011a
第Y357号溝跡	L 28	VI 406	VI 416	VI 431		IX 図版 106 107 IX 図版 149	SD357
第Y364号溝跡	J~L 23~29	VI 408	VI 416		VI 図版 69		SD364
第Y377号溝跡	I~L 20~23	VI 408		VI 432			SD377
第Y378号溝跡	I~J 21~22	VI 408					SD378
第Y475号溝跡	C 27~28	VI 408	VI 417				SD475
第Y7号溝跡	U~X 13~22	VI 408	VI 418	VI 433~435	VI 図版 69	VI 図版 107 177	SD007

道路跡

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第1号道路跡 (SD342 387)	U~X 23~29	V 710 V 615 617 IX 12	V 621 IX 13	V 710 IX 322		V 図版 67 IX 図版 65	SD106 SD108
第2号道路跡 (SD330 331 397) (SD403 408)	T~X 17~27	IX 12 V 613 617 V 620	IX 13	V 709		IX 図版 48	SD16 19 SD20 SD100 101
第3号道路跡 (SD319-1 326 329) (SD386 397 411)	S~X 13~29	IX 12 V 581	IX 13 V 613 615 V 620	V 703 709 IX 361		IX 図版 47 48 IX 図版 112	SD18 38 SD74 100 SD390
第4号道路跡 (SD316 325 410)	S~X 13~23	IX 14 V 581	IX 13 V 613 709		V 図版 54	IX 図版 47~48 IX 図版 90 100	SD12 14 SD30
第5号道路跡		IX 14					

古墳跡

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第1号古墳跡	B~D 27~29	VIII 18	VIII 20	VIII 25 VIII 27~31 VIII 33~37	VIII 図版 65	VIII 図版 20 VIII 図版 21~25 VIII 図版 38~40	SS1
第2号古墳跡	C~I 23~26	VIII 41	VIII 42 43	VIII 55~67 VIII 69~81 IX 228 242 IX 375 377 IX 403	VIII 図版 66	VIII 図版 20 21 VIII 図版 26~34 VIII 図版 40~48 IX 図版 90 103 IX 図版 109	SS2
第3号古墳跡	J~K 25~26	VIII 90	VIII 91	VIII 91	VIII 図版 67	VIII 図版 48	SS3
第4号古墳跡	F~G 26~27	VIII 92	VIII 92	VIII 93	VIII 図版 68	VIII 図版 48	SS4
第5号古墳跡	G~I 26~28	VIII 93	VIII 94 95	VIII 100 VIII 102~116 IX 18	VIII 図版 69 70	VIII 図版 20~21 VIII 図版 35~37 VIII 図版 49~54	SS5
第6号古墳跡	J~K 27~28	VIII 116	VIII 121	VIII 121	VIII 図版 71	VIII 図版 96 97	SS6
第7号古墳跡	L~N 27~28	VIII 121	VIII 122	VIII 123	VIII 図版 18	VIII 図版 98	SS7
第8号古墳跡	L~M 28~29	VIII 124	VIII 124	VIII 124		VIII 図版 21	SS8

方形周溝墓

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第1号方形周溝墓	ZZ~A 26~27	X 274	X 273	X 274	X 図版 28 29	X 図版 81	SR28
第2号方形周溝墓	A~B 23~24	X 275	X 276	X 275	X 図版 28 29	X 図版 81	SR23
第3号方形周溝墓	B~C 24~25	X 277	X 277		X 図版 28 29		SR22
第4号方形周溝墓	B~C 25~26	X 277	X 278	X 278	X 図版 28 29	X 図版 81	SR21
第5号方形周溝墓	C~D 20~21	X 279	X 279				SR24
第6号方形周溝墓	C~E 20~22	X 282	X 280 281	X 281	X 図版 28 30	X 図版 81 82	SR16
第7号方形周溝墓	C~D 23~24	X 283	X 283	X 283	X 図版 28 30	X 図版 82	SR25
第8号方形周溝墓	C~D 23~24	X 285	X 284	X 284	X 図版 28 30	X 図版 83	SR26
第9号方形周溝墓	D 23	X 286	X 286	X 286	X 図版 28 31	X 図版 83	SR27
第10号方形周溝墓	D~E 23~24	X 285	X 285		X 図版 31		SR29
第11号方形周溝墓	E~F 25~26	X 287	X 287	X 288	X 図版 31 32	X 図版 83	SR14
第12号方形周溝墓	F~H 22~24	X 290	X 289	X 289	X 図版 32	X 図版 83	SR19
第13号方形周溝墓	F~G 25~27	X 290	X 291	X 291	X 図版 31 32		SR10
第14号方形周溝墓	G~H 26~27	X 292	X 292		X 図版 32		SR11
第15号方形周溝墓	G~H 27~28	X 292	X 293		X 図版 31 33		SR15
第16号方形周溝墓	H~I 28	X 294	X 294		X 図版 33		SR20
第17号方形周溝墓	I~J 23~24	X 295	X 295		X 図版 33		SR08

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第18号方形周溝墓	I~J 24~25	X 296	X 296	X 296	X 図版 33		SR09
第19号方形周溝墓	L~M 25~26	X 298	X 297				SR04
第20号方形周溝墓	L~N 25~27	X 298	X 299	X 298	X 図版 32 34	X 図版 83 84	SR12
第21号方形周溝墓	M~N 27~28	X 301	X 300	X 301	X 図版 32 34	X 図版 84	SR13
第22号方形周溝墓	M~N 27~28	X 303	X 302				SR18
第23号方形周溝墓	N 26~27	X 303	X 304		X 図版 32		SR06
第24号方形周溝墓	N~O 26~27	X 304	X 305		X 図版 32		SR17
第25号方形周溝墓	O~P 26~27	X 306	X 306	X 306	X 図版 34	X 図版 84	SR01
第26号方形周溝墓	O~Q 27~29	X 307	X 308	X 307	X 図版 34	X 図版 84	SR02
第27号方形周溝墓	R 28~29	X 309	X 309		X 図版 35		SR03

### 木棺墓

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第1号木棺墓	K 20	X 310	X 311	X 312~313	X 図版 35	X 図版 110	SK505

### ピット

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
D16Gr Pit6	D 16	V 740 (P1)		V 777			D16Gr Pit6
D24Gr Pit1	D 24	V 740		V 777			D24Gr Pit1
E16Gr Pit5	E 16	V 740		V 777			E16Gr Pit5
E17Gr Pit8	E 17	V 740		V 777			E17Gr Pit8
E17Gr Pit11	E 17	V 740		V 777			E17Gr Pit11
E17Gr Pit16	E 17	V 776		V 777			E17Gr Pit16
F15Gr Pit1	F 15	V 776		V 777		IX 図版 48	F15Gr Pit1
F15Gr Pit29	F 15	V 776		V 777			F15Gr Pit29
F15Gr Pit31	F 15	V 776		V 777			F15Gr Pit31
F16Gr Pit9	F 16	V 776		V 777		IX 図版 48	F16Gr Pit9
F17Gr Pit1	F 17	V 776		V 777	IX 図版 2		F17Gr Pit1
F17Gr Pit4	F 17	V 776		V 777			F17Gr Pit4
F17Gr Pit23	F 17	V 776		V 777			F17Gr Pit23
G12Gr Pit1	G 12	V 776		V 777			G12Gr Pit1
G14Gr Pit3	G 14	V 776		V 777			G14Gr Pit3
G15Gr Pit1	G 15	V 776		V 777			G15Gr Pit1
G17Gr Pit6	G 17	V 776		V 777			G17Gr Pit6
G17Gr Pit14	G 17	V 776		V 777			G17Gr Pit14
G17Gr Pit25	G 17	V 778		V 777		IX 図版 49	G17Gr Pit25
G18Gr Pit1	G 18	V 778		V 777			G18Gr Pit1
G18Gr Pit7	G 18	V 778		V 777			G18Gr Pit7
G18Gr Pit17	G 18	V 778		V 777			G18Gr Pit17
G18Gr Pit19	G 17	V 778		V 777			G18Gr Pit19
G18Gr Pit29	G 17	V 778		V 777			G18Gr Pit29
G19Gr Pit27	G 19	V 778		V 777			G19Gr Pit27
G19Gr Pit30	G 19	V 778		V 779			G19Gr Pit30
G19Gr Pit34	G 19	V 778		V 779		IX 図版 49	G19Gr Pit34
G20Gr Pit1	G 20	V 778		V 779		IX 図版 49	G20Gr Pit1
H14Gr Pit23	H 14	V 778		V 779			H14Gr Pit23
H15Gr Pit3	H 15	V 778		V 779			H15Gr Pit3
H16Gr Pit11	H 16	V 778		V 779			H16Gr Pit11
H17Gr Pit16	H 17	V 778		V 779			H17Gr Pit16
H18Gr Pit1	H 18	V 780		V 779			H18Gr Pit1
H18Gr Pit3	H 18	V 780		V 779			H18Gr Pit3
H19Gr Pit18	H 19	V 780		V 779			H19Gr Pit18



遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
H19Gr Pit36	H 19	V 780		V 779			H19Gr Pit36
H20Gr Pit1	H 20	V 780		V 779		IX 図版 49	H20Gr Pit1
H20Gr Pit5	H 20	V 780		V 779			H20Gr Pit5
H20Gr Pit8	H 20	V 780		V 779			H20Gr Pit8
H20Gr Pit10	H 20	X III 176		X III 176		X III 図版 75	H20Gr Pit10
H20Gr Pit13	H 20	X II	X II	X II			H20Gr Pit13
I14Gr Pit13	I 14	V 780		V 781			I14Gr Pit13
I14Gr Pit17	I 14	V 780		V 781		IX 図版 49	I14Gr Pit17
I15Gr Pit23	I 15	V 780		V 781			I15Gr Pit23
I17Gr Pit2	I 17	V 780		V 781			I17Gr Pit2
I17Gr Pit21	I 17	V 780		V 781		IX 図版 49 100	I17Gr Pit21
I17Gr Pit22	I 17	V 780		V 781			I17Gr Pit22
I18Gr Pit1	I 18	V 782		V 781		IX 図版 49	I18Gr Pit1
I18Gr Pit24	I 18	V 782		V 781			I18Gr Pit24
I19Gr Pit15	I 19	V 782		V 781		IX 図版 49	I19Gr Pit15
I20Gr Pit3	I 20	V 782		V 781		IX 図版 49	I20Gr Pit3
I20Gr Pit12	I 20	V 782		V 781		IX 図版 49	I20Gr Pit12
I20Gr Pit18	I 20	V 782		V 781 783			I20Gr Pit18
J13Gr Pit6	J 13	V 782		V 783			J13Gr Pit6
J15Gr Pit5	J 15	V 782		V 783			J15Gr Pit5
J15Gr Pit9	J 15	V 782		V 783			J15Gr Pit9
J16Gr Pit15	J 16	V 782		V 783			J16Gr Pit15
J17Gr Pit19	J 16	V 782		V 783			J17Gr Pit19
J19Gr Pit11	J 19	V 782		V 783		IX 図版 100	J19Gr Pit11
J20Gr Pit8	J 20	V 784		V 783		IX 図版 49	J20Gr Pit8
J20Gr Pit20	J 20	V 784		V 783			J20Gr Pit20
K13Gr Pit2	K 13	V 784		V 783			K13Gr Pit2
K13Gr Pit3	K 13	V 784		V 783		IX 図版 50	K13Gr Pit3
K13Gr Pit4	K 13	V 784		V 783		IX 図版 50	K13Gr Pit4
K14Gr Pit3	K 14	V 784		V 783			K14Gr Pit3
K14Gr Pit16	K 14	V 784		V 785			K14Gr Pit16
K14Gr Pit17	K 14	V 783		V 785			K14Gr Pit17
K14Gr Pit40	K 14	V 784		V 785			K14Gr Pit40
K14Gr Pit41	K 14	V 784		V 785		V 図版 50	K14Gr Pit41
K15Gr Pit5	K 15	V 784		V 785			K15Gr Pit5
K15Gr Pit36	K 15	V 784		V 785			K15Gr Pit36
K16Gr Pit1	K 16	V 784		V 785			K16Gr Pit1
K18Gr Pit2	K 18	V 784		V 785		IX 図版 50	K18Gr Pit2
L13Gr Pit1	L 13	V 786		V 785			L13Gr Pit1
L13Gr Pit3	L 13	V 786		V 785			L13Gr Pit3
L13Gr Pit7	L 13	V 786		V 785			L13Gr Pit7
L13Gr Pit17	L 13	V 786		V 785			L13Gr Pit17
L13Gr Pit22	L 13	V 786		V 785		IX 図版 50	L13Gr Pit22
L14Gr Pit5	L 14	V 786		V 785			L14Gr Pit5
L14Gr Pit15	L 14	V 786		V 785			L14Gr Pit15
L14Gr Pit17	L 14	V 786		V 785			L14Gr Pit17
L15Gr Pit36	L 15	V 786		V 785			L15Gr Pit36
L15Gr Pit25	L 15	V 786		V 785			L15Gr Pit25
L18Gr Pit8	L 18	V 786		V 785			L18Gr Pit8
M13Gr Pit1	M 13	V 786		V 785		IX 図版 50	M13Gr Pit1
M13Gr Pit2	M 13	V 786		V 785 787		IX 図版 50	M13Gr Pit2
M13Gr Pit5	M 13	V 786		V 787			M13Gr Pit5

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
M13Gr Pit6	M 13	V 786		V 787			M13Gr Pit6
M13Gr Pit8	M 13	V 788		V 787			M13Gr Pit8
M13Gr Pit23	M 13	V 788		V 787			M13Gr Pit23
M13Gr Pit31	M 13	V 788		V 787			M13Gr Pit31
M14Gr Pit12	M 14	V 788		V 787			M14Gr Pit12
M14Gr Pit25	M 14	V 788		V 787			M14Gr Pit25
M15Gr Pit10	M 15	V 788		V 787			M15Gr Pit10
M15Gr Pit15	M 15	V 788		V 787		IX 図版 50	M15Gr Pit15
M15Gr Pit24	M 15	V 788		V 787		IX 図版 51	M15Gr Pit24
M16Gr Pit2	M 16	V 788		V 787			M16Gr Pit2
M18Gr Pit16	M 18	V 788		V 787			M18Gr Pit16
M20Gr Pit8	M 20	V 788		V 787		IX 図版 51	M20Gr Pit8
N13Gr Pit4	N 13	V 788		V 787			N13Gr Pit4
N13Gr Pit6	N 13	V 788		V 787			N13Gr Pit6
N13Gr Pit14	N 13	V 788		V 787			N13Gr Pit14
N13Gr Pit15	N 13	V 788		V 787			N13Gr Pit15
N13Gr Pit20	N 13	V 789		V 791			N13Gr Pit20
N13Gr Pit27	N 13	V 789		V 791			N13Gr Pit27
N13Gr Pit31	N 13	V 789		V 791			N13Gr Pit31
N14Gr Pit2	N 14	V 789		V 791			N14Gr Pit2
N14Gr Pit4	N 14	V 789		V 791			N14Gr Pit4
N14Gr Pit17	N 14	V 789		V 791			N14Gr Pit17
N14Gr Pit62	N 14	V 789		V 791			N14Gr Pit62
N15Gr Pit3	N 15	V 789		V 791			N15Gr Pit3
N15Gr Pit4	N 15	V 789		V 791			N15Gr Pit4
N15Gr Pit15	N 15	V 789		V 791			N15Gr Pit15
N15Gr Pit24	N 15	V 789		V 791			N15Gr Pit24
N15Gr Pit26	N 15	V 789		V 791			N15Gr Pit26
N16Gr Pit3	N 16	V 790		V 791		IX 図版 51	N16Gr Pit3
N16Gr Pit4	N 16	V 790		V 791			N16Gr Pit4
N17Gr Pit20	N 17	V 790		V 791			N17Gr Pit20
N20Gr Pit6	N 20	V 790		V 791			N20Gr Pit6
O14Gr Pit4	O 14	V 790		V 791		IX 図版 115	O14Gr Pit4
O14Gr Pit28	O 14	V 790		V 791		IX 図版 115	O14Gr Pit28
O14Gr Pit45	O 14	V 790		V 793			O14Gr Pit45
O14Gr Pit48	O 14	V 790		V 793			O14Gr Pit48
O15Gr Pit3	O 15	V 790					O15Gr Pit3
O15Gr Pit16	O 15	V 790					O15Gr Pit16
O15Gr Pit20	O 15	V 790		V 793		IX 図版 51	O15Gr Pit20
O15Gr Pit22	O 15	V 790		V 793		IX 図版 51	O15Gr Pit22
O15Gr Pit28	O 15	V 790		V 793			O15Gr Pit28
O16Gr Pit14	O 16	V 790		V 793			O16Gr Pit14
O16Gr Pit16	O 16	V 790		V 793			O16Gr Pit16
O18Gr Pit3	O 18	V 790		V 793			O18Gr Pit3
P13Gr Pit3・4	P 13	V 790		V 793			P13Gr Pit3・4
P14Gr Pit1	P 14	V 792		V 793		IX 図版 51	P14Gr Pit1
P14Gr Pit19	P 14	V 792		V 793			P14Gr Pit19
P14Gr Pit29	P 14	V 792		V 793		IX 図版 51	P14Gr Pit29
P14Gr Pit38	P 14	V 792		V 793			P14Gr Pit38
P15Gr Pit1	P 15	V 792		V 793			P15Gr Pit1
P15Gr Pit3	P 15	V 792		V 793		IX 図版 115	P15Gr Pit3
P15Gr Pit4	P 15	V 792		V 795			P15Gr Pit4

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
P15Gr Pit6	P 15	V 792 X III 176		V 795 X III 176		IX 図版 51 X III 図版 75	P15Gr Pit6
P15Gr Pit9	P 15	V 792		V 795			P15Gr Pit9
P15Gr Pit11	P 15	V 792		V 795			P15Gr Pit11
P15Gr Pit14	P 15	V 792		V 795		IX 図版 51	P15Gr Pit14
P15Gr Pit19	P 15	V 792		V 795			P15Gr Pit19
P15Gr Pit20	P 15	V 792		V 795			P15Gr Pit20
P15Gr Pit28	P 15	V 792		V 795			P15Gr Pit28
P15Gr Pit29	P 15	V 794		V 795			P15Gr Pit29
P15Gr Pit70	P 15	V 794		V 795			P15Gr Pit70
Q13Gr Pit14	Q 13	V 794		V 797			Q13Gr Pit14
Q13Gr Pit17	Q 13	V 794		V 797			Q13Gr Pit17
Q14Gr Pit5	Q 14	V 794		V 797			Q14Gr Pit5
Q14Gr Pit46	Q 14	V 794		V 797			Q14Gr Pit46
Q15Gr Pit1	Q 15	V 794		V 797			Q15Gr Pit1
Q15Gr Pit16	Q 15	V 794		V 797			Q15Gr Pit16
Q15Gr Pit18	Q 15	V 794		V 797			Q15Gr Pit18
Q15Gr Pit25	Q 15	V 796		V 797			Q15Gr Pit25
Q15Gr Pit26	Q 15	V 796		V 797		IX 図版 52	Q15Gr Pit26
Q15Gr Pit27	Q 15	V 796		V 797			Q15Gr Pit27
Q16Gr Pit1	Q 16	V 796		V 797			Q16Gr Pit1
Q16Gr Pit11	Q 16	V 796		V 797		IX 図版 115	Q16Gr Pit11
Q16Gr Pit38	Q 16	V 796		V 797			Q16Gr Pit38
Q17Gr Pit1	Q 17	V 796		V 797			Q17Gr Pit1
Q17Gr Pit2	Q 17	V 796		V 797			Q17Gr Pit2
Q17Gr Pit9	Q 17	V 796		V 797			Q17Gr Pit9
R15Gr Pit4	R 15	V 796		V 798			R15Gr Pit4
R15Gr Pit15	R 15	V 796		V 798			R15Gr Pit15
R16Gr Pit5	R 16	V 796		V 798			R16Gr Pit5
R16Gr Pit22	R 16	V 796		V 798			R16Gr Pit22
R16Gr Pit31	R 16	V 796		V 798			R16Gr Pit31
R16Gr Pit35	R 16	V 796		V 798		IX 図版 52	R16Gr Pit35
S15Gr Pit3	S 15	V 796		V 798			S15Gr Pit3
S16Gr Pit4	S 16	V 796		V 798		IX 図版 52	S16Gr Pit4

#### 水路

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
水路	F~V 20~28	VI 406	VI 410~415	VI 430	VI 図版 68	VI 図版 149 172	

#### 河川跡

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
中央河川跡	B~U 15~29	IX 19	IX 25	IX 26~28 IX 263	IX 図版 1	IX 図版 52 53 IX 図版 99	
南河川跡	V~X 13~22	IX 29	IX 29		IX 図版 1		
河川跡		X I 121 X III 147 152 X III 155	X I 122~125	X I 126 X III 154 156 X III 157 158		IX 図版 42 43 X III 図版 64~67	

#### しがらみ状遺構

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
しがらみ状遺構	C~D 19	X I 108	X I 110~111		X I 図版 40		

堰跡

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
堰跡	C~F 20	VI 344 X III 159	VI 346	VI 359 X III 165 166	VI 図版 60~66	VI 図版 99~106 VI 図版 146~150 X III 図版 68 69	
第1号堰跡	G 21	X I 112 X III 159	X I 113		X I 図版 33		
第2号堰跡	O 25	X I 112 X III 159 166 X III 167	X I 115~116	X I 118	X I 図版 34	X I 図版 41~43	
第3号堰跡	O 25	X I 116	X I 119	X I 121	X I 図版 35	X I 図版 43	

畠跡

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
畠跡	ZW~ZY 21~24	X I 126	X I 130~131		X I 図版 36~37		

谷

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
谷		X III 167 171 X III 174 175		X III 170~174		X III 図版 70~74	

地鎮跡

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
地鎮跡		V 806		V 806	V 図版 50~51	IX 図版 52	

集石遺構

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
第1~6号集石遺構		IX 33	IX 36	IX 35	IX 図版 2~3		

土器集中地点

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
土器集中地点	R~S 15	IX 37	IX 121~122	IX 39~122	IX 図版 3	IX 図版 47 IX 図版 53~64 IX 図版 91 97 IX 図版 100 108 IX 図版 109 114 IX 図版 117	

不明遺構

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
不明遺構 第1号不明遺構 第3号不明遺構 第4号不明遺構				IX 241~243 IX 35 259 IX 268 IX 35 74 81 IX 44 45 47 IX 49 59 65 IX 67 68 73 IX 91		IX 図版 90 IX 図版 97 117	

遺構外出土遺物

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
遺構外出土遺物		VIII 125		VIII 127~129		VIII 図版 48 VIII 図版 55 56	

グリッド・表採

遺構名	位置(グリッド)	本文	遺構図	遺物図	遺構写真	遺物写真	発掘番号
グリッド・表採		IX 163 164 X III 177 180 X III 182		IX 185~265 X III 178~181		IX 図版 64~117 X III 図版 76~80	

ローマ数字=巻次  
算用数字=ページ数

## IV 遺構と遺物

### 1. 北島遺跡第19地点の概要

北島遺跡第19地点では、弥生時代から近世までの遺構、遺物を検出した。これらについては各時代ごとに既に報告がなされているが、以下では報告書を抄録する形で、一括して本地点の概要を述べることにする。

遺構の分布は、各時代を通じて概ね調査区北側に集中し、南側はやや薄い傾向がある。

概ね調査区東側は、古墳時代の方形周溝墓群、古墳群、北側から南側にかけて弥生時代中期から平安時代にわたる竪穴住居跡群、掘立柱建物跡群、溝跡群等、南側は、奈良・平安時代の道路跡と溝跡群が検出された。

調査区中央部は、弥生時代中期に第17地点水田に引水する水路が掘削され、古墳時代前期まで維持され、古墳時代後期以降埋没化が進行し、近世段階で完全に埋没したと推定された。

調査区の南西隅と北西隅にも河川跡を確認している。

#### 弥生時代中期

大型住居跡を含む住居跡群が密集し、掘立柱建物跡1棟が伴う。

竪穴住居跡は、主に調査区中央部から北よりに分布し、合計78軒検出された。

土壙は79基検出され、数箇所には纏まりをもっていた。土器棺については、屋内埋設と屋外単独埋設のものが検出されている。

その他溝跡6条は、水路沿いに走行する溝跡、河川跡と水路を区画する溝跡等が検出された。

北側河川跡が南側に蛇行する部分には、越流型の堰が設けられていた。この堰を起点として大型の水路が開削され、第17地点調査区の水路に繋がり、南側に検出された水田跡の取水路として利用されたと推定される。

調査区南西端に河川跡が確認されている。

木製品は、堰跡を中心に直柄斧、刳物容器、機織具、杭等が、第7号溝跡（新番号第423号溝跡）から膝柄斧、刳物台容器が出土しており、第286集『北島遺跡VI』、第291集『北島遺跡VII』で報告されている。

#### 古墳時代前期

検出された遺構は、竪穴住居跡153軒、方形周溝墓27基、土壙214基、木棺墓1基、溝跡110条、河川跡、堰跡、しがらみ状遺構、護岸跡、谷状遺構、堤跡、水田跡、畠跡などである。

竪穴住居跡の約半数（77軒）は、略方形に巡る区画溝（第464号溝跡）によって周囲を囲まれ、竪穴住居跡とほぼ同時期の大規模な方形周溝墓群が、河川跡を介して東側に存在する。

竪穴住居跡の分布範囲は、中央部河川跡で大きく東西に二分され、東側は4群、西側は2群に分けて考えられている。

弥生時代中期に開鑿された水路は、該期には水路として依然機能していたと考えられている。

本報告書に記載した木製品は、河川跡、堰跡、谷、第423、464、530～532号溝跡で出土した。

#### 古墳時代後期

調査区北東部の微高地上に南北126m、東西55mの比較的狭い範囲に8基の古墳跡が検出された。

古墳群の分布は、中央部に5基、その北側に単独で、また南側に2基の古墳が位置する。

古墳跡はいずれも墳丘部が削平され、主体部は、2基の古墳跡で礫層の基底部と考えられる円礫集中部分が検出された。墳丘規模は、古墳時代前期末葉の円（方）墳と考えられる8号墳以外は、墳丘径15～20mの円墳で、周溝に陸橋部を掘り残すものもある。

古墳の築造年代は、第7、8号墳を除き、6世紀前半を中心に築造されたものと想定された。

古墳時代後期の集落については、奈良・平安時代

も含めて、北島遺跡の調査区と竪穴住居跡の分布は、大きく四群に分けられ、第19地点は、南と北・西側を河川跡で限られ、東側は中央河川跡を挟んで中条古墳群が位置する集落群（第4群）と把握されている。

古墳時代後期から奈良・平安時代までの間に、六つの画期が設定され、古墳時代後期の集落が始まる6世紀第Ⅲ四半期は、第一の画期とされた。6世紀後半から7世紀第Ⅱ四半期にあたる第Ⅰ期は、竪穴住居跡3軒のみで構成される集落と把握された。北島遺跡の北には中条古墳群、東には中条大塚古墳などが形成された時期である。古墳時代前期（4世紀）からの空白を挟んで集落が営まれたものである。

#### 奈良・平安時代

奈良・平安時代から近世の遺構・遺物は、竪穴住居跡192軒、掘立柱建物跡78棟、井戸跡95基、土壇497基、溝跡442条、道路跡2条、地鎮跡1基、集石遺構1箇所、土器集積遺構1箇所であった。

竪穴住居跡は、調査区西側一帯と、東側の古墳群の隙間に集中的に構築されていた。水田域の広がる北側と南側、谷水田の広がる中央部に竪穴住居跡は見られなかった。

掘立柱建物跡77棟の分布は、調査区中央の谷部より西側に限られる。とくに調査区西側の区画溝によって区切られたブロックで集中的に建てられていた。竪穴住居跡・掘立柱建物跡とも7世紀前半から11世紀に及ぶ。

井戸跡95基の分布は、調査区全体にわたっているが、とくに調査区西側と古墳群の広がる調査区東側で集中的に確認され、調査区北側と南側では希薄である。

古代の井戸跡の分布は、調査区西側に限られていた。また中世の井戸跡は、調査区西側と古墳群の広がる調査区東側の2箇所に多く分布していた。

土壇は中世を含めて、497基検出した。調査区全体にわたって分布が認められ、とくに調査区西側に集中していた。調査区の東側や、北側と南側、さら

に谷水田の広がる中央部では、希薄である。

平面形は、円形（87基）・楕円形（103基）・長楕円形（24基）・方形（33基）・長方形（101基）・不整形（73基）等がある。

溝跡は442条である。機能的には区画溝、溜池用水路、耕作痕跡、道路などの溝用排水路等の溝跡がある。

調査区西側の区画溝は、奈良時代の建物群や平安時代の建物群を区画していた。平安時代の区画溝は、二重の溝でやや歪んだ方形をなし、東には二箇所の開口部があり、北側は、冠木門か棟木門、南側は、四脚門が想定された。

ピットは調査区全体にわたって認められ、とくに竪穴住居跡や掘立柱建物跡が、密集する調査区西側に集中していた。

その他地鎮跡1基を検出した。

河川跡は2条で、一条は、調査区中央を北から南へ延びる河川跡であり、もう一条は、調査区の南端に確認した東西に延びる河川跡である。

中央の河川跡は、6世紀第Ⅳ四半期以降、調査区の中央付近に土器集中出土地点が形成され、10世紀前半までの遺物を確認できた。また南側には、二箇所の窪地があるが、これは7世紀後半に開析され、10世紀前半まで開析谷として存在し、浅間山B軽石降下直前になると、水田化したと想定される。

調査区南西隅の河川跡の北側には、近接して東西に伸びる道路跡を検出した。

集石遺構は、調査区の中央やや南よりに、6箇所確認した。集石遺構の中には、土器片・獣骨（牛及び馬の歯）が混じって出土している。

本報告書に記載した木製品が出土した遺構は、第160号土壇と第24号溝跡である。

またQ16グリッド出土の笠は、第304集『北島遺跡XⅡ』に記載した。

その他の木製品は、曲物、柄杓、木札、糸巻、鎌、建築材、案、下駄、板状加工材、井戸枠があるが、第293集『北島遺跡Ⅸ』で既に報告されている。

## 中世

中世の遺構は、井戸跡・土壇・溝跡などが検出された。

掘立柱建物跡として確実に認識できるものは、検出できなかったが、多数のピットが検出されている。

井戸跡は、68基検出した。西側台地の南部に45基を集中して検出した。また東側台地の古墳群内に16基、調査区北側に3基、西側台地の南側に3基検出した。

溝跡は11条である。第81、84号溝跡は、掘削当初に古墳の墳丘が、存在していた可能性が高く、溝跡が、墳丘や周溝を巧みに避けている点を考慮すると、中世後半段階までは、墳丘が目視できる状況であったと推定される。

その他山吹双鳥鏡を出土した土壇墓がある。

木製品は、曲物、柄杓、漆椀、横槌があり、主に井戸跡、包含層から出土している。第293集『北島遺跡IX』で報告済みである。

## 近世

近世の遺構は、溝跡、土壇等などが検出された。

土壇は、調査区中央、埋没した中央河川跡の南支

谷と西支谷の直上に22基検出された。浅間山A軽石層を切って構築されたことから、18世紀後葉以降と考えられる。また南河川跡の肩部にも同様の土壇6基を検出した。

近世の溝跡は、調査区南半に第200号溝跡、その北側に第225号溝跡、南側に第257号溝跡が掘削された。第200号溝跡では、塚樋跡を確認したが、出土遺物から19世紀中葉の年代が考えられている。

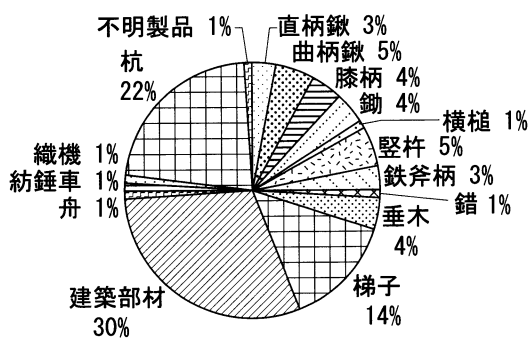
第322、324号溝跡は、第200号溝跡とともに道路跡の可能性が指摘されている。

その他第55号溝跡、第315号溝跡がある。

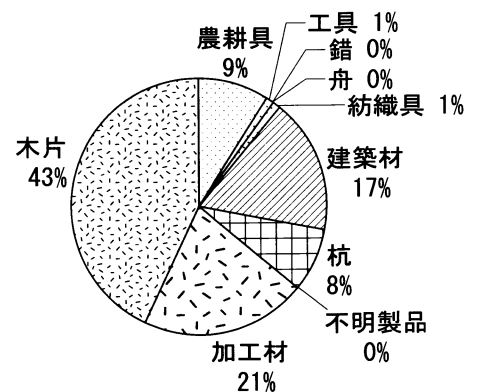
木製品は曲物、桶、下駄、漆椀、板状加工材がある。主に第200号溝跡、塚樋跡から出土している。第293集『北島遺跡IX』で既に報告されている。

以上、弥生時代から近世まで、検出された遺構について概観した。

本報告で収載する木製品が出土した各遺構と、木製品以外の出土遺物については、第293集『北島遺跡IX』、第302集『北島遺跡X』、第303集『北島遺跡XI』に詳述してあるが、必要な範囲で以下に抄録する。



第8図 第423号溝跡出土木製遺物構成



第9図 第423号溝跡出土木製品構成





第 10 図 溝跡全体図

## 2. 古墳時代

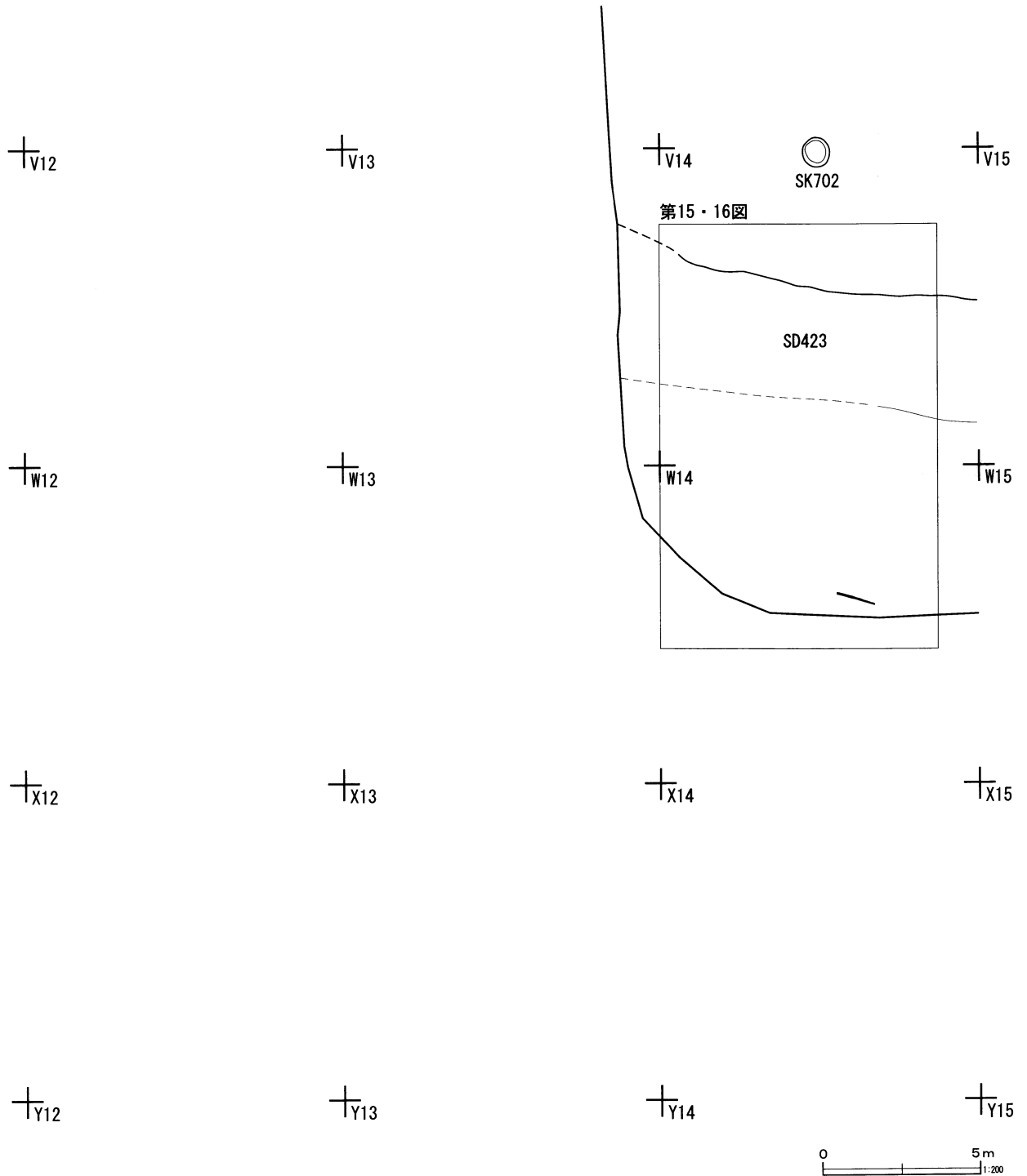
### (1) 溝跡

#### 第423・530号溝跡 (第18~35図)

本報告で「第423号溝跡」とした遺構は、第286集『北島遺跡VI』で「第7号溝」(河川跡と判断された)、第278集『北島遺跡V』で「河川跡」、第292集『北島遺跡VIII/田谷』、第293集『北島遺跡IX』で「南河川跡」

と呼称された遺構である。

弥生時代中期の調査は、V・W15グリッド半ば以西に留まり、以東部分は古墳時代前期の面まで掘り下げた段階で終了した。



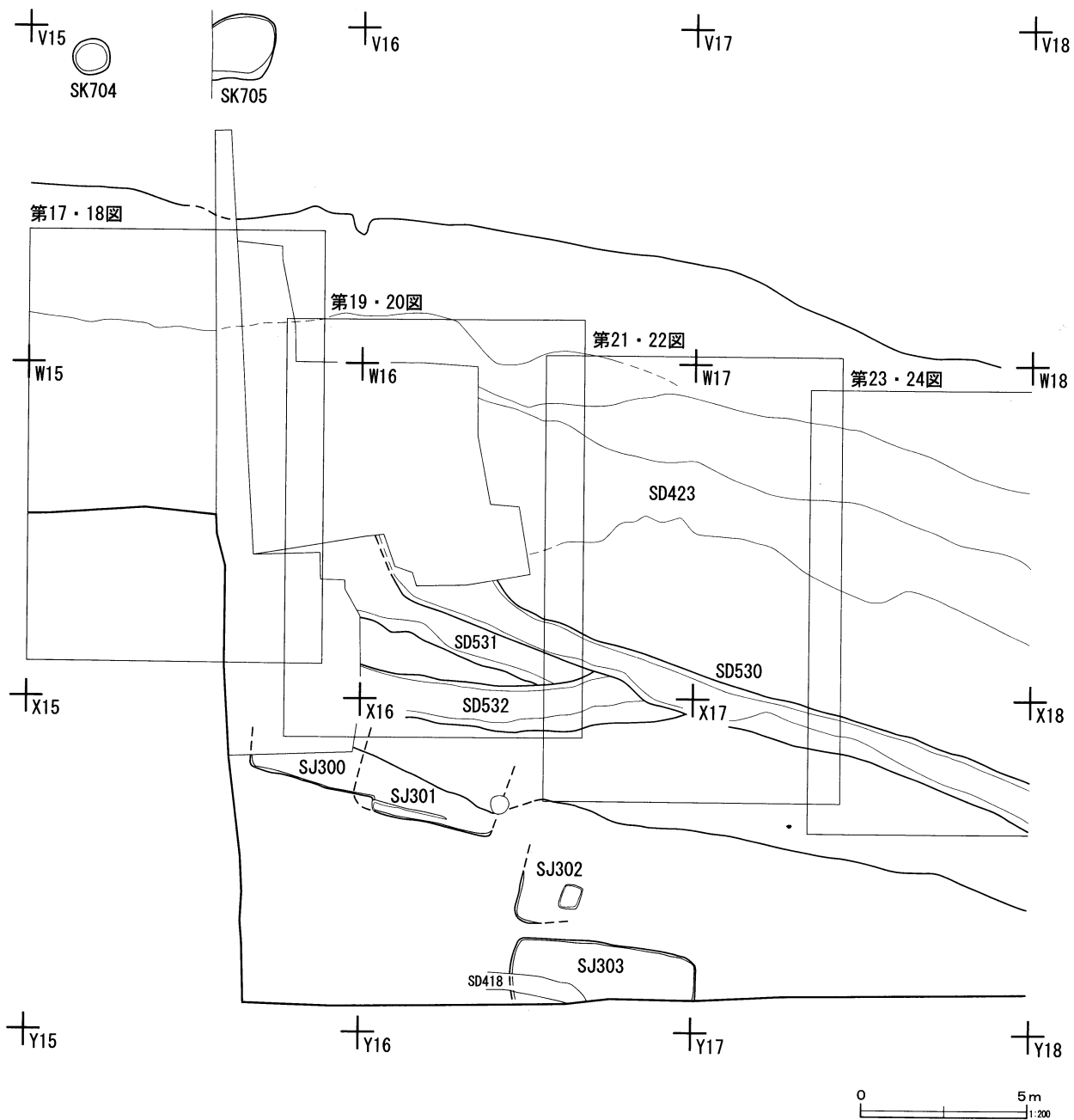
第 11 図 第423号溝跡区割図 (1)

弥生時代中期段階では、底面の浸食は認められずほぼ直線的に流水し、河畔部の傾斜も緩い。川幅は、上幅で推定20m前後と考えられ、走行方向はN-70°-Wである。

弥生時代中期の「出土遺物は、河畔部堆積土層中に、大型の幹木の両端部を切断し、河畔部傾斜面に垂直に並べられた状態で出土した。これらの、大型材は樹皮が剥がされており、枝が打ち払われていた。

打ち払われた枝は、周囲に散乱した状況で出土した。この大型材のまともりは調査範囲内で2箇所認められた。また、付近から多量の炭化物が散布していた箇所が認められその周囲から甕及び壺が纏まって出土し、他に膝柄斧が出土した。

古墳時代前期には本溝跡（第423号溝跡）の南側に、第530号溝跡と第531・532号溝跡が並行して掘削される。また東端部X21グリッド付近で第315号



第 12 図 第423号溝跡区割図（2）

溝跡によって切られる。規模は、検出長約86.9m、幅7.2~9.3mを測る。走向方位は、N-74°-Wを指す。

第530号溝跡は、検出長約34.5m、幅1.00~2.10mを測る。断面は逆台形を呈し、確認面からの深さは0.20~0.32mほどである。走向方位は、N-71°-Wを指す。

なお第531・532号溝跡から木製品の出土は無かった。概要は、第531号溝跡が検出長約6.0m、幅0.90~1.12mを測る。断面は逆台形を呈し、確認面からの深さは0.34~0.37mほどである。走向方位は、N-68°-Wを指す。

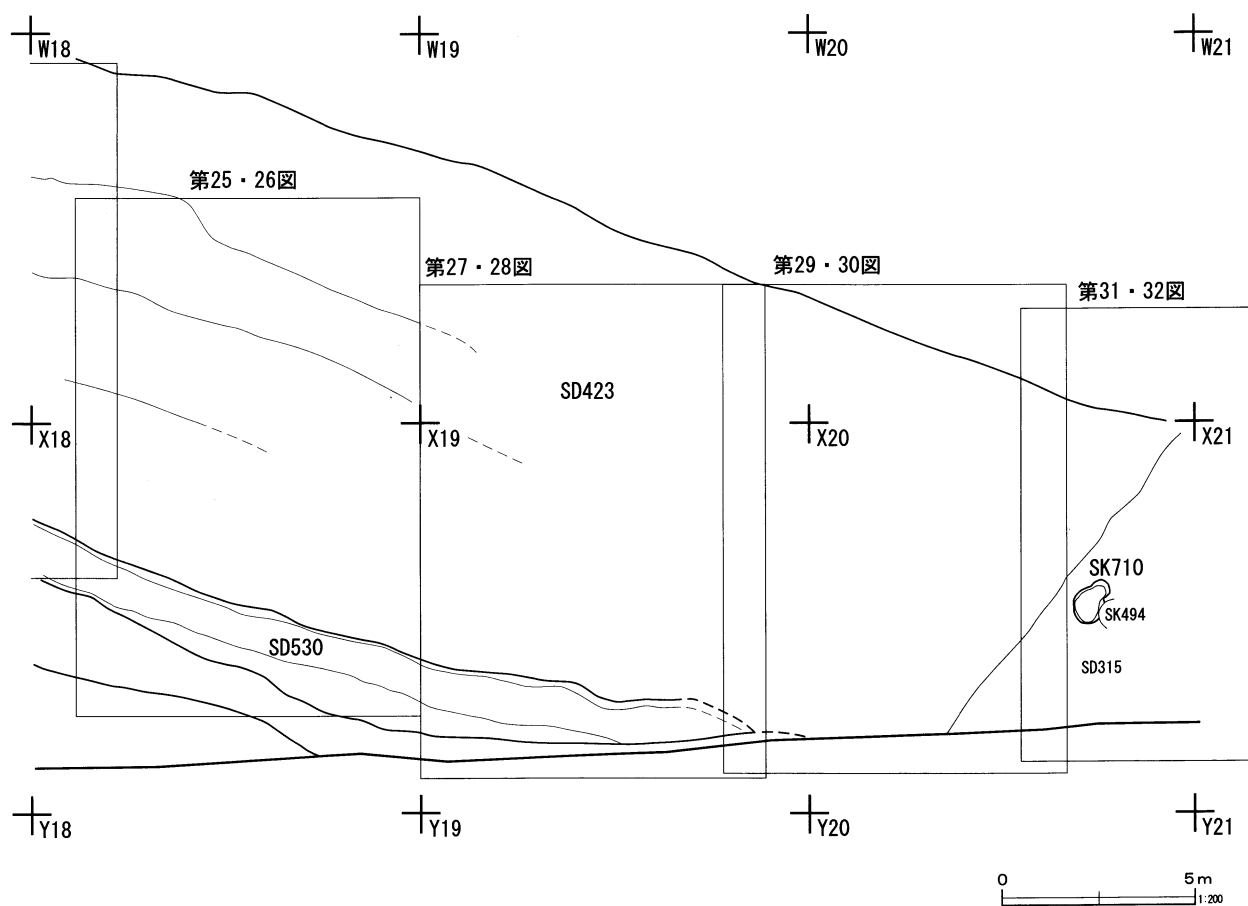
第532号溝跡は、検出長約8.5m、幅1.30~1.60mを測る。断面は逆三角形を呈し、確認面からの深さは0.61~0.69mほどである。

埋土の状況と出土遺物を考慮すると、第530号溝跡の掘削が行われた段階で第423号溝跡の埋没は始まっていたが、河川ないし水路としての機能は継続していたと推測された。また第530号溝跡埋没後、榛名山ニツ岳の火山灰（FA）が確認されている。

出土遺物は、壺、甕、高坏、器台、鉢、椀等がある。

第423号溝跡からは、多量の木製品・木片が出土した。鋤・鍬・竖杵等の農耕具、織機、槽、梯子、板材等の建築材、加工材や弓・舟等がある。

出土状態は、溝跡から満遍なく出土しているが、W~X18グリッド付近がやや疎らな出土となっている。また流水方向に沿ったためか、西端部付近では、溝跡底面から浮いた状態で出土したものが多く、東端部では底面直上は少ないが、僅かに浮いた状態で



第 13 図 第423号溝跡区割図 (3)

出土しているものが多い。

西端部では、身と柄が装着した状態の鍬が、底面から15cm前後浮いた状態で出土した。周辺部は加工材が多いが、概ね軸方向が流水方向に沿ったものとなっている。

W16グリッド付近では、大形の自然木周辺に堰き止められたような状態で、多量の木製品が出土している。器種は大形の杭、板材、加工材が多いが、梯子、斧柄、竪杵も出土している。溝跡底面付近の出土が多い。

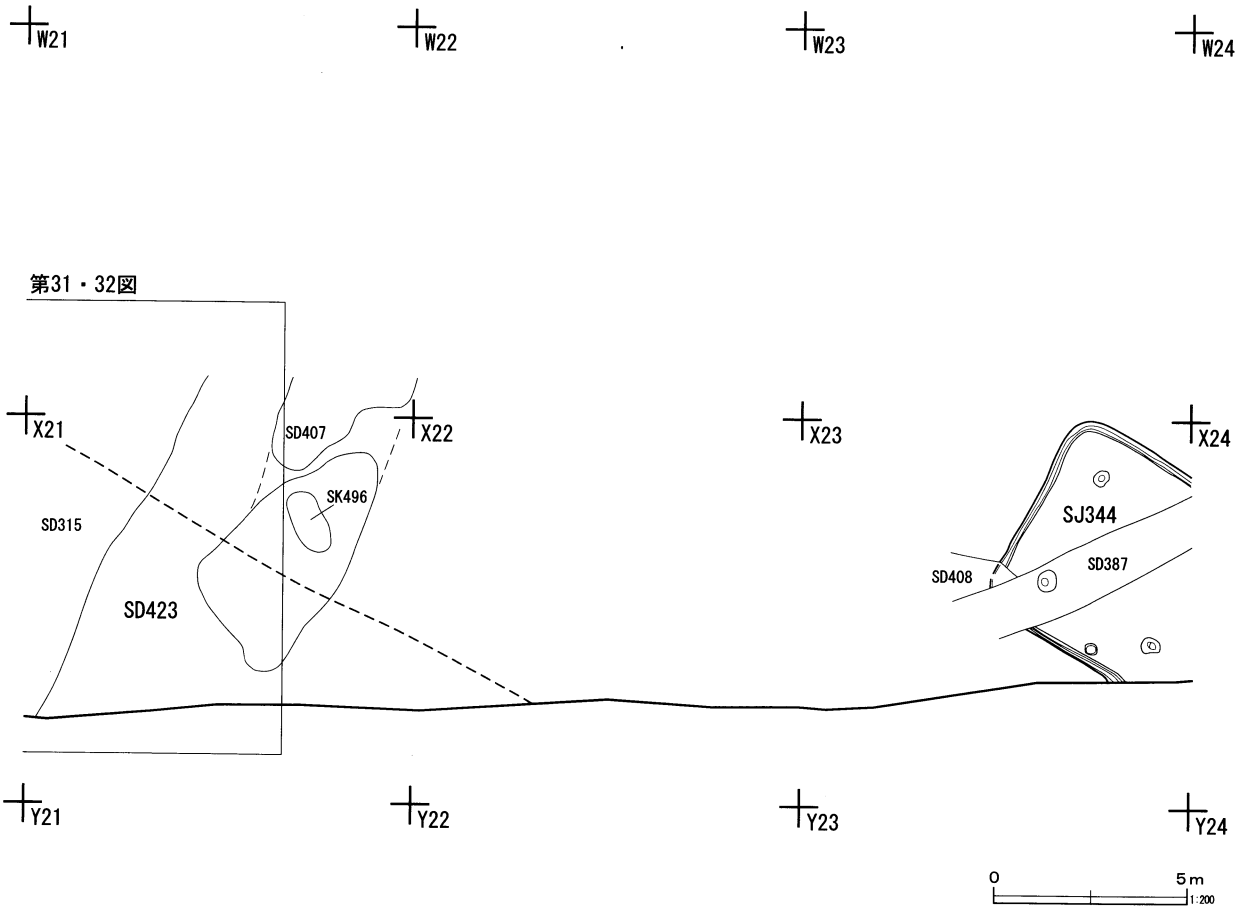
W～X17グリッドの東半部付近でも大形の自然木があり、W16グリッド付近と若干相違しており、軸が流水方向に直行するような出土状態を示すものが見受けられる。木製品は杭、板材、加工材が多く、その他梯子が溝跡底面付近から出土している。小型

の鍬は、身と柄の上端部が装着した状態で出土した。溝跡底面近く傾斜に沿うように出土しているものが多い。

X19～20グリッド周辺部では、概して長さのある木製品が出土しているが、軸が流水方向に沿うものと直行するものが、相半ばするような状態である。またX20グリッド周辺では、径の細い材が顕著である。

器種は杭、板材、加工材が多いが、梯子、垂木などの建築材、斧柄、鋤柄、鍬身、二又鍬、竪杵などの農耕具も出土している。概ね底面直上ないしやや浮いた状態で出土している。

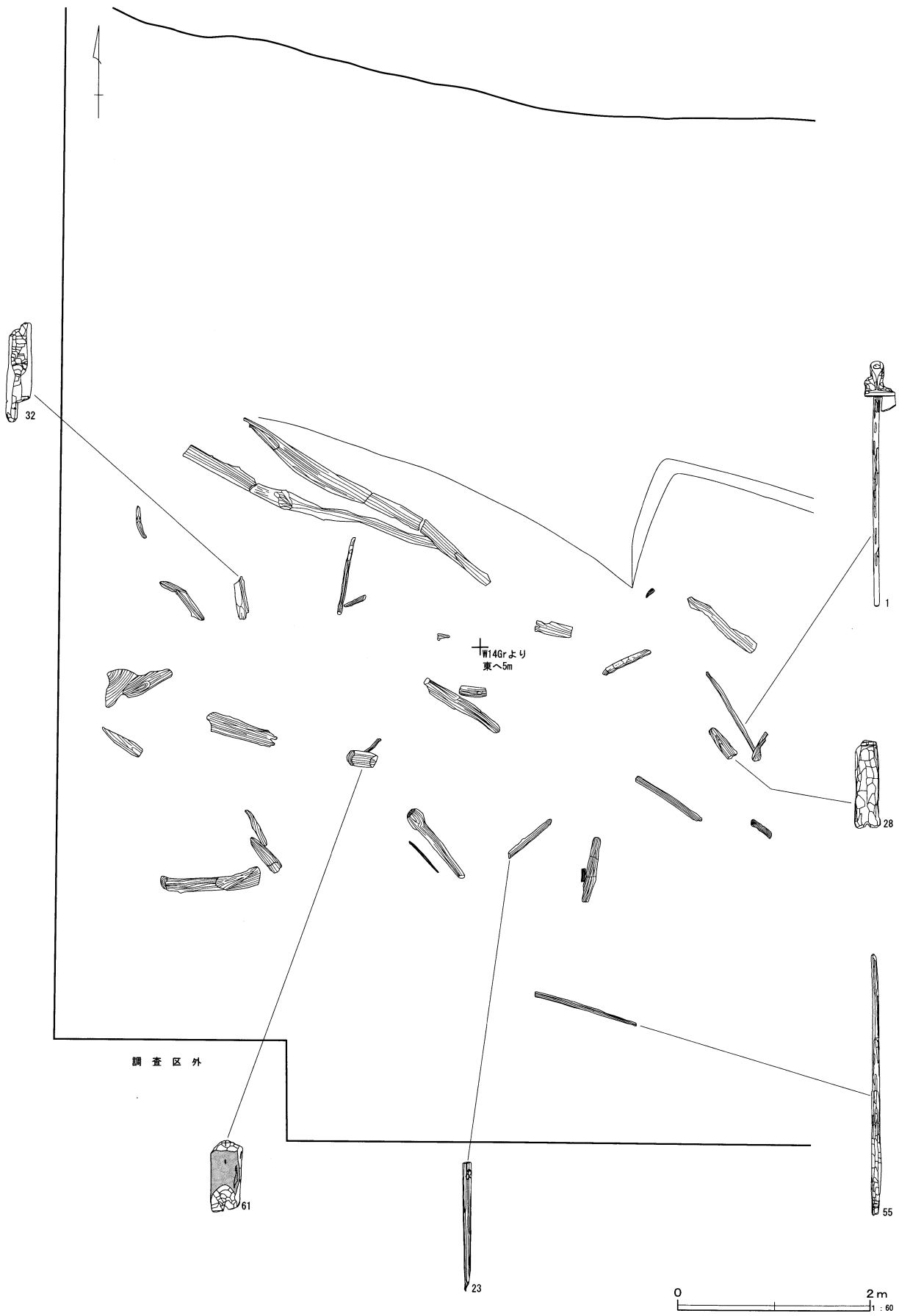
東端部X21グリッド付近は出土がやや疎らとなる。器種は、杭、加工材が出土している。



第 14 図 第423号溝跡区割図 (4)



第 15 図 第423号溝跡遺物出土状況 (1)



第 16 図 第423号溝跡遺物出土状況 (2)



第 17 図 第423号溝跡遺物出土状況 (3)





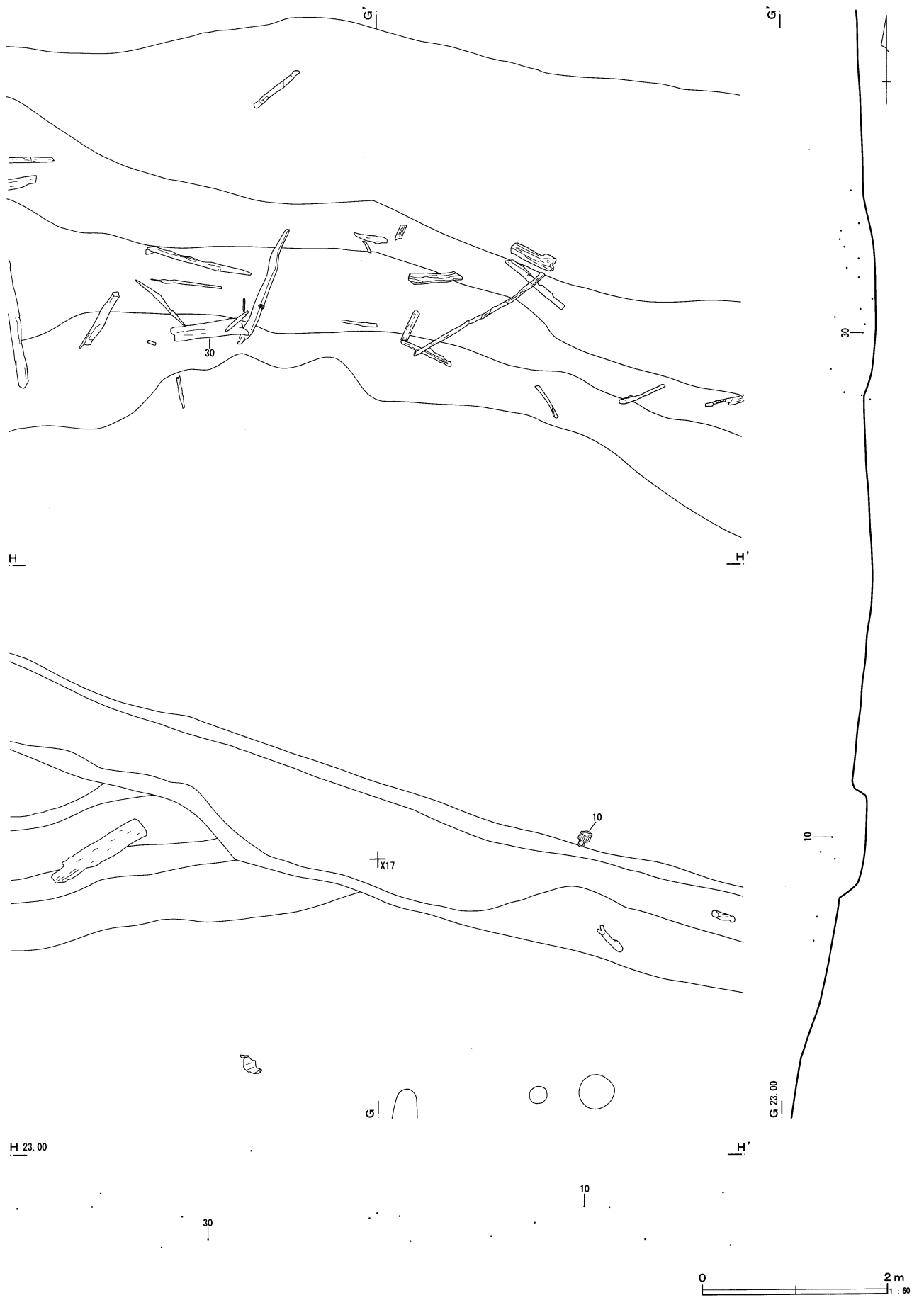
第 18 図 第423号溝跡遺物出土状況 (4)



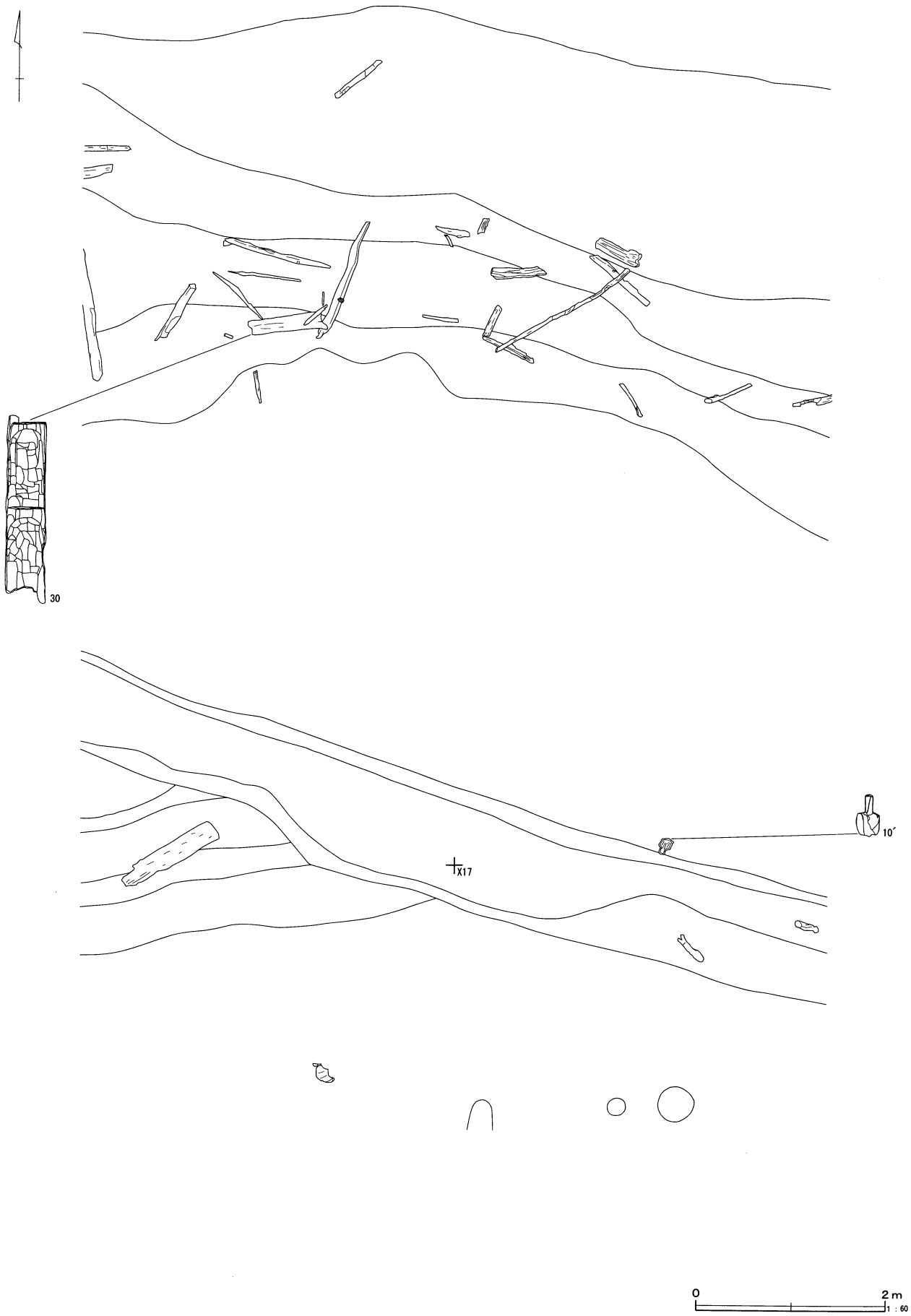
第 19 図 第423号溝跡遺物出土状況 (5)



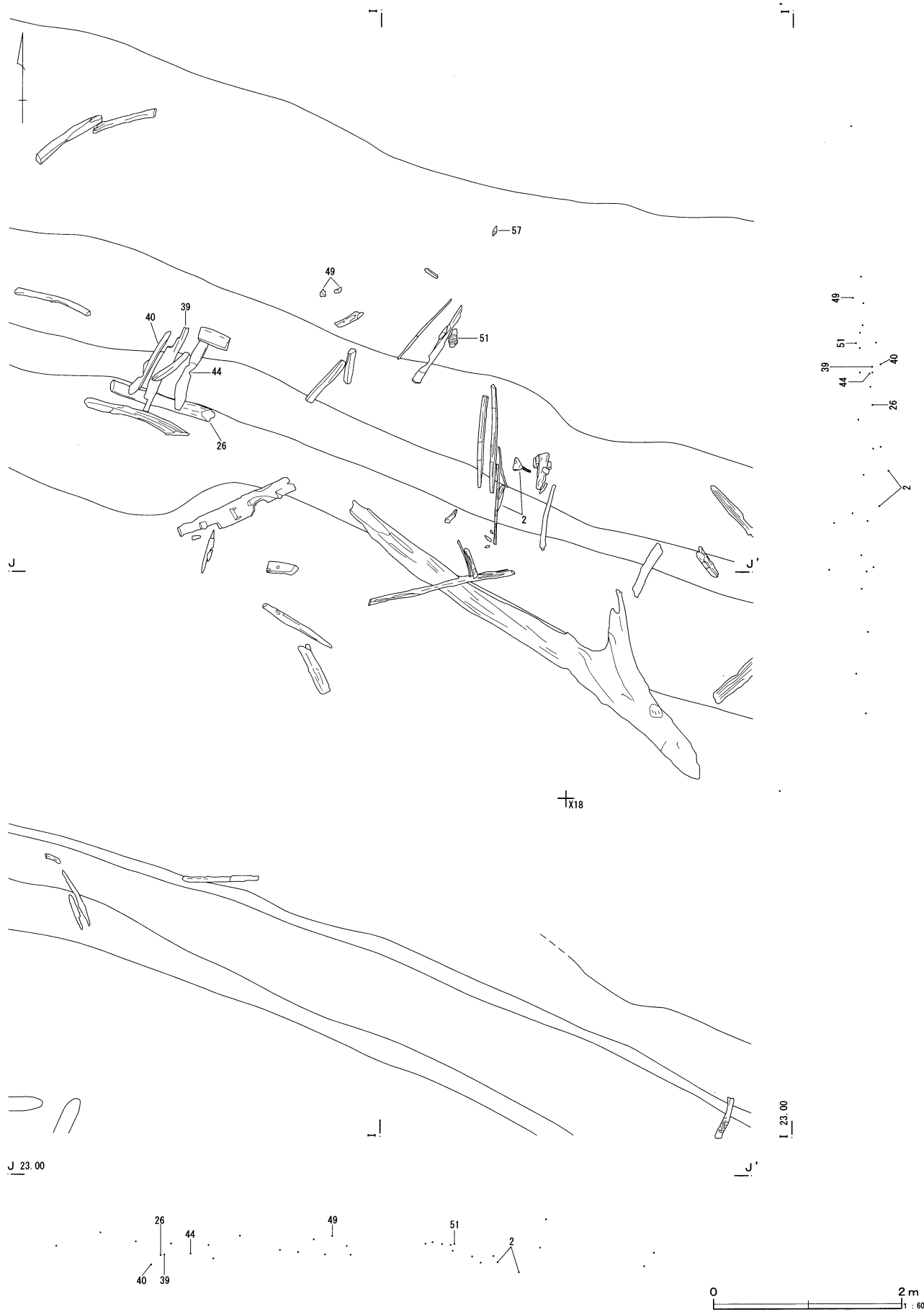
第 20 图 第423号溝跡遺物出土状況 (6)



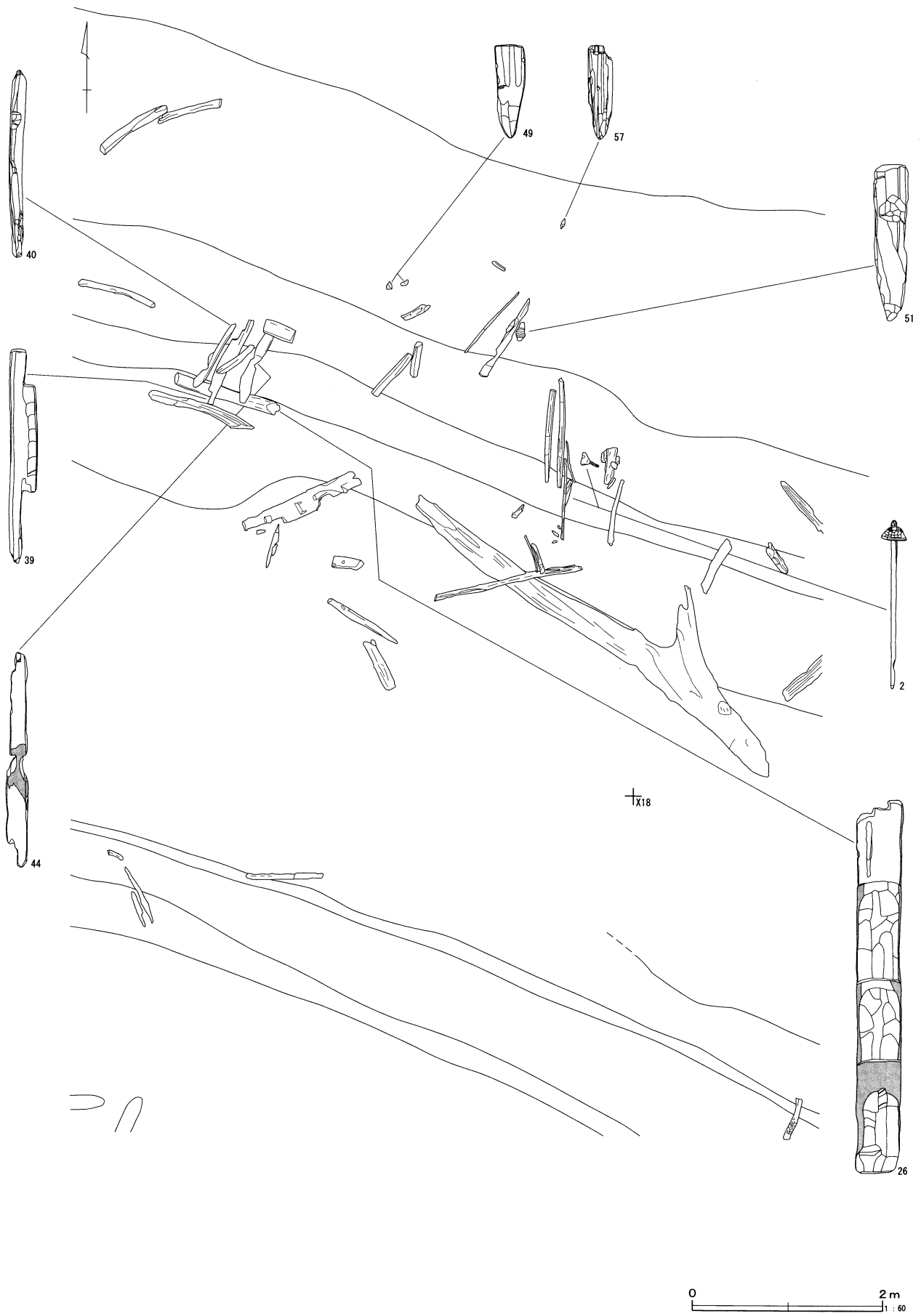
第 21 図 第423号溝跡遺物出土状況 (7)



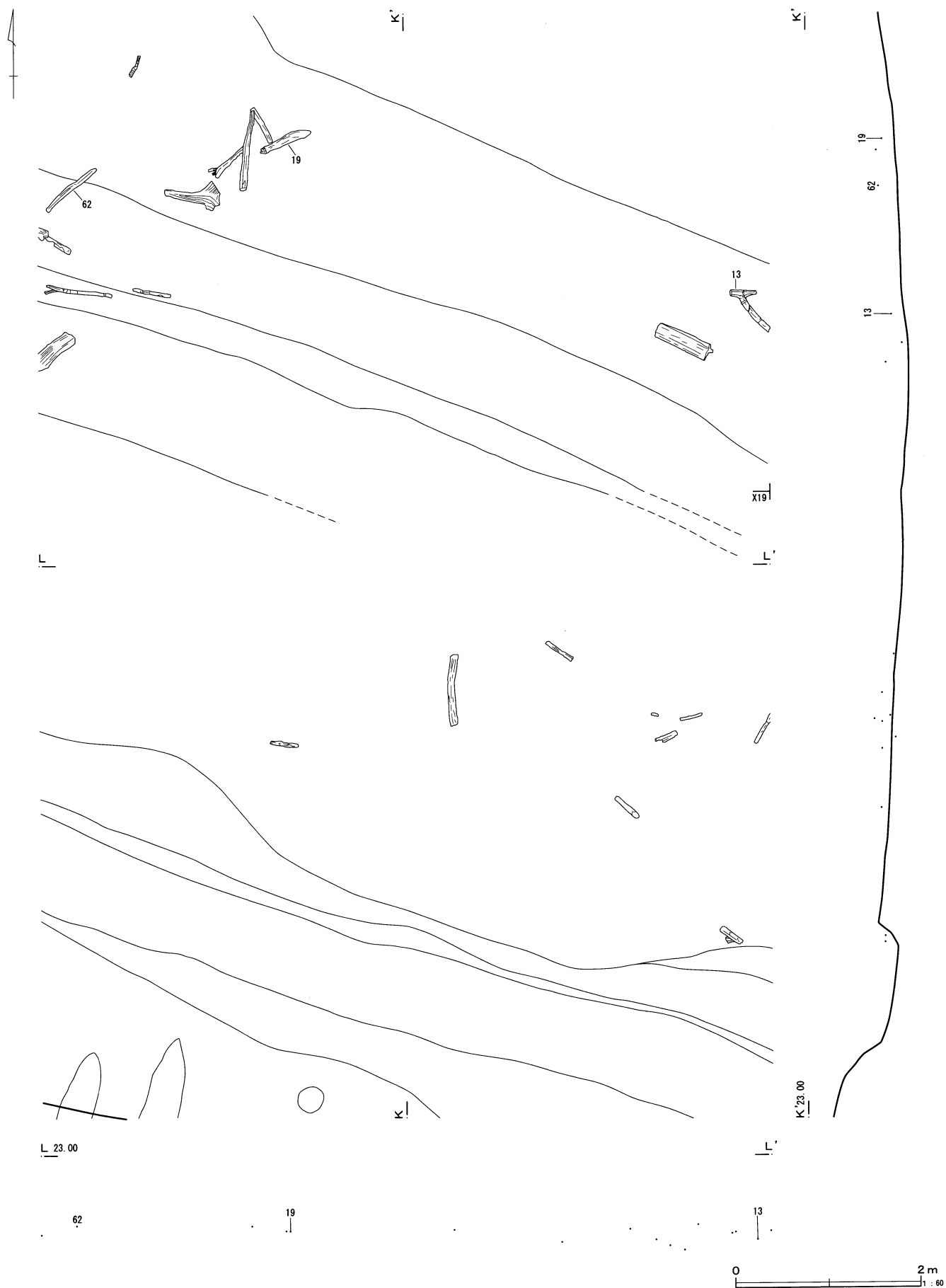
第 22 図 第423号溝跡遺物出土状況 (8)



第 23 図 第423号溝跡遺物出土状況 (9)

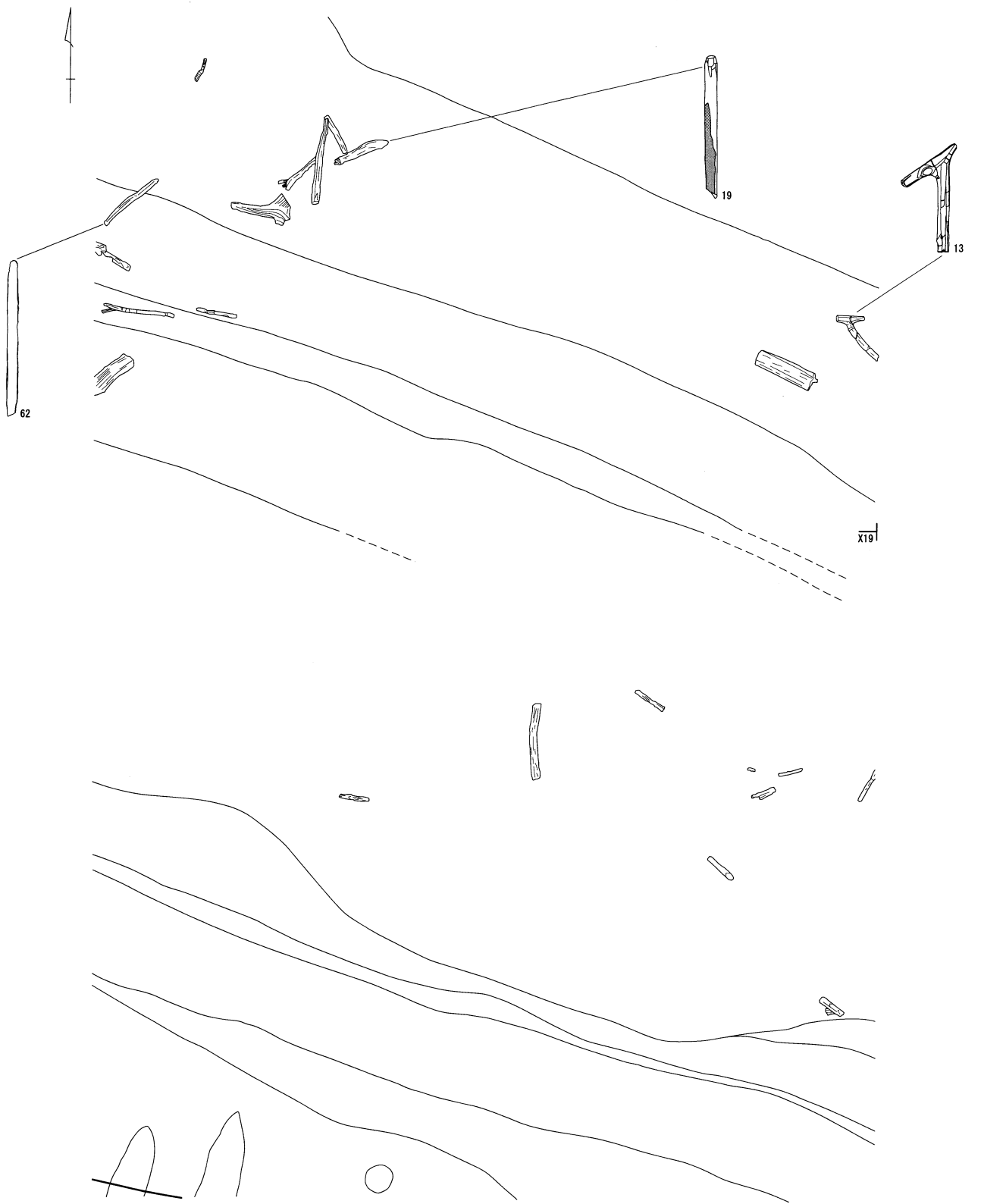


第 24 图 第423号沟迹遗物出土状况 (10)



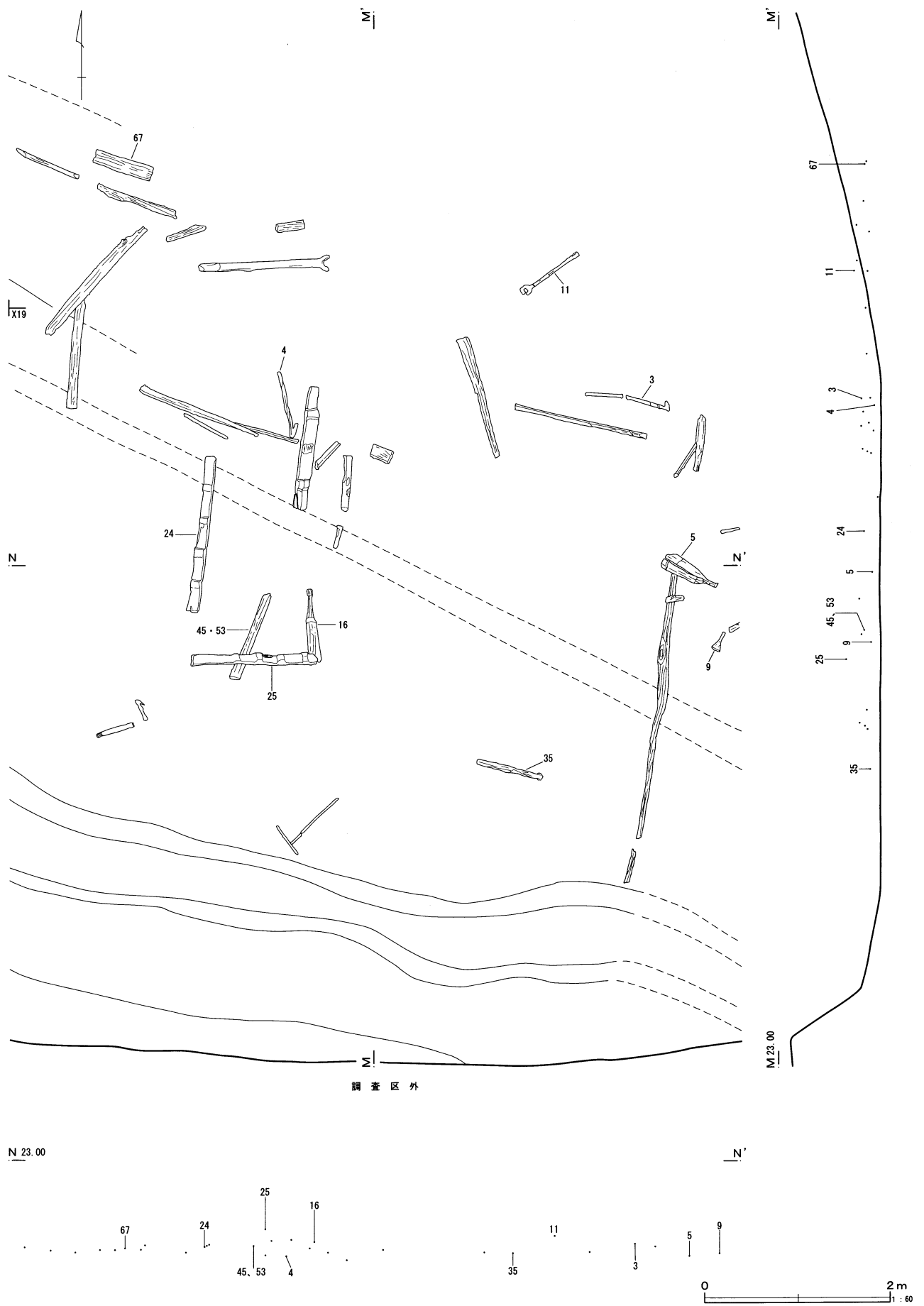
第 25 図 第423号溝跡遺物出土状況 (11)



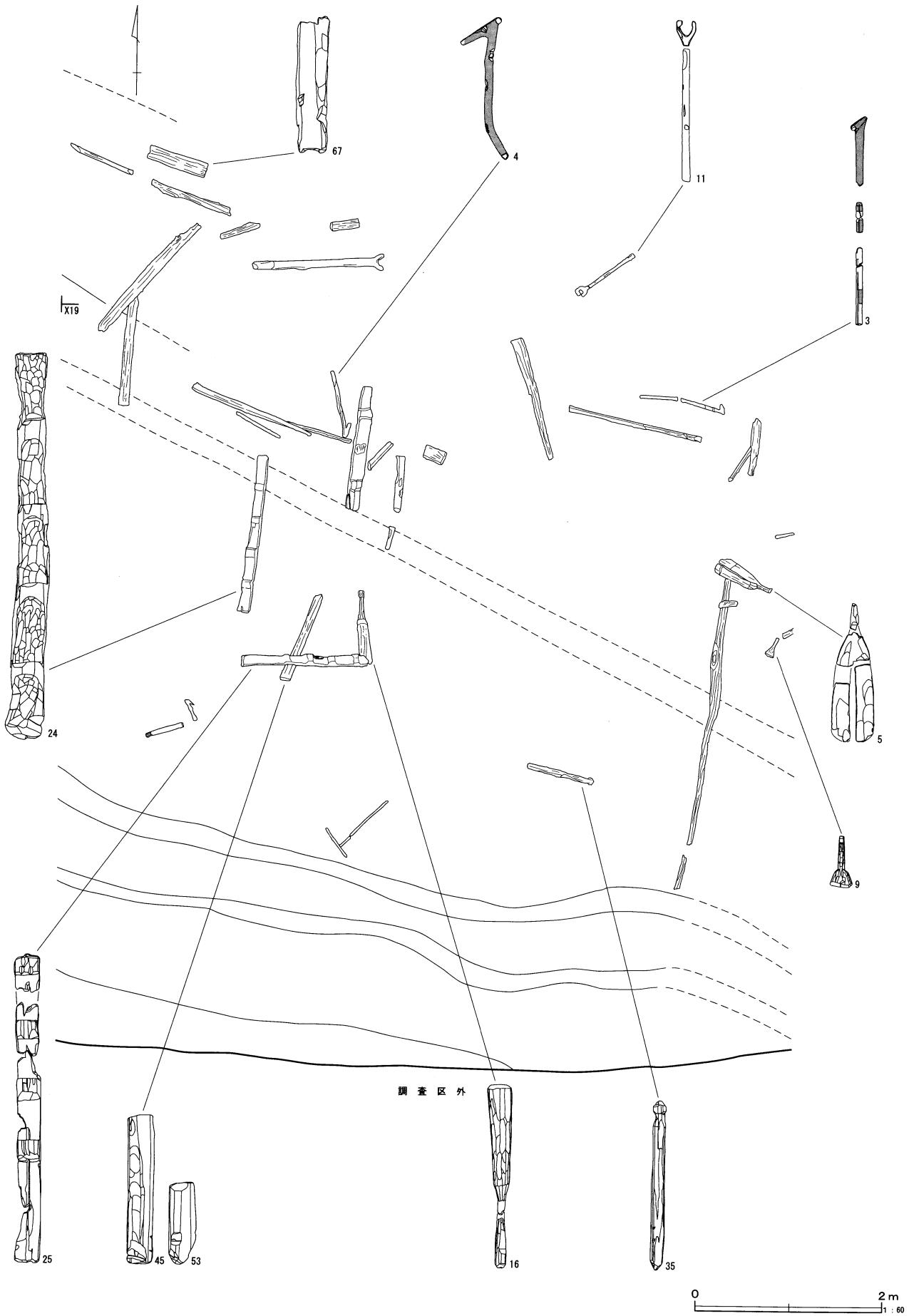


第 26 图 第423号沟迹遗物出土状况 (12)

0 2m  
1:60



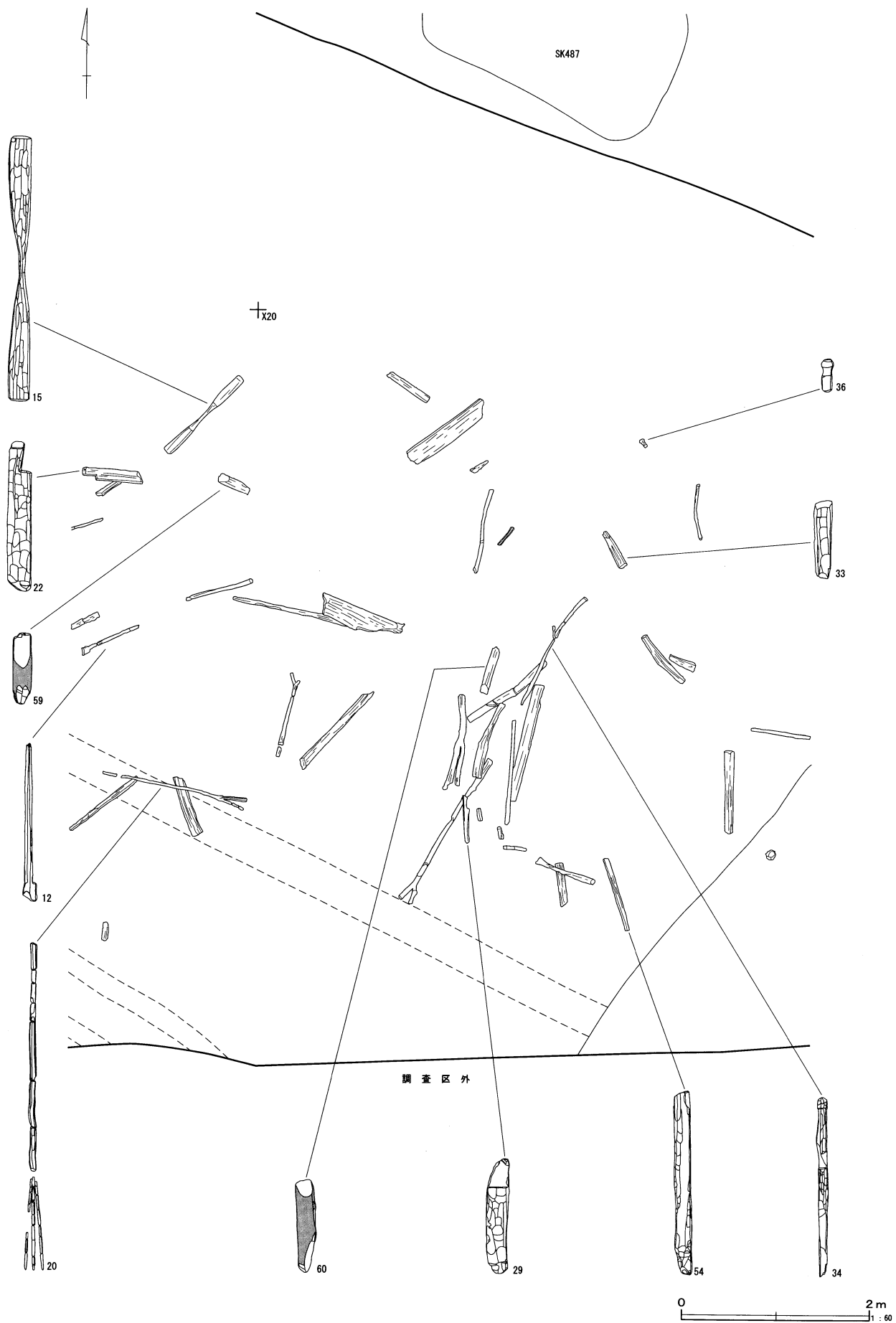
第 27 図 第423号溝跡遺物出土状況 (13)



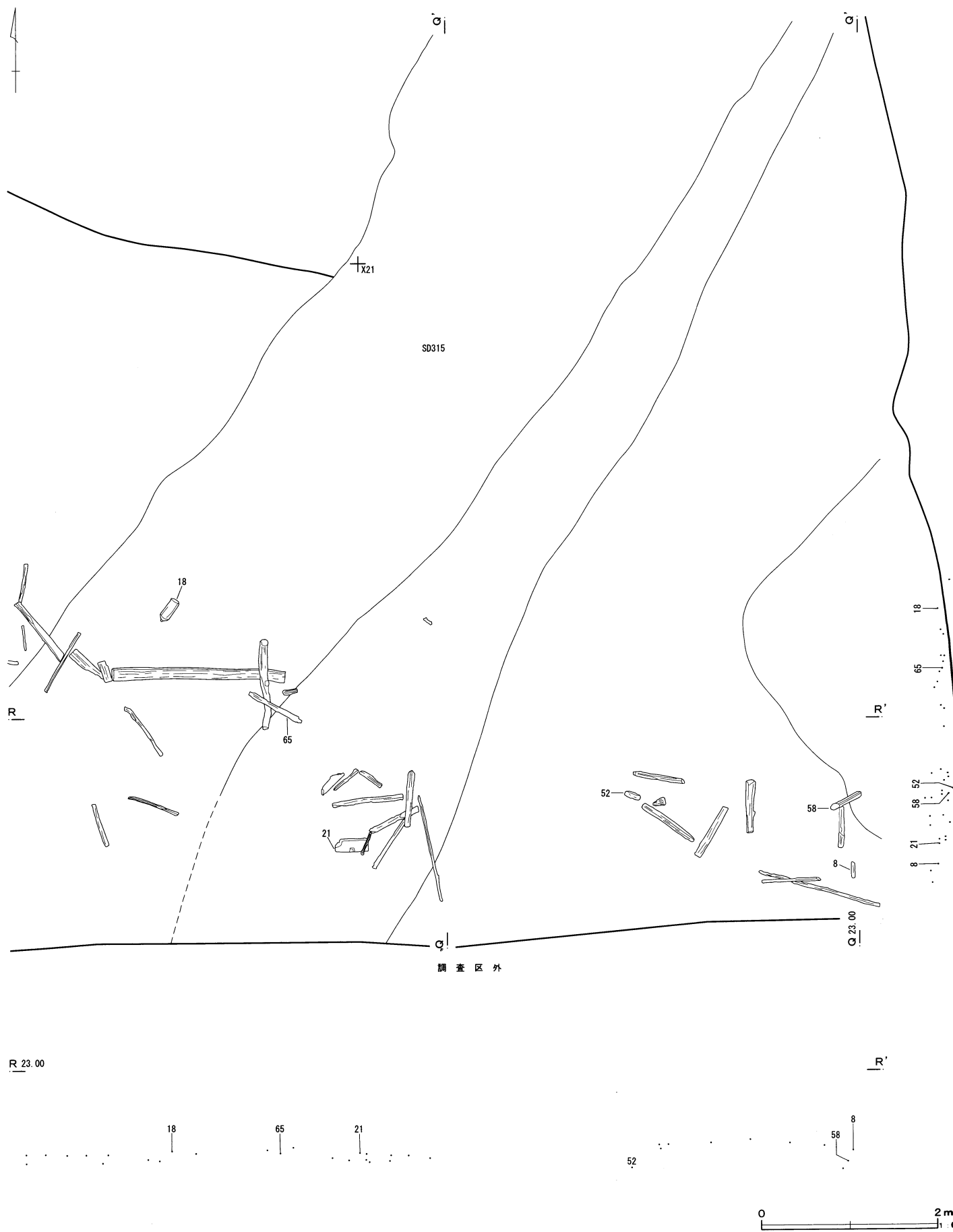
第 28 図 第423号溝跡遺物出土状況 (14)



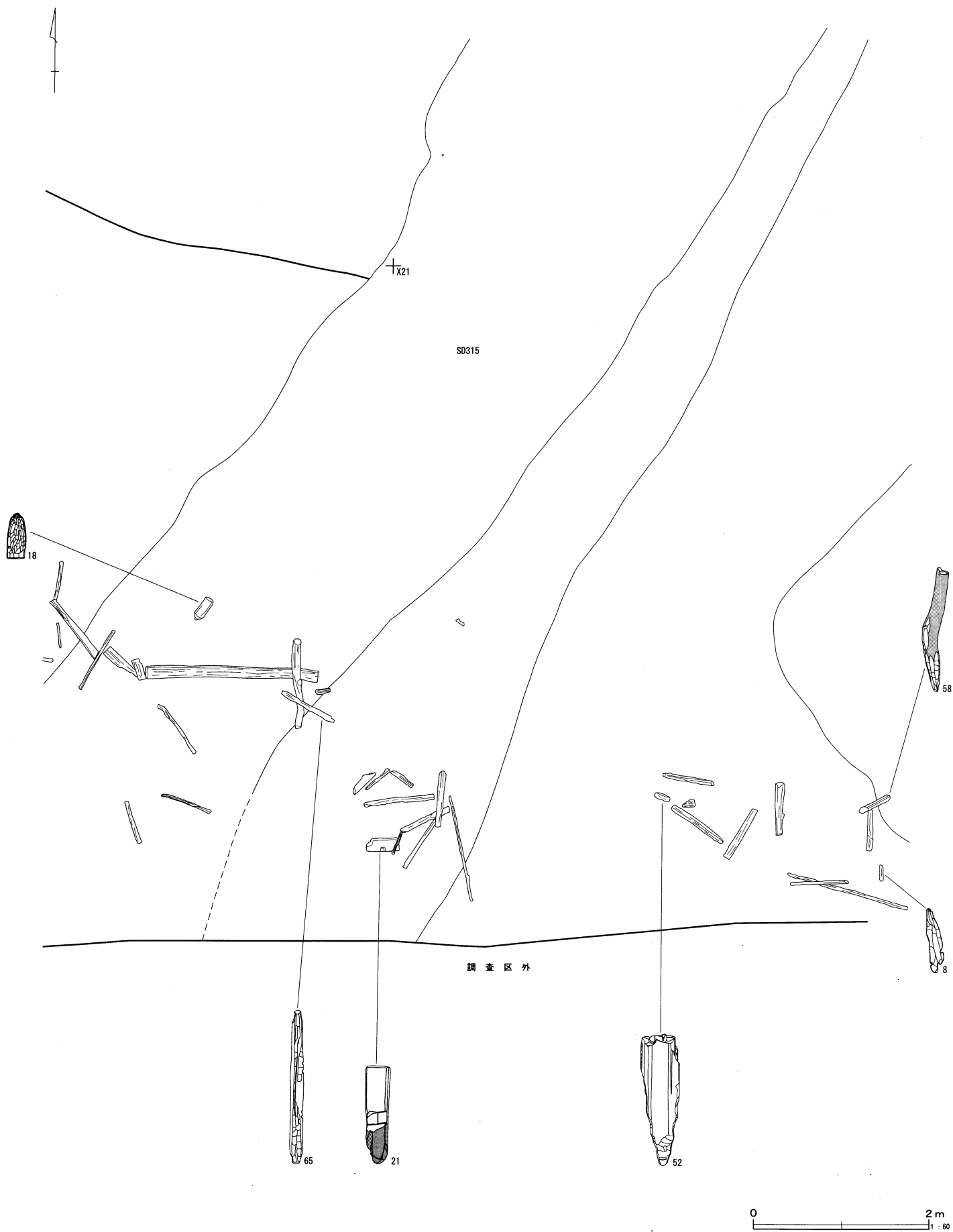
第 29 図 第423号溝跡遺物出土状況 (15)



第 30 図 第423号溝跡遺物出土状況 (16)



第 31 図 第423号溝跡遺物出土状況 (17)



第 32 図 第423号溝跡遺物出土状況 (18)

出土木製品を第33～60図に示す。

1は農耕具の鍬である。身と柄が装着した状態で、W14グリッドにおいて出土した。身の全長は32.6cm、残存幅は13.2cmで、柄の全長は104.1cm、幅は2.7cmである。

身は、身幅が15cm以上の広鍬である。身の上部には「逆T字状隆起」が作られる。隆起の下端に平坦な面が作られ、刃先と頭部を分ける明瞭な段差が作られる。頭部の両側面に耳状の造りだしがある。隆起の中心に径3.2cmの柄穴が穿たれる。柄は芯持ち材を削り出したもので、柄には加工の痕跡がまばらに見られる。外形は直線的である。柄の上端は有頭状に削り出され、下端は丸みを帯びている。断面形は円形を呈する。身と柄の着柄角度は53°である。

2は農耕具の小型鍬である。身と柄が装着した状態で、W17グリッドにおいて出土した。身の全長は13.8cm、幅は10.2cmで、柄の残存長は71.5cm、幅は2.5cmである。

身の上部に円形の柄穴が穿たれる。柄穴は長さ3.3cm、幅は3.6cmである。身の前面は平坦である。後面は上部が厚く、刃先に向かって薄くなる。刃先は前面・後面から斜めに削り落とされ、二面に作られる。柄は芯持ち材を使用したもので、断面形は円形を呈する。上端を有頭状に削り出す。身・柄の一部には被熱の痕跡が見られる。身と柄の着柄角度は66.5°である。

3は農耕具の鍬の柄で膝柄である。X19グリッド

において出土した。残存長は90.0cmで、身の装着面の幅は3.6cm、握りの幅は2.8cmである。枝・幹の部分を使用して作られたものである。身との装着面のみ被熱後の整形がみられる。下端部は平坦ではなくやや突出しており、丸みを帯びている。身の装着面は平坦に作られる。身の接着面が幅ぜまでである。身と柄の着柄角度は54°である。

4は農耕具の鍬の柄で膝柄である。X19グリッドにおいて出土した。残存長は61.6cmである。身の装着面の幅は4.4cmで、握りの幅は3.4cmである。枝・幹を利用して作られたものである。身との装着面を平坦に削り、紐がけの部分の削り出す。装着面以外に加工は施されない。握りの断面形は円形で、身との接着面の断面形は半円形である。身との着柄角度は55°である。

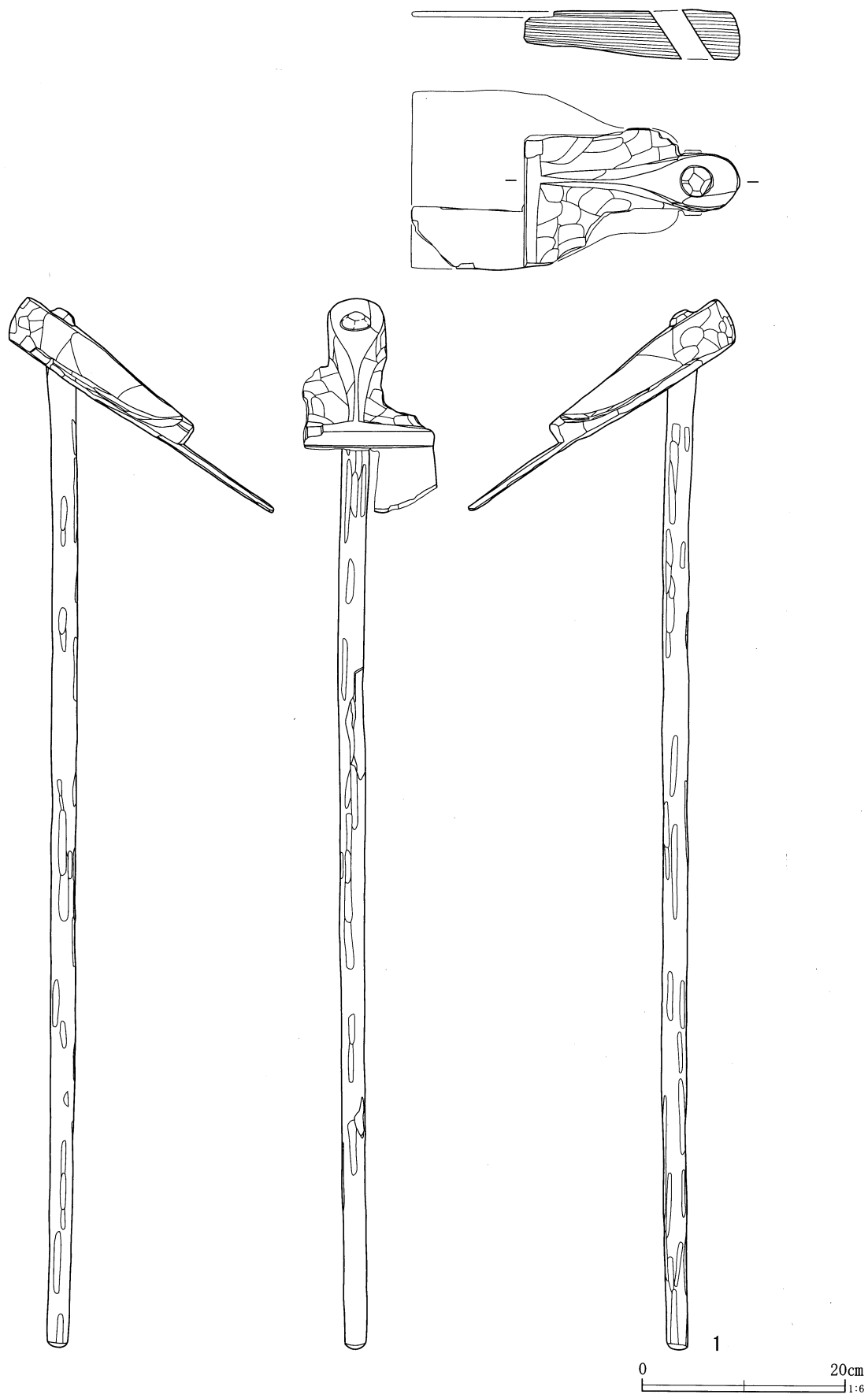
5は農耕具の鍬の身である。刃部が二叉に分かれた二叉鍬である。X19グリッドにおいて出土した。残存長は59.7cm、幅は18.2cmである。刃部の残存長は33.7cm、刃幅は両刃とも7.8cmである。刃部の外形は直線的である。厚さは、軸部が最も厚く刃部先端に向かって徐々に薄くなる。

6は農耕具の鍬の身で二叉鍬である。刃部の片刃・軸部を欠損し、片刃が残存する。残存長は39.6cm、幅は4.9cmである。外形は直線的である。前面上部に削り込みが見られる。上端の厚さが最も厚く、前面の削り込みの位置でやや厚さが減り、先端部で厚さは最も薄くなる。前面は平坦で、後面はやや膨ら

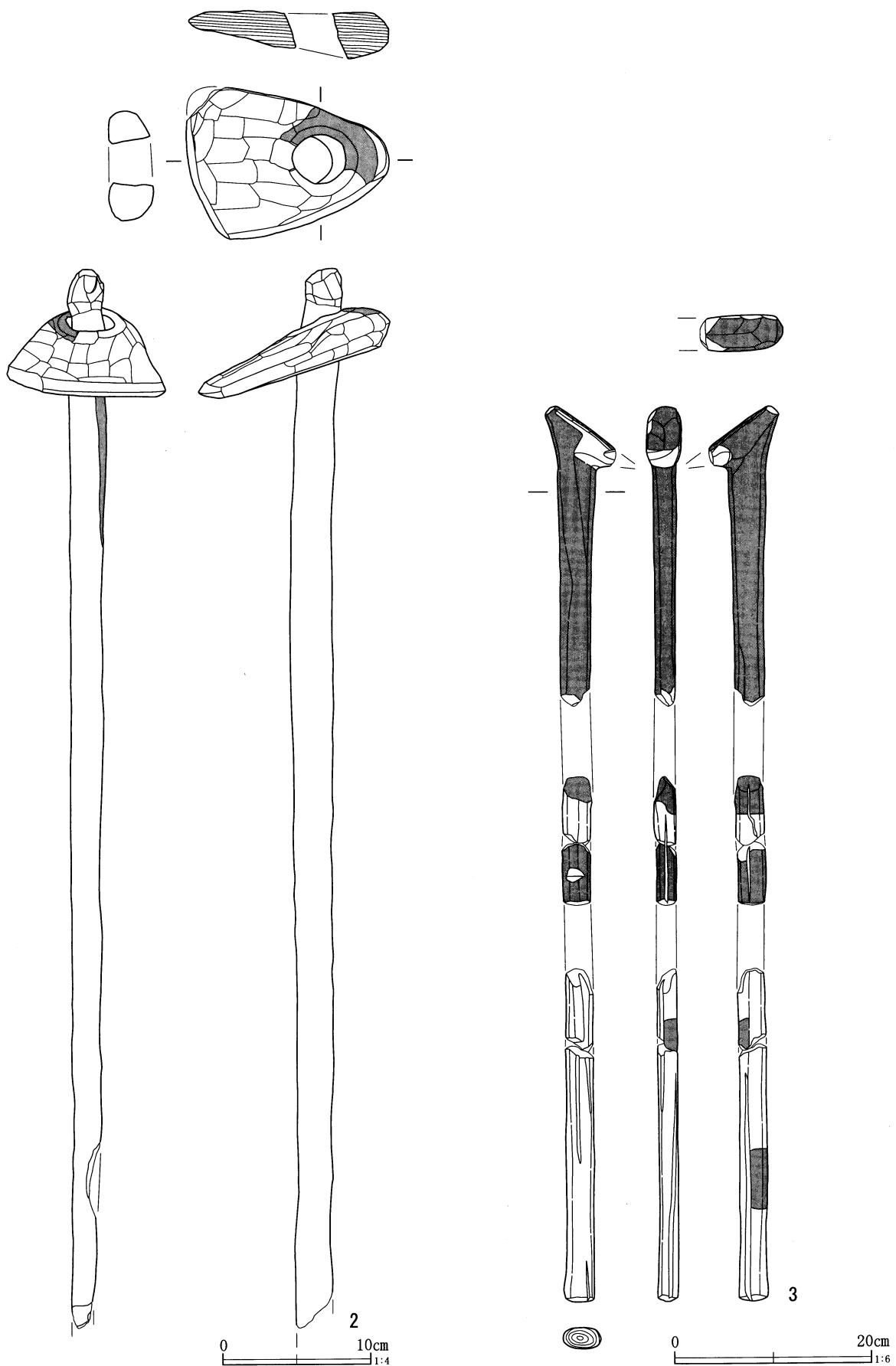
第5表 第423号溝跡出土遺物構成

種別	器種	部位	点数	割合	種別	器種	部位	点数	割合
農耕具	小型鍬(直柄)	身・柄	1	9%	建築材	梯子		11	17%
農耕具	広鍬(直柄)	身・柄	1		建築材	横架材		1	
農耕具	二叉鍬(曲柄)	身	4		建築材	建築材		19	
農耕具	鍬	身	1		紡織具	紡錘車		1	1%
農耕具	鍬	身	1		紡織具	織機		1	
農耕具	鍬	柄	2		杭	杭		16	8%
農耕具	鋤		3		漁撈具	錯		1	1%
農耕具	鉄斧	柄	2		容器	槽		1	
農耕具	横槌		2			不明製品		1	
農耕具	竪杵		3			加工材		44	21%
建築材	柱		2			木片		86	43%
建築材	垂木		3			合計		207	9%

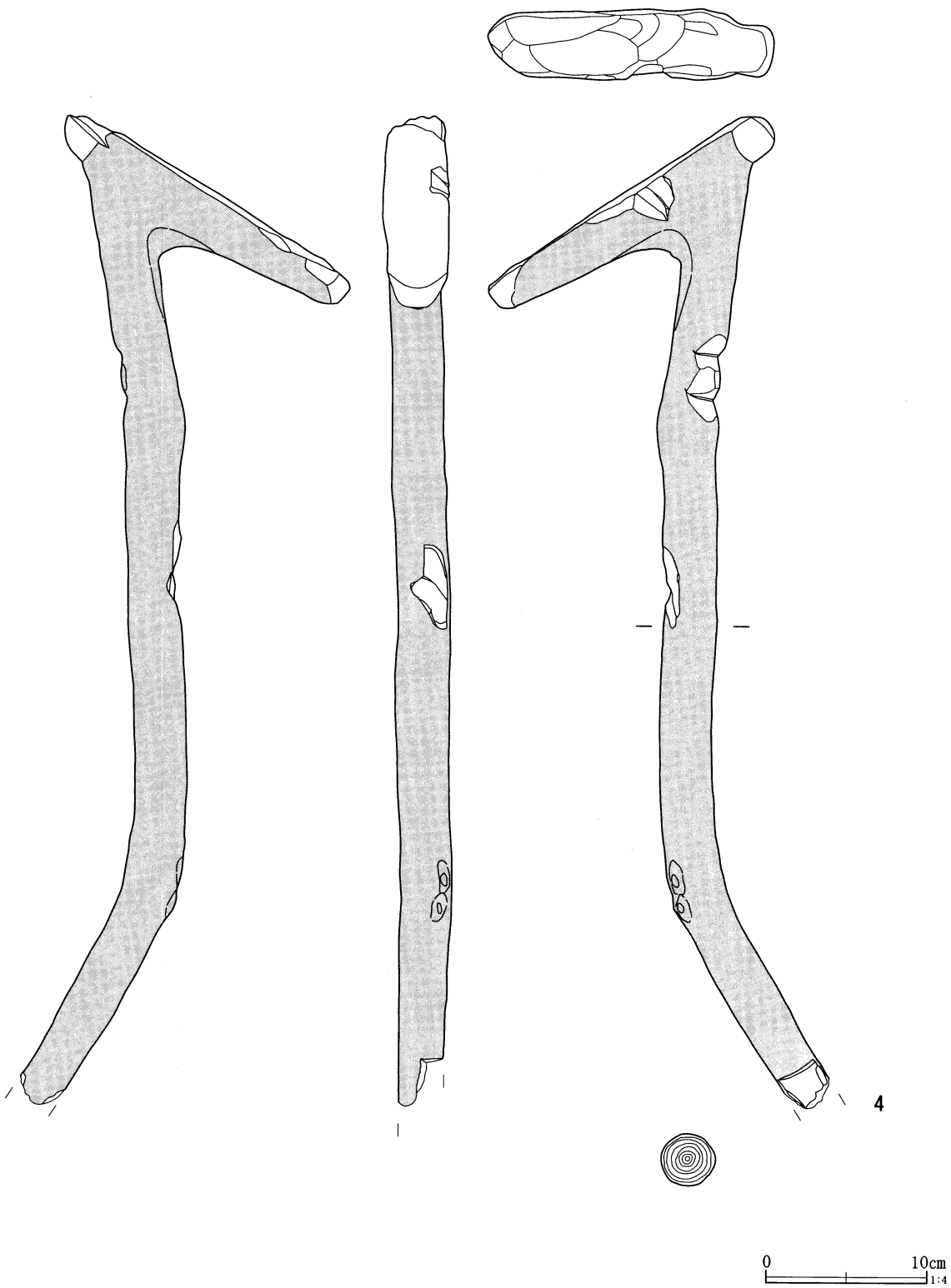




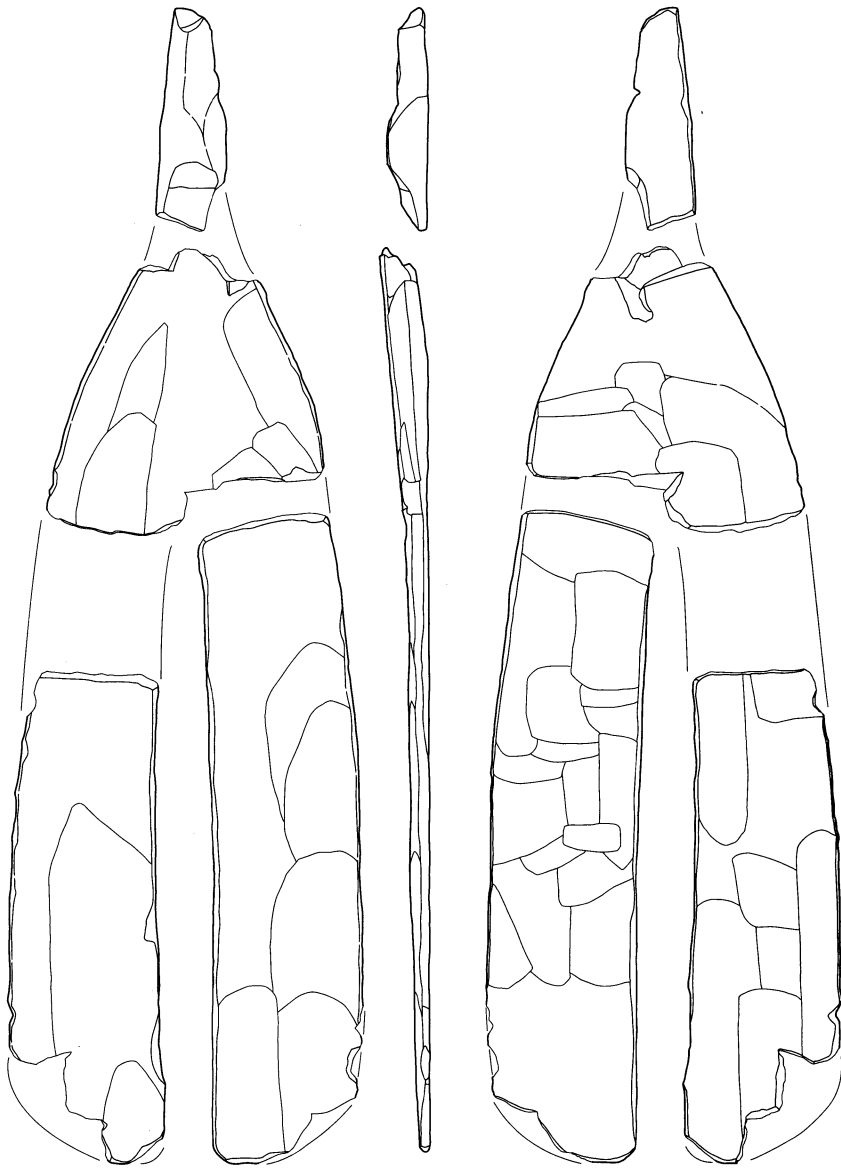
第 33 图 第423号溝跡出土遺物 (1)



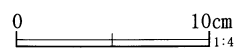
第 34 图 第423号沟迹出土遗物 (2)



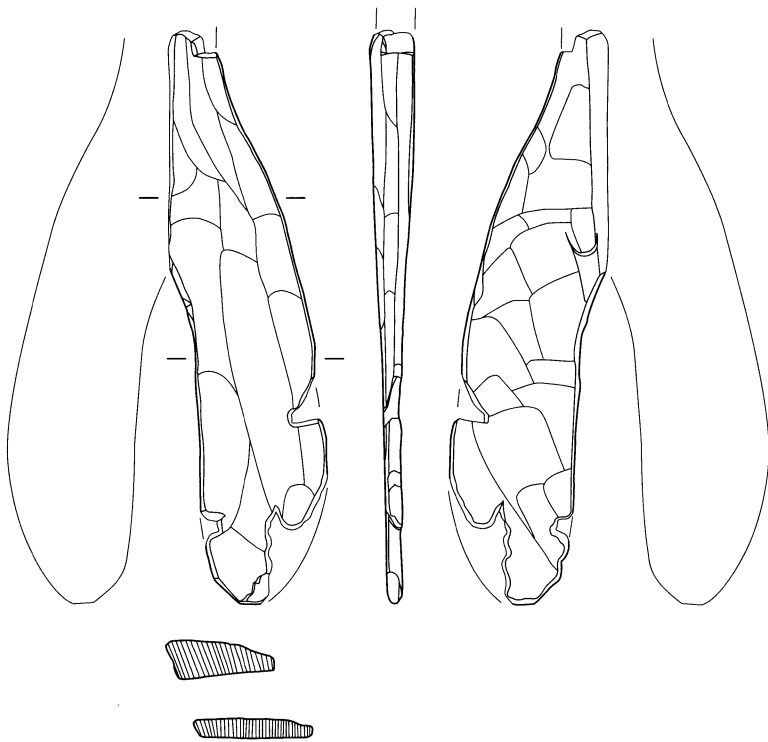
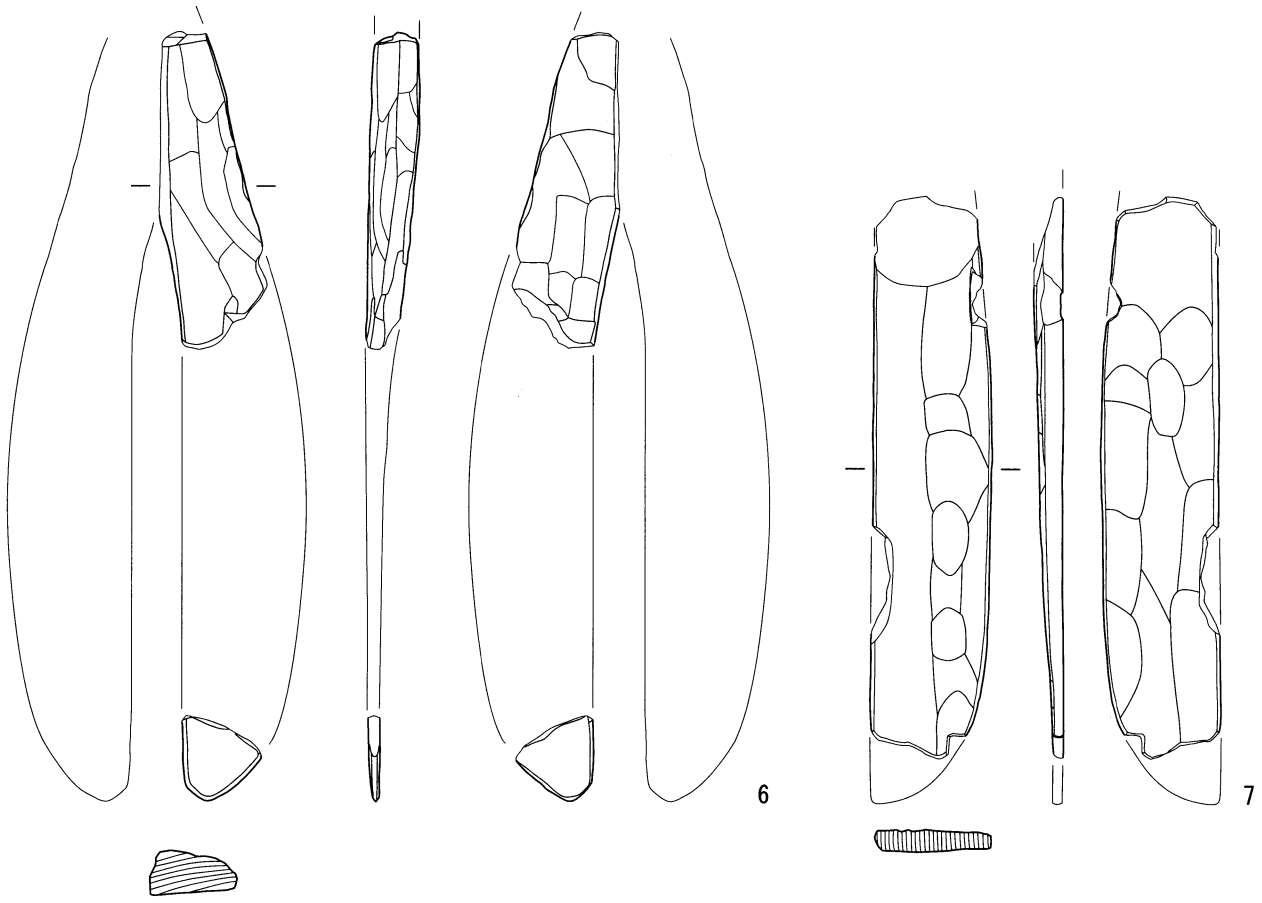
第 35 图 第423号沟迹出土遗物 (3)



5

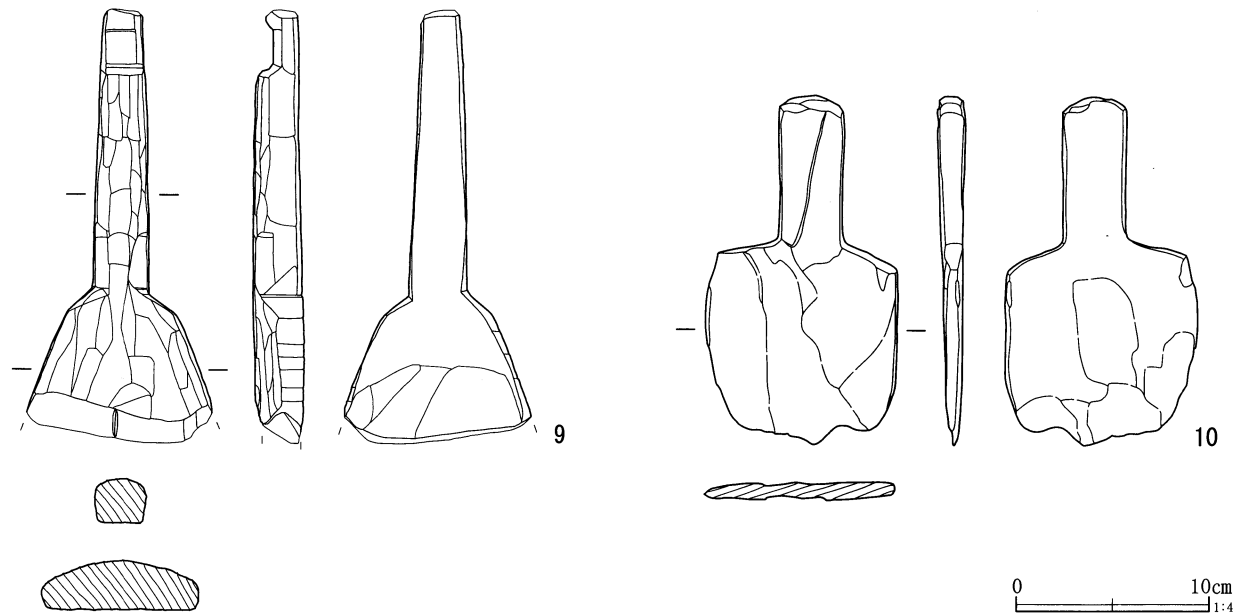


第 36 图 第423号沟迹出土遗物 (4)



0 10cm  
1:4

第 37 图 第423号沟迹出土遗物 (5)



第 38 図 第423号溝跡出土遺物（6）

みがあり、断面形は丸みのある三角形を呈する。

7は農耕具の鍬の身で二又鍬である。刃部の片刃・軸部を欠損し片刃が残存する。残存長は29.0cm、刃幅は6.1cmである。側面から見ると、膨らみが無く、偏平な板状である。断面形は偏平な長方形を呈する。

8は農耕具の鍬の身で二又鍬である。X21グリッドにおいて出土した。刃部の片刃・軸部を欠損し、片刃が残存する。残存長は29.7cm、残存幅は11.0cmで、刃幅は6.2cmである。刃部外縁は直線的ではなく、緩やかに湾曲する。前面では二又に分かれる刃りから、削り込みが見られる。身の上部が最も厚く、前面上部からの削り込みでやや厚さを減じ、刃先で最も薄くなる。二又の刃の断面形は長方形を呈する。上部の断面形は、中央付近が厚く外縁が薄くなる形で三角形を呈する。

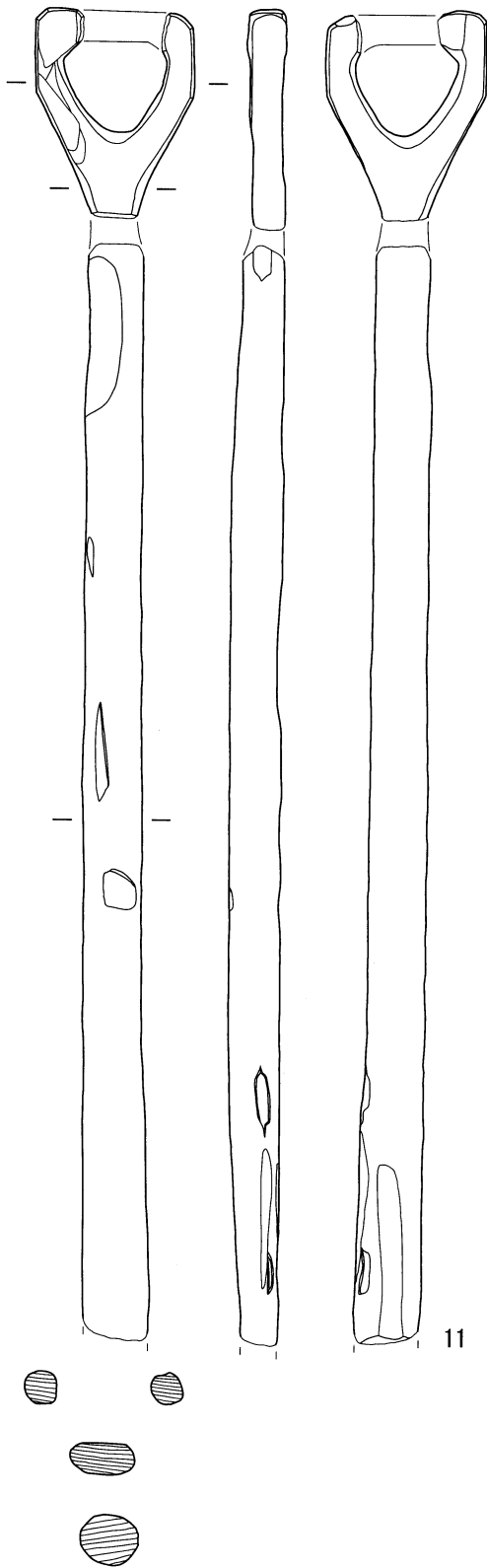
9は農耕具の鍬の身である。X19グリッドにおいて出土した。残存長は22.4cm、残存幅は9.6cmである。軸部は長さ14.7cm、幅が2.7cmである。刃部は、残存長が7.7cm、残存幅が9.6cmである。軸部は上端が幅まで、肩部に向かって幅が広がる。肩部は125°で、鈍角のなで肩である。軸部後面の上端には、上下から鈍角に削り込まれたコの字状の挟りが

ある。刃部近くの軸部後面には着柄の紐がけのために面取りがなされる。刃部前面に削り込みが見られる。軸部・刃部は前面・両側面が平坦で、後面は丸みを帯びる。刃部が最も厚く、軸部上端に向かって徐々に薄くなる。

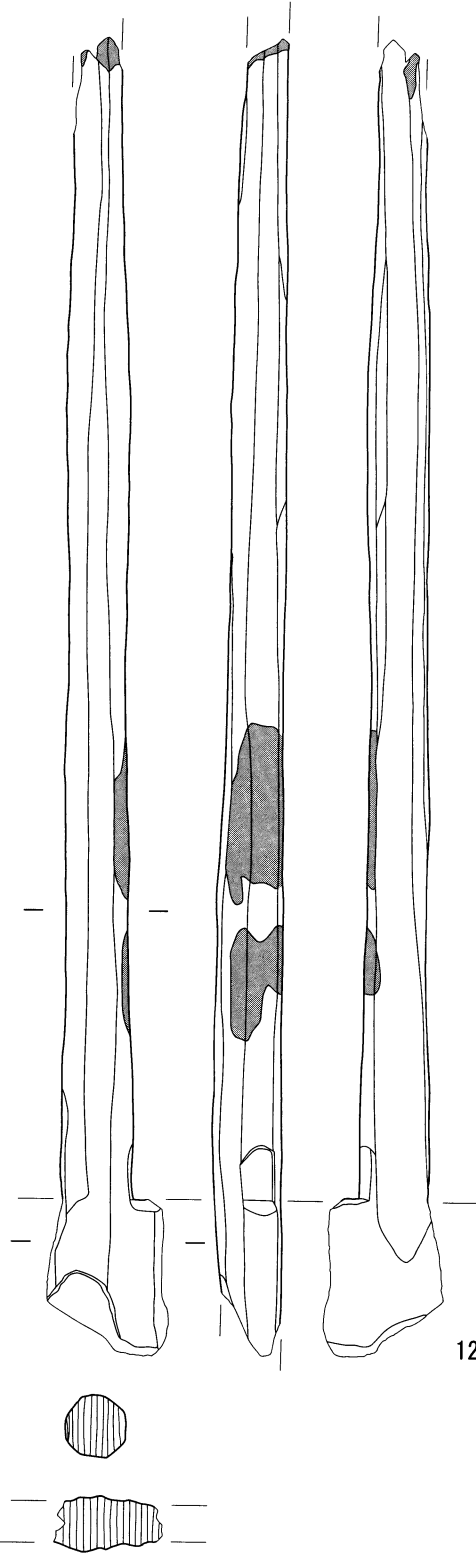
10は農耕具の鋤である。身と柄を一木から作った一木鋤。W17グリッドにおいて出土した。柄の一部と身が残存しており、全長は17.9cm、幅は10.0cmである。割り材を削り出して作ったものである。柄は長さ7.5cm、幅3.2cm、身は長さが10.4cm、幅が10.0cmである。柄と刃の肩部の角度は112°の鈍角で、ややなで肩である。柄は偏平で断面長方形である。柄と刃部の境が最も厚く、刃部先端に向けて徐々に薄くなり、刃部外縁が最も薄くなる。

11は農耕具の鋤の柄である。W19グリッドにおいて出土した。身を欠損しており、残存長は69.5cmである。把手は幅8.3cm。割り材を削り出して作ったもので柄の断面形は円形を呈する。把手の部分は角の取れた逆三角形の穴が穿たれる。把手の部分は正面背面とも偏平に作られ、断面形は楕円形を呈する。

12は農耕具の鋤である一木鋤。X19グリッドにおいて出土した。柄と刃部の一部が残存しており、残



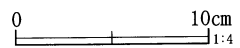
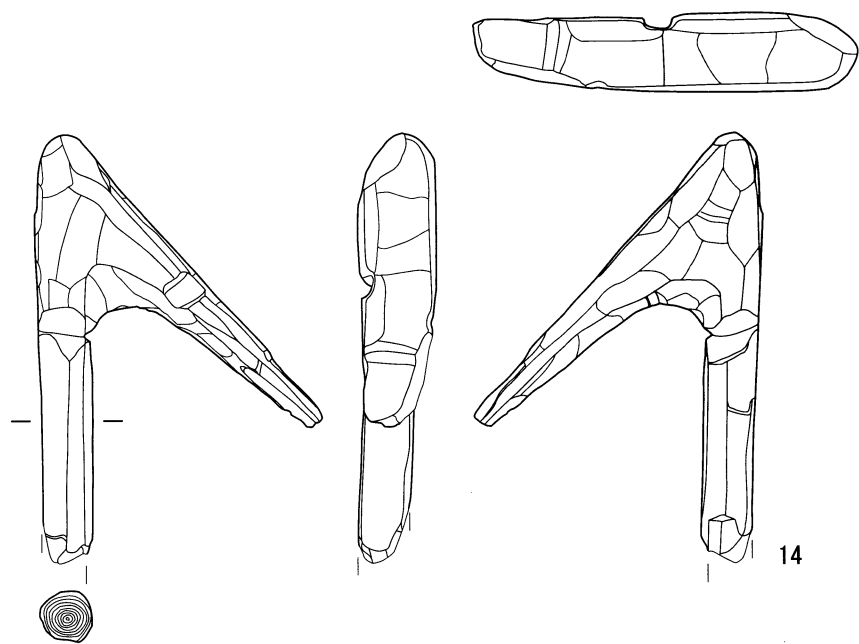
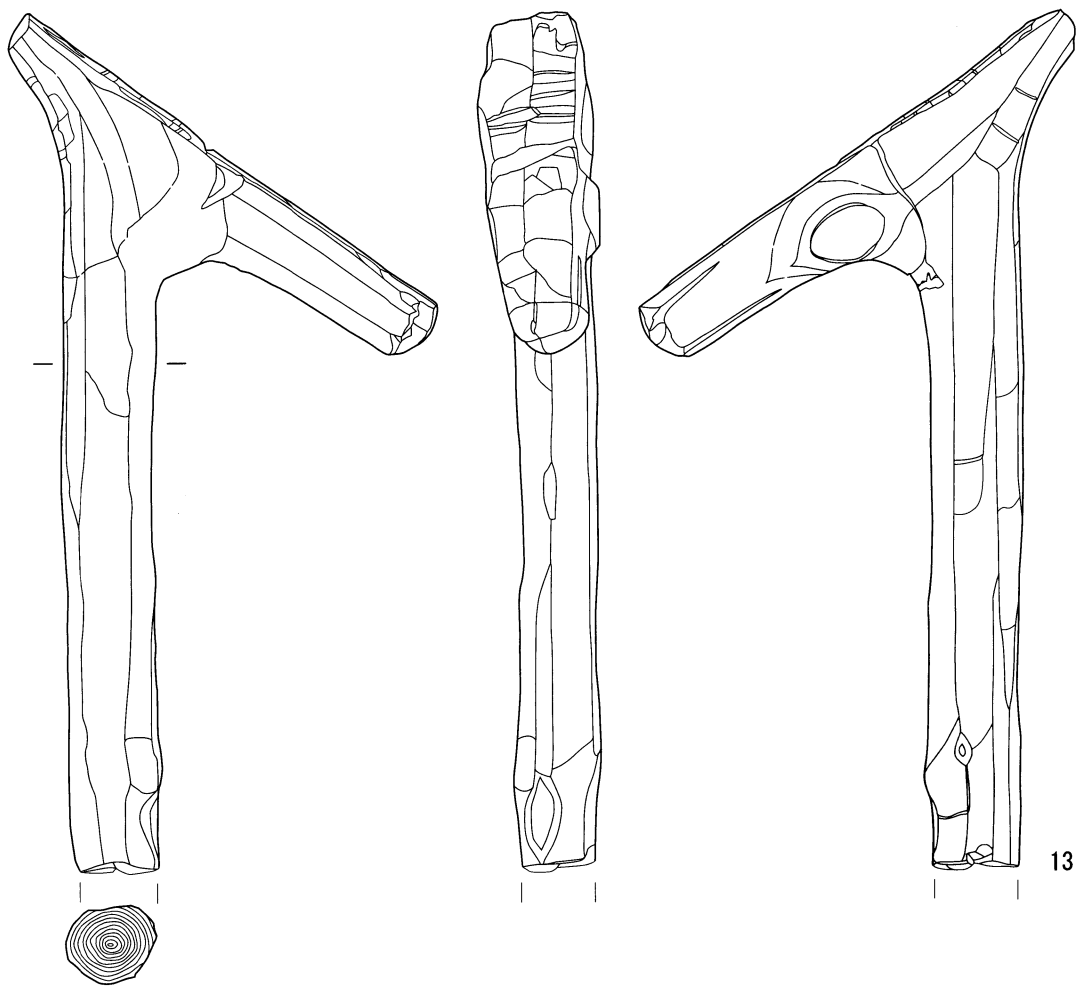
11



12

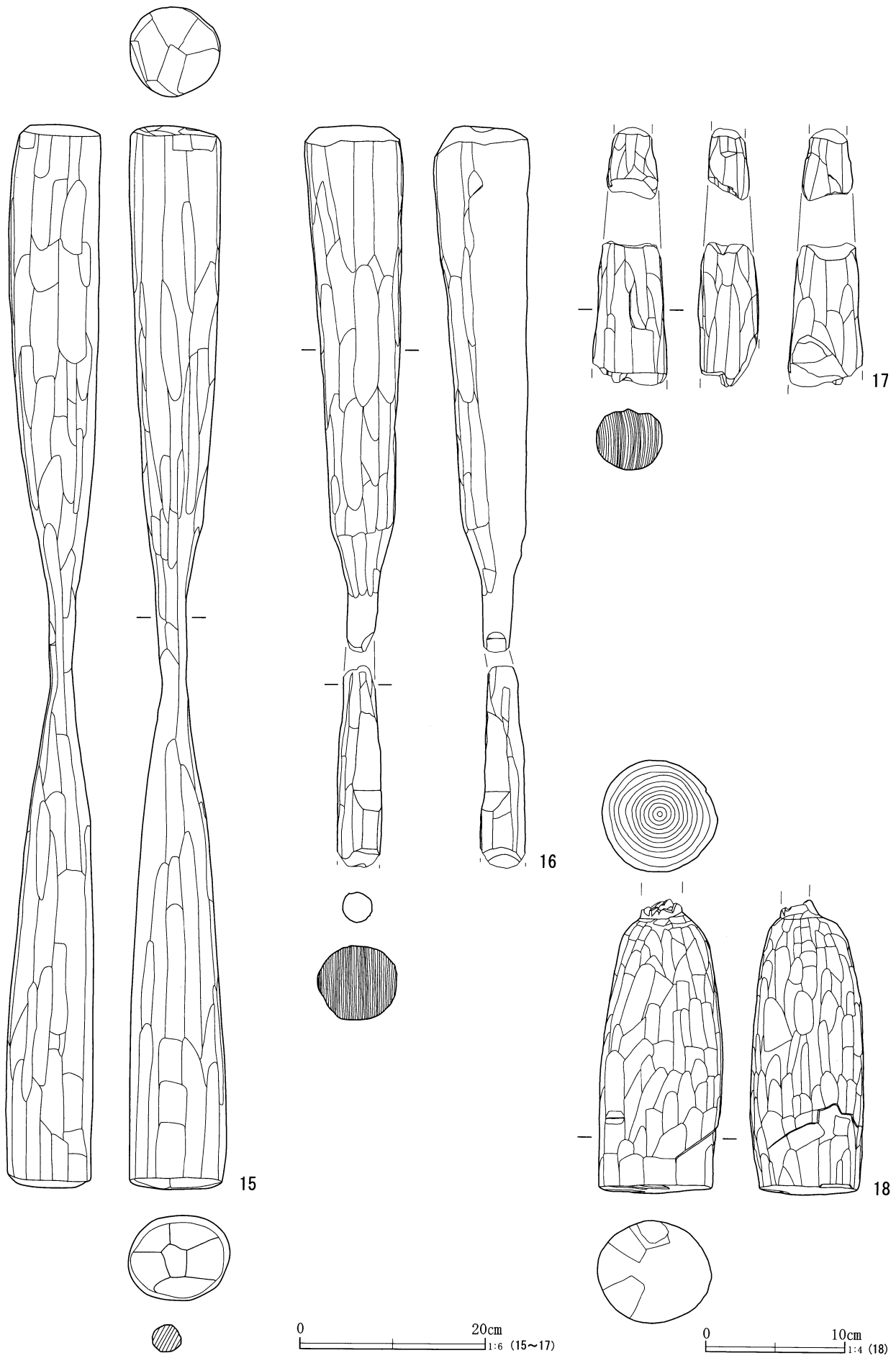
0 10cm  
1:4

第 39 图 第423号沟迹出土遗物 (7)

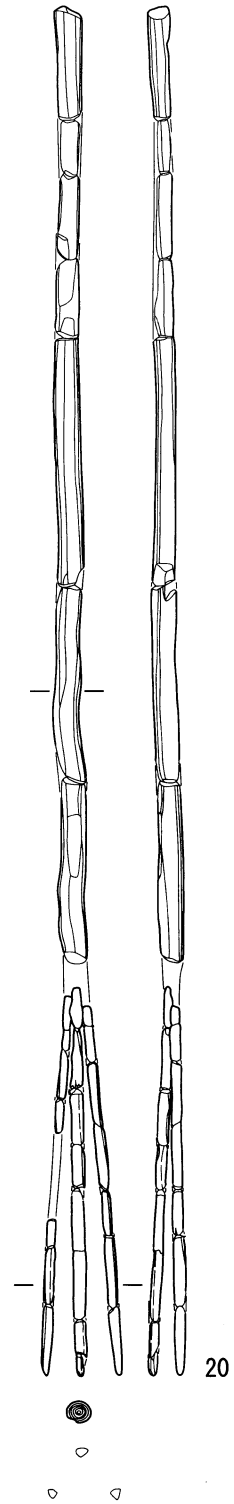
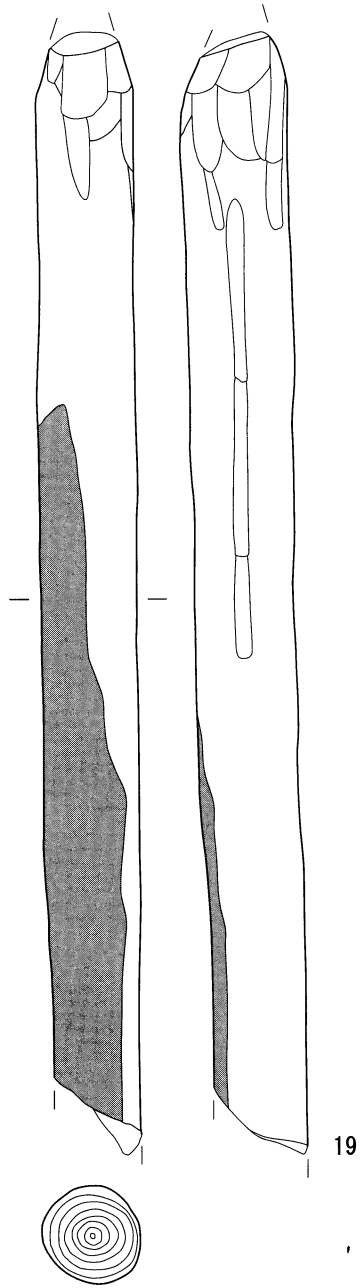


第 40 图 第423号沟迹出土遗物 (8)





第 41 图 第423号沟迹出土遗物 (9)



第 42 图 第423号沟迹出土遗物 (10)

存長は67.8cm、残存幅は6.0cmである。割り材を削り出して作ったものである。柄と刃の肩部の角度はほぼ直角である。柄の断面形は八角形を呈する。柄は刃部近くの径が最大で、上部にいくに従い径が小さくなる。柄の上端と側面に被熱の痕跡が見られる。

13は工具の鉄斧の柄である。W19グリッドにおいて出土した。残存長は44.3cmである。握りの幅は4.8cmである。枝・幹の部分を利用して作られたものである。身との装着面は、長さ25.8cm、幅5.0cmである。身との装着面は平坦に削られ、端部に紐がけの部分が作られる。鍬台の厚さは均一である。握り部は縦方向に削られ六面に作られる。身との着柄角度は54°である。

14は工具の鉄斧の柄である。W16グリッドにおいて出土した。残存長は22.0cmである。身の装着面の幅は4.1cmで、握りの幅は2.7cmである。枝・幹を利用して作られたものである。身との装着面を平坦に削る。端部に紐がけの部分が作られず、丸くおさめる。装着面は先端にいくに従って狭く、厚さは薄くなる。握部は断面形が円形を呈する。身との着柄角度は44°である。

15は農耕具の堅杵で、握部が簡略化した無節式の堅杵である。X19グリッドにおいて出土した。全長は114.3cm、幅は10.4cmである。芯持ち材を使用せず、割り材を削り出して作ったもので、全面に長さ2.0~22.5cm、幅1.1~3.3cmの削った痕跡が見られる。握部と搗部の境に角はなくならぬので、各部の境界は明瞭ではない。搗部先端の径は9.2cmである。握部は長さ2.9cm、幅3.1cmで断面形は楕円形を呈する。搗部先端の径が最も大きく、握部に向かって徐々に径が小さくなる。搗部先端の突出は顕著ではなく、やや平坦である。

16は農耕具の堅杵である。X19グリッドにおいて出土した。割り材を削り出して作ったものである。搗部の一端を欠損しており、残存長は79.6cmである。搗部先端の径は10.5cm、握部の径は3.2cmである。搗部先端に最大径を持ち、握部で径が最小となる。

握部と搗部を分ける削り込みにより陵線が作られ、各部の境界が明瞭になっている。搗部先端は、外周を削って平坦な面が作られる。

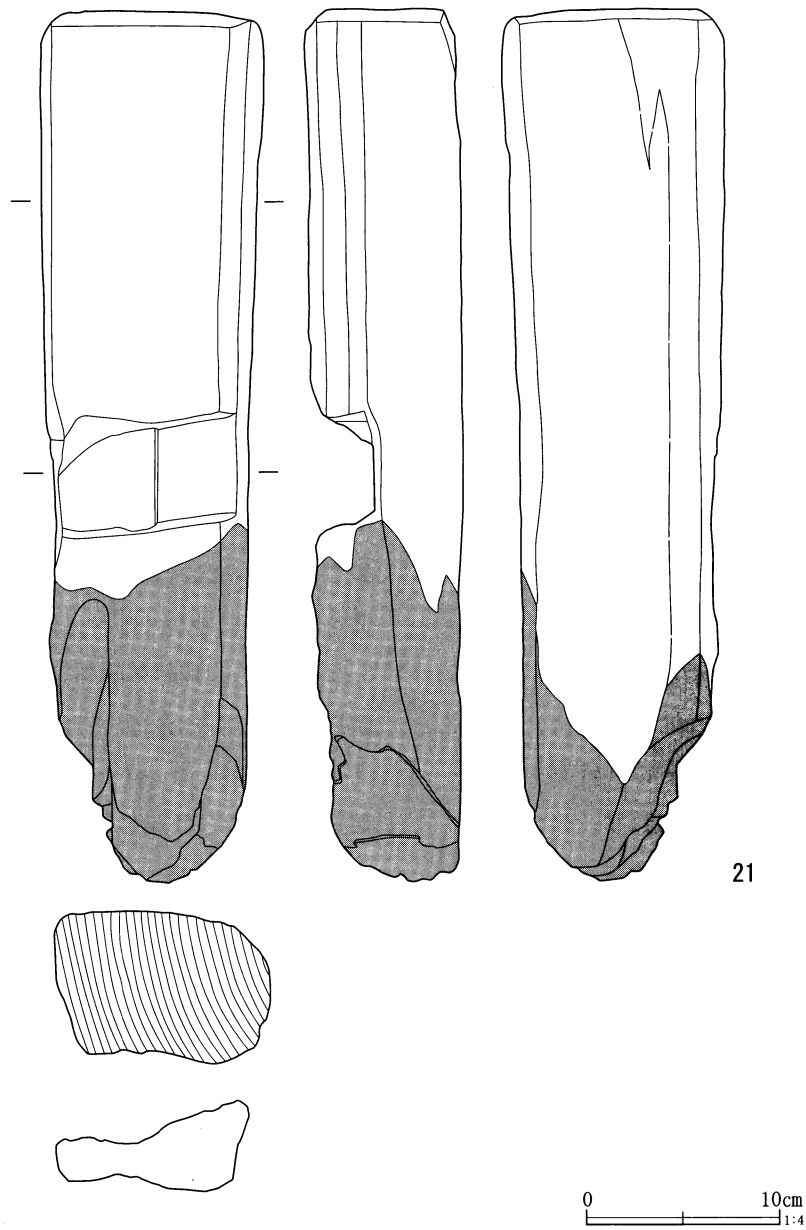
17は農耕具の堅杵である。W16グリッドにおいて出土した。握部と搗部先端を欠損する。残存長は27.7cm、残存幅は7.9cmである。芯持ち材を使用せず、割り材を削り出して作ったものである。断面形はいびつな円形を呈する。全長に長さ2.0~12.3cm、幅0.9~2.0cmの削った痕跡が見られる。

18は農耕具の横槌である。横槌の敲打部と握部の一部が残存する。残存長は21.1cm、幅は8.1cmである。丸材を削り出して作られたものである。全面に長さ1.0~4.4cm、幅0.6~1.4cmの削り痕が残り、前面を縦方向に細かく削り込んでいる。敲打部は径が8.1cmである。敲打部先端は突出がなく平坦である。敲打部の下端に肩は無く丸みを帯びている。敲打部と握部との境には陵があり、各部の境は明瞭である。敲打部、および残存する握部の断面形は円形である。

19は農耕具の横槌である。W19グリッドにおいて出土した。残存長は58.1cm、幅は5.5cmである。芯持ち材を削り出したもので、端部の10.3cmを削って尖らせている。断面形は円形を呈する。尖らせた先に柄が作られていたと考えられる。一部に被熱の痕跡が見られる。

20は漁労具の錯である。X19グリッドにおいて出土した。残存長は143.5cm、幅は2.8cmである。錯には先が一本の単式錯と、先が複数の複式錯とがある。20は、一木式の複式錯である。芯持ち材を用いたもので、断面形は円形を呈する。先端は一本の材を三分割して整形したものと考えられる。断面形は三角形を呈する。

21は柱である。X20グリッドにおいて出土した。残存長45.0cm、幅は11.5cmである。全面が平坦なつくりで、外形は直線的である。正面にコの字状の仕口が作られており、長辺方向に対して垂直ではなくやや右上がりに作られる。抉りは長さ5.2cm、幅9.1cm、深さ3.2cmである。材下端は被熱により欠損し



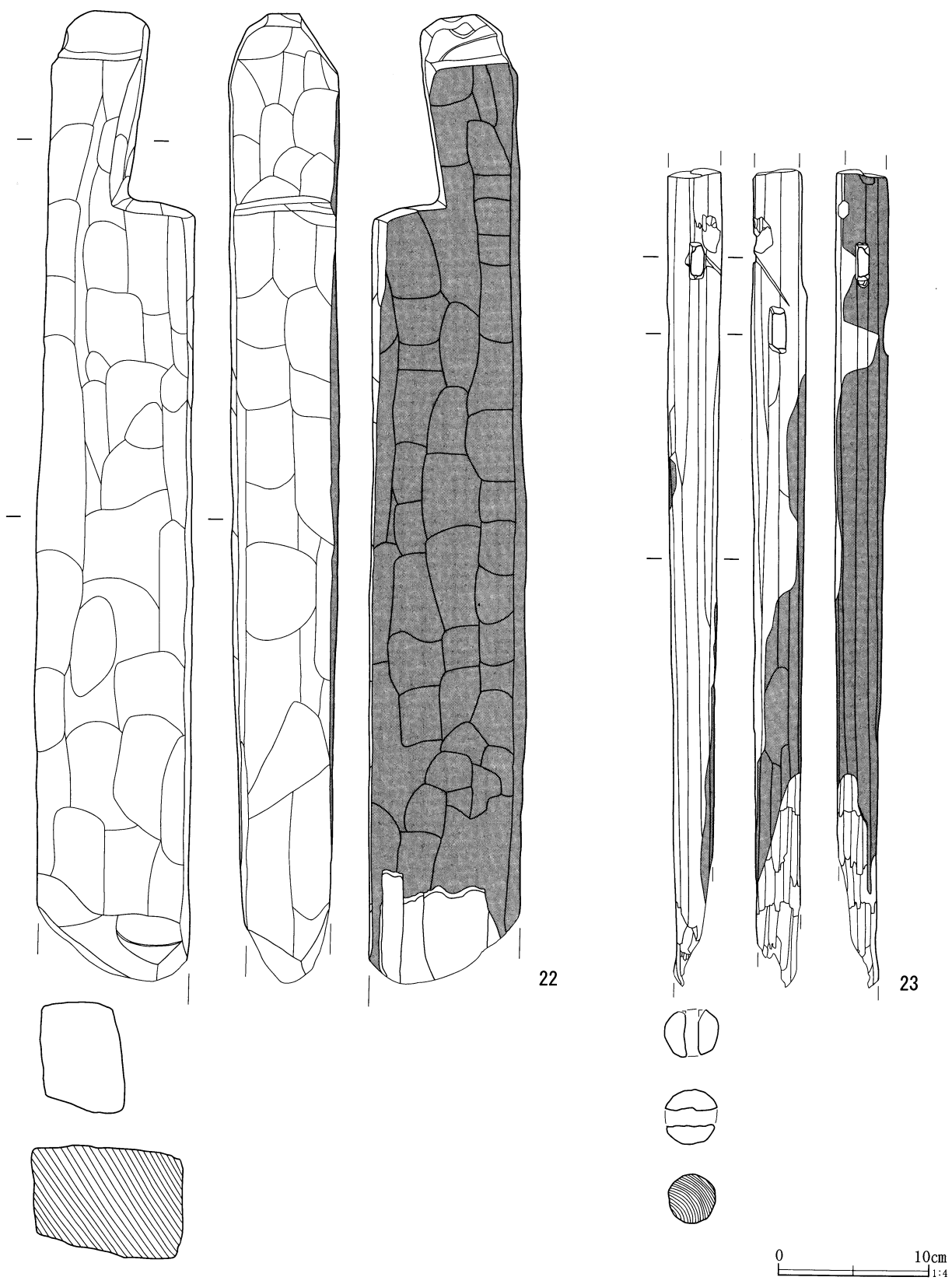
第 43 図 第423号溝跡出土遺物 (11)

ている。割り材を削り出したもので、断面形は角に丸みを帯びた長方形を呈する。

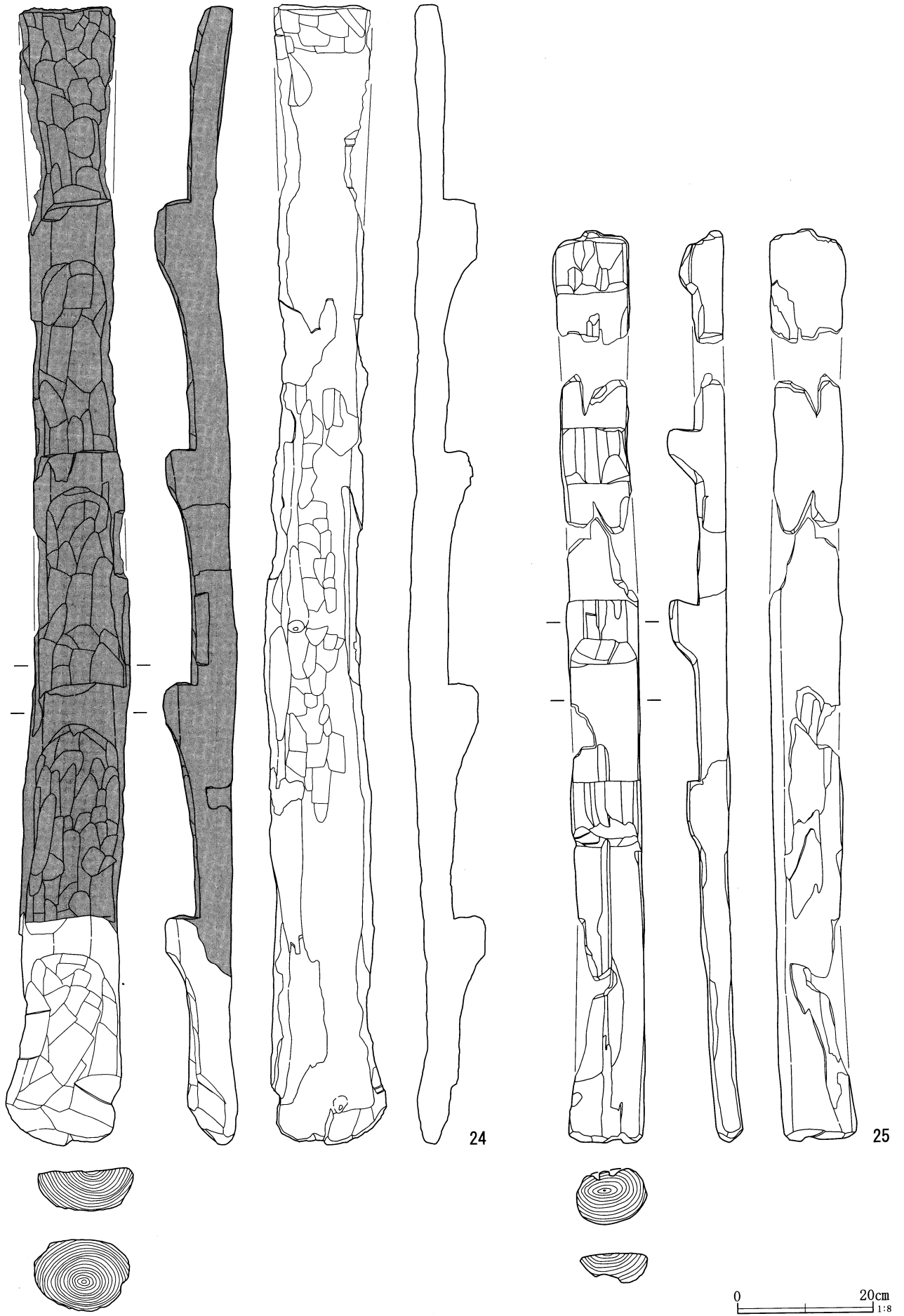
22は柱である。X19グリッドにおいて出土した。残存長64.0cm、幅は10.0cmである。割り材の全面を縦方向に規則的に削り、断面を方形に作る。表面を平滑に削っており、長さ2.0~7.8cm、幅1.2~5.0cmの削った痕跡が見られる。外形は直線的である。材端部をL字状の鋭角に抉って、長さ11.4cm、幅4.4cmの仕口が作られる。他の材と組み合わせるための

仕口が作られる。仕口の幅は端部に向かって広がっている。端部は斜めに削り落として山型にしている。一面にのみ被熱の痕跡が見られ、他三面には削った痕跡があることから、焼失した材を加工したと考えられる。

23は横架材である。残存長は54.2cm、幅は3.6cmである。割り材を削り出して作ったものである。全面を縦方向に0.7cm幅で削り、十一面に作る。材の上部には、長方形の通し柄が、交差する形で二箇所



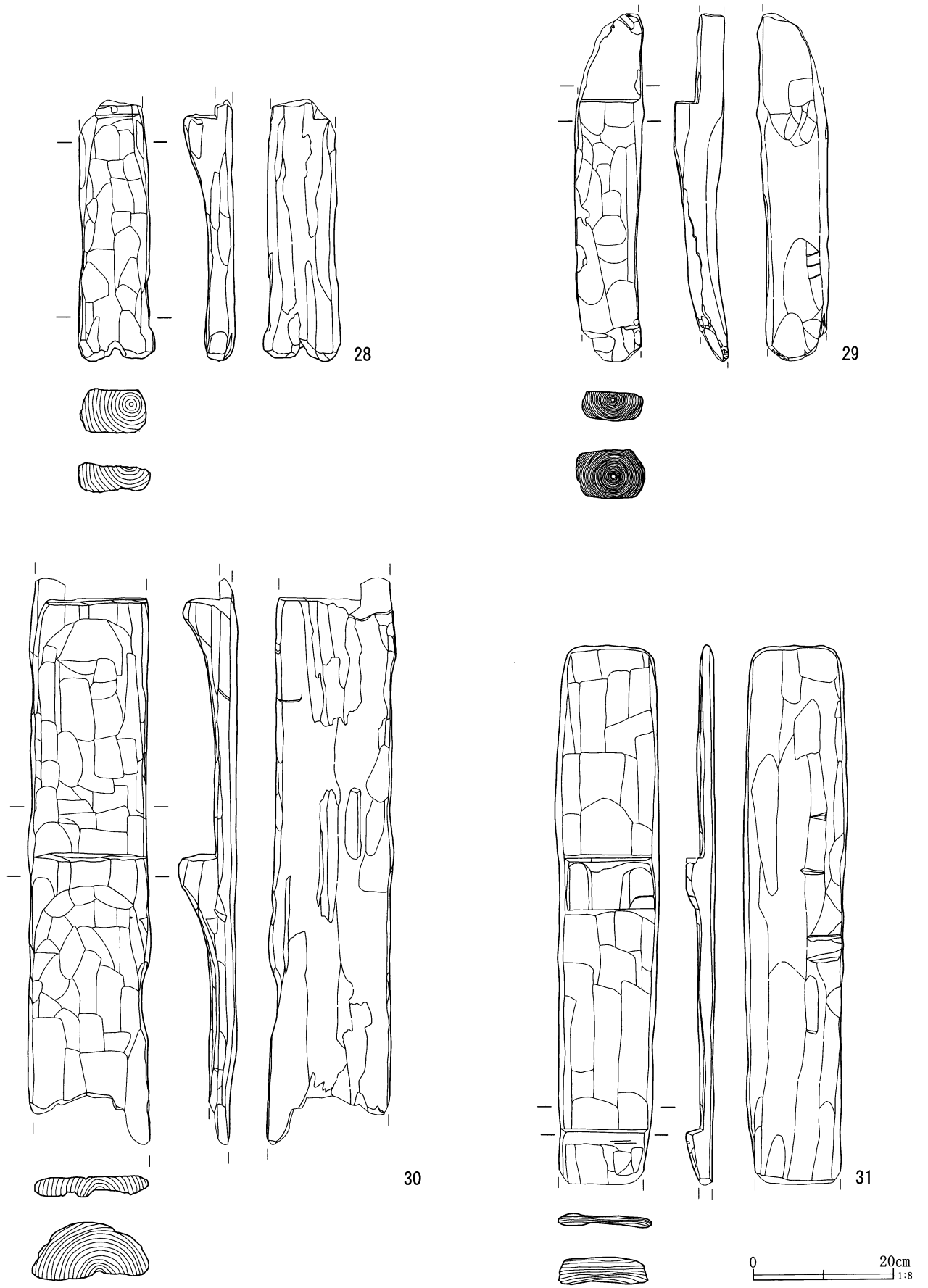
第 44 图 第423号沟迹出土遗物 (12)



第 45 图 第423号溝跡出土遺物 (13)



第 46 图 第423号沟迹出土遗物 (14)



第 47 图 第423号溝跡出土遺物 (15)



穿たれる。鑿状の工具で穿った痕跡が見られる。この柄穴に出柄を組むと、材が直交する形になる。二箇所柄穴の間隔は1.8cmである。一箇所の柄穴は長さ2.5cm、幅0.9cm、深さ3.1cm、もう一箇所の柄穴は長さ3.0cm、幅1.2cm、深さ3.4cmである。整形後の被熱が見られる。

24は建築材の梯子である。X19グリッドにおいて出土した。全長は167.4cm、幅は16.2cmである。芯持ち材を用いて作った一木の梯子である。足掛けの段は四段作られる。段間の長さは、第一段が34.0cm、第二段が34.2cm、第三段が34.4cm、第四段が36.4cm、最上部が30.2cmである。足掛部の段の高さは下から4.4cm、4.2cm、3.6cm、4.8cmである。足掛部はいずれの段もほぼ直角に立ち上がり、平坦な面を作り、下の足掛部に向かってなだらかに下がる。正面には足掛部を作り出すための加工を施し、背面には上端部と中央付近にのみ加工を施す。上端は平坦に作り、下端は丸く作る。下端の正面側を斜めに削り落とす。足掛部の断面形は楕円形、段間の断面形は半円形を呈する。第二段～第五段の表面に被熱の痕跡が見られる。

25は建築材の梯子である。X19グリッドにおいて出土した。残存長は134.0cm、幅は11.0cmである。丸材から段を削り出して作られた一木の梯子である。表面には角が多く、外形は直線的である。足掛は四段が残存する。段間の長さは、第一段が52.8cm、第二段が26.8cm、第三段が25.0cm、第四段が29.4cmである。第一段が長いのが特徴的である。足掛部の高さは、下から2.8cm、4.4cm、5.0cm、3.4cmである。段は直角もしくは鋭角気味に立ち上がり、平坦な面を作る。その後急な角度で下がる。背面は割り裂いたままで、加工した痕跡はほとんどみられない。下端部は、正面・背面を斜めに削り落として二面に作られる。足掛部の断面形はいびつな円形で、段間の断面形は半円形を呈する。

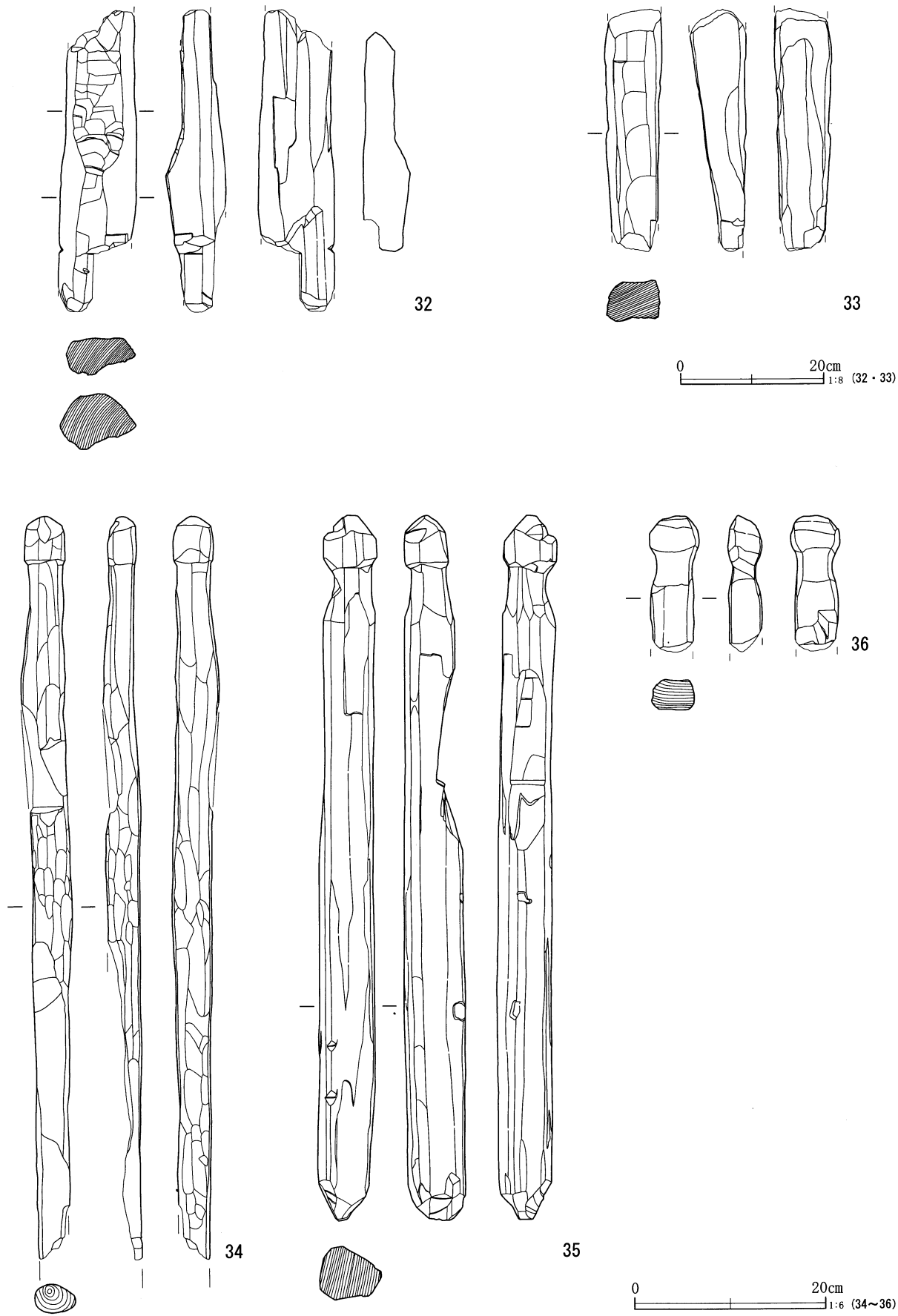
26は建築材の梯子である。W17グリッドにおいて出土した。全長は159.0cm、幅は19.8cmである。丸

木を削り出して作られた一木の梯子である。足掛は三段である。段間の長さは、第一段が48.6cm、第二段が34.5cm、第三段が41.4cm、第四段が34.5cmである。足掛部の高さは、下から7.2cm、6.9cm、6.3cmである。足掛部は直角に立ち上がって平坦な面を作り、なだらかに下がる。背面は全面を削り、背面の上部を斜めに削り落とす。下端から第一段まではほとんど削り込みが施されないため、非常に厚みがある。上端には梯子を固定するためのコの字状の挟りが作られる。下端は平坦である。足掛部の断面形は楕円形、段間の断面形は半円形を呈する。

27は建築材の梯子である。W16グリッドにおいて出土した。残存長は108.4cm、幅は14.0cmである。芯持ち材を削りだしたもので一木の梯子である。足掛けは下から三段が残存する。段間の長さは、第一段が26.6cm、第二段が40.8cm、第三段が41.0cmである。段の高さは、下から2.2cm、5.8cm、6.0cmである。足掛部は垂直に立ち上がって平坦な面を作り、なだらかに次の足掛部に続く。正面には加工を施すが、背面は割り裂いたままである。下端は正面・背面を斜めに削り落として二面に作られる。足掛部の断面形は方形で、段間の断面形は扁平な長方形を呈する。背面の上部と、下端部に被熱の痕跡が見られる。

28は建築材の梯子である。W14グリッドにおいて出土した。残存長は37.0cm、幅は11.0cmである。芯持ち材を用いて作られた一木の梯子である。材の中心よりややずれた部分を削り出している。下から一段の足掛けが残存する。段間の長さは、第一段が34.4cmである。足掛部の段の高さは4.3cmである。段は直角に立ち上がり、平坦面はなく、なだらかに下がる。下端は正面背面から斜めに削り落とされている。下端中央部には、幅2.2cm、長さ2.6cmの半円形の挟りが作られる。表面は削って整形しているが、背面は割り裂いたままである。足掛部分、段間とも断面形は方形を呈する。

29は建築材の梯子である。X20グリッドにおいて



第 48 图 第423号沟迹出土遗物 (16)

出土した。残存長は49.6cm、幅は9.6cmである。材中心部の芯持ち材を用いて作られた一木の梯子である。足掛の一段のみが残存し、上端下端を欠損する。足掛部の高さは2.1cmである。段は直角に立ち上がり、平坦な面を作り、なだらかに下がる。側面から見ると、やや反りがある。足掛部・段間の断面形は丸みのある長方形を呈する。足掛部表面を平坦に削る。背面も平坦に加工している。

30は建築材の梯子である。W16グリッドにおいて出土した。残存長は80.2cm、幅は17.2cmである。半截した材を削り出して作られた一木の梯子である。足掛の二段が残存し、上端下端を欠損する。段間の長さは、下部の一段が40.4cm、上部の一段が36.0cmである。足掛部の高さは下の一段が5.2cmである。足掛部はほぼ直角に立ち上がり、平坦な面を作る。下の足掛けに向けて、やや急な角度で下がる。正面・側面は全面的に削り込んでおり、長さ0.8~12.8cm、幅2.4~4.8cmの削った痕跡が見られるが、背面には加工を施さない。足掛部の断面形は、半円形を呈する。足掛部間の段間は薄い板状で、断面形はいびつな長方形を呈する。出土した他の梯子と比較すると、厚さが2.8cmと非常に薄い作りである。また、足掛部の段が他の梯子と比較して低くなっている。

31は建築材の梯子である。W16グリッドにおいて出土した。残存長は76.8cm、幅は14.8cmである。割り材を削り出して作られた一木の梯子である。上から二段が残存する。段間の長さは下段が38.4cm、上段が30.2cmである。足掛部の高さは、下段から1.6cm、1.4cmである。足掛部は鈍角に立ち上がり平坦な面を作って、急な角度で下がる。外形は直線的であり、上端は平坦に作られる。正面と背面を削った痕跡が見られる。足掛部の断面形は、長方形を呈する。段間は板状に作られ、断面形は扁平な長方形を呈する。30と同様、段間の厚さが1.8cmと非常に薄い板状である。

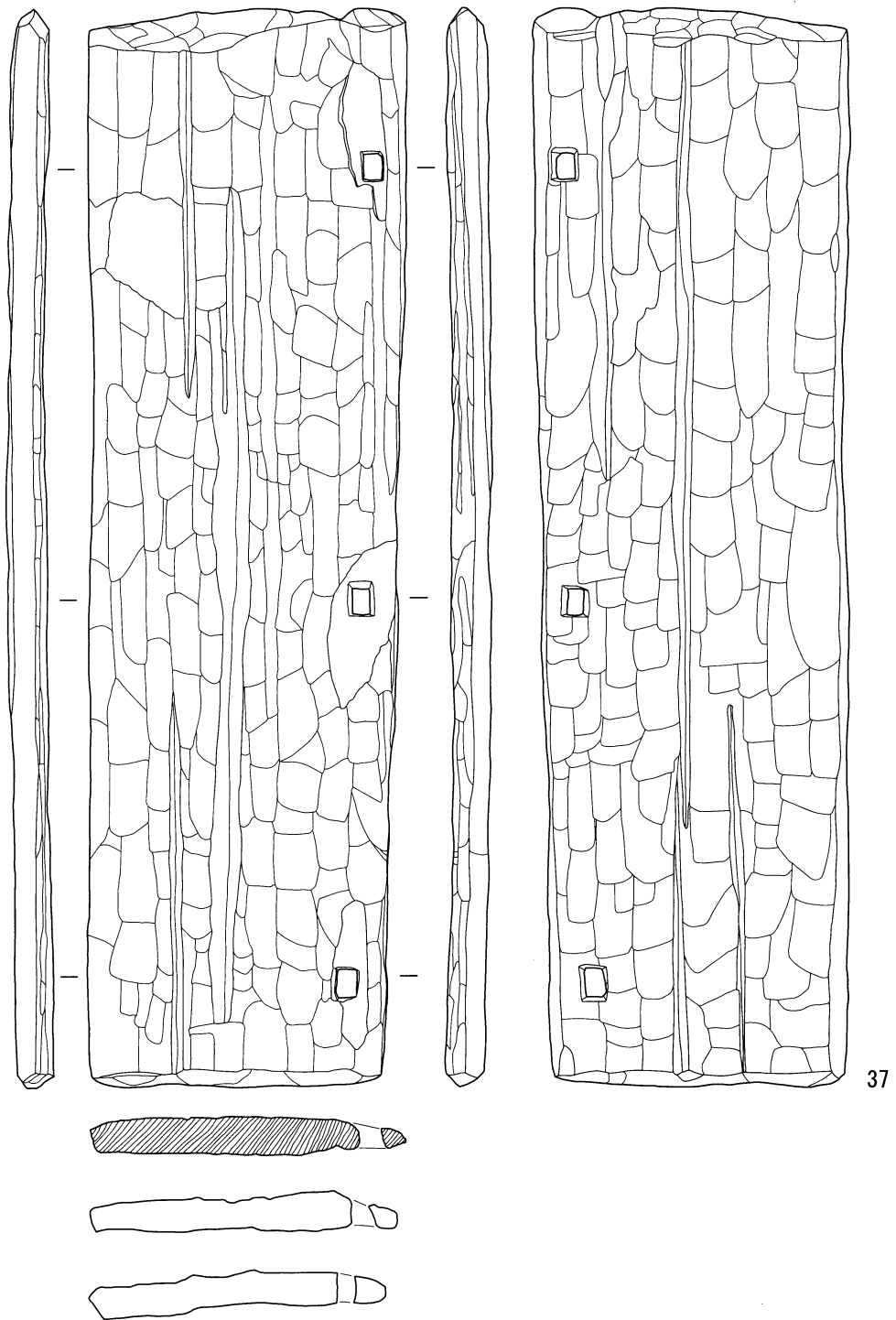
32は建築材の梯子である。V14グリッドにおいて出土した。残存長は42.0cm、幅は10.6cmである。芯

持ち材ではなく、割り材を削り出して作られた一木の梯子である。足掛の一段のみが残存し、上端下端を欠損する。足掛部の高さは2.2cmである。足掛部には平坦面があり、その下はなだらかに下がる。正面は繰り返し削り込みを行った痕跡が見られるが、背面は割り裂いたままである。足掛部の断面形はいびつな五角形を呈し、段間の断面形はいびつな長方形を呈する。幅が10.6cmで他の梯子に比べて幅ぜまでである。

33は建築材の梯子である。X19グリッドにおいて出土した。残存長は33.7cm、幅は8.0cmである。割り材から削り出して作られた一木の梯子である。足掛の一段のみが残存する。足掛部から段間へは、なだらかに下がる。正面は長辺方向に削りを施すが、他面に加工の痕跡は見られない。断面形は方形を呈する。

34は建築材の垂木である。X20グリッドにおいて出土した。残存長は77.0cm、幅は4.6cmである。材中心部の芯持ち材を用いて作られたものである。外形は直線的ではなく、また、明瞭な角を持たない。本体の断面形は楕円形を呈する。頭部は扁平で角のない長方形で、断面形は楕円形を呈する。頭部の長さは5.0cmである。頭部直下の挟りがほとんどなく、頭部と以下の境界が不明瞭である。挟りの長さは不明で、深さは0.2cmである。

35は建築材の垂木である。X19グリッドにおいて出土した。全長は73.5cm、幅は5.9cmである。割り材を削り出して作ったものである。外形は直線的である。頭部は有頭状に削り出されている。頭部直下の挟りが深く、頭部・挟り・本体の境界を明瞭にしている。挟りの長さは7.0cm、深さは1.2cmである。頭部直下の挟りの他にも、他材と組むための仕口が一箇所作られる。仕口は、長さが12.0cm、幅が2.4cm、深さが2.4cmである。本体は七面に作られ、断面形はいびつな七角形を呈する。下端は二方向から斜めに削り落とされて、垂木としては長さが短くなっている。他の用途に用いられたと考えられる。



37

0 20cm  
1:6

第 49 图 第423号沟迹出土遗物 (17)

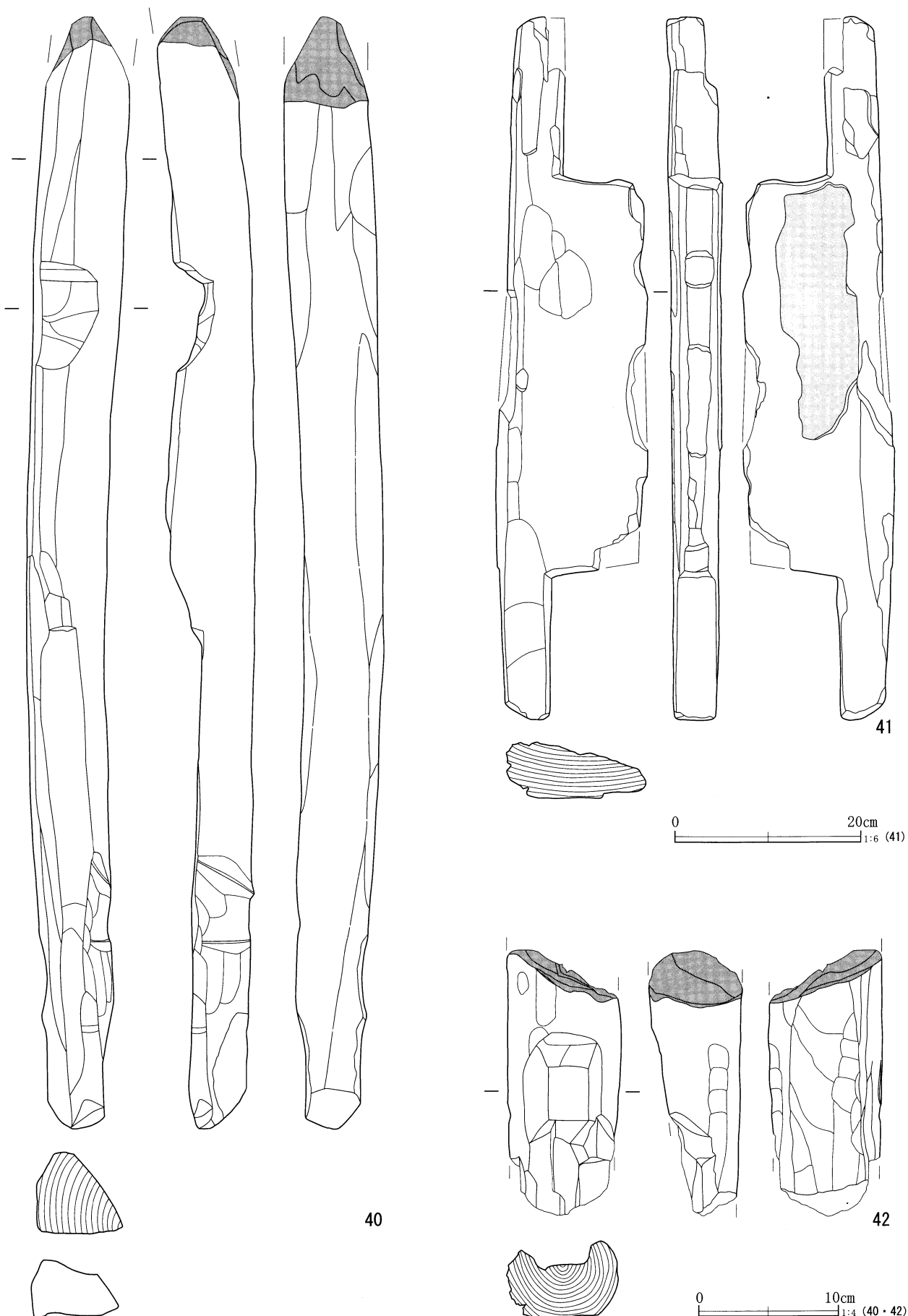


第 50 図 第423号溝跡出土遺物 (18)

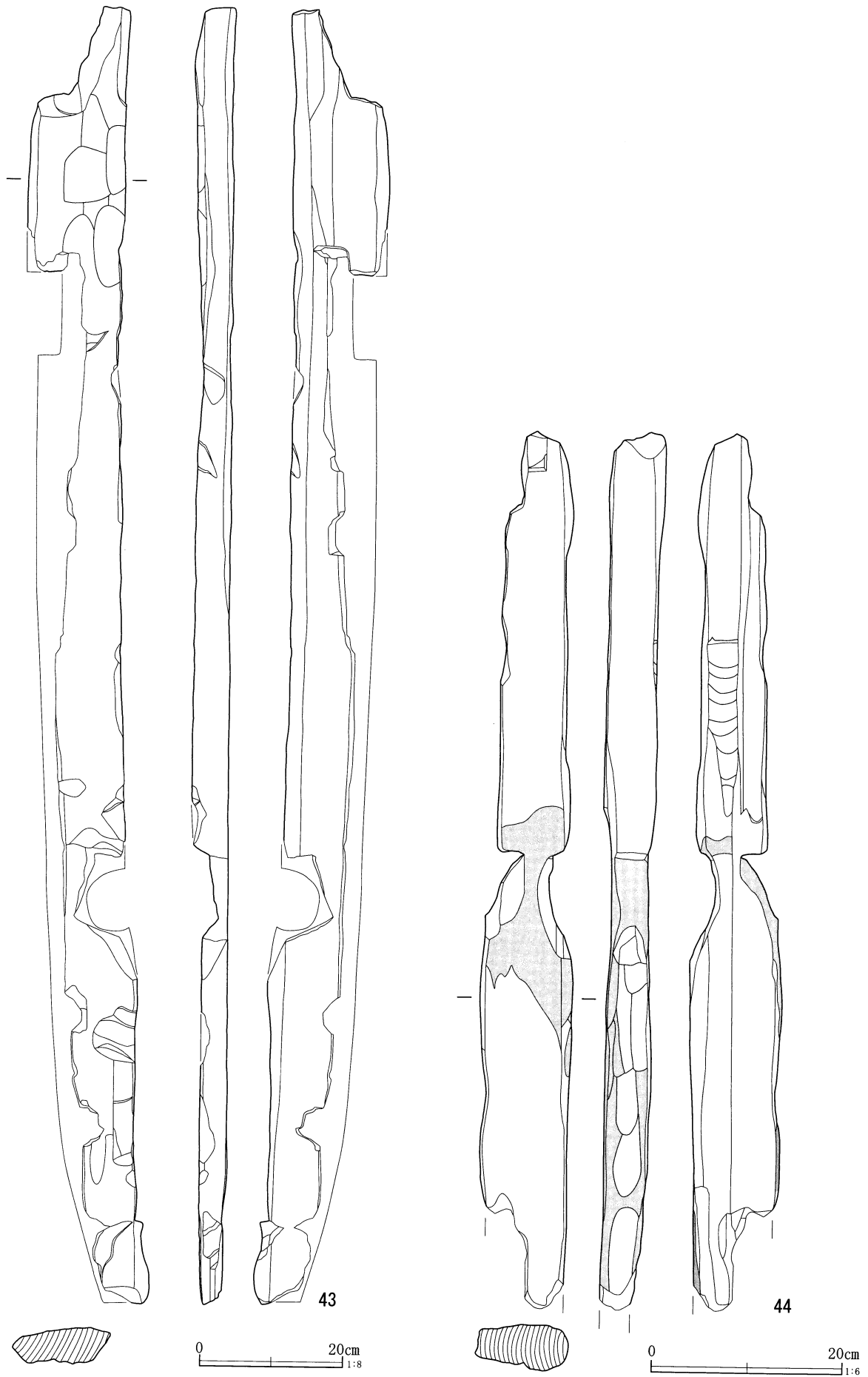
36は建築材の垂木である。X19グリッドにおいて出土した。残存長は14.2cm、幅は5.2cmである。割り材を削り出して作られたもので、頭部以外は外形が直線的である。本体の大部分を欠損している。頭部を有頭状に削り出してあり、長さは3.8cmである。34同様、頭部直下の挟りが浅いため、各部間の境界は明瞭ではない。挟りの長さは3.6cm、深さは0.6cm

である。本体の断面形は方形を呈する。

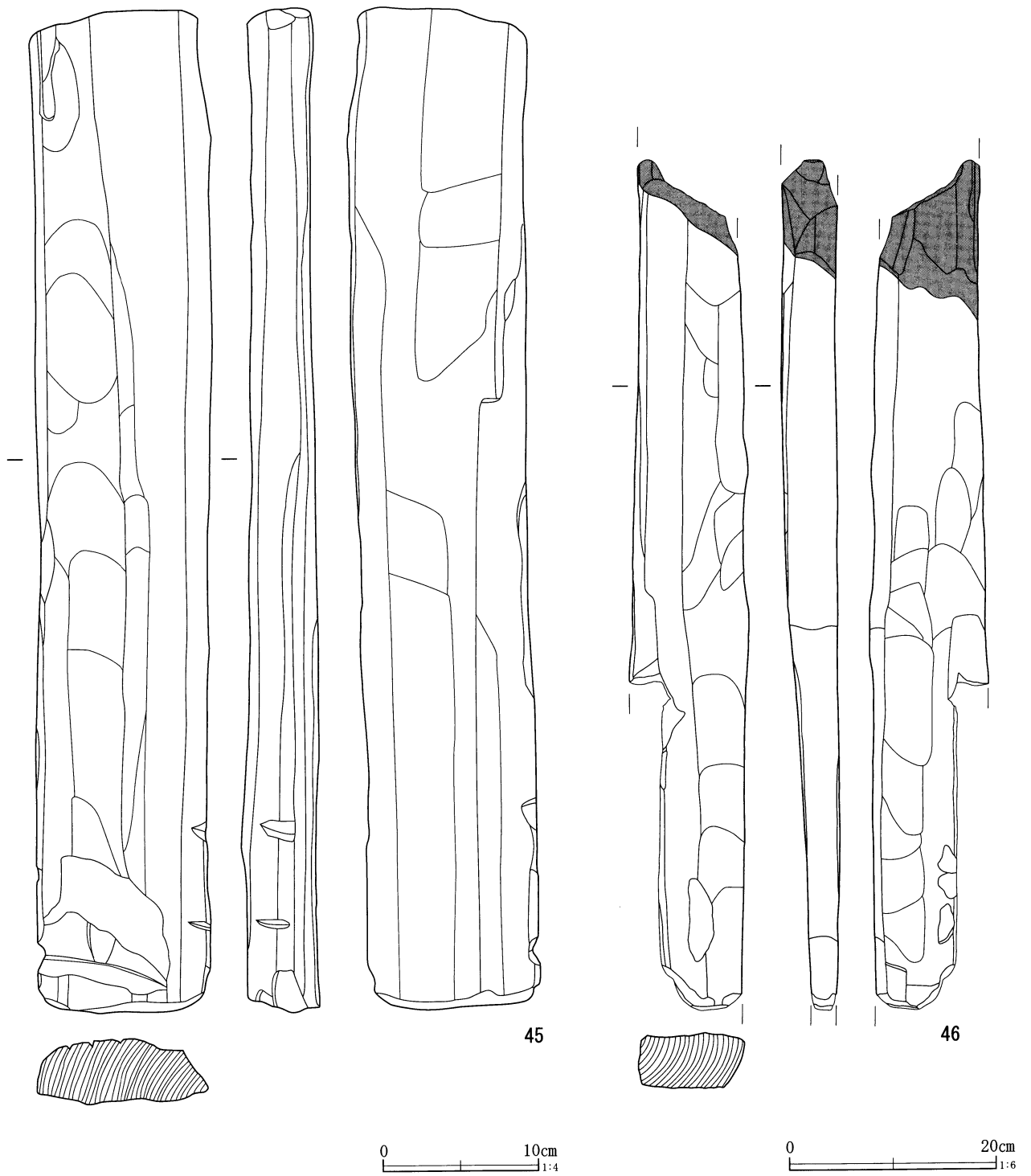
37は建築材である。割り材を削り出して作られた板材で、断面形は長方形を呈する。全長は90.6cm、幅は26.8cmである。長さが2.0~17.8cm、幅が0.8~4.6cmの割り痕が材全面に見られ、板状に作られる。材の長辺方向に長方形の通し柄が三箇所穿たれる。柄穴を穿つ間隔は均等ではなく、規則性は見られな



第 51 图 第423号沟迹出土遗物 (19)



第 52 图 第423号沟迹出土遗物 (20)



第 53 図 第423号溝跡出土遺物 (21)



い。柄穴の規模は、上の柄穴から長さ2.2cm幅1.6cm、長さ2.2cm幅1.6cm、長さ2.4cm幅1.6cmで、大きさは三箇所ともほぼ同じである。上下端部は斜めに切り落とされて二面に作られる。

38は建築材である。割り材を削り出して、板状に作ったもので、断面形は長方形を呈する。残存長は84.8cm、幅は15.2cmである。材の下部で最も幅が広く、材上半から徐々に幅が狭くなっている。厚さは均一である。表面・側面を細かく削っており、長さ2.4~18.6cm、幅1.2~6.0cmの削り痕が残る。材の上部には楕円形の通し柄が二箇所穿たれる。柄穴の最も広い部分で長さ4.4cm、幅6.8cm、柄穴内部の最も狭い部分で長さ2.2cm、幅4.0cmとなっている。柄穴には鑿状の工具で表裏面から削った痕跡が見られる。

39は建築材の横架材である。W17グリッドにおいて出土した。割り材を削り出して作ったものである。長さ3.4~8.0cm、幅1.8~5.0cmの削り痕が、正面と背面に見られる。全長は90.6cm、幅は11.8cmである。一方の側面を厚く、もう一方の側面を薄く作り、断面形は三角形を呈する。上下端部に他材と組むための仕口が作られており、仕口はL字状で鋭角である。上部の挟りは長さ14.2cm、幅4.6cm、下部の挟りは幅6.2cmである。

40は建築材である。W17グリッドにおいて出土した。残存長は79.0cm、幅は6.6cmである。割り材を削り出して作ったもので、断面形は台形を呈する。外形は直線的だが、反りが見られる。正面に挟りが一箇所作られる。挟りの長さは7.6cm、深さは2.7cmである。側面から見ると、上部は材に対し急角度で入り、下部へは緩やかな角度で抜けており、L字状の鈍角となっている。材の上端は焼失しており、下端は斜めに削り落とされている。

41は建築材である。W16グリッドにおいて出土した。全長は75.2cm、幅は16.2cmである。樹皮近くから取った割り材を削り出して作られており、背面に樹皮面が残る。外形は直線的である。一方の側面を

厚く、もう一方の側面を薄く作っており、断面形は三角形を呈する。上下端部には他材を受ける仕口が作られる。仕口の欠け口はL字状で鈍角である。上部の挟りは長さ16.8cm、深さ7.6cmで、下部の挟りは長さ15.0cm、深さ9.4cmである。

42は建築材の横架材である。芯持ち材を用いて作られたものである。上端部を焼失し、下端部を欠損しており、残存長は18.5cm、幅は8.1cmである。外形は直線的である。厚さは上部が最も厚く、下部にいくに従って薄くなる。丸材を削り、平坦な背面を作っている。正面には止め柄が一箇所穿たれる。柄穴は材表面から中心にいくに従い狭くなる。柄穴の上部は残存長7.7cm、幅5.6cm、下部は残存長3.9cm、幅2.9cmで、深さは1.6cmである。

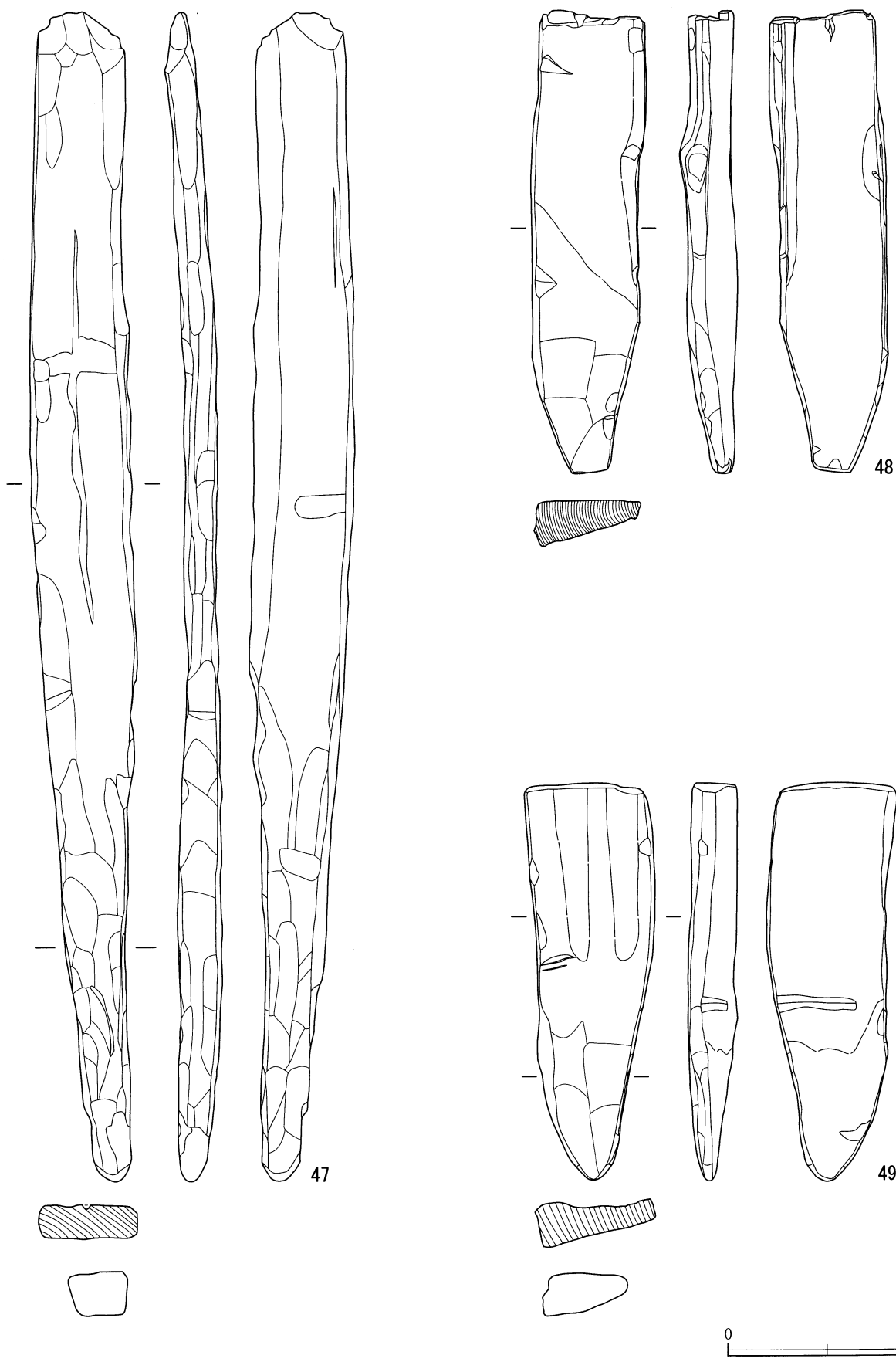
43は建築材である。W16・17グリッドにおいて出土した。全長は181.0cm、幅は13.6cmである。割り材を板状に作ったもので、上端部に他の部材を受ける柄穴が穿たれる。

44は建築材である。W17グリッドにおいて出土した。残存長は90.6cm、幅は9.6cmである。割り材を削り出したもので、断面形は長方形を呈する。中央に長さ11.0cm、幅5.8cmの挟りが作られる。仕口付近と側面の一部に被熱の痕跡が見られる。また被熱後に削った痕跡が見られる。

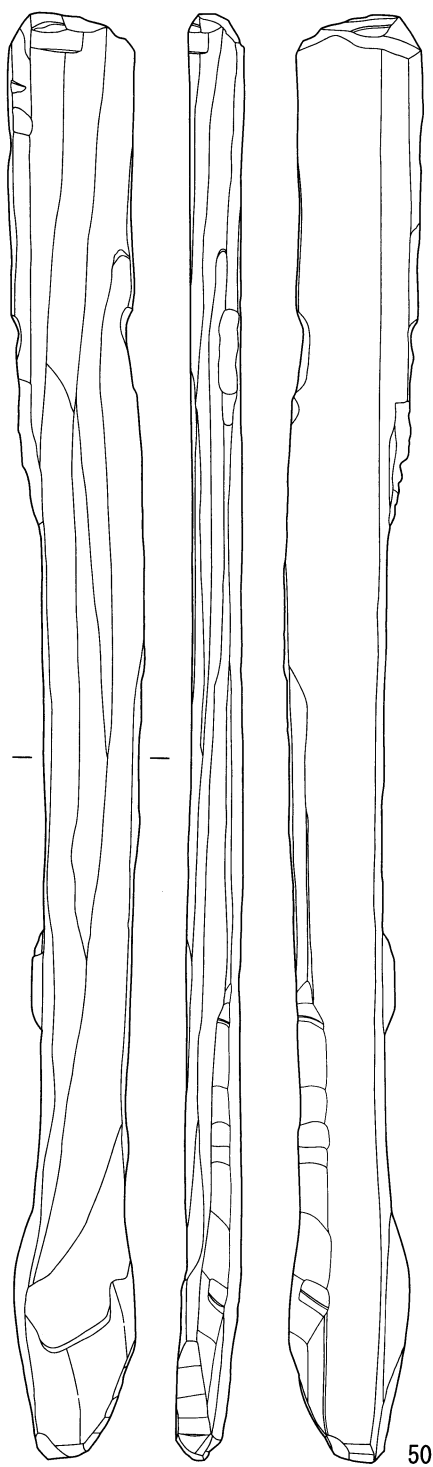
45は建築材である。X19グリッドにおいて出土した。全長は64.4cm、幅は11.4cmである。割り材を板状に削り出したものである。正面と背面には長さ4.0~27.6cm、幅1.6~3.8cmの削り痕が見られる。表裏面を平坦に削ってから、両側面を斜めに削り落としており、断面形は台形を呈する。

46は建築材である。W16グリッドにおいて出土した。残存長は81.6cm、幅は11.2cmである。割り材の全面を削り、断面長方形の板材に作ったものである。長さ3.8~12.6cm、幅1.4~4.8cmの削り痕が全面に見られ、表面は平滑である。上端部を焼失し、下端部を欠損している。

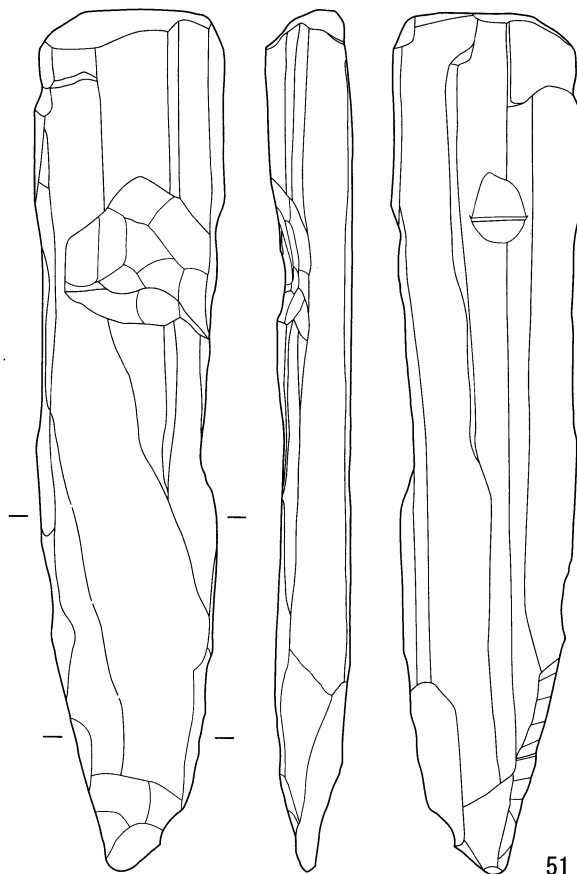
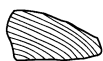
47は杭である。W16グリッドにおいて出土した。



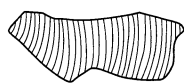
第 54 图 第423号沟迹出土遗物 (22)



50



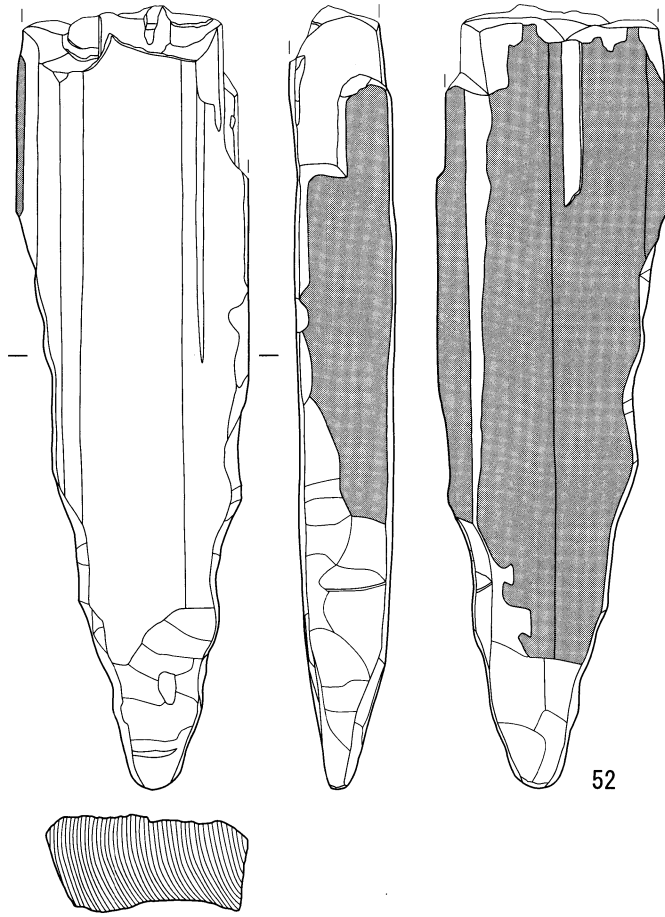
51



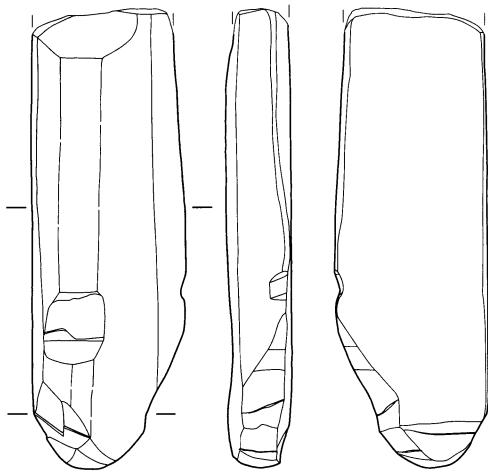
0 20cm 1:8

0 20cm 1:6

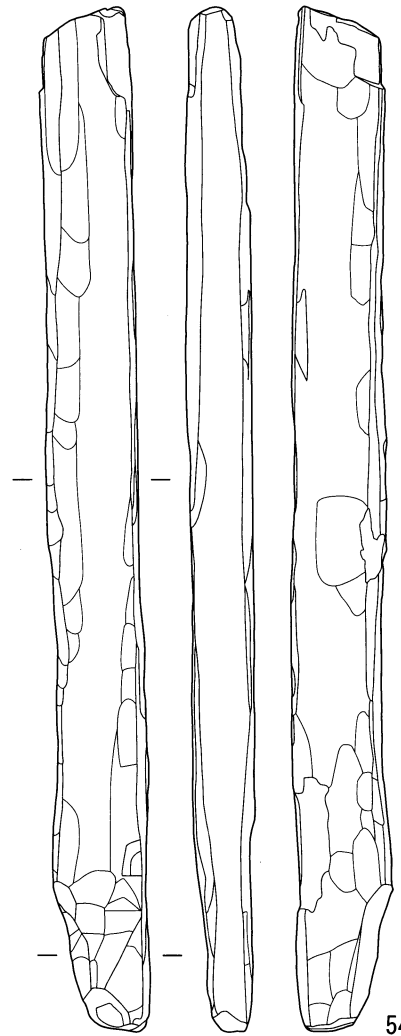
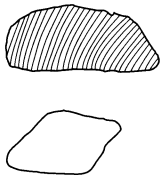
第 55 图 第423号溝跡出土遺物 (23)



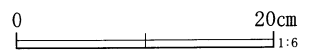
52



53



54



第 56 图 第423号溝跡出土遺物 (24)

全長は117.0cm、幅は10.2cm、杭先は44.2cmである。割り材を板状に作り、断面形は方形を呈する。長さ2.6~9.8cm、幅0.8~3.2cmの加工幅が杭先と上部に残存する。材の先端全面を削り、杭先端部を四面に作り、上部は表裏面を削って二面に作る。

48は杭である。W15グリッドにおいて出土した。全長は46.8cm、幅は11.1cm、杭先は8.2cmである。割り材を板状に削り出したもので、断面形は長方形を呈する。先端の正面を3.5~5.5cm幅で、側面を1.7cm幅で削っている。正面と両側面を削り落とし、杭先端を四面に作る。

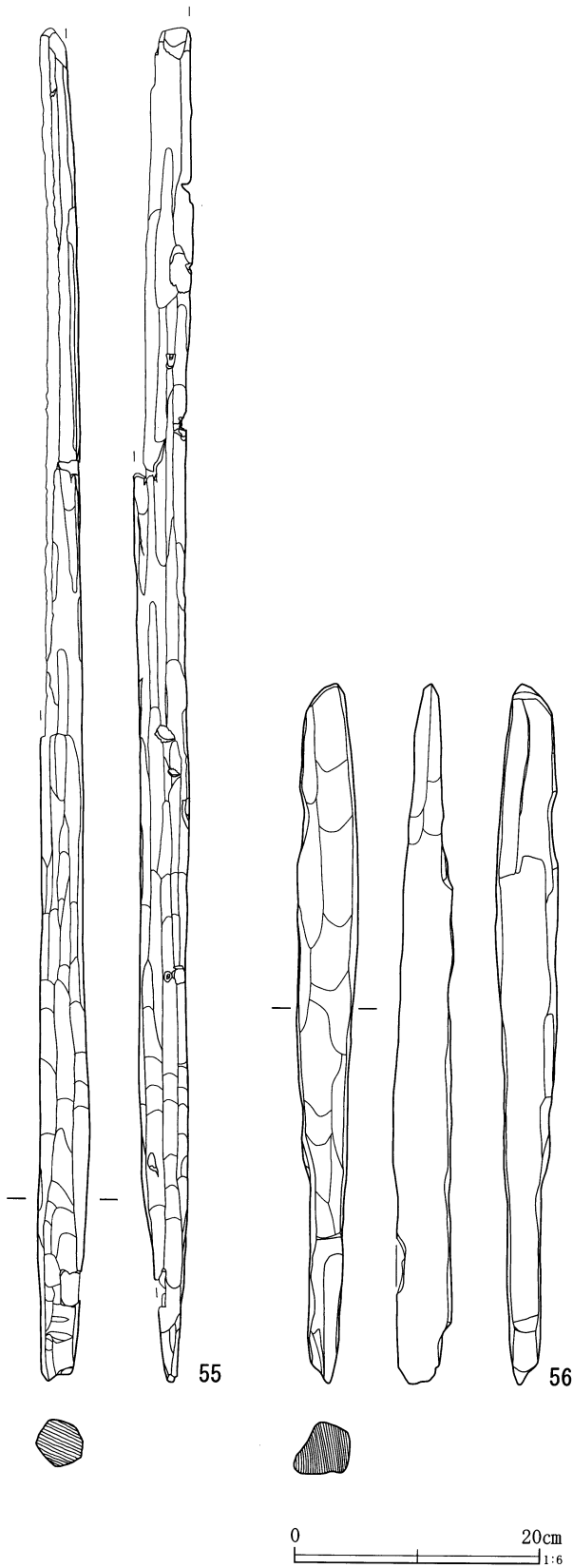
49は杭である。W17グリッドにおいて出土した。全長は39.6cm、幅は12.5cm、杭先は12.0cmである。割り材を板状に削り出したもので、断面形は長方形を呈する。材端部の両側面を斜めに削り落として、杭先端を四面に作る。上端は平坦に作られる。

50は杭である。W16グリッドにおいて出土した。全長は146.0cm、幅は13.0cm、杭先は11.5cmである。割り材を削り出したものである。片方の側面をもう一側面より薄く作り、断面形はいびつな三角形を呈する。正面と背面の上端部を斜めに削り落として尖らせる。

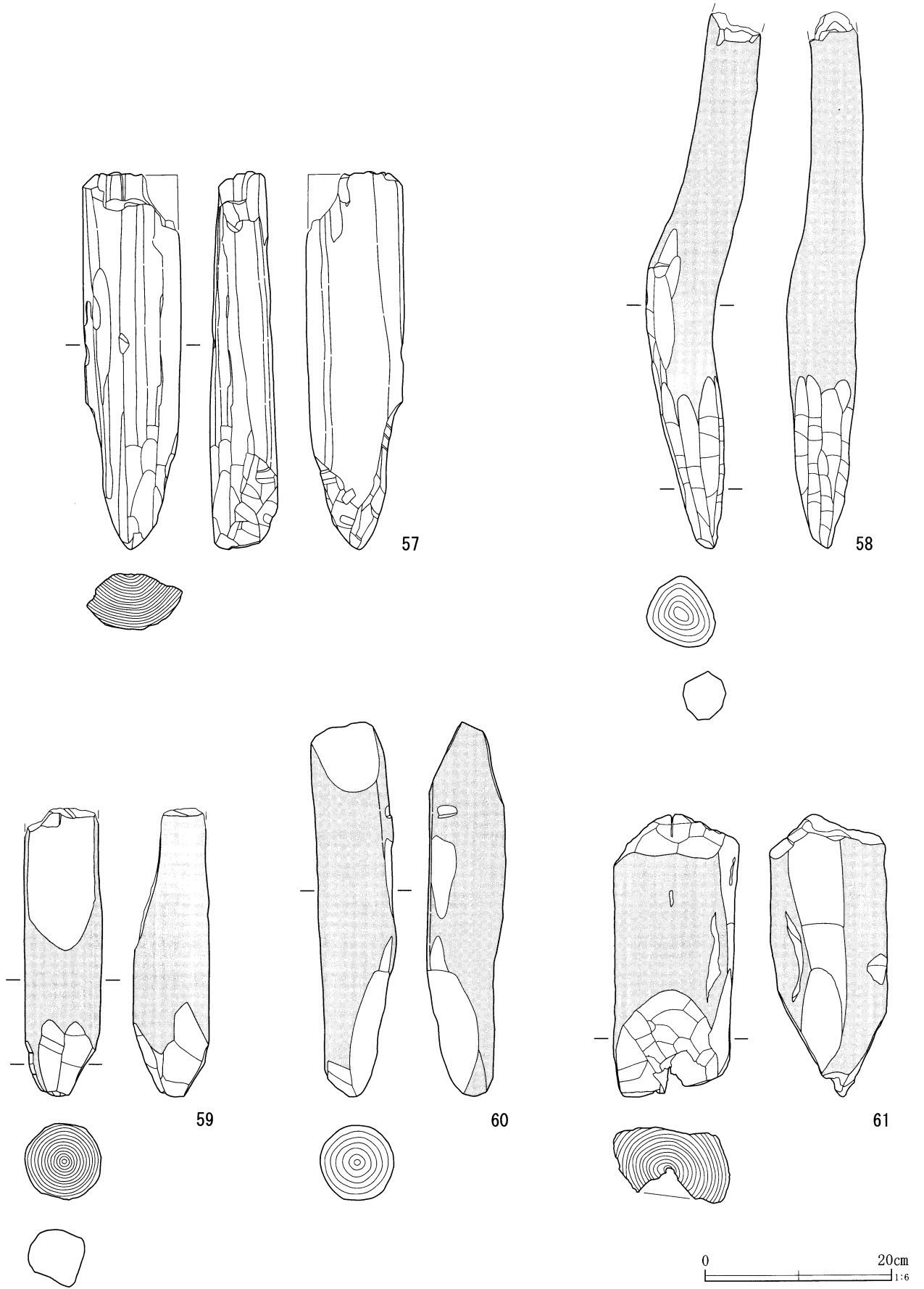
51は杭である。W17グリッドにおいて出土した。全長は66.8cm、幅は14.6cm、杭先は16.6cmである。割り材を削り出して板状の杭としたものである。正面には幅11.2cm、深さ2.6cmの削り込みが見られる。杭先は、全面を斜めに削り落として五面に作られる。上部の正面と背面を斜めに削り落としている。

52は杭である。X21グリッドにおいて出土した。残存長は60.6cm、幅は14.4cm、杭先は18.0cmである。割り材を削り出して作られた杭である。側面・先端を削って作られ、断面形は長方形を呈する。杭先は全面を削って四面に作られる。被熱後に加工した痕跡があり、焼失材を用いたと考えられる。

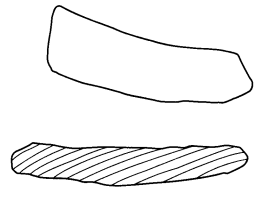
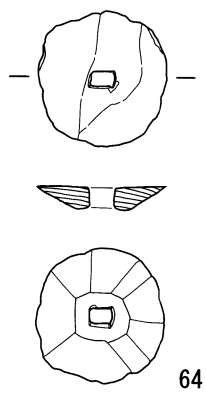
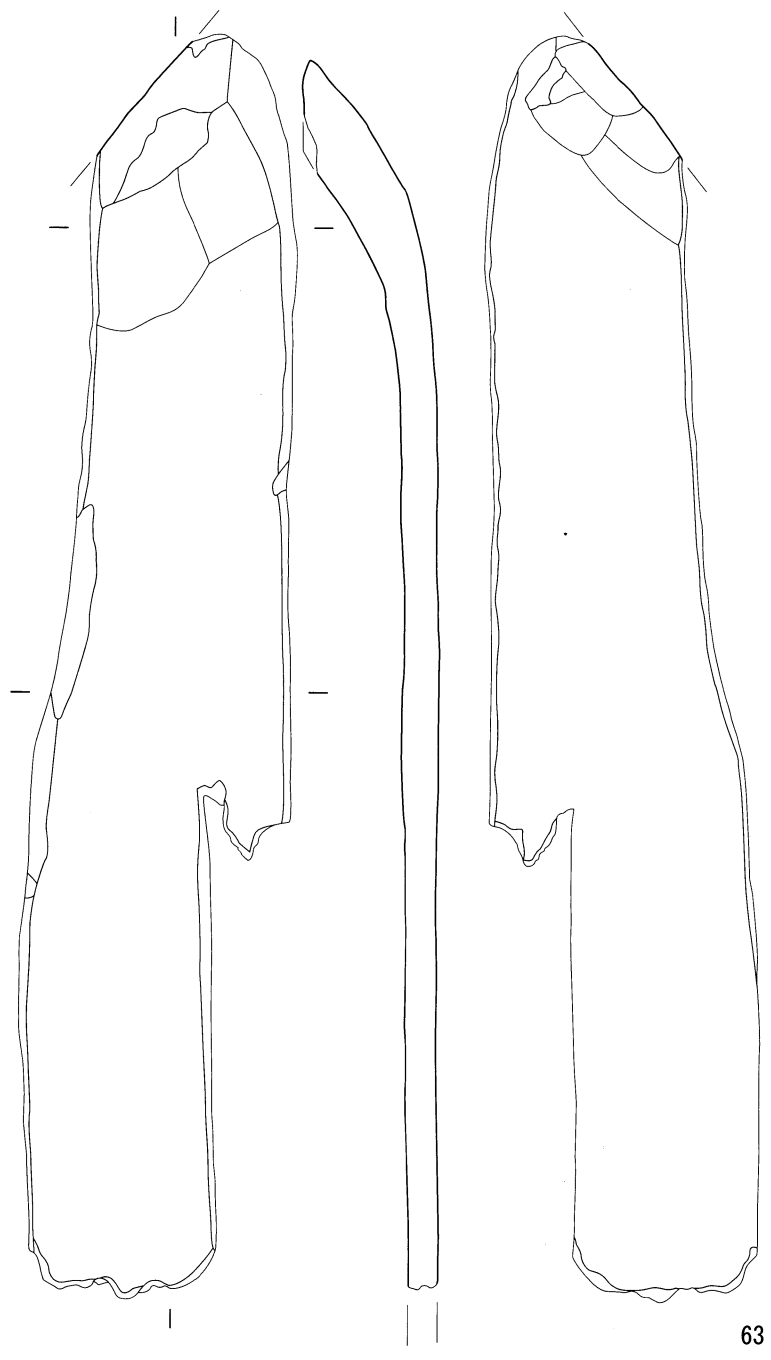
53は杭である。X19グリッドにおいて出土した。残存長は35.6cm、幅は11.8cm、杭先は11.9cmである。割り材を削り出して作ったもので、断面形は半円形



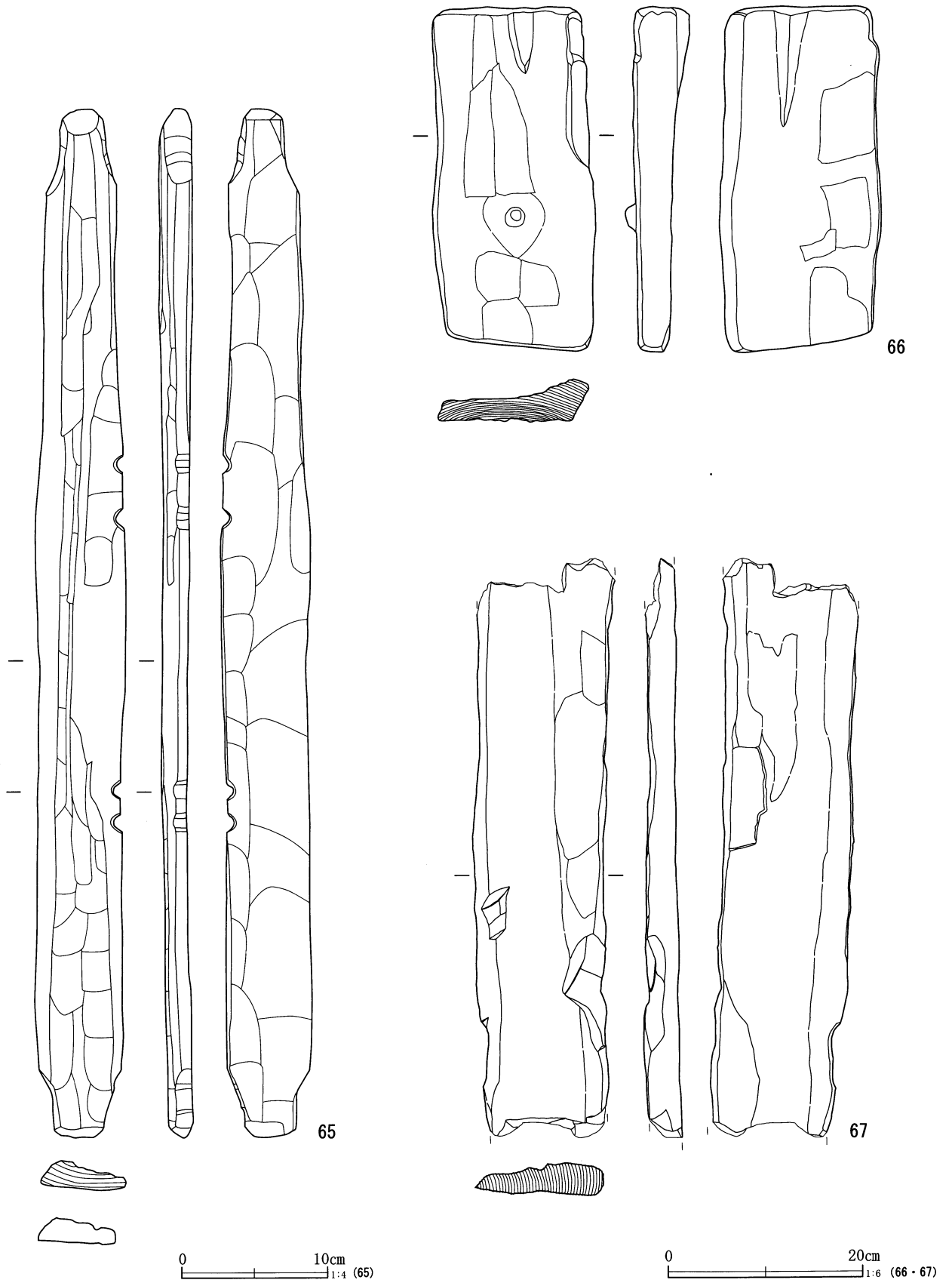
第 57 図 第423号溝跡出土遺物 (25)



第 58 图 第423号溝跡出土遺物 (26)



第 59 图 第423号沟迹出土遗物 (27)



第 60 图 第423号沟迹出土遗物 (28)



を呈する。下端部の正面・背面を削り出して、杭先を四面に作る。

54は杭である。X20グリッドにおいて出土した。全長は78.8cm、幅は7.2cm、杭先は11.6cmである。割り材を削り出したもので、断面形は方形を呈する。角柱状である。正面と背面の一部には、長さ2.0～13.8cm、幅0.6～1.8cmの削った痕跡が見られる。材先端の全面を繰り返し削っており、杭先は五面に作られる。

55は杭である。残存長は108.8cm、幅は4.0cmで、杭先は16.2cmである。割り材を削り出して細長い棒状の杭としている。全面に長さ2.4～13.0cm、幅0.6cmの加工痕が残存する。断面形は六角形を呈する。材先端の正面と背面を削り落とし、杭先を四面に作る。

56は杭である。W16グリッドにおいて出土した。全長は57.0cm、幅は5.0cmである。割り材を削り出して作ったもので、断面形はいびつな台形を呈する。杭先端は四面に作られる。正面には、長さ3.6～9.5cm、幅0.6～3.4cmの加工痕が残存する。

57は杭である。W17グリッドにおいて出土した。全長は40.4cm、幅は10.4cm、杭先は12.5cmである。割り材を削り出して作ったもので、断面形は扇形を呈する。材下端部の両側面を斜めに削り落として、杭先端を四面に作る。杭先端以外に加工の痕跡は見られない。

58は杭である。X21グリッドにおいて出土した。残存長は57.2cm、幅は8.1cm、杭先は18.4cmである。丸木を用いて作られた杭で、断面形は楕円形を呈する。材下端部の全面を削り出して杭先とし、九面に作る。杭先以外にはほとんど加工した痕跡が見られず、樹皮面が残存する。

59は杭である。X19グリッドにおいて出土した。残存長は30.8cm、幅は8.3cm、杭先は7.8cmである。丸木を用いて作られた杭で、断面形は円形を呈する。材下端部の全面を削り落として杭先とし、五面に作る。杭先端はいびつな五角形を呈する。杭先以外に

加工の痕跡は見られず、全面に樹皮面が残存する。

60は杭である。X20グリッドにおいて出土した。全長は40.0cm、幅は8.2cm、杭先は13.4cmである。丸木を用いて作られた杭で、断面形は円形を呈する。材下端部の一面を削り、杭先とする。上端部の二側面を斜めに削り落として二面に作る。

61は杭である。全長は30.3cm、幅は13.3cm、杭先は11.6cmである。丸木を用いて作られた杭で、断面形は円形を呈する。材先端の二面を削り落とし、杭先を四面に作る。先端には幅3.0～5.0cm、長さ2.3～2.8cmの削り痕が残存する。先端部以外はほとんど加工をせず、全面に樹皮面が残存する。杭としては短く、他の用途が考えられる。

62は板状の製品である。W19グリッドにおいて出土した。残存長は64.0cm、幅は4.7cmである。割り材を削り出して板状に作ったもので、断面形は偏平な五角形を呈する。端部・側面以外に整形の痕跡は見られないが、いずれの面も凹凸が少なく平坦である。上端は丸く仕上げられる。上端付近の両側面には抉りが作られる。また、下方の両側面を斜めに削り落としており、幅が狭くなっている。

63は運搬具の田舟である。W16グリッドにおいて出土した。残存長は65.0cm、残存幅は13.4cm、高さは7.0cmである。内面の深さは最大で5.6cmである。舟の舳先か、後部である。先端の形態から中心より外れた部分であろう。底部の厚さは2.0cmと最も薄く、端部にいくに従い厚さを増し、先端部分は底面より厚くなる。いずれの面も直線的な部分がなく、曲線的である。端部の内外面にのみ加工の痕跡が残り、その他の表面は平滑で、丁寧な整形である。

64は紡織具の紡錘車である。X15・16グリッドにおいて出土した。広面は長さが6.9cm、幅が6.6cmである。狭面は長さが2.6cm、幅が2.8cmである。中心に方形の軸穴が穿たれる。軸穴は長さが0.9cm、幅が1.1cmである。

65は紡織具の織機である。X20グリッドにおいて出土した。全長は70.2cm、幅は6.2cmである。割り

材を削り出して板状に作ったものである。全面に長さ2.0~9.0cm、幅0.4~4.8cmの削り痕が見られる。外形は直線的である。片側の側面には二箇所一組の抉りが二組作られている。抉りの形状は半円形を呈する。抉りの長さは0.7cm、深さは0.3cmである。抉りの大きさは四箇所とも同じであるが、間隔は均一ではなく規則性は見られない。半円形の抉りがある側面が、もう一側面よりもやや薄く作られ、断面形は四角形を呈する。上下端の側面を斜めに削り落としており、幅が狭くなっている。上下端部の表裏面を斜めに削り落とす。

66は板状の加工材である。W15グリッドにおいて出土した。全長は35.2cm、幅は16.6cmである。割り材を板状に加工したもので、片側の側面が、もう片側の側面よりも厚く作られる。断面形はいびつな長方形を呈する。板材の外形は直線的である。

67は板状の加工材である。W19グリッドにおいて出土した。上下端部を欠損しており、残存長は59.3cm、幅は13.9cmである。

割り材を板状に加工したものである。表面の一部に削った痕跡が見られる。

第 6 表 第423号溝跡出土遺物観察表

挿図番号	番号	器種	部位	グリッド	全長	幅	厚さ	被熱	残存率	図版
33	1	鍬	身	W14	32.6	(13.2)	隆起4.7 片刃0.6	-	65	29
33	1	鍬	柄	W14	104.1	2.7		-	100	29
34	2	小型鍬	身	W17	13.8	10.2	3.1	○	100	29
34	2	小型鍬	柄	W17	(71.5)	2.5		○	-	29
34	3	鍬	柄	X19	(90.0)	3.6 握部2.8	2.2	○	70	30
35	4	鍬	柄	X19	(61.6)	装着面4.4 握部3.4	装着面2.8	-	-	30
36	5	二又鍬	身	X19	(59.7)	18.2 片刃7.8		-	80	31
37	6	二又鍬	身		(39.6)	(4.9)	2.3 片刃0.6	-	15	32
37	7	二又鍬	身		(29.0)	片刃6.1	片刃1.1	-	40	32
37	8	二又鍬	身	X21	(29.7)	(11.0) 片刃6.2	2.0 片刃1.0	-	40	32
38	9	鍬	身	X19	(22.4)	(9.6) 軸部2.7	軸部2.3 刃部2.6	-	40	32
38	10	鋤		W17	17.9	身10.0	身0.9	-	-	33
39	11	鋤	柄	W19	(69.5)	把手8.3 柄3.5	把手1.7 柄2.6	-	60	33
39	12	鋤		X19	(67.8)	身(6.0) 柄(2.4)	身2.8 柄3.2	○	60	34
40	13	鉄斧	柄	W19	(44.3)	装着面5.0 握部4.8	装着面3.8	-	-	35
40	14	鉄斧	柄	W16	(22.0)	装着面4.1 握部2.7	装着面1.2	-	-	35
41	15	竪杵		X19	114.3	搦部10.4 握部3.1	搦部9.2 握部2.9	-	100	36
41	16	竪杵		X19	(79.6)	搦部10.5 握部3.2	搦部8.0 握部3.2	-	60	36
41	17	竪杵		W16	(27.7)	7.9	6.5	-	30	37
41	18	横槌		X20	(21.1)	8.1	8.0	-	70	37
42	19	横槌		W19	(58.1)	5.5	5.1	○	70	37
42	20	錯		X19	(143.5)	柄2.8	柄2.3 錯先1.1/0.9	-	-	34
43	21	柱		X20	(45.0)	11.5	7.8	○	-	38
44	22	柱		X19	(64.0)	10.0	7.2	○	-	39
44	23	横架材		W14	(54.2)	3.6	3.6	○	-	39
45	24	梯子		X19	167.4	16.2	足掛け10.4 段間6.3	○	95	40
45	25	梯子		X19	(134.0)	11.0	足掛け8.0 段間4.2	-	90	41
46	26	梯子		W17	159.0	19.8	足掛け14.1 段間7.5	-	95	42
46	27	梯子		W16	(108.4)	14.0	足掛け8.4 段間4.2	○	-	43
47	28	梯子		W14	(37.0)	11.0	足掛け6.2 段間4.0	-	-	44
47	29	梯子		X20	(49.6)	9.6	足掛け6.9 段間4.1	-	-	44
47	30	梯子		W16	(80.2)	17.2	足掛け8.2 段間2.8	-	-	45
47	31	梯子		W16	(76.8)	14.8	足掛け3.6 段間1.8	-	-	45
48	32	梯子		V14	(42.0)	10.6	足掛け7.1 段間5.1	-	-	46
48	33	梯子		X19	(33.7)	8.0	5.4	-	-	46
48	34	垂木		X20	(77.0)	4.6	3.0	-	-	47
48	35	垂木		X19	73.5	5.9	5.5	-	100	47
48	36	垂木		X19	(14.2)	5.2	3.2	-	-	48
49	37	建築材			90.6	26.8	3.2	-	100	49

第530号溝跡出土木製品（第72図）

1は板状の加工材である。残存長は23.0cm、幅は13.5cmである。割り材を板状に削り出したものである。断面形はほぼ長方形で、厚さは2.7cmを計る。

第464号溝跡（第65～69図）

西側で隣接する第12地点で検出された第3号、30号溝跡は、第464号溝跡に続く溝跡である。

規模は、南北45.9～75.0m、東西75.6～85.2mでいびつな略方形をなす。南辺の西半部は、鉤状に屈曲している。北西コーナー部は検出されていない。北辺は、調査区北西部に検出された河川跡、東辺は、

調査区中央部の水路跡と並行する。溝断面は逆台形から「V」字形を呈し、遺構確認面からの深さが0.39～1.44m程である。

木製品は、主に南東溝の鉤状に屈曲する部分から西側、J18グリッド、L17グリッド、M16グリッド周辺から出土している。

南辺J18グリッドの屈曲部付近から、0.8m×2.0mの範囲にわたって、多量に出土している。

溝底に埋設された2本の杭の上に、溝跡と交差する方向に幅広の木材2～3本と、さらにその上面には溝跡と平行する方向に多量の細長の木材が出土し

挿図番号	番号	器種	部位	グリッド	全長	幅	厚さ	被熱	残存率	図版
50	38	建築材			(84.8)	15.2	4.2	-	-	48
50	39	建築材		W17	90.6	11.8	5.0	-	90	50
51	40	建築材		W17	(79.0)	6.6	5.8	○	-	50
51	41	建築材		W16	75.2	16.2	6.0	-	95	51
51	42	建築材			(18.5)	8.1	5.2	○	-	51
52	43	建築材		W16・17	181.0	13.6	5.0	-	75	52
52	44	建築材		W17	(90.6)	9.6	4.6	○	-	-
53	45	建築材		X19	64.4	11.4	3.8	-	100	52
53	46	建築材		W16	(81.6)	11.2	5.4	○	-	53
54	47	杭		W16	117.0	10.2	3.4	-	100	53
54	48	杭		W15	46.8	11.1	4.5	-	100	54
54	49	杭		W17	39.6	12.5	4.4	-	100	54
55	50	杭		W16	146.0	13.0	5.2	-	100	54
55	51	杭		W17	66.8	14.6	5.4	-	100	55
56	52	杭		X21	(60.6)	14.4	7.3	○	-	55
56	53	杭		X19	(35.6)	11.8	5.1	-	-	55
56	54	杭		X20	78.8	7.2	4.6	-	100	56
57	55	杭		W14	(108.8)	4.0	3.8	-	-	56
57	56	杭		W16	57.0	5.0	4.2	-	100	57
58	57	杭		W17	40.4	10.4	6.1	-	95	57
58	58	杭		X21	57.2	8.1	7.5	-	-	57
58	59	杭		X19	(30.8)	8.3	8.1	-	-	58
58	60	杭		X20	40.0	8.2	7.8	-	100	58
58	61	杭		W14	30.3	13.3	12.2	-	100	58
59	62	不明製品		W19	(64.0)	4.7	1.3	-	-	59
59	63	田舟		W16	(65.0)	(13.4)	側面3.4 底部2.0	-	-	59
59	64	紡錘車		X15・16	6.9	6.6	1.2	-	100	60
60	65	織機		X20	70.2	6.2	1.8	-	100	60
60	66	板状加工材		W15	35.2	16.6	4.2	-	100	-
60	67	板状加工材		W19	(59.3)	13.9	3.2	-	-	-

第7表 第423号溝跡出土遺物観察表

挿図番号	番号	器種	部位	グリッド	全長	幅	厚さ	被熱	残存率	図版
72	1	板状加工材			(23.0)	13.5	2.7	-	-	-

た。

「木橋」が崩落したものと推定されている。溝底に埋設された2本の杭を橋脚とし、溝跡と交差する方向に橋桁を渡し、溝跡と平行する方向に多量の細長の木材による横板が並べられた構造が想定されている。

木製品は、鋤の身、建築材、部材、不明品が出土した。いずれも溝跡底面の出土である。

L17グリッドでは鋤が、身と柄が装着された形で溝の走行方向に沿って、底面に接して出土した。やや南西に離れて骨片が出土している。

M16グリッド周辺部では、溝の走行方向に直行する木製品もあるが、大部分は走行に沿って、底面から浮いた状態で出土している。木製品が集中する部分は、溝底面がさらに掘り込まれている。

剣形品は、木製品が集中する部分よりやや北側にはなれた位置で、溝跡底面から出土している。

その他加工材、木片、用途不明品等が出土している。木片が圧倒的に多く約60%を占め、次いで加工材と建築材が併せて23%を占める。農耕具は4%と

ごく僅かである。

出土木製品を第70～72図に示した。

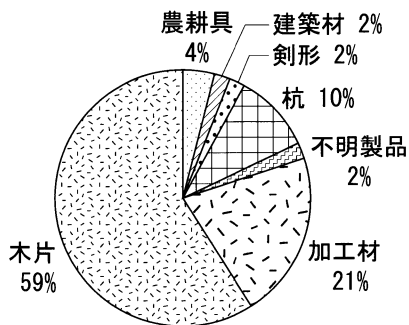
1は農耕具の鋤である。L17グリッドにおいて身と柄が装着した状態で出土した。身の全長は33.0cm、残存幅は9.4cmで、柄の全長は103.0cm、幅は2.8cmである。身と柄との着柄角度は61°を測る。

身の刃幅は9.4cmと幅ぜまであり、身幅15cm以下の狭鋤である。身の後面上部には「逆T字状隆起」が作られる。隆起の下端に平坦な面があり、頭部との境界を明瞭にする段差が作られる。頭部の両側面には耳状の造りだしが作られる。柄穴は径4.4cmである。前面は平坦に作られる。柄は割り材を削り出して作られたものである。縦方向に細かに削り込まれ、断面形は円形を呈する。外形は直線的である。下端は丸く突出する。柄の上部には被熱の痕跡が見られる。

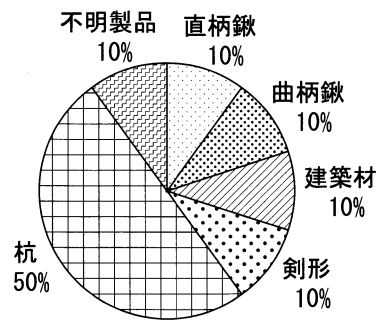
2は農耕具の鋤の身である。J18グリッドにおいて出土した。残存長は40.4cmである。軸は長さが7.2cm、幅が3.8cmである。刃部の残存長は33.2cm、幅は8.8cmと細長い。軸部は、上端に丸みを持ち、

第8表 第464号溝跡出土遺物構成

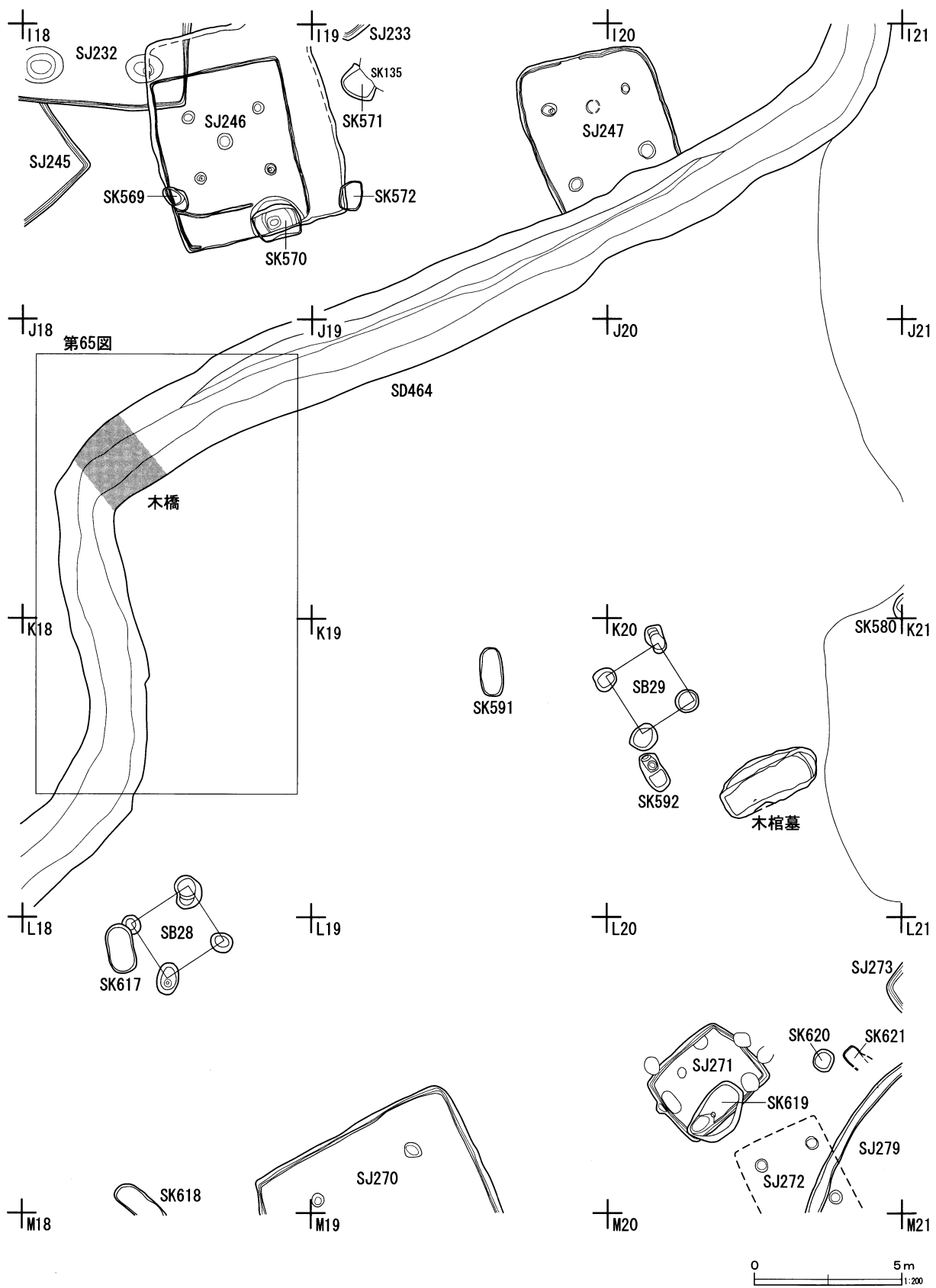
種別	器種	部位	点数	割合
農耕具	鋤 (曲柄)	身	1	4%
農耕具	鋤 (曲柄)	身・柄	1	
建築材	建築材		1	2%
形代	剣形		1	2%
杭	杭		5	10%
	不明製品		1	2%
	加工材		10	21%
	木片		28	59%
合計			48	100%



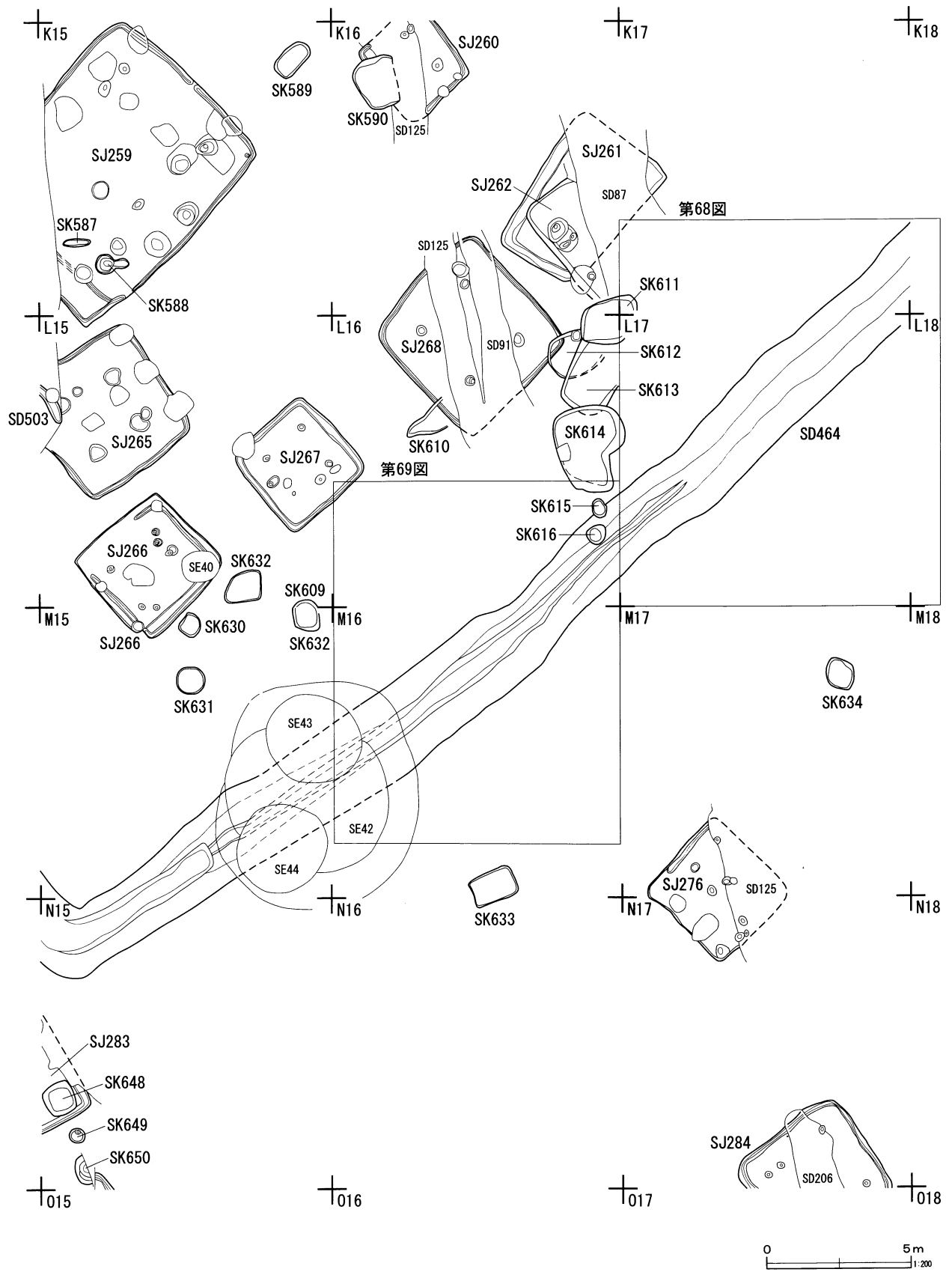
第61図 第464号溝跡出土木製遺物構成



第62図 第464号溝跡出土木製品構成



第 63 图 第464号沟迹区割图 (1)



第 64 图 第464号沟迹区割图 (2)

外形は肩部までやや外湾する。肩部はやや鈍角に作られる。肩部の両側面は斜めに削り落とされる。刃部外縁は外湾がなく、直線的である。刃部前面には不規則な加工痕が見られ、平坦に作られている。刃部前面には、長さ1.7～7.7cm、幅0.8～4.9cmの加工痕が全面に残存する。刃部後面の上部から刃先にかけて、削り込みが見られる。刃部後面は軸部近くが最も厚く、削り込みにより刃部先端に向かって徐々に薄くなる。軸部と刃部の境には0.4cmの明瞭な段差を持つ。

3は建築材の横架材である。J18グリッドにおいて出土した。残存長は41.3cm、幅は9.4cmである。割り材を削り出したもので、断面形はいびつな三角形を呈する。他材と組むための抉りが一箇所作られる。抉りはコの字状に作られ、長さが9.8cm、深さが3.7cmである。抉りは長辺方向に対して垂直ではなく、やや右上がりに曲がって作られる。上端、下端は被熱により欠損している。

4は杭である。M16グリッドにおいて出土した。残存長は43.5cm、幅は6.3cmである。割り材を角柱状に削り出したもので、断面形は方形を呈する。外形は直線的ではない。厚さは均一であるが、整形の痕跡はほとんど見られない。

5は杭である。J18グリッドにおいて出土した。橋脚付近で出土しており、橋の構造材と考えられる。残存長は52.6cm、幅は9.4cmである。木材の中心部

を削り出して作られたものである。材の半周を削り込んで整形するが、もう半周は割り裂いたままで加工の痕跡は見られない。断面形は上面が半円、下面が平らな形状を呈する。材一端の幅が最も広く、もう一端に向けて徐々に幅が狭くなっている。

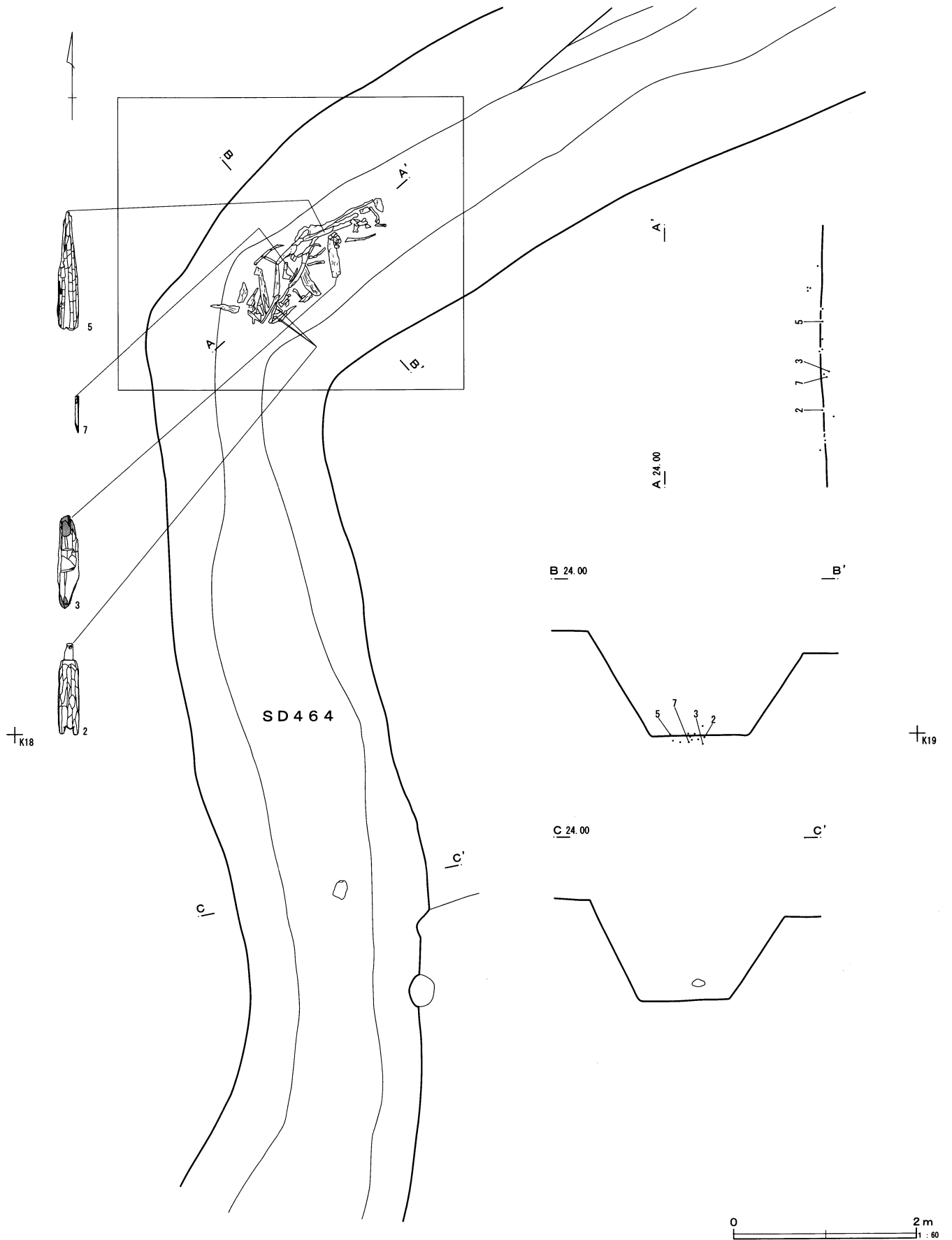
6は祭祀具の剣形である。M16グリッドにおいて出土した。全長は25.6cmである。剣部の幅は3.8cm、剣間の幅は、1.5cm、把頭の残存幅は1.8cmである。断面形は平坦な長方形を呈する。剣部の先端は山形であり、剣部外縁は直線的に作られる。剣部と把頭の間は、剣部付近で緩やかに湾曲し、把頭近くでは直線的に作られる。剣部外縁には面取りが施される。剣部に鏝はない。

7は用途不明の製品である。J18グリッドにおいて出土した。残存長は16.4cm、幅は1.5cmである。割り材を整形して作ったもので、断面形は方形を呈する。上端部は丸いが、上端部以外は直線的である。下端部は熱を受け欠損している。上部には、正面から背面へ貫通する穴が穿たれる。穴は角がとれた長方形で、長さ1.9cm、幅0.6cmである。また、この穴の両側面には、両側面を貫通する0.2cmの穴が穿たれ、木釘の一部と思われる木片が残存する。

8は板状の加工材である。残存長は22.5cm、幅は12.8cmである。割り材を板状に削り出したものである。一方の側面をもう一方の側面より薄く作り、断面形は三角形を呈する。

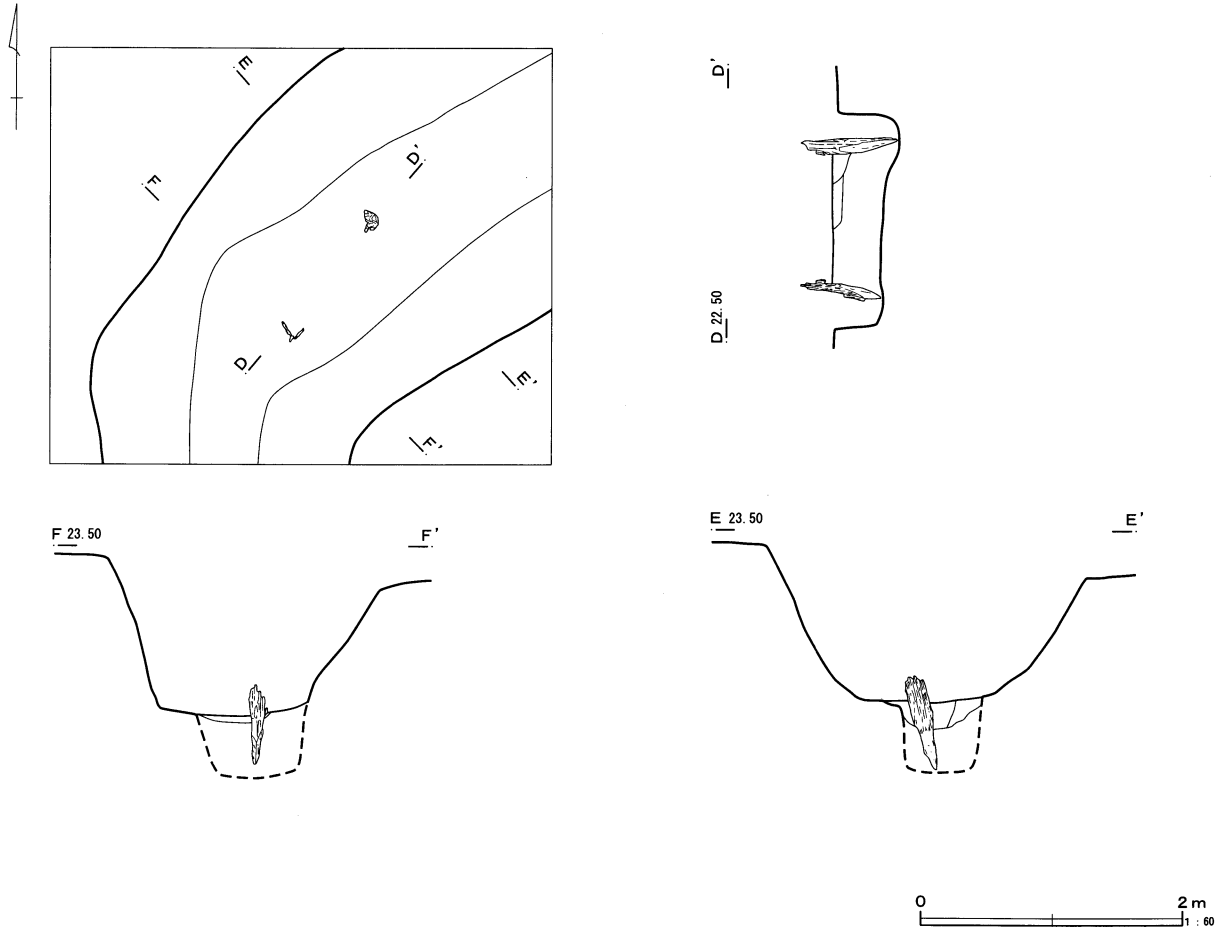
第9表 第464号溝跡出土遺物観察表

挿図番号	番号	器種	部位	グリッド	全長	幅	厚さ	被熱	残存率	図版
70	1	鍬	柄	L17	103.0	2.8	2.4	○	-	61
70	1	鍬	身	L17	33.0	(9.4)	隆起4.4 刃1.0	-	-	61
71	2	鍬	身	J18	(40.4)	刃8.8 軸3.8	軸2.4 刃1.3	-	80	61
71	3	建築材		J18	(41.3)	9.4	5.1	○	-	62
71	4	杭		M16	(43.5)	6.3	3.3	-	-	63
71	5	杭		J18	(52.6)	9.4	7.0	-	50	63
72	6	剣形		M16	25.6	剣部3.8 把間1.5	0.5	-	100	62
72	7	不明製品		J18	(16.4)	1.5	1.2	○	-	63
72	8	板状加工材			(22.5)	12.8	3.5	-	-	-

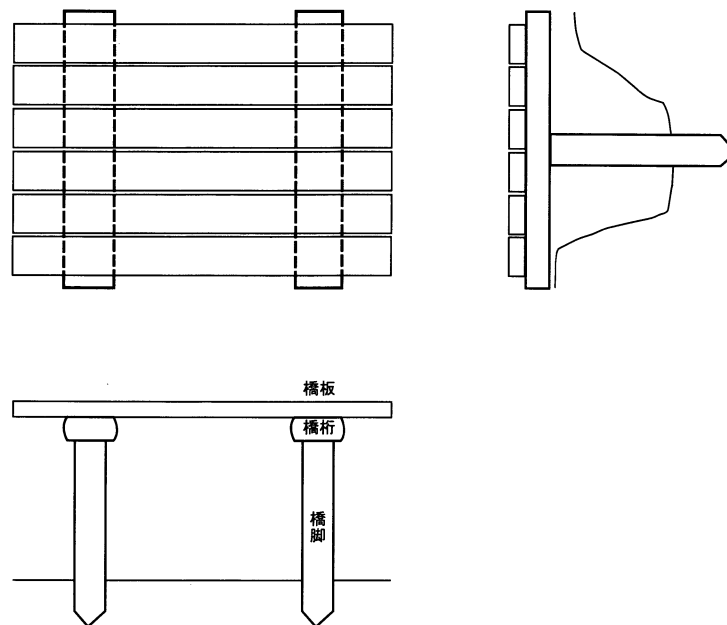


第 65 図 第464号溝跡遺物出土状況 (1)

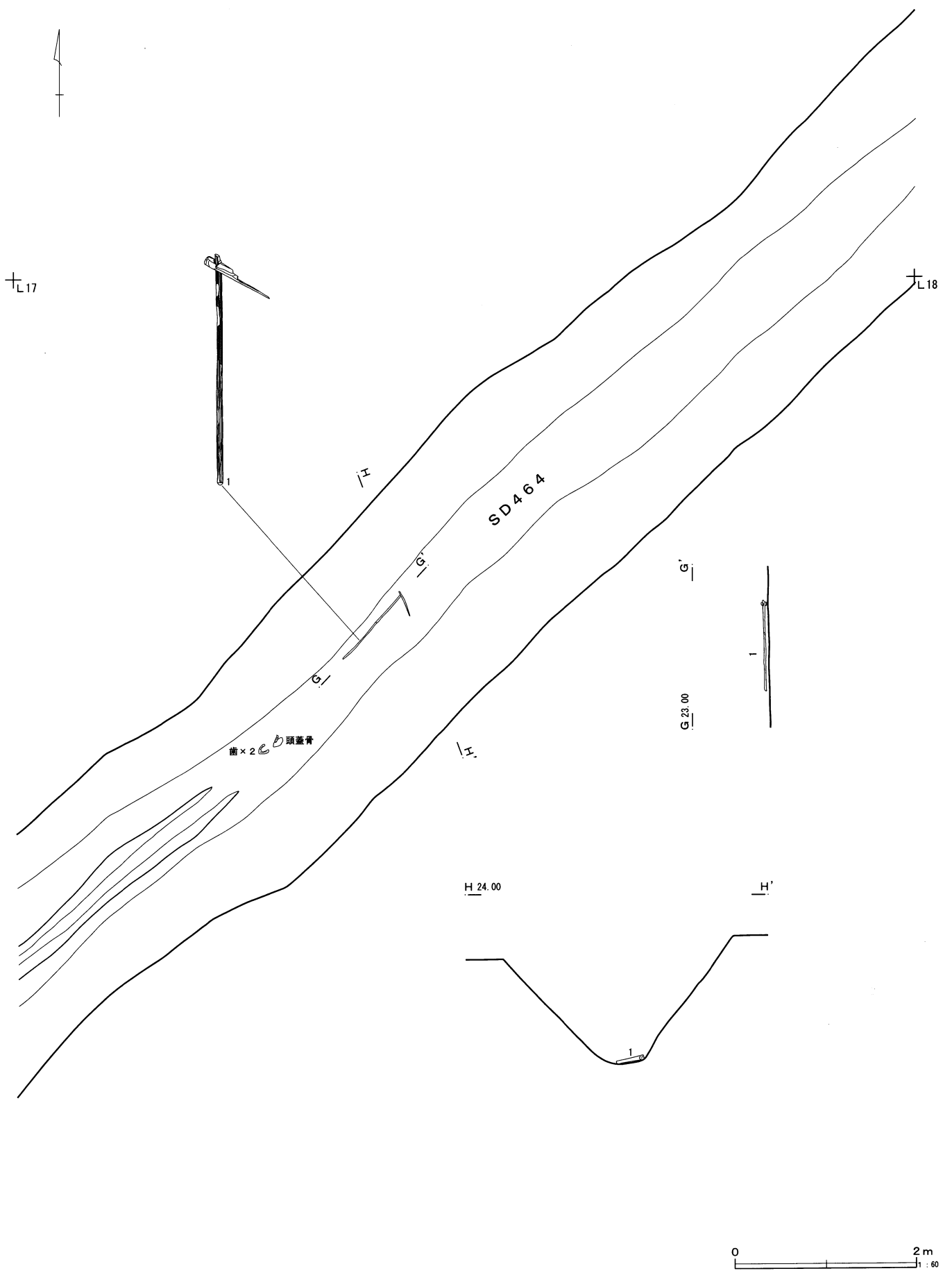




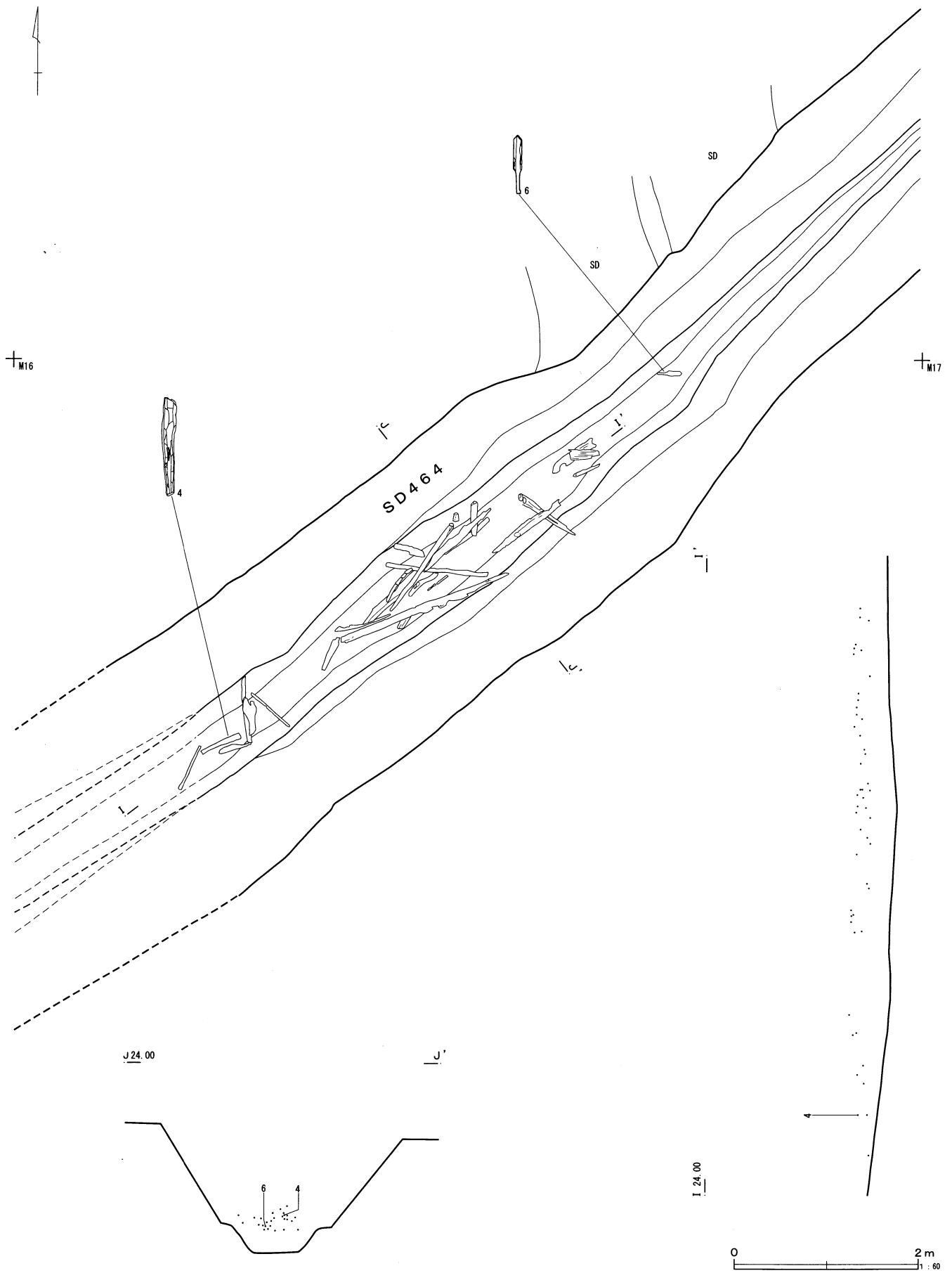
第 66 图 第464号溝跡遺物出土状況 (2)



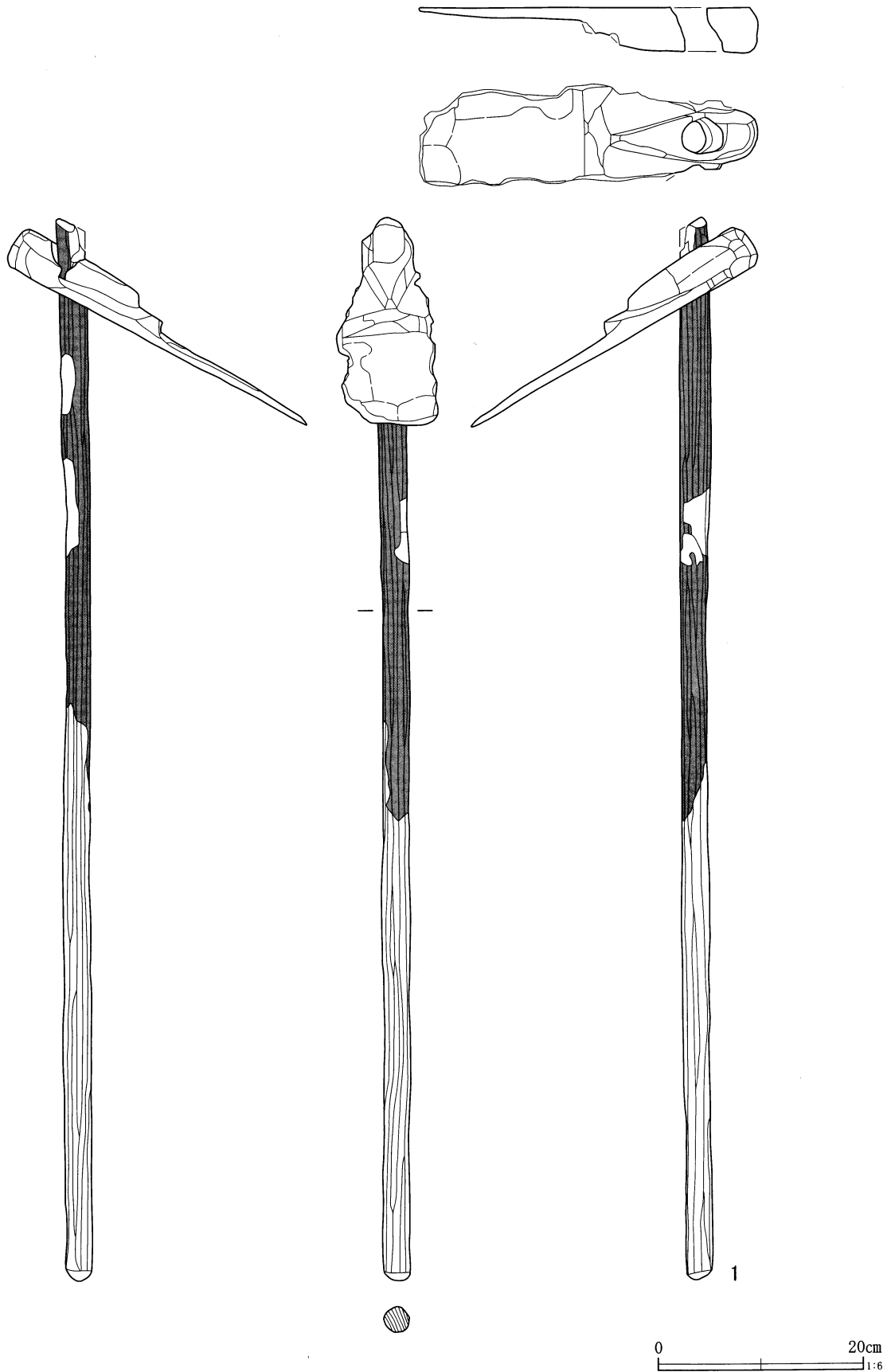
第 67 图 木造橋模式图



第 68 図 第464号溝跡遺物出土状況 (3)



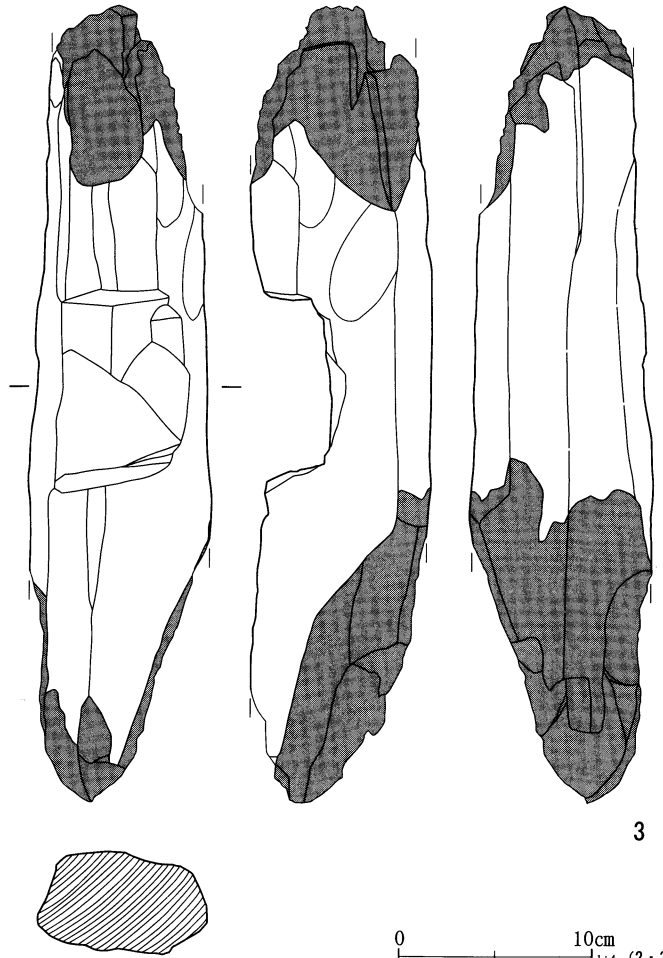
第 69 図 第464号溝跡遺物出土状況 (4)



第 70 图 第464号沟迹出土遗物 (1)



2

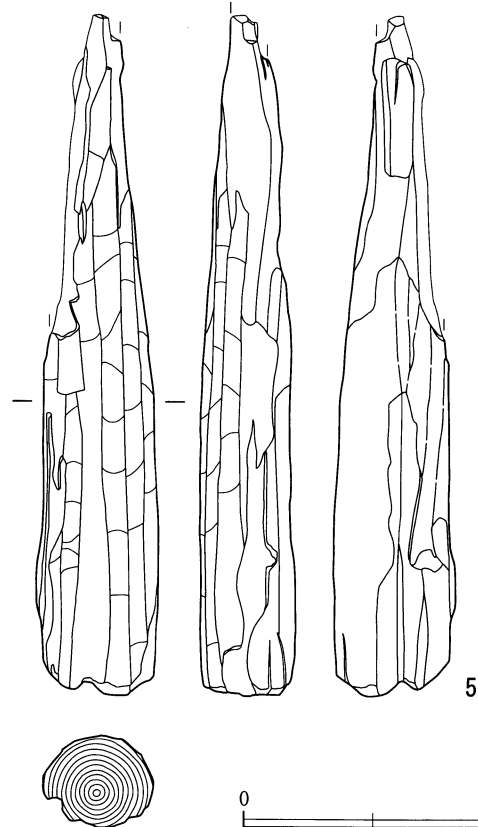


3

0 10cm  
1:4 (2·3)



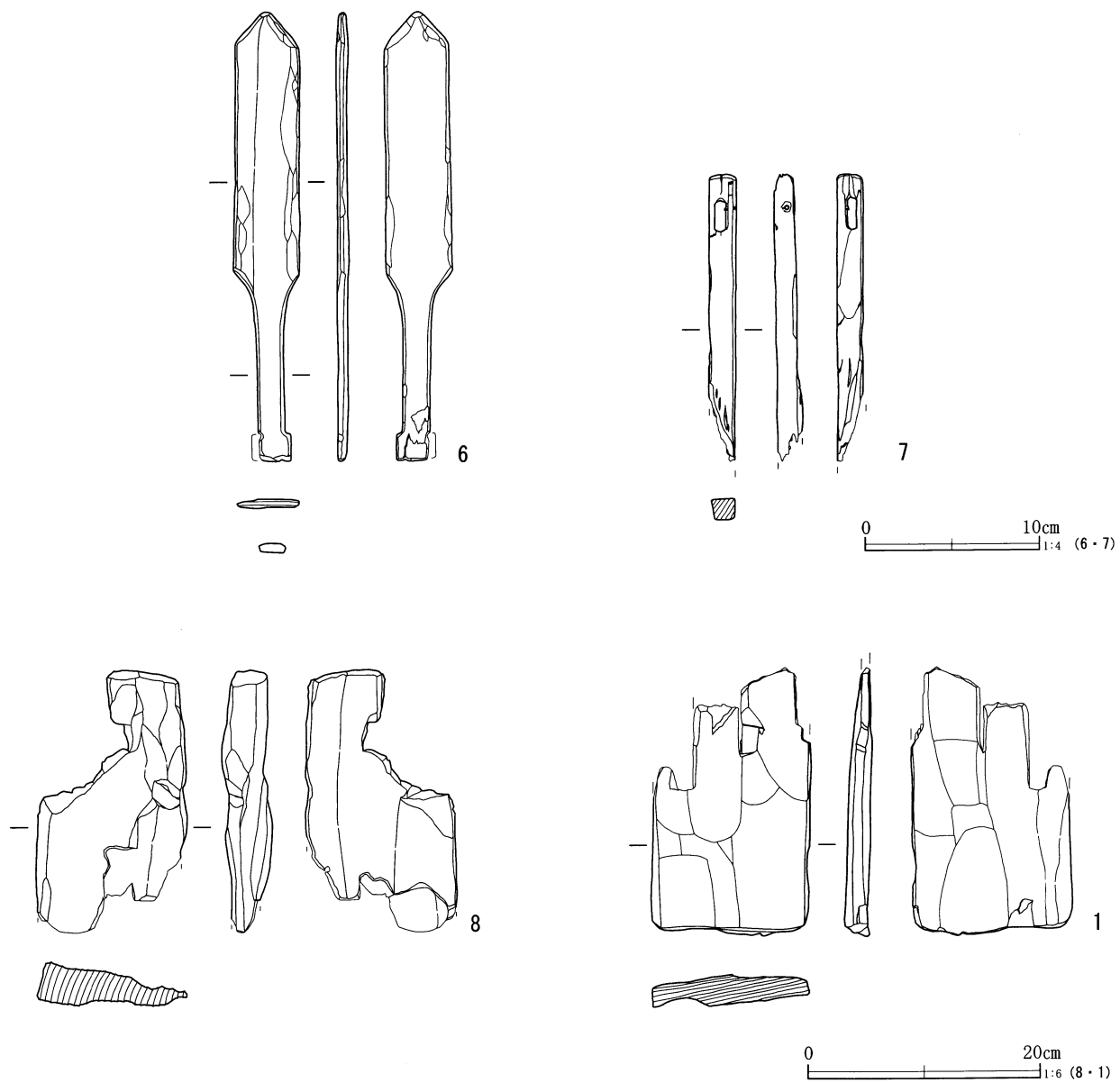
4



5

0 20cm  
1:6 (4·5)

第 71 图 第464号沟迹出土遗物 (2)



第 72 图 第464·530号沟迹出土遗物

## (2) 河川跡

本報告で「河川跡」とした遺構は、第286集『北島遺跡VI』で「水路」、第278集『北島遺跡V』で「低地帯」、第292集『北島Ⅷ／田谷』、第293集『北島遺跡IX』で「中央河川跡」と呼称された、中央部で調査区を二分する遺構である。

弥生時代中期に、「S22グリッドから始まり北西方向に向かって開析する支谷と、P27グリッド付近から始まって南東方向に開析する支谷」を繋ぐ形で、第17地点の水田に引水する水路を開削した。

水路の規模は、上幅4.4～9.0m、下幅1.9～4.0m、深さ1.2～1.7mを測る。形状は逆台形を呈し、底面に幅約1mの浅い溝が掘り込まれていた。走行方向はN-29°-Wであった。

埋土の第21層で古墳時代前期の遺物が出土しており、同時期までは機能していたと考えられ、以後埋没し古墳時代後期には、浅い窪地状となり、7世紀後半以降は小河川化し、12世紀には水田化したと推

定されている。

木製品は、河川跡が北側で屈曲して、流路を南東方向に変えるあたり、C～E19グリッド、D20グリッド周辺部と、第2号堰跡の北側、M23グリッド周辺部で主に出土している。

上流側は、細長い木製品が多く、軸方向が溝の走行に沿ったものが多い。溝跡底面ないし僅かに浮いた状態で出土している。分布は概ね2箇所に分かれるが、下流側はやや疎らになる。横槌が出土している。

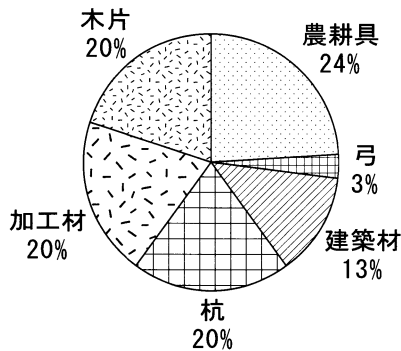
第2号堰跡の北側約4～5m離れた地点で、竪杵、弓、垂木が出土した。いずれも軸が、溝の走行方向に沿っているが、溝跡底面からは1m前後浮いた状態である。

なお本河川跡の南東隅、Q26グリッド、R27グリッドからは、それぞれ弓と農耕具の柄、建築材が出土している。

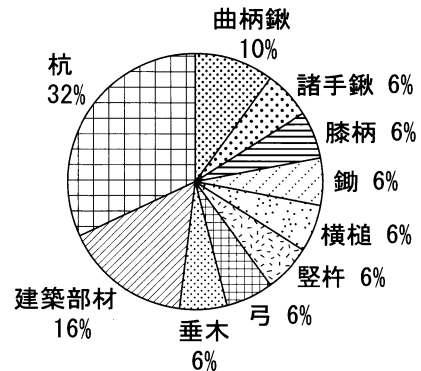
その他加工材、木片等が出土している。

第10表 河川跡(堰跡)出土遺物構成

種別	器種	部位	点数	割合
農耕具	二又鍬(曲柄)	身	2	24%
農耕具	諸手鍬(直柄)	身・柄	1	
農耕具	鍬	膝柄	1	
農耕具	鋤	身・柄	1	
農耕具	竪杵		1	
農耕具	横槌		1	
武器	弓		1	3%
建築材	垂木		1	13%
建築材	建築材		3	
杭	杭		6	20%
	加工材		6	20%
	木片		6	20%
合計			30	100%



第73図 河川跡出土木製遺物構成

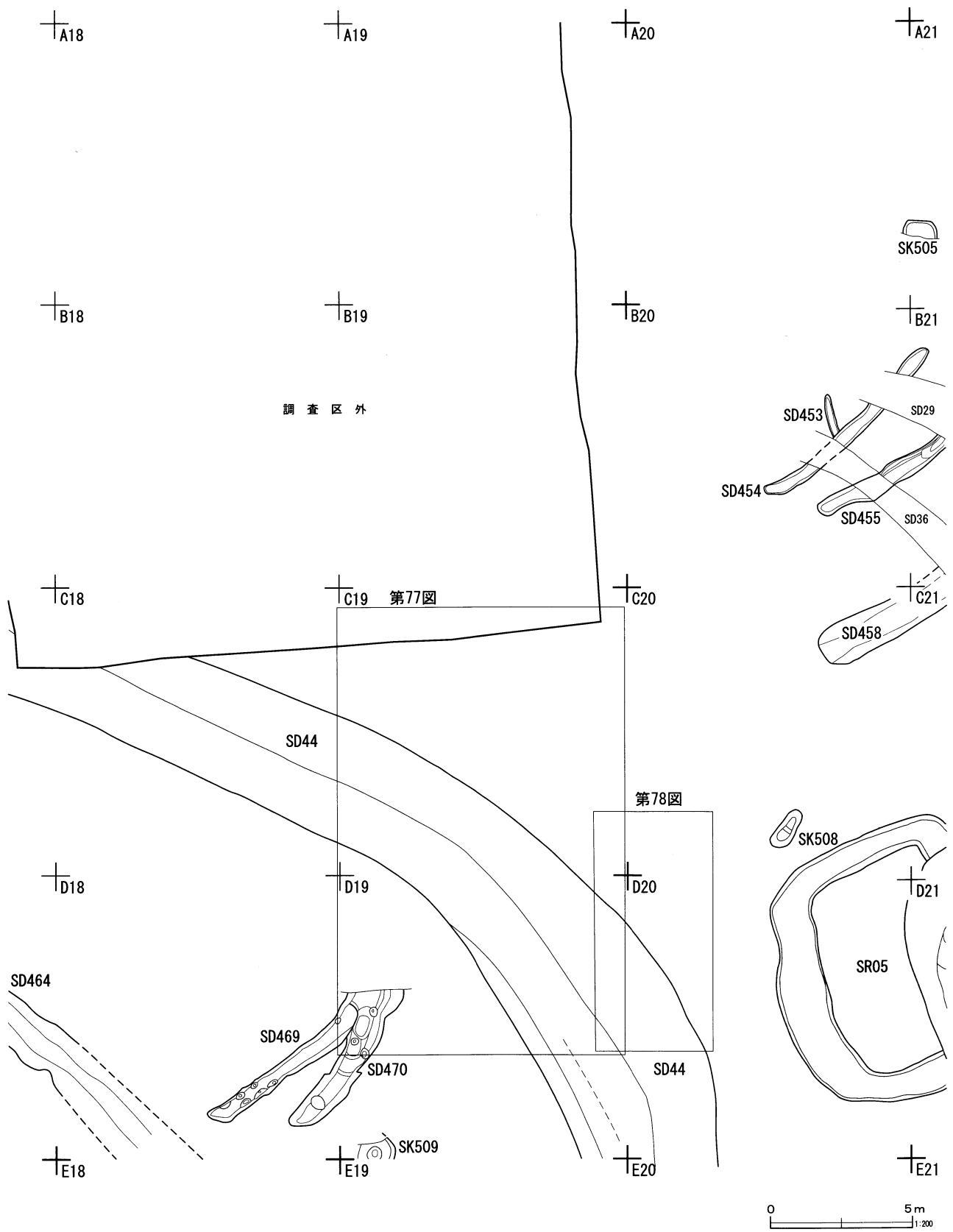


第74図 河川跡出土木製品構成



第 75 図 河川跡全体図

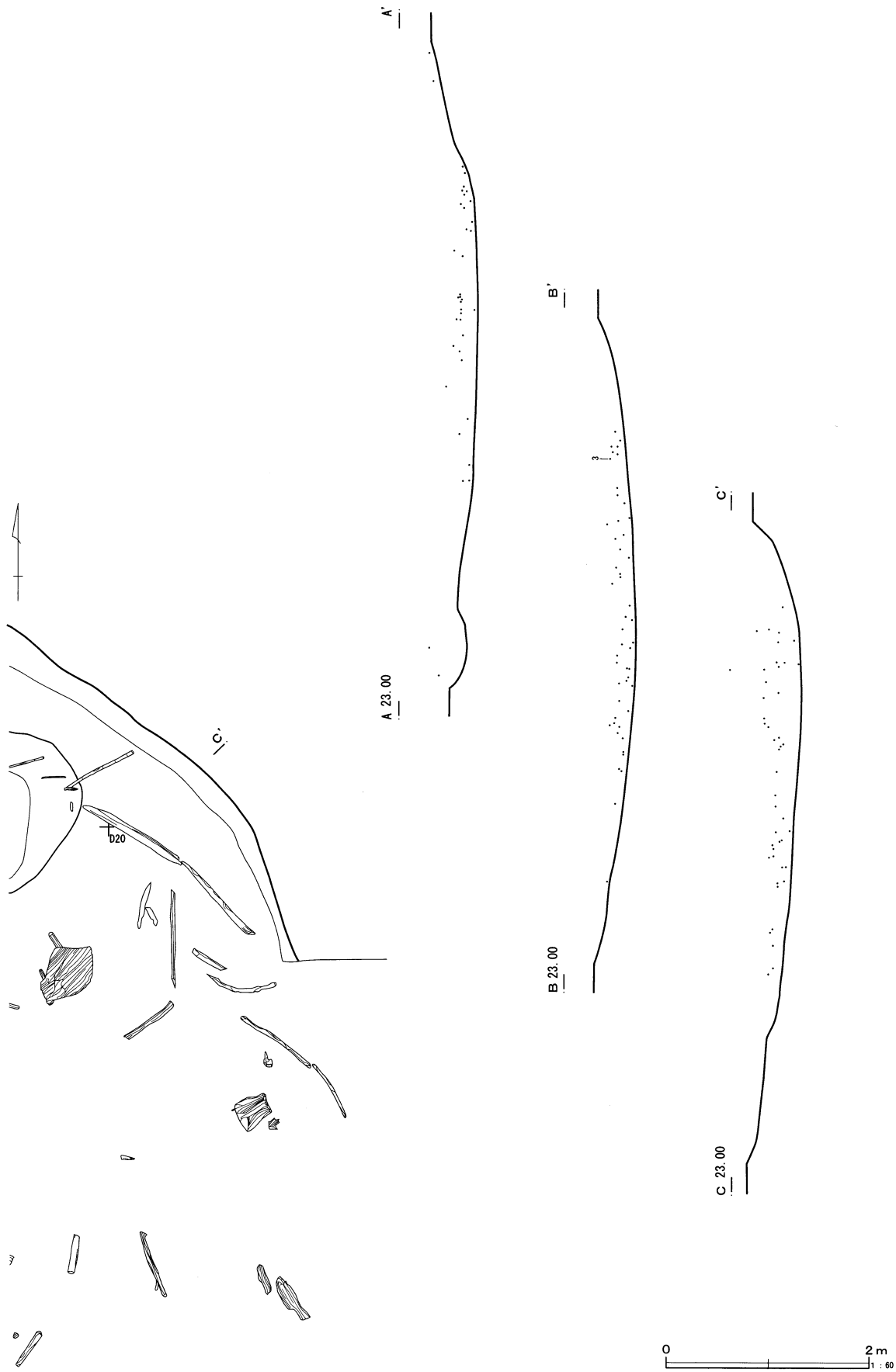




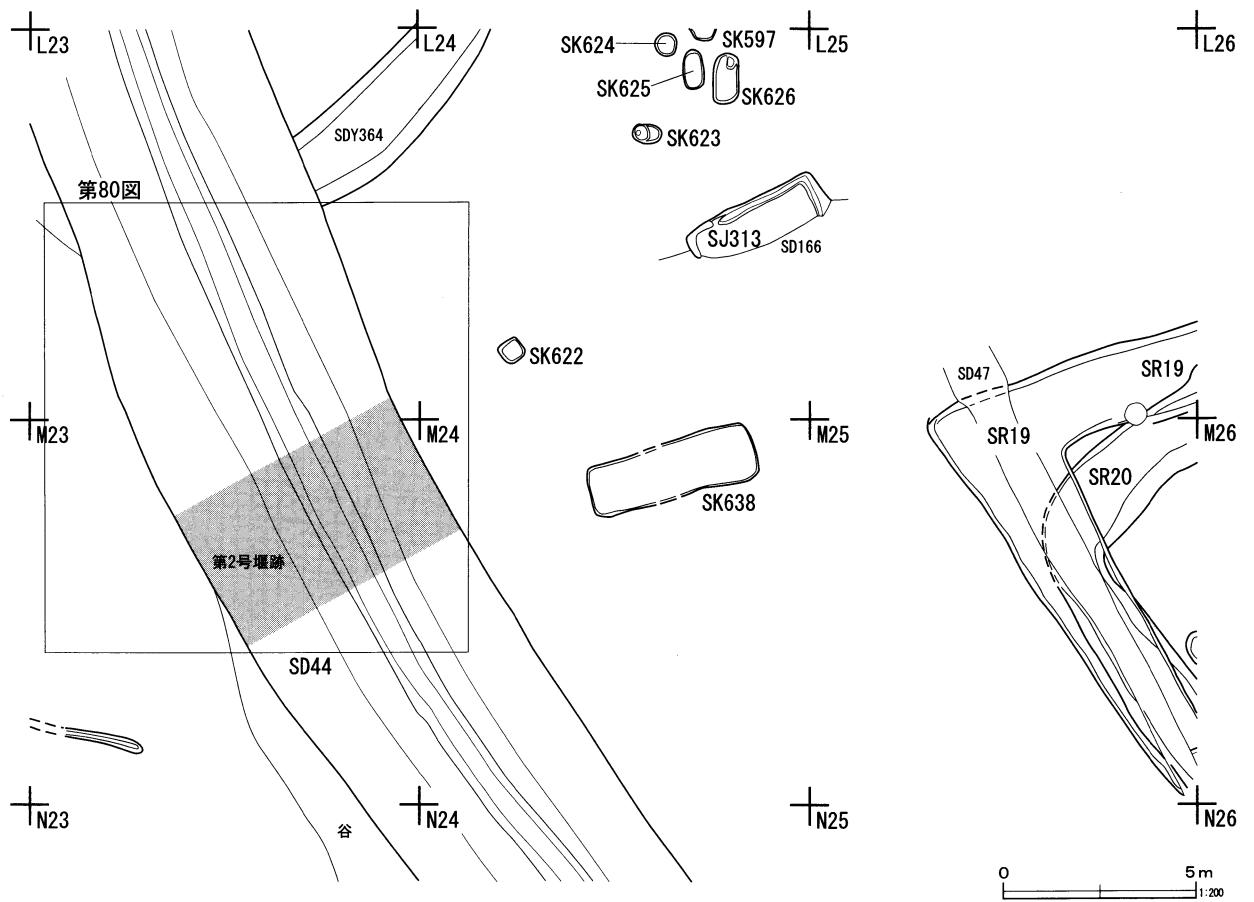
第 76 図 河川跡区割図 (1)



第 77 図 河川跡遺物出土状況 (1)



第 78 図 河川跡遺物出土状況 (2)



第79図 河川跡区割図(2)

出土木製品を第81～84図に示した。

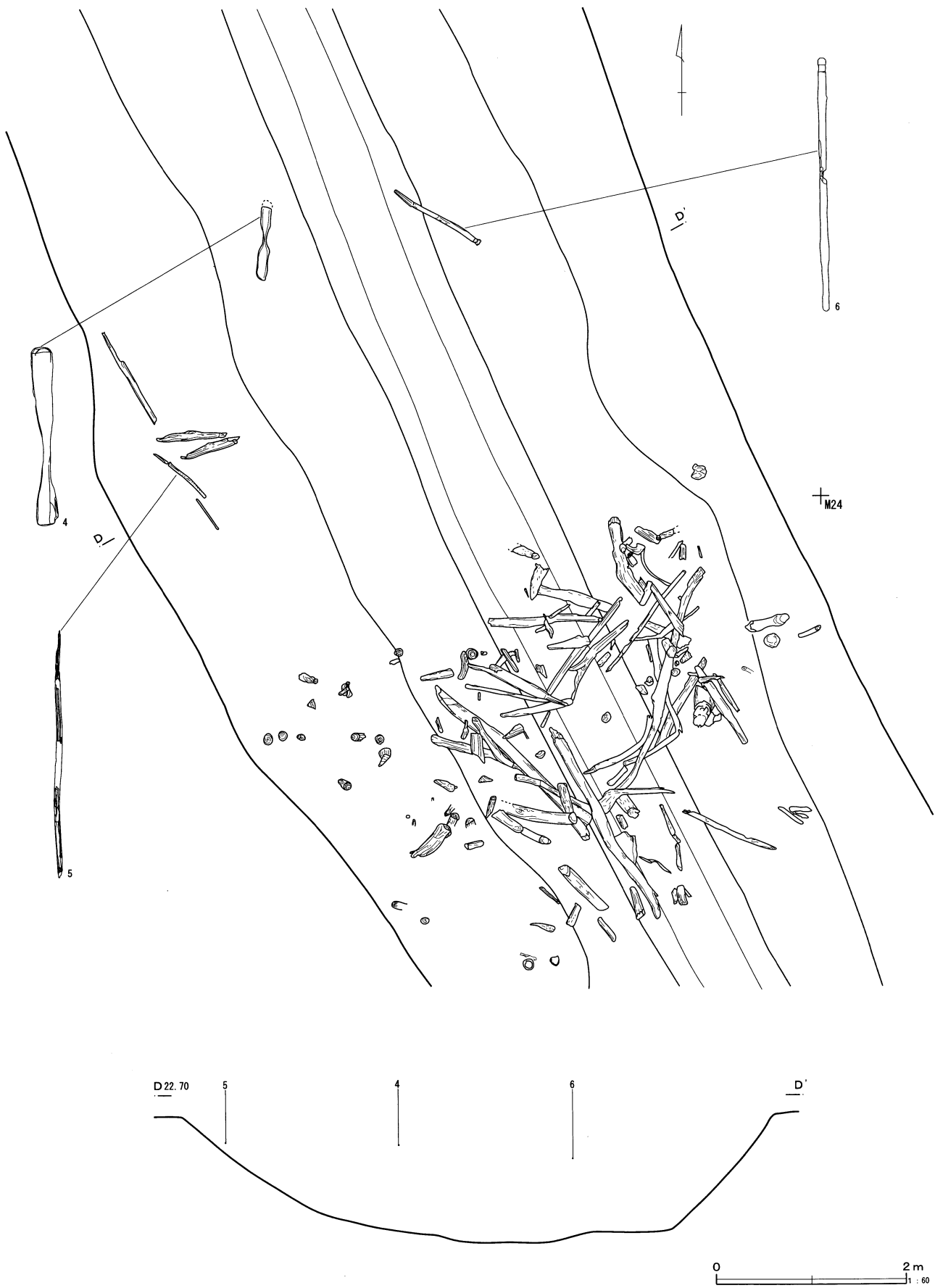
1は農耕具の鋤の身で二又鋤である。E19グリッドにおいて出土した。軸部を欠損する。残存する刃部の長さは53.7cm、幅は16.8cm、片刃の幅は7.1cmである。刃部上端の側面は斜めに削り落とされる。刃部外縁は外湾して先端につながり、先端は平坦に作られる。刃幅は下方で最大となり、やや下膨れの形となる。前面では、二又の分岐点の上部から刃部下端にかけて、削り込みが見られる。厚さは刃部上端が最も厚く、前面上部の削り込みから徐々に薄くなり、先端で最も薄くなる。前面は平坦で、後面はややふくらみがあり、断面形は偏平な半円形を呈する。

2は農耕具の鋤である。身と柄を一木から作り出した一木鋤。全長は103.0cmである。軸は長さ72.0cm、刃部は長さ31.0cm、刃幅は10.4cmである。柄・刃とも、割り材を削り出したものである。柄に把手はなく、上端は丸く作られる。柄は直線的で、刃部

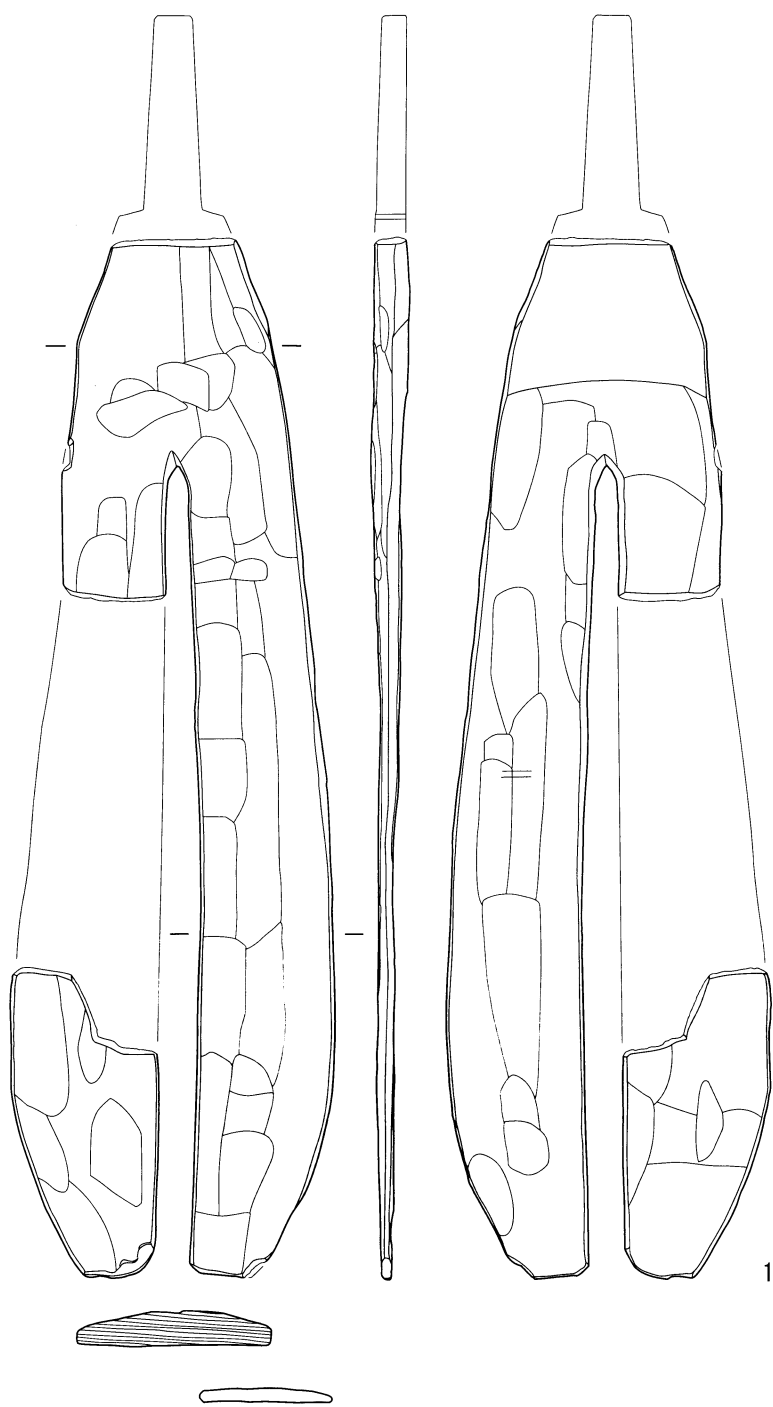
に向かうに従い幅と厚さを増す。柄に角はなく、断面形は円形を呈するが、刃部近くを四面に削っており、断面形は方形を呈する。柄と刃の間の肩部はほぼ直角である。刃部の厚さは柄との境が最も厚く、刃部先端にいくに従って薄くなる。刃部の断面形は偏平な楕円形を呈する。

3は農耕具の横槌である。C19グリッドにおいて出土した。全長は44.1cm、幅は4.8cmである。割り材を削り出して作ったものである。敲打部の長さは32.7cm、幅は4.9cm、握り部の長さは11.4cm、幅は2.8cmである。細長い形状で、敲打部と握部の径の差は2.1cmと段差が少ない。敲打部と握部の境界は鈍角であるが、境界には角が作られており、各部のその境は明瞭である。敲打部は直線的で、全体的に一方向へ反っている。敲打部上端は平坦ではなく、丸く削り出される。敲打部と握部の一部に被熱の痕跡が見られる。

4は農耕具の堅杵である。L23グリッドにおいて



第 80 図 河川跡遺物出土状況 (3)



0 10cm  
1:4

第 81 図 河川跡出土遺物 (1)

出土した。搗部の一端が欠損している。残存長は76.0cm、搗部の径は9.1cm、握部の径は2.9cmである。割り材を削り出して作ったものである。握部が簡略化した無節式の竪杵である。握部と搗部の境界は明瞭ではない。搗部先端に最大径を持ち、握部にいくに従って徐々に径が小さくなる。搗部先端は長さ2.4cm突出しており、外周を削って平坦な面を作る。

5は武器の弓である。L23グリッドにおいて出土した。一端の弓弭を欠損する。残存長は105.0cm、幅は2.0cmである。芯持ち材を削り出して作ったもので、全面にわたって細かな加工を施す。長さ1mの短弓である。上端の弓弭は長さ1.6cm、幅0.4cmである。弓弭の形状は、二側面を切り落としており凸状である。弓弭を鈍角に削り出す。弓幹は径1.2～2.0cmである。棒槌・握りは見られない。

6は建築材の垂木である。L23グリッドにおいて出土した。下端部を欠いており、残存長は109.0cm、幅は4.1cmである。割り材を削り出したもので、断面形は方形を呈する。頭部は長さ3.6cm、くびれは

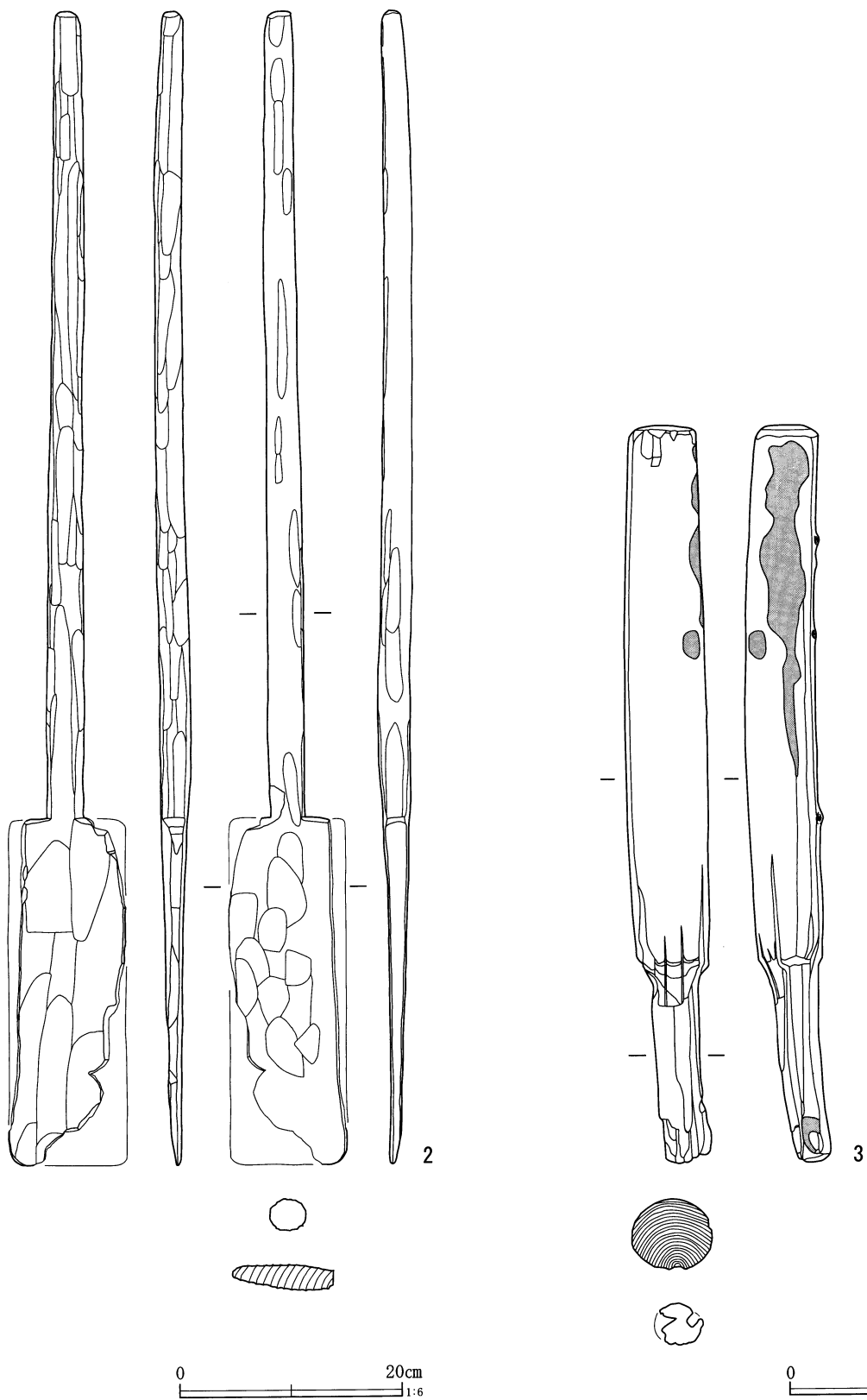
長さ2.3cm、深さ0.6cmである。頭部直下の正面と側面に抉りが作られ、背面は平坦である。頭部直下の抉りにより各部の境界は明瞭になっている。外形は直線的である。

7は建築材である。残存長は79.0cm、残存幅は7.6cmである。割り材を削り出したものの一部で、一側面を欠損する。欠損面以外の三面に加工した痕跡が見られ、長さ0.5～6.2cm、幅1.8～4.0cmの加工痕が残存する。正面・背面の全面を縦方向に削って整形する。側面の一部に整形の痕跡が残る。断面形は整った方形を呈する。

8は杭である。全長は129.0cm、幅は10.2cmで、杭先は21.2cmである。割り材を削り出して作ったものである。一側面をもう一側面より厚く作っており、断面形は長方形を呈する。杭先端は両側面・表面を削り、五面に作られる。杭先端と背面の一部を削るのみで、その他にはほとんど加工した痕跡が見られない。

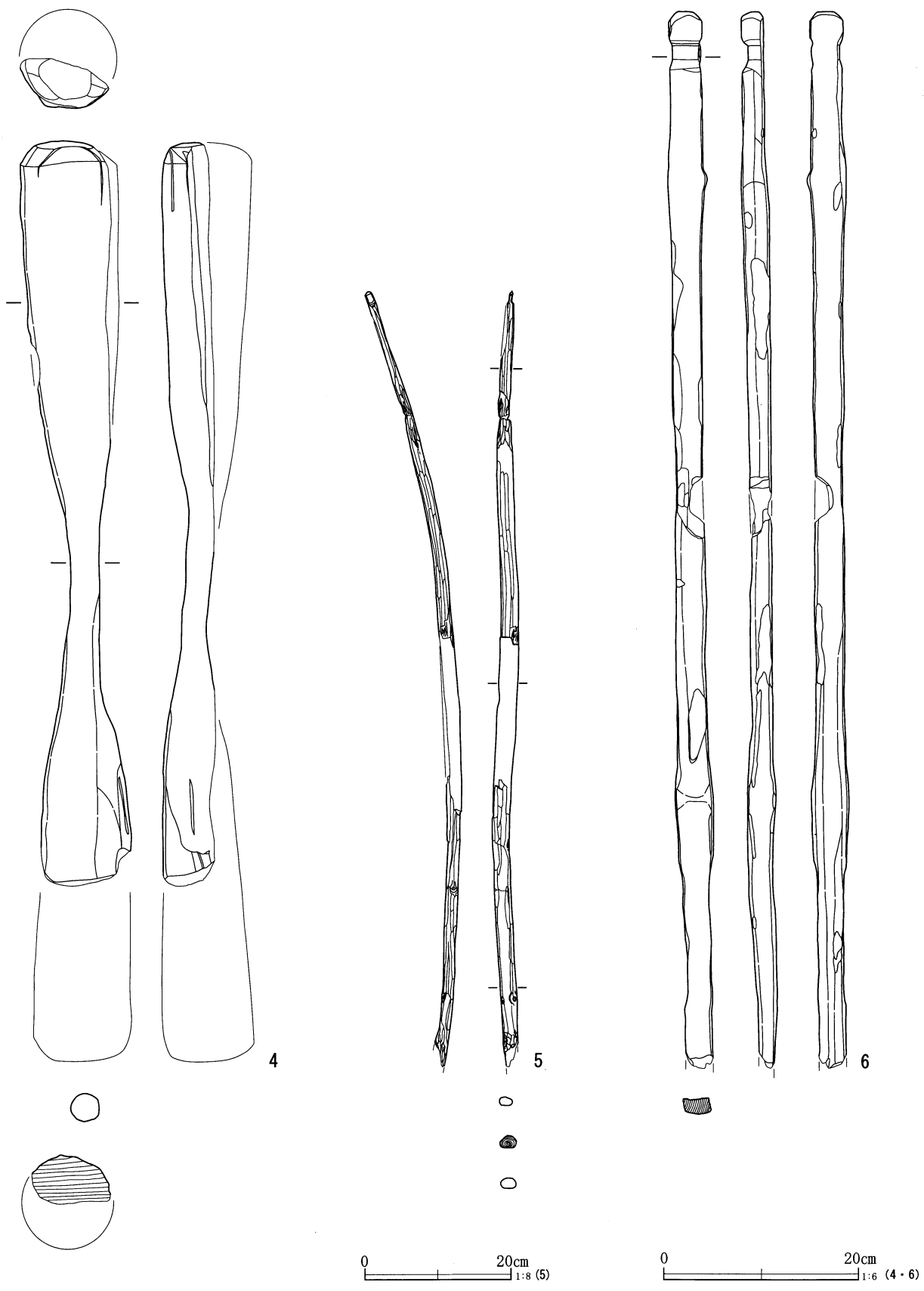
第11表 河川跡出土遺物観察表

挿図番号	番号	器種	部位	グリッド	全長	幅	厚さ	被熱	残存率	図版
81	1	二又鍬	身	E19	(53.7)	刃16.8 片刃7.1	刃2.0 片刃0.8	-	60	64
82	2	鋤			103.0	刃10.4 柄3.2	身2.2 柄2.8	-	90	65
82	3	横槌		C19	44.1	敲打部4.9 握部2.8	敲打部4.2 握部2.5	○	100	65
83	4	竪杵		L23	(76.0)	搗部9.1 握部2.0	搗部(5.0) 握部(1.7)	-	40	66
83	5	弓		L23	(105.0)	2.0	1.6	-	65	66
83	6	垂木		L23	(109.0)	4.1	2.5	-	-	67
84	7	建築材			(79.0)	(7.6)	7.0	-	-	67
84	8	杭			129.0	10.2	6.6	-	100	68



第 82 図 河川跡出土遺物 (2)





第 83 図 河川跡出土遺物 (3)



第 84 図 河川跡出土遺物 (4)

### (3) 堰跡

河川跡に設置された堰跡は、三箇所、北側（G21グリッド）を第1号堰跡、中央部（M23グリッド）を第2号堰跡、南側（O25グリッド）を第3号堰跡と呼称した。

三箇所の堰のうち木製品が出土したのは、第1、2号堰跡である。

各遺構と木製品以外の出土遺物については、事業団報告書第303集『北島遺跡X I』に詳述してあるが、必要な範囲で抄録する。

#### 第1号堰跡（第88図）

G21グリッド周辺部に位置する。

水路幅5.52m、確認面から深さ0.86mを測る。溝底は幅広で、西側が一段落ち込んでいる。掘り込みは、西側では幅狭なテラスを持ちながら緩やかに立ち上がり、東側では直線的に斜めに立ち上がる。

使用された杭は、直径180mmと70mmの二種類が見られる。杭の打ち込みの深さは、杭の太さとはあまり関係なく0.3～1mである。水路中央部分に位置する杭は、比較的深く打ち込まれている。

太い杭が比較的直線に並ぶラインが堰の中心をなすものと考えられる。このラインに交差するように打ち込まれたところがあることから、このライン上に横木を渡していた可能性がある。想定中心ラインの前面には垂直に打ち込んだ杭が数本見られるが、列をなすようではない。後側にも同様に杭列が見られる。

堰跡の構造部分は、中央水路幅の三分の二ほどの長さであり、西側の1.5mほどは開放している。

本跡により堰き止めた水は、第366号溝跡に流されたと考えられる。水路跡と第366号溝跡との高低差は、溝底で0.50mである。

出土遺物は、図示し得ない土器と、木製品が埋土上層から出土した。諸手鋏が、身と柄を装着した状態で構築材とともに、出土している。

#### 第2号堰跡（第89図）

M23グリッド周辺部に位置する。

水路幅6.25m、確認面から深さ1.26mを測る。溝底は、やや丸みを帯び幅3.60mを測る。

溝底の両端に、太さ120mmほどの杭が垂直に打ち込まれている。その間には杭は見られない。西側のテラス部分には、溝底の杭と比べてやや細い直径60mmほどの杭が垂直に打ち込まれている。上端欠損しているものが多い。この垂直に杭が打たれた列（A列）の南東側にも杭列が認められる（B列）。A列とB列の間の距離は1.50mを測る。B列では両端に交差するように斜めに打ち込まれた杭も存在する。これらのことからB列では横木が存在した可能性がある。また、B列の北西側にはこれに沿うように細い杭が等間隔に見られる。これらの杭列もB列に存在した横木を支える補助的な役割を果たしたものかもしれない。これらの杭列の周辺では、長さ2m以上の杭が検出されている。これらの中に横木が存在する可能性がある。

本跡に堰き止められた水は、第Y364号溝跡に流されたと考えられる。

第Y364号溝跡はすでに、弥生時代中期の溝跡として報告されている。しかし、溝跡の土層断面の観察から何度かの掘りなおしが見られる。また、少数ではあるが五領式土器以降の破片も出土している。これらのことから第Y364号溝跡はその初現が弥生時代中期に遡ることができるが、その後何度か埋没と掘りなおしを経て、多少の溝幅や深さの変化はあろうが断続的に使用されたものと思われる。

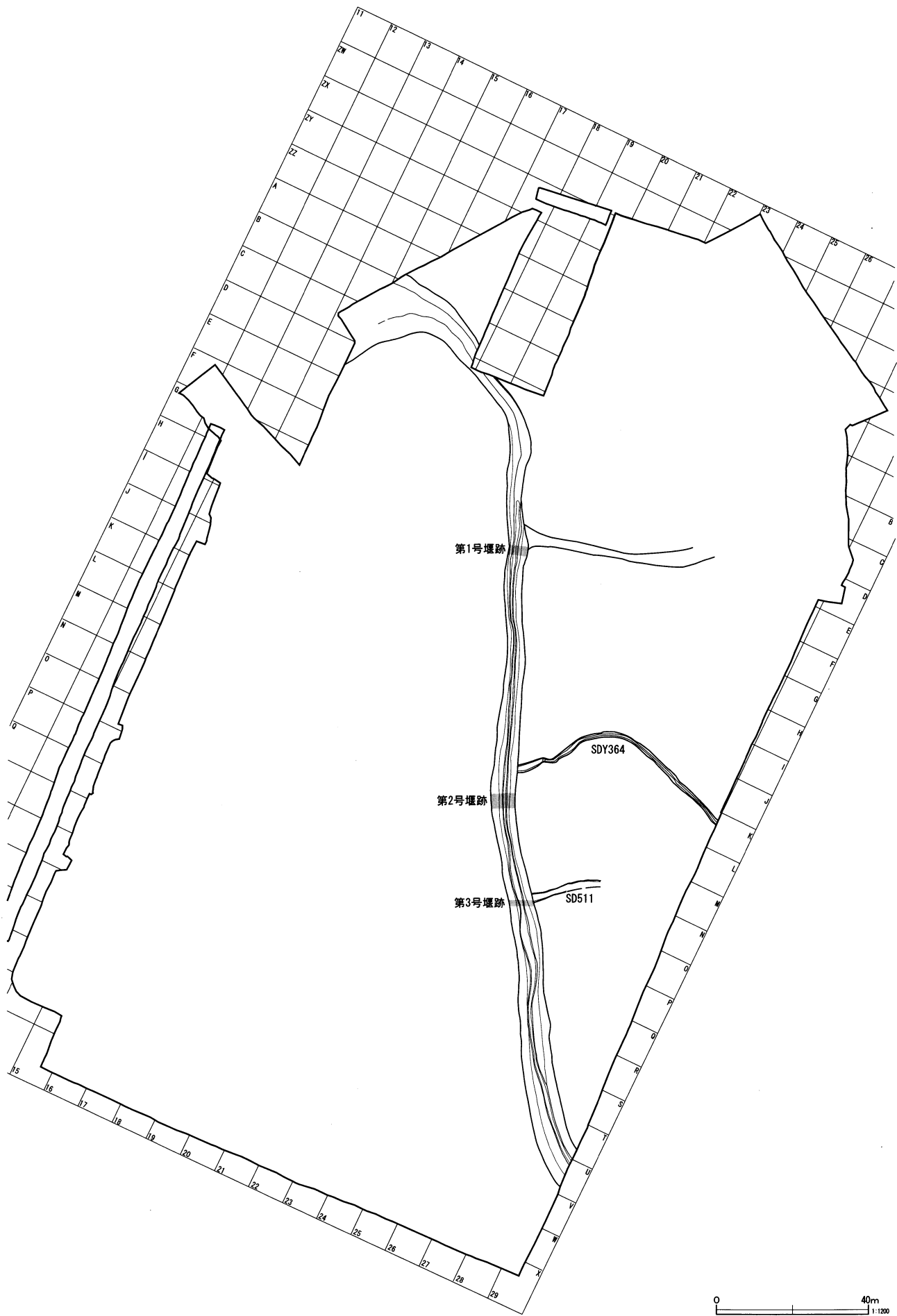
水路跡と第Y364号溝跡との高低差は、溝底で0.50mである。

出土遺物は、木製品が埋土上層から、二又鋏が構築材と供に出土した。出土土器は、パレス壺、器台、高坏、坩等古墳時代前期に属するもの10点と、平底鉢、甕等5世紀後半のもの3点出土した。本堰跡の使用時期の上限は5世紀後半とされた。

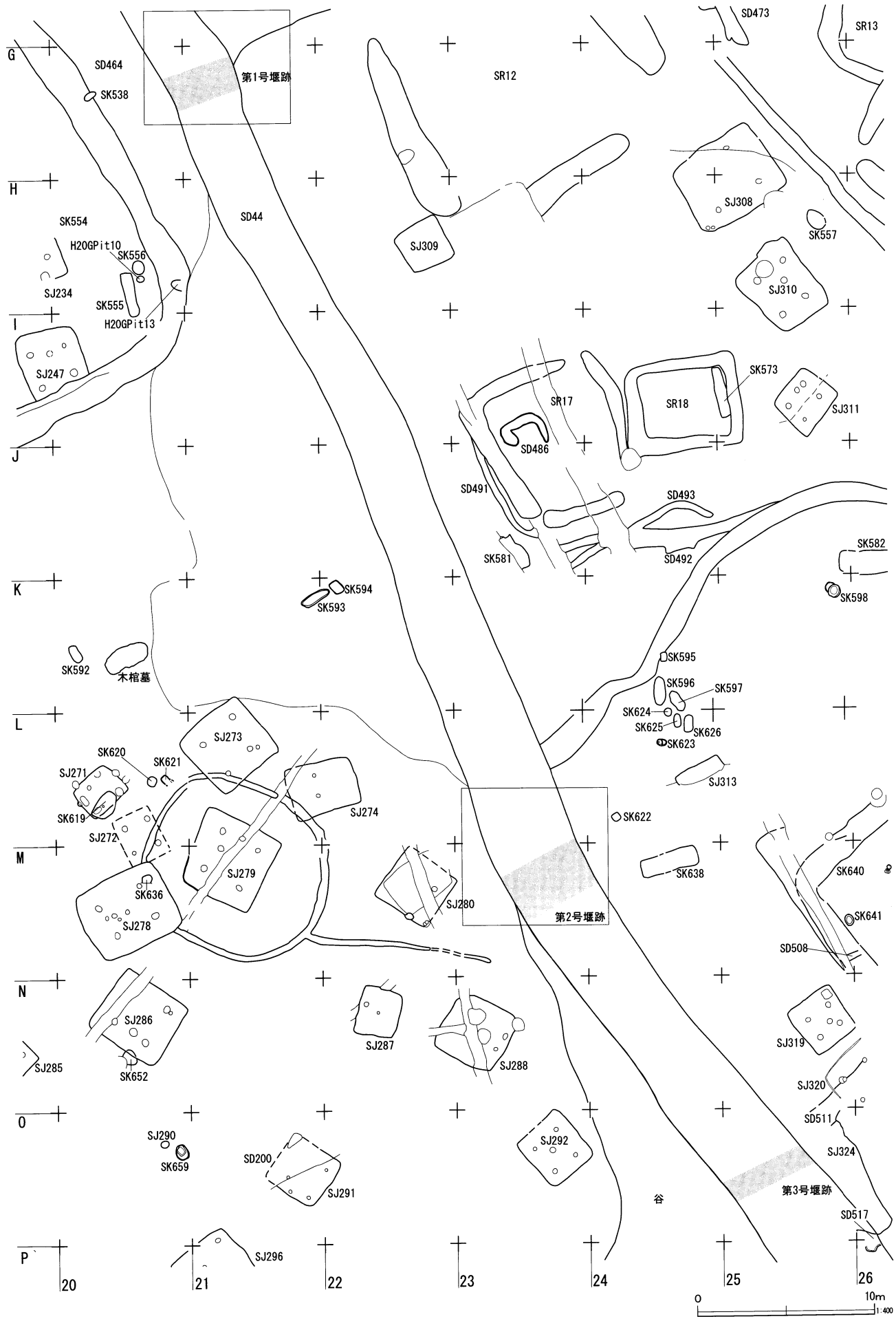
なお第3号堰跡は、出土遺物や遺構の状態から、河川跡が水路跡としての機能を失いつつある時期の所産であるとの認識から、第1・2号堰跡より後出



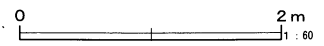
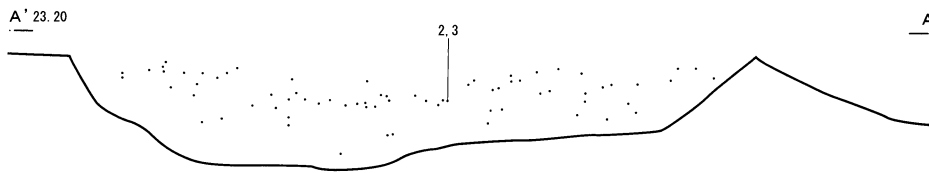
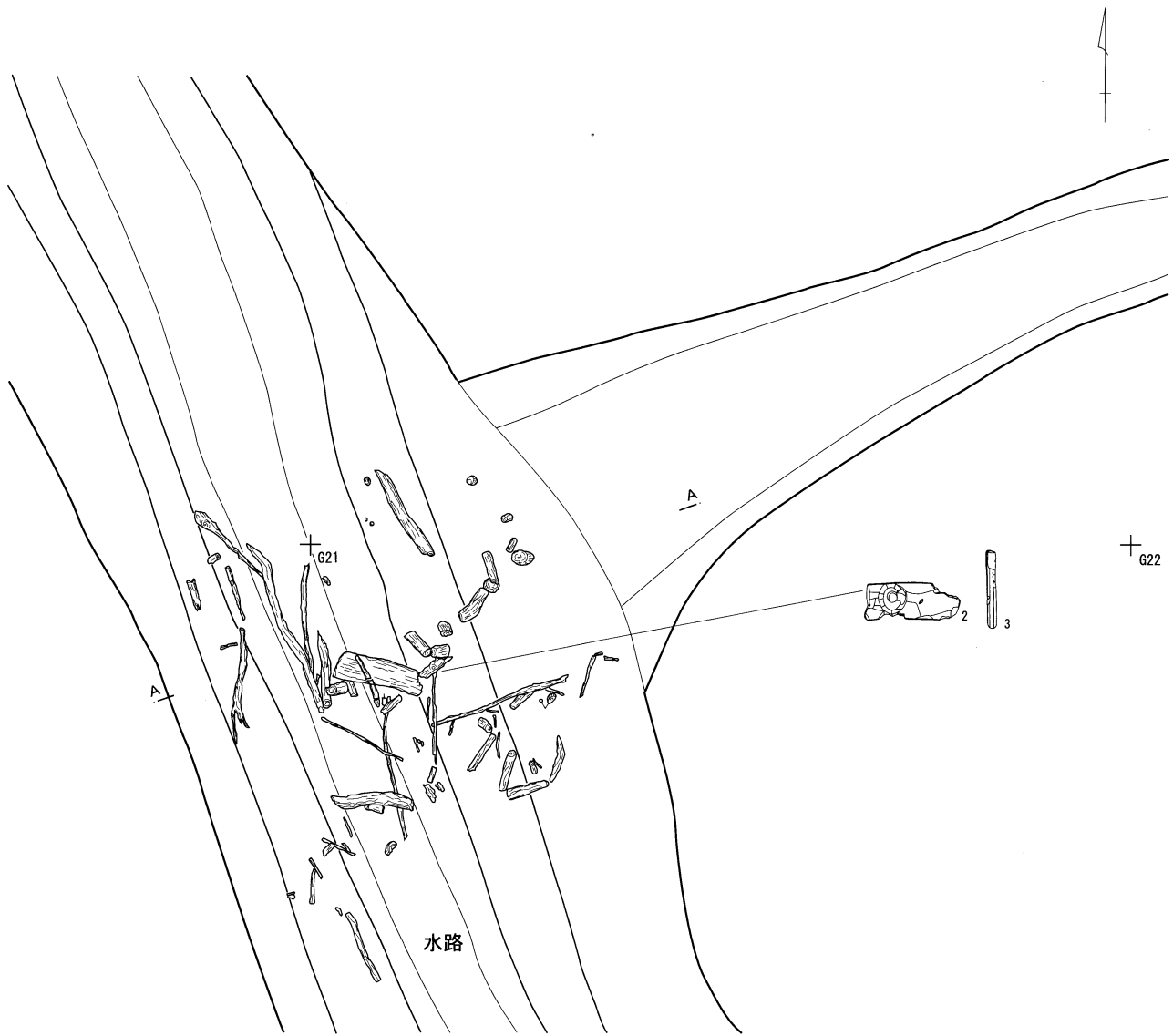
第 85 图 堰跡全体图 (1)



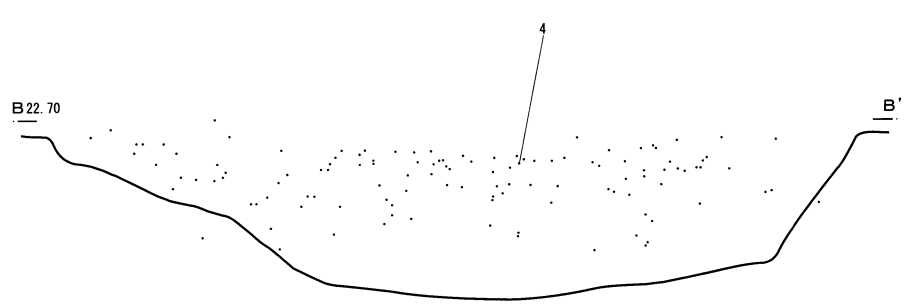
第 86 图 堰跡全体图 (2)



第 87 图 堰跡区割図

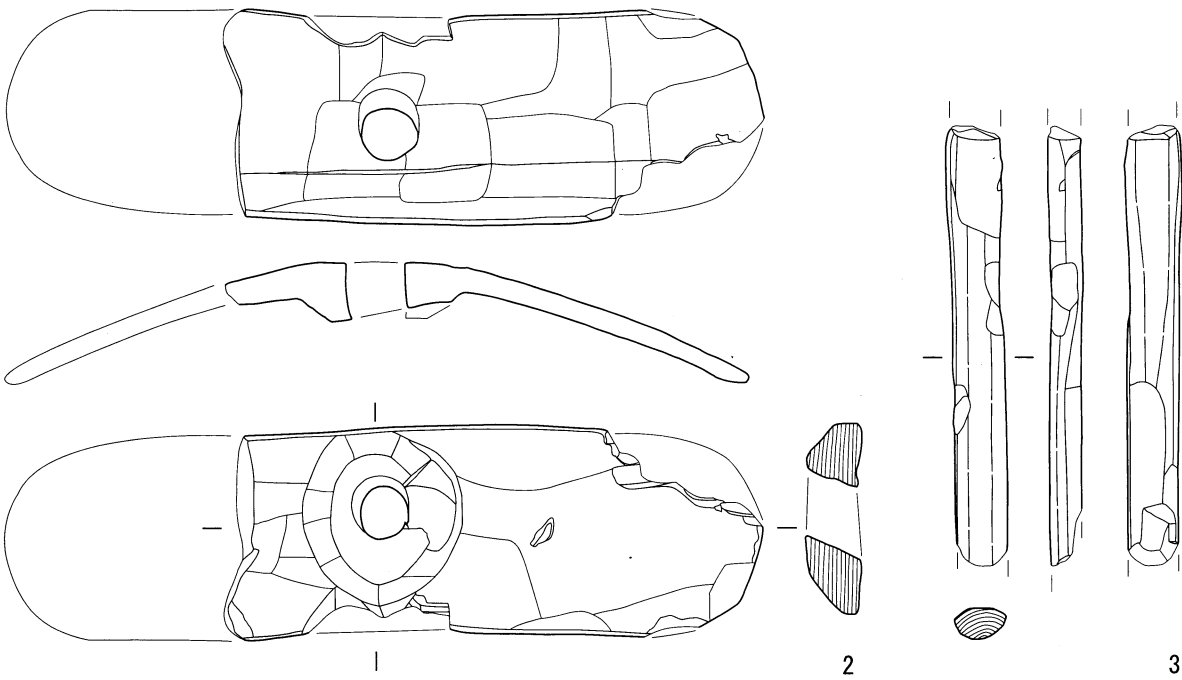
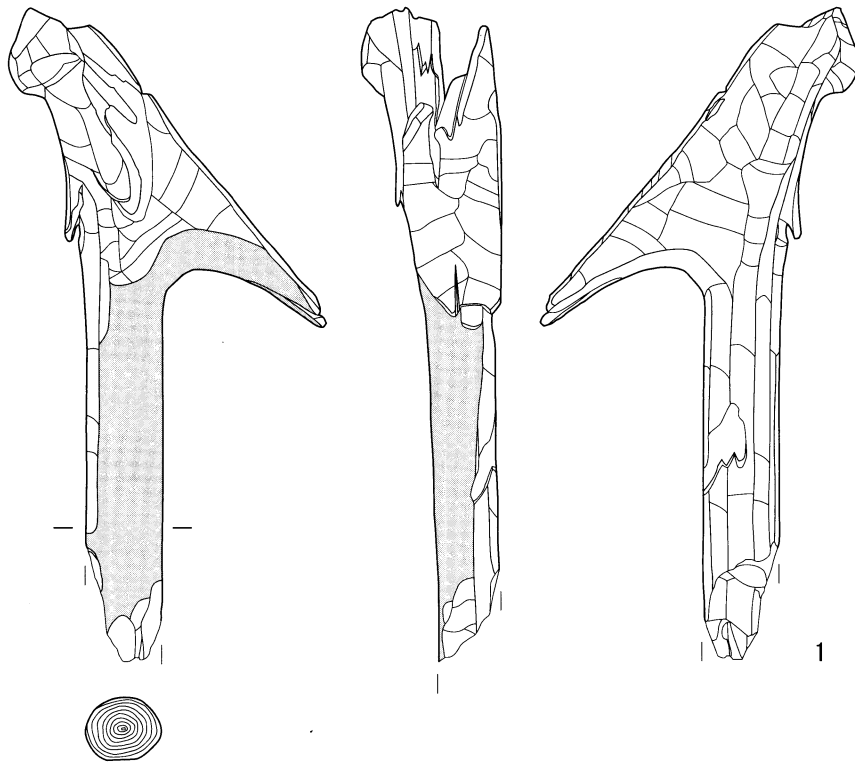


第 88 図 堰跡遺物出土状況 (1)



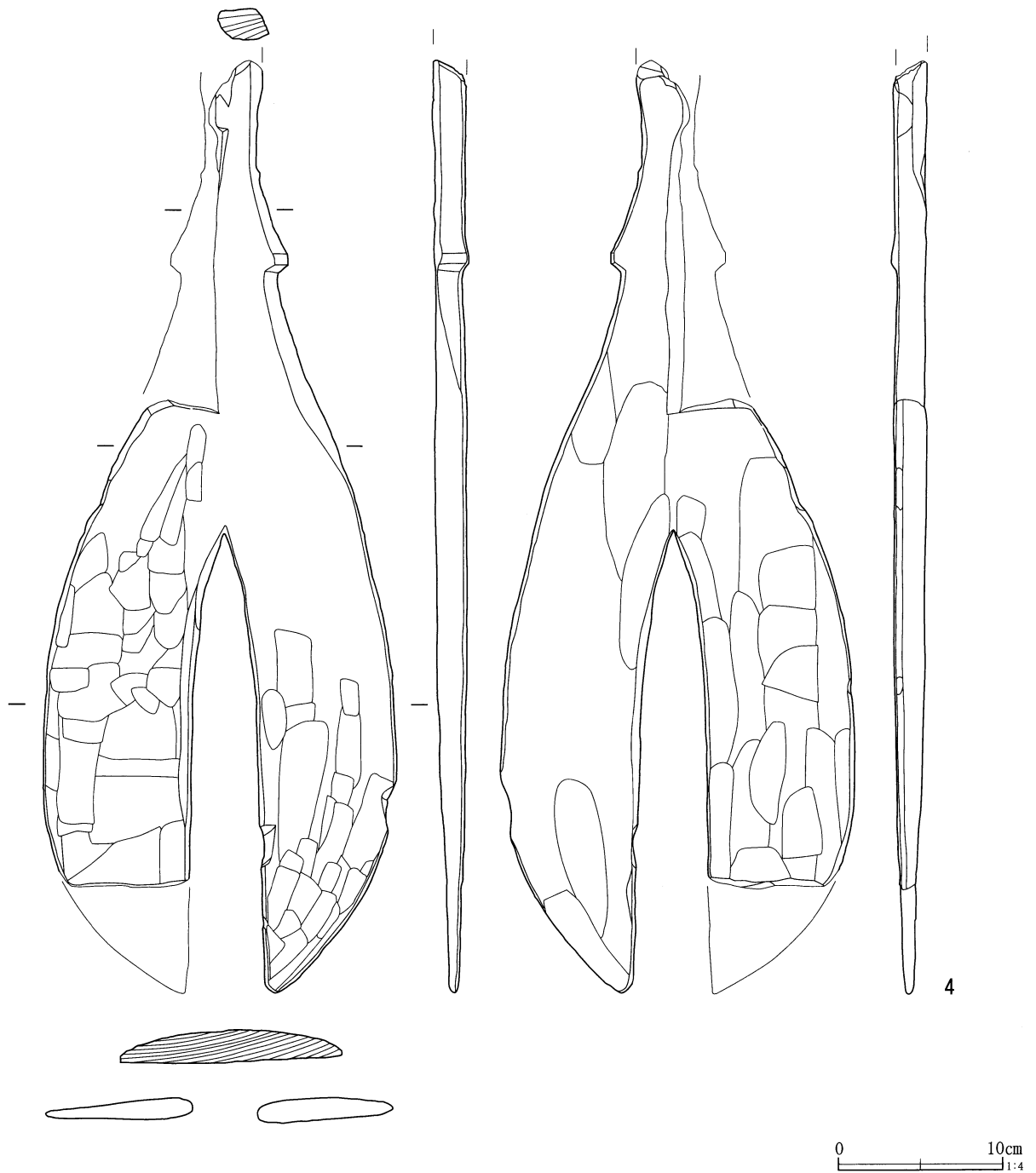
第 89 図 堰跡遺物出土状況 (2)





0 10cm  
1:4

第 90 図 堰跡出土遺物 (1)



第 91 図 堰跡出土遺物 (2)

するものと把握された。

本堰跡の上流側に当たるO25グリッドからは、二又鍬の身が出土している。

出土木製品を第90・91図に示した。

1は農耕具の鍬の柄で膝柄である。残存長は33.8cmである。身との装着面は、長さ19.8cm、幅5.3cmで、握りの身と柄の幅は4.0cmである。枝・幹を利用して作られたものである。身との装着面は平坦に

削り、端部の紐がけの部分を有頭状に削り出す。ほぼ全面が削られており、握りの一部に樹皮が残存する。身と柄の着柄角度は40°である。握りの断面形は円形を呈する。

2は農耕具の諸手鍬の身である。3の柄を装着した状態で、G21グリッドにおいて出土した。残存長は27.8cm、刃幅は10.9cmである。刃部外縁は両端が下部に向かって湾曲する。身の全体が前面側に湾曲

している。身の中央にはややたて長で涙形の着柄隆起が作り出される。着柄隆起と刃部の境には角が作られ、境界がはっきりしている。着柄隆起の中央に円形の柄穴が穿たれる。柄穴は、後面の径が3.5cm、前面の径が3.0cmである。

3は農耕具の諸手鋏の柄である。上端、下端を欠損する。2の身を装着した状態でG21グリッドにおいて出土した。割り材を削り出したもので、縦方向に整形を施す。断面形はいびつな円形を呈する。残存長は22.6cm、幅は3.0cmである。

4は農耕具の鋏で二又鋏である。M23グリッドにおいて出土した。軸部上端を欠損しており、残存長は56.5cmである。軸部は残存長が12.4cm、幅が4.5

cm、刃部は長さが44.1cm、刃幅がそれぞれ8.3cm・8.9cmである。軸がヘタ状のナスビ型で、軸の外形は、やや内側に湾曲しながらヘタの笠部に至る。笠部はやや上向きで、笠の突出幅は0.7cmである。軸直下の刃部では、側面を削って面取りをしている。刃部の外形は、大きく湾曲し、刃部先端に至る。刃部先端に平坦な部分は作られない。二又の刃は、やや外側に開き気味である。厚さは、軸部上端が最も厚く、刃部先端に向かうに従って薄くなる。前面・後面とも目立った削り込みは見られない。前面は平坦で、後面に膨らみがあり、断面形は偏平な半円形を呈する。

第 12 表 堰跡出土遺物観察表

挿図番号	番号	器種	部位	グリッド	全長	幅	厚さ	被熱	残存率	図版
90	1	鋏柄	柄		(33.8)	握部4.0 装着面5.3	握部3.3	-	-	68
90	2	諸手鋏	身	G21	(27.8)	10.9	隆起2.9 刃0.8	-	75	69
90	3	諸手鋏	柄	G21	(22.6)	3.0	1.6	-	-	-
91	4	二又鋏	身	M23	(56.5)	刃21.4 片刃8.9	刃2.0 片刃1.4	-	90	69

#### (4) 谷

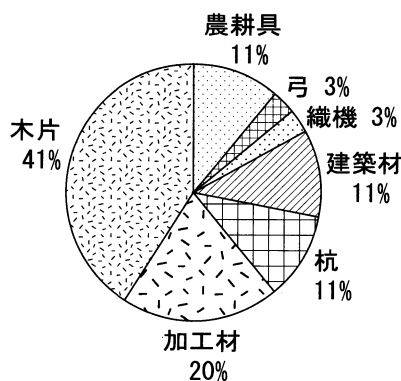
調査区中央の河川跡西側、N～S23～26グリッド範囲に位置する。北側に開析する支谷の谷頭を中心とする約40m×50mの範囲である。

弥生時代中期にこの支谷と、「P27グリッド付近から始まって南東方向に開析する支谷」を利用して水路が掘削されたため、以降谷頭部分が窪地状に残存し、7世紀後半に南河川跡等の氾濫によって北に向かって開析され、その後10世紀前半まで窪みが存

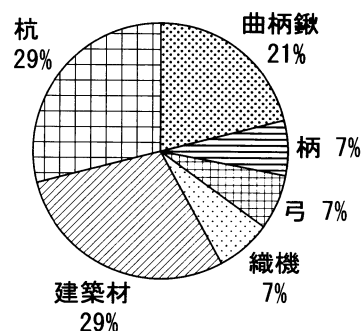
在していた。その後、浅間山B軽石降下直前には水田化していたが、近世段階までには完全に埋没したと把握されている。

出土遺物は、土器はなく木製品のみである。

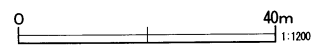
P24グリッドからは、仕口のある建築材が出土している。その他、二又鋏の身、織機、杭、建築材、加工材等が出土している。



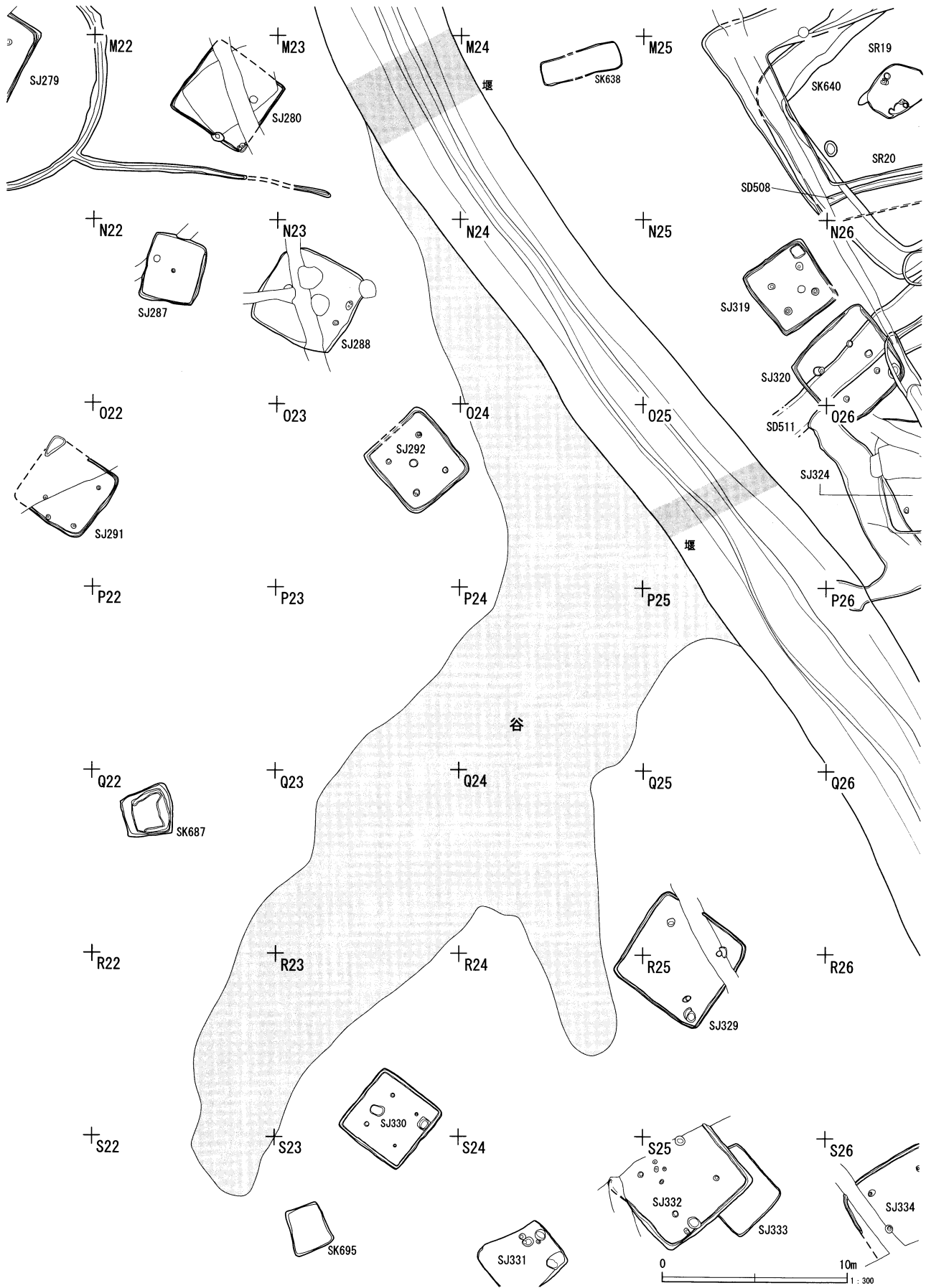
第 92 図 谷出土木製遺物構成



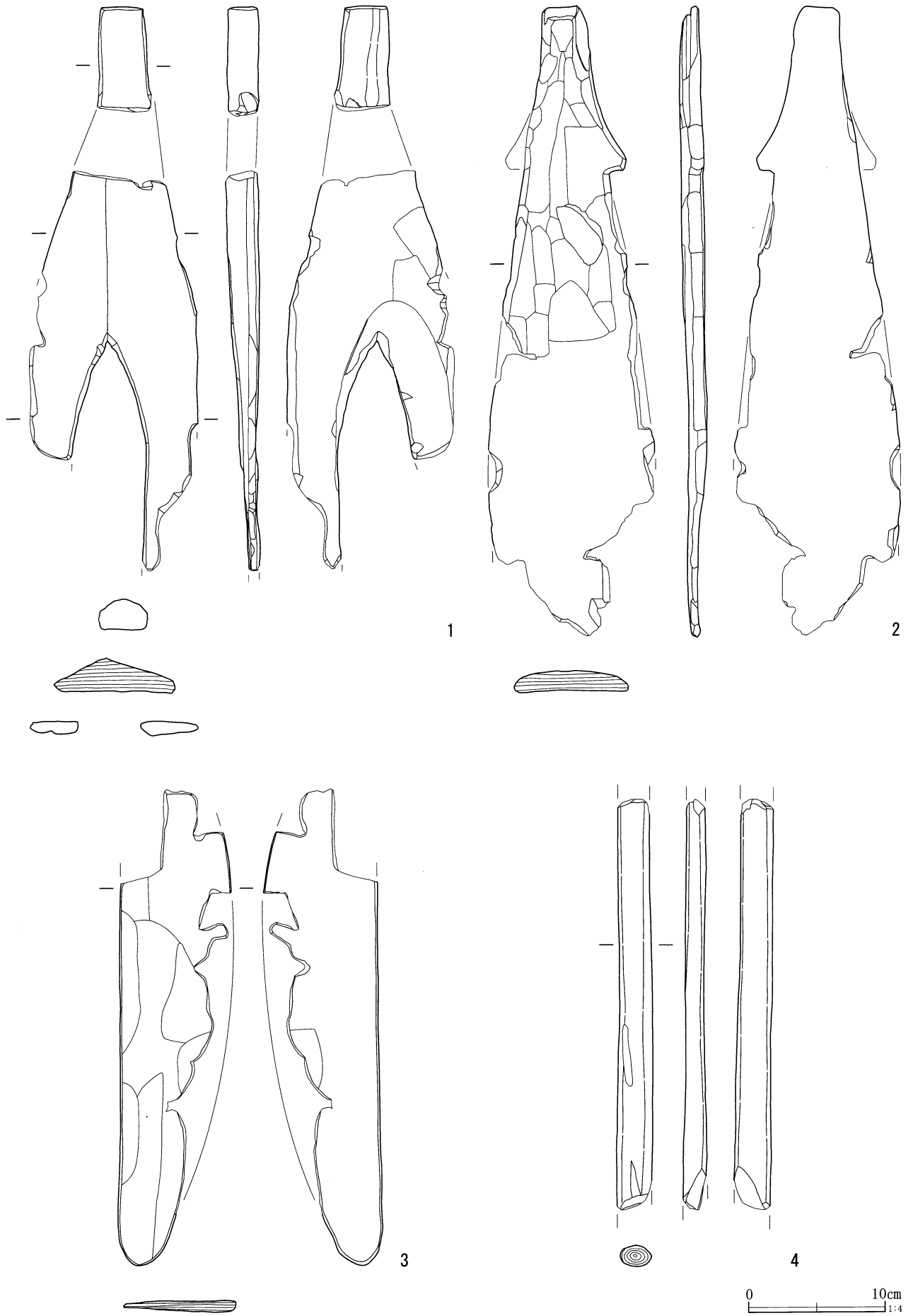
第 93 図 谷出土木製品構成



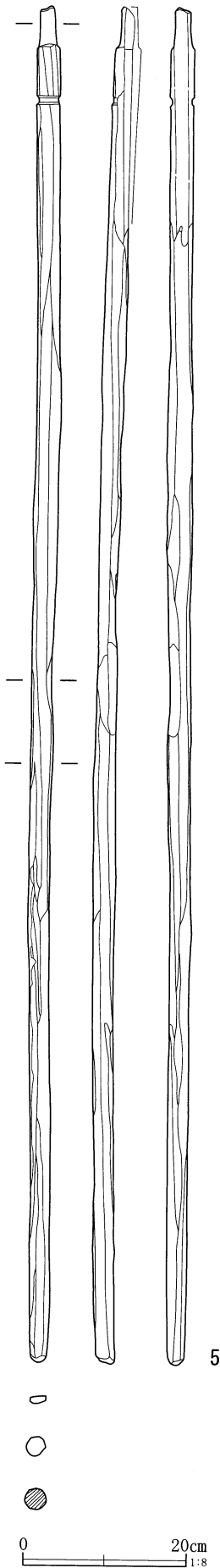
第 94 图 谷全体图 (1)



第 95 図 谷全体図 (2)



第 96 図 谷出土遺物 (1)



第 97 図 谷出土遺物 (2)

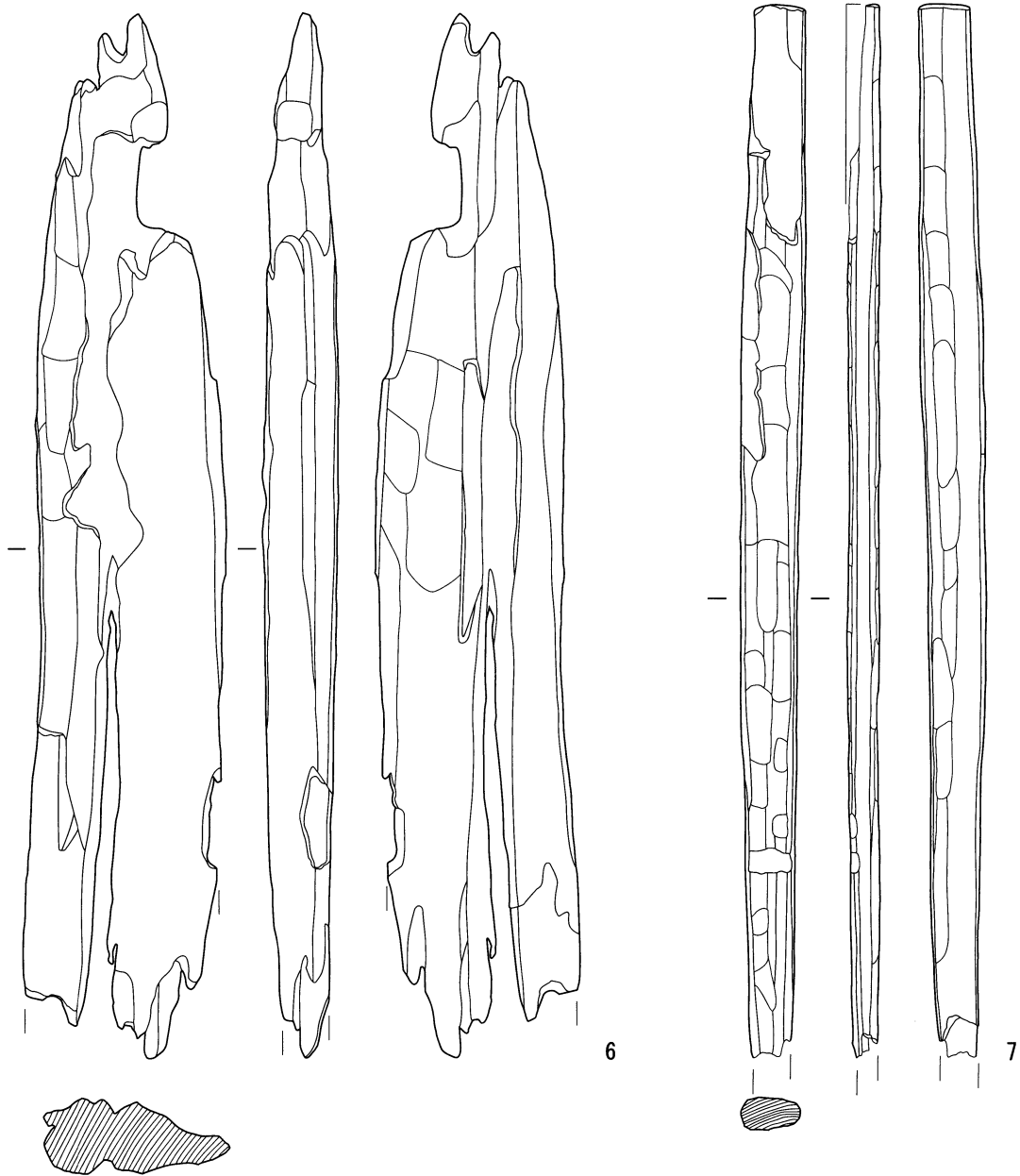
出土木製品を第96～100図に示した。

1は農耕具の鋤の身で二又鋤である。○25グリッドにおいて出土した。軸部下端と刃部下端を欠損しており、残存長は41.2cm、幅は12.2cmである。刃部は残存長が29.1cm、刃幅が4.1cmである。軸部は外縁に丸みがなく直線的で、軸部上端も平坦に作られる。刃部外縁にはほとんど外湾が見られず直線的である。刃部は上端が最も厚く、刃部先端に向かって徐々に薄くなる。刃部中央には、はっきりとした縦方向の稜線が見られる。軸部前面は平坦で、後面に膨らみがあり、断面形は半円形を呈する。二又の刃は中央付近が厚く、刃部外縁が薄くなっており、断面形は三角形を呈する。二又の片刃の断面形はいびつな方形を呈する。

2は農耕具の鋤の身で平鋤である。刃部下端を欠損し、残存長は45.8cm、幅は12.0cmである。軸部は、長さが11.9cm、残存幅が7.6cmである。刃部は、刃幅が12.0cmである。軸部がヘタ状または笠状に作られるナスビ型鋤で、ヘタの突出はほぼ水平に作り出される。軸部は、上端から徐々に幅が広がる。軸部の外形は直線的ではなく、内側にやや抉るような形状である。軸部は1.2cm突出する。刃部の両側縁は湾曲が少なく、やや直線的である。前面後面とも段差や抉りは見られず平坦である。厚さは、軸部上端が最も厚く、刃部先端にいくに従い徐々に薄くなる。軸部の断面形は上辺の短い方形を呈する。刃部は前面が平坦で、後面にやや膨らみがあり、断面形は偏平な半円形を呈する。

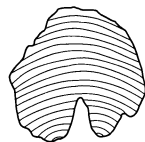
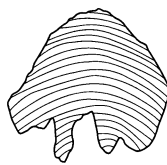
第 13 表 谷出土遺物構成

種別	器種	部位	点数	割合
農耕具	平鋤 (曲柄)	身	1	11%
農耕具	二又鋤(曲柄)	身	2	
農耕具	農具	柄	1	
武器	弓		1	3%
紡織具	織機		1	3%
建築材	建築材		4	11%
	杭		4	11%
	加工材		8	20%
	木片		16	41%
合計			38	100%



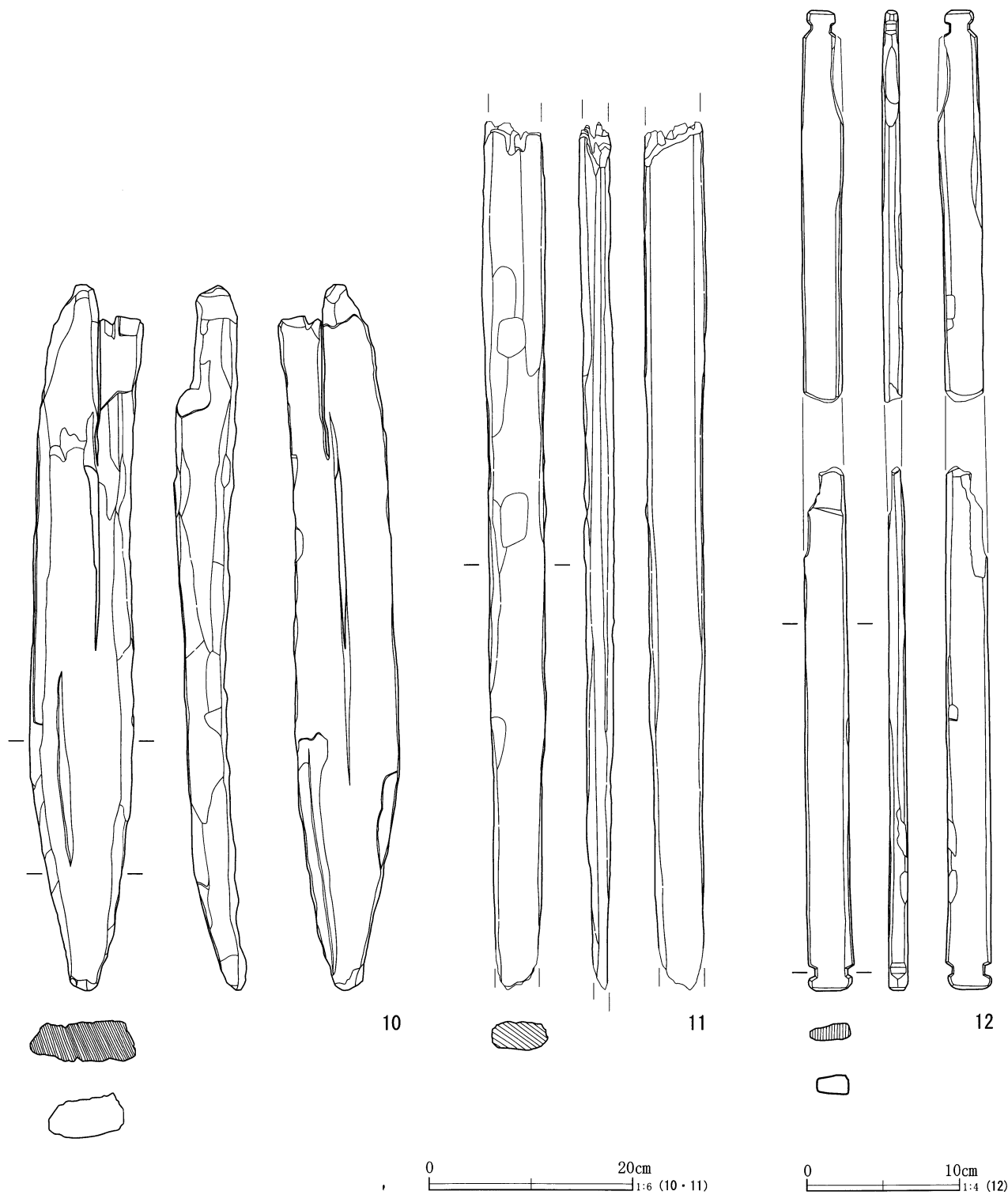
第 98 図 谷出土遺物 (3)





0 20cm  
1:6

第 99 図 谷出土遺物 (4)



第 100 図 谷出土遺物 (5)

3は農耕具の鍬の身で二又鍬である。O25グリッドにおいて出土した。二又鍬の片刃のみが残存している。刃部の残存長は34.7cm、刃幅は8.1cmである。前面、後面とも膨らみが少なく、平坦である。刃部の厚さが最大で0.9cmと、全体的に薄い作りである。

4は農具の柄である。R27グリッドにおいて出土した。残存長は29.8cm、幅は2.2cmである。鍬もしくは鋤の柄である。芯持ち材を用いて作られたもので、正面・背面を削っており、断面形は楕円形を呈する。

5は武器の弓である。Q26グリッドにおいて出土した。下部を欠損し、全長は165.4cm、幅は3.0cmである。割り材を削り出して、六面に作っている。長さ1m内外の短弓である。弓弭の一端が残存しており、弓弭は長さが4.6cm、幅が1.8cmである。弓弭の形状は、二側面を切り落とした凸状で、直角に近い明瞭な段を持つ。断面形は方形を呈する。弓弭端部にいくに従って幅が狭くなる。弓弭の下の弓幹には幅1.0cm、深さ0.2cmの溝が、一周めぐらされている。弓幹部は、幅2.6cmで外形は直線的である。弓幹中心部分に二面からなる握りが削り出され、長さは11.4cm、幅は2.2cmである。棒樋は見られない。

6は建築材である。P24グリッドにおいて出土した。残存長は86.2cm、幅は15.6cmである。割り材を削り出したものである。他材と組むための仕口が一箇所作られており、挟りの長さは8.4cm、深さは4.0cmである。仕口以外に加工の痕跡は見られない。仕口が作られている側面を薄く、もう一側面を厚く作っており、断面形はいびつな三角形を呈する。

7は建築材である。R27グリッドにおいて出土した。残存長は85.0cm、幅は5.2cmである。割り材の全面を縦方向に削り出したもので、断面形は楕円形を呈する。外形は直線的である。材上端の幅が最も広く、下端に向けて徐々に幅が狭まる。厚さは一定である。

8は建築材である。上下の端部を欠いており、残存長は77.4cm、幅は15.2cmである。割り材を削り出

し、断面形は長方形の板状に作られる。楕円形の通し柄が一箇所穿たれている。柄穴の長さは8.4cm、幅は6.8cmである。

9は杭である。全長は71.0cm、幅は13.2cm、杭先は9.3cmである。割り材の端部を削り、杭先端を七面に作る。断面形はいびつな半円形を呈する。背面には整形が施されず、凹凸が多く見られる。

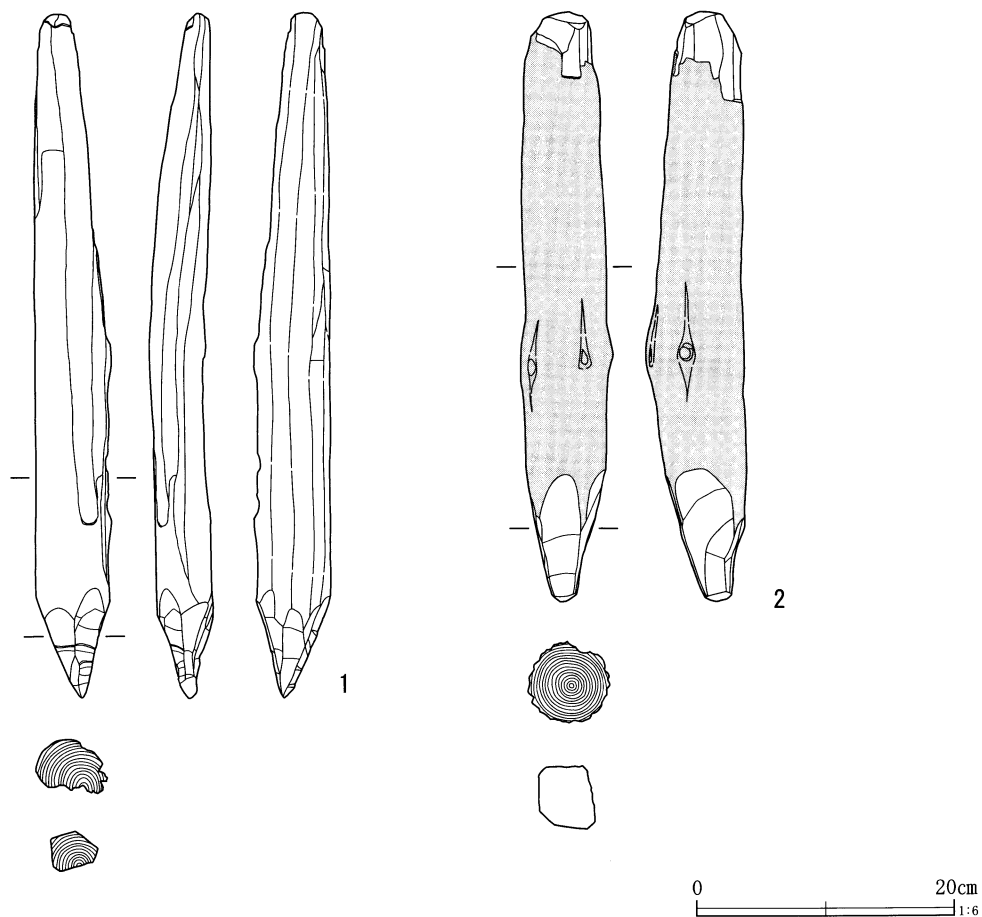
10は杭である。全長は69.3cm、幅は10.2cm、杭先は20.7cmである。割り材を削り出したもので、断面形は長方形を呈する。材先端の両側面を削り落として尖らせ、杭先を四面とする。断面形は方形を呈する。

11は棒状の加工材である。上下端部を欠いている。残存長は84.4cm、幅は6.0cmである。割り材を削り出しており、断面形が楕円形に近い四角形に作られる。上端部の幅が最も広く、下端部にいくに従って狭くなる。また、上端部の厚さが最も厚く、下端部にいくに従って薄くなる。

12は紡織具の織機である。残存長は63.9cm、幅は2.8cmである。割り材を削り出したもので、断面形は長方形を呈する。両端の角が丸みを帯びている以外は、外形は直線的である。一側面がもう一側面より厚く作られる。両端の側面に二箇所ずつ、計四箇所の挟りが作られる。挟りは長さ0.8~1.1cm、深さ0.3~0.5cmを測る。欠損のある挟り以外は、三箇所とも規模・形状が近似している。

第14表 谷出土遺物観察表

挿図番号	番号	器種	部位	グリッド	全長	幅	厚さ	被熱	残存率	図版
96	1	二又鍬	身	O25	(41.2)	刃12.2 軸3.5	刃2.4 軸2.3 片刃1.0/1.1	-	60	70
96	2	平鍬	身		(45.8)	刃12.0	刃1.5	-	80	70
96	3	二又鍬	身	O25	(34.7)	片刃8.1	片刃0.9	-	25	-
96	4	農具	柄	R27	(29.8)	2.2	1.5	-	-	70
97	5	弓		Q26	165.4	3.0	2.6	-	95	71
98	6	建築材		P24	(86.2)	15.6	6.2	-	-	71
98	7	建築材		R27	(85.0)	5.2	2.8	-	-	72
99	8	建築材			(77.4)	15.2	4.0	-	-	72
99	9	杭			71.0	13.2	12.0	-	100	73
100	10	杭			69.3	10.2	3.8	-	100	73
100	11	棒状加工材			(84.4)	6.0	2.8	-	-	74
100	12	織機			(63.9)	2.8	1.0	-	90	74



第 101 図 ピット出土遺物

### (5) ピット

木製品が出土したピットは、H20グリッドに位置するP10と、P15グリッドに位置するP6である。いずれも杭が出土している。

H20グリッドのP10は、区画溝（第464号溝跡）の東隅部周辺にあたる。

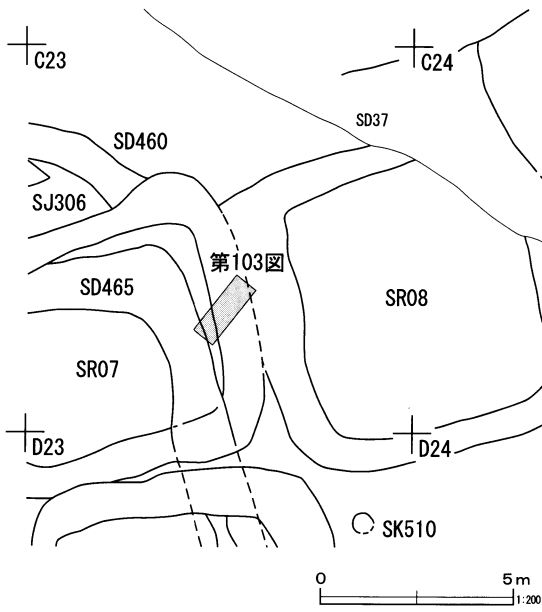
出土木製品を第101図に示した。

1は杭である。H20グリッドP10において出土した。全長は53.0cm、幅は5.9cmで、杭先は7.8cmである。半截した材を使用しており、断面形は半円形を呈する。材先端を、縦方向に六列に削り落とし、杭先端部を六面に作る。杭先端以外に、整形の痕跡は見られない。

2は杭である。P15グリッドP6において出土した。全長は45.8cm、幅は7.2cmで、杭先は10.3cmである。芯持ち材を用いて作ったもので、断面形は円形、杭先端は方形を呈する。材端部の全面を削り出し、杭先を四面に作る。杭先端以外に加工の痕跡は見られず、樹皮面が残存する。

第 15 表 ピット出土遺物観察表

挿図番号	番号	器種	部位	グリッド	全長	幅	厚さ	被熱	残存率	図版
101	1	杭		H20	53.0	5.9	4.1	-	100	75
101	2	杭		P15	45.8	7.2	6.3	-	100	75

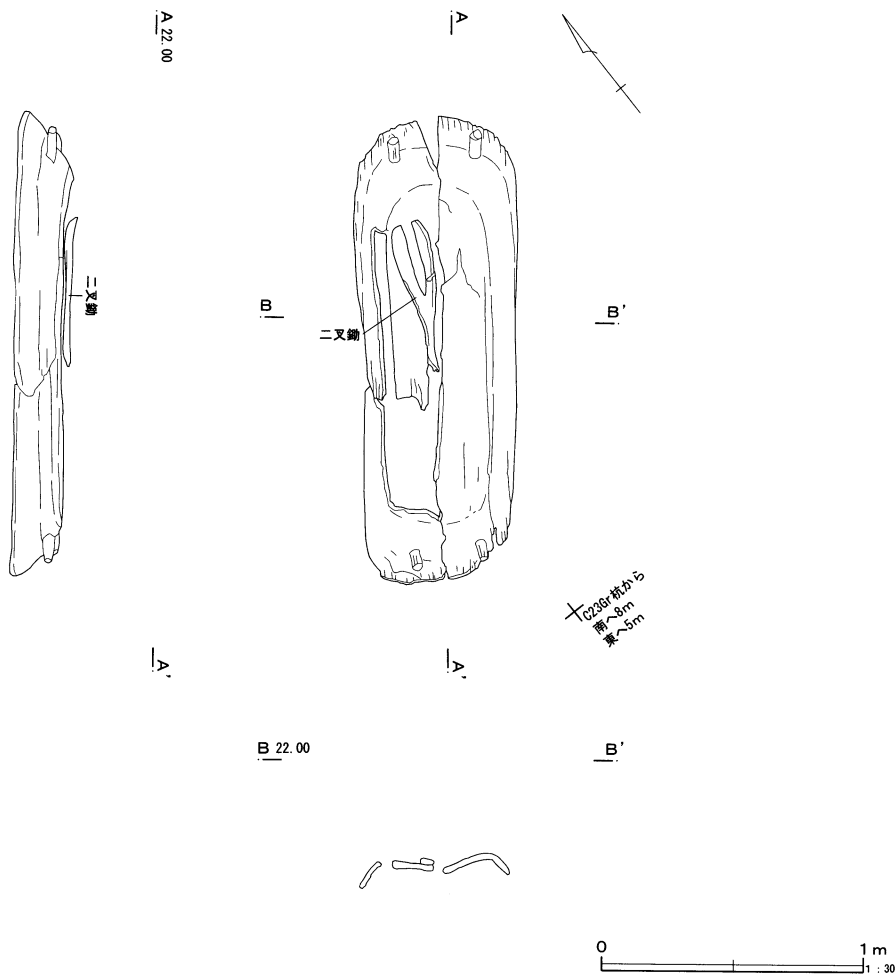


第 102 図 田舟区割図

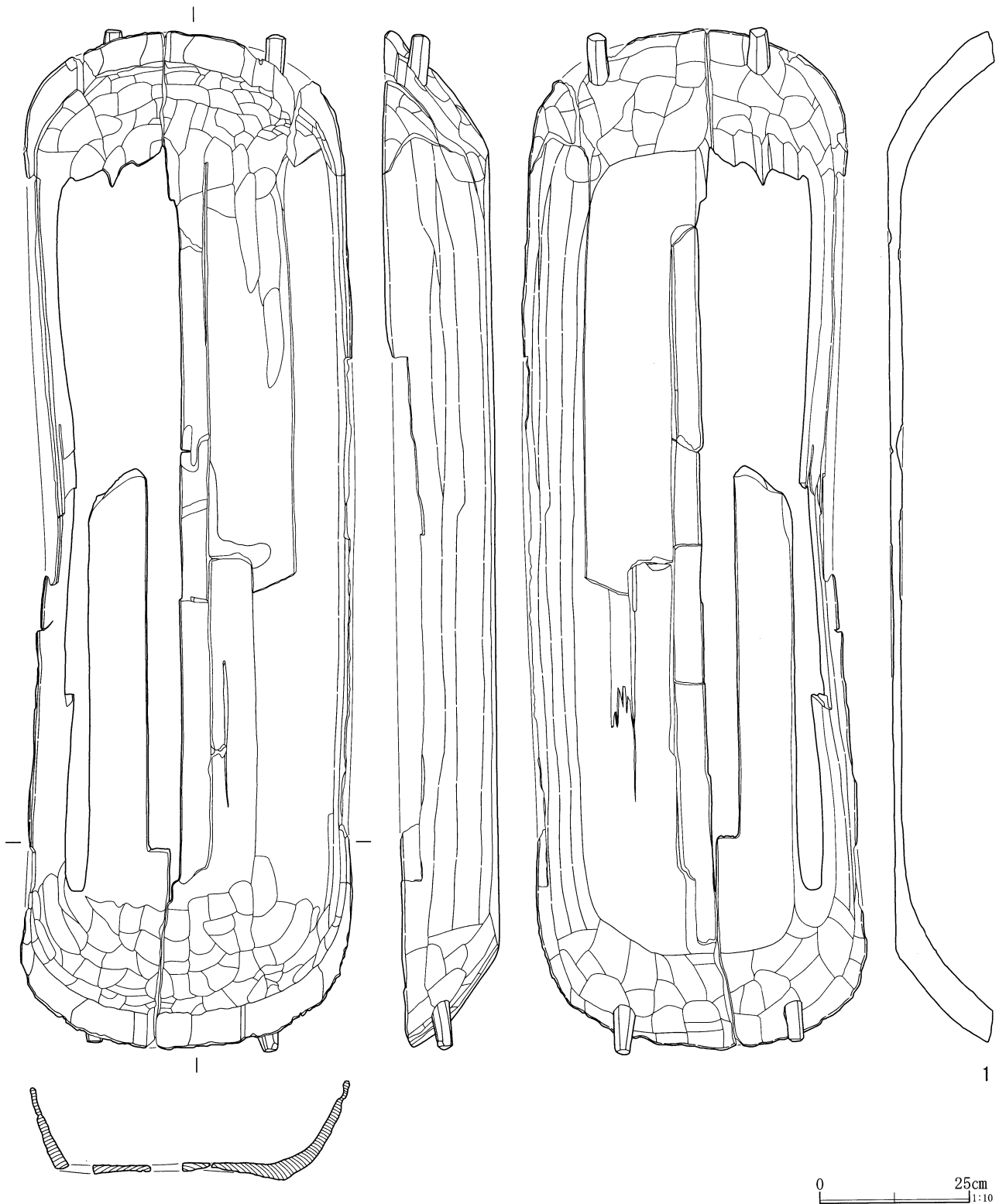
### (6) グリッド

C23グリッド出土の田舟と二又鍬は、同グリッド周辺部の方形周溝墓群の調査終了後、下層遺構面検出途中で発見されたものである。田舟は、伏せた状態で出土し、二又鍬は田舟の直上で出土した。西側にやや離れたD21グリッドからは、両端に抉りのある用途不明の加工材が出土している。

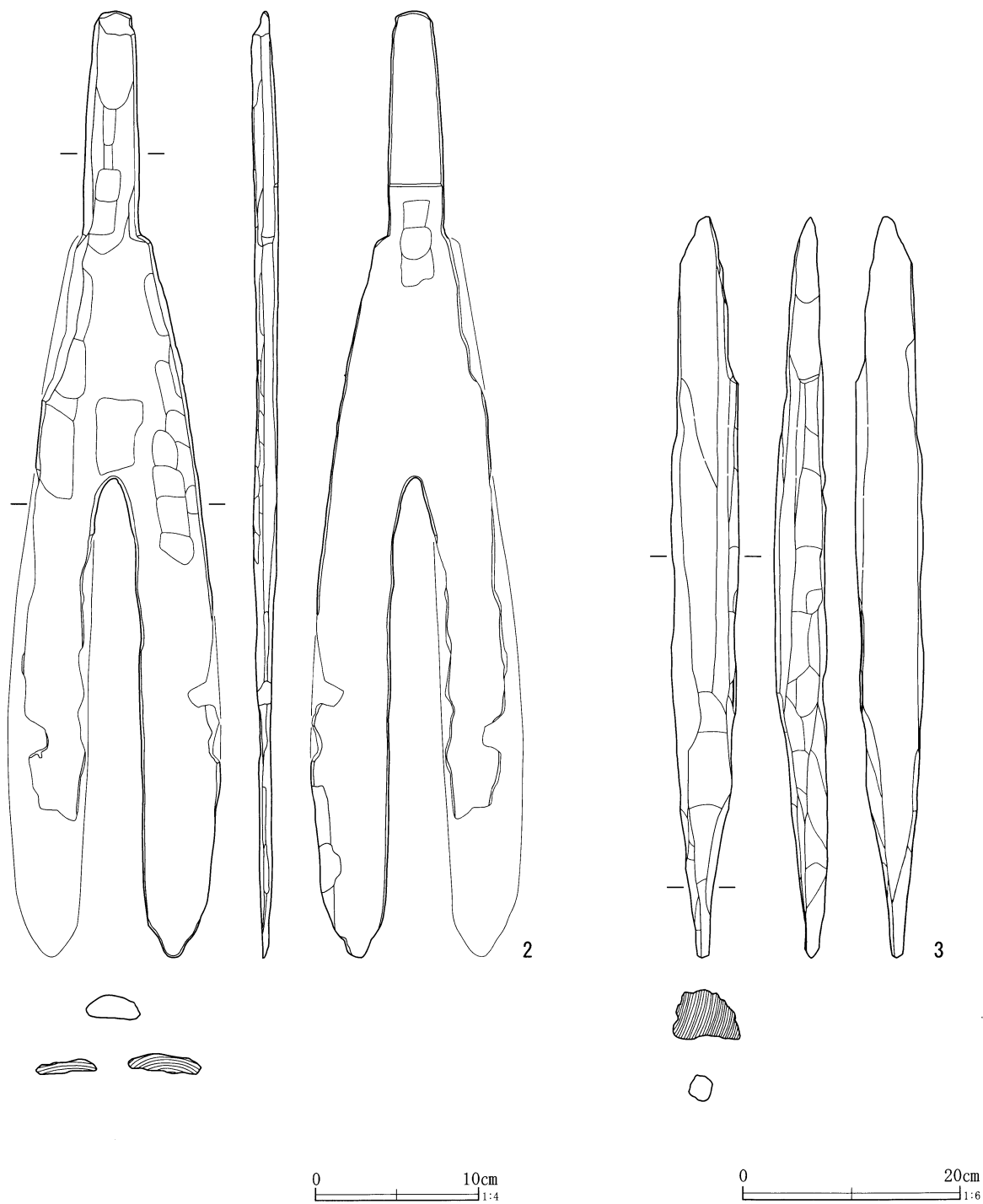
J16グリッドは、区画溝内部の南側ほぼ中央に位置し、奈良・平安時代の第160号土壙が西側に検出されている。



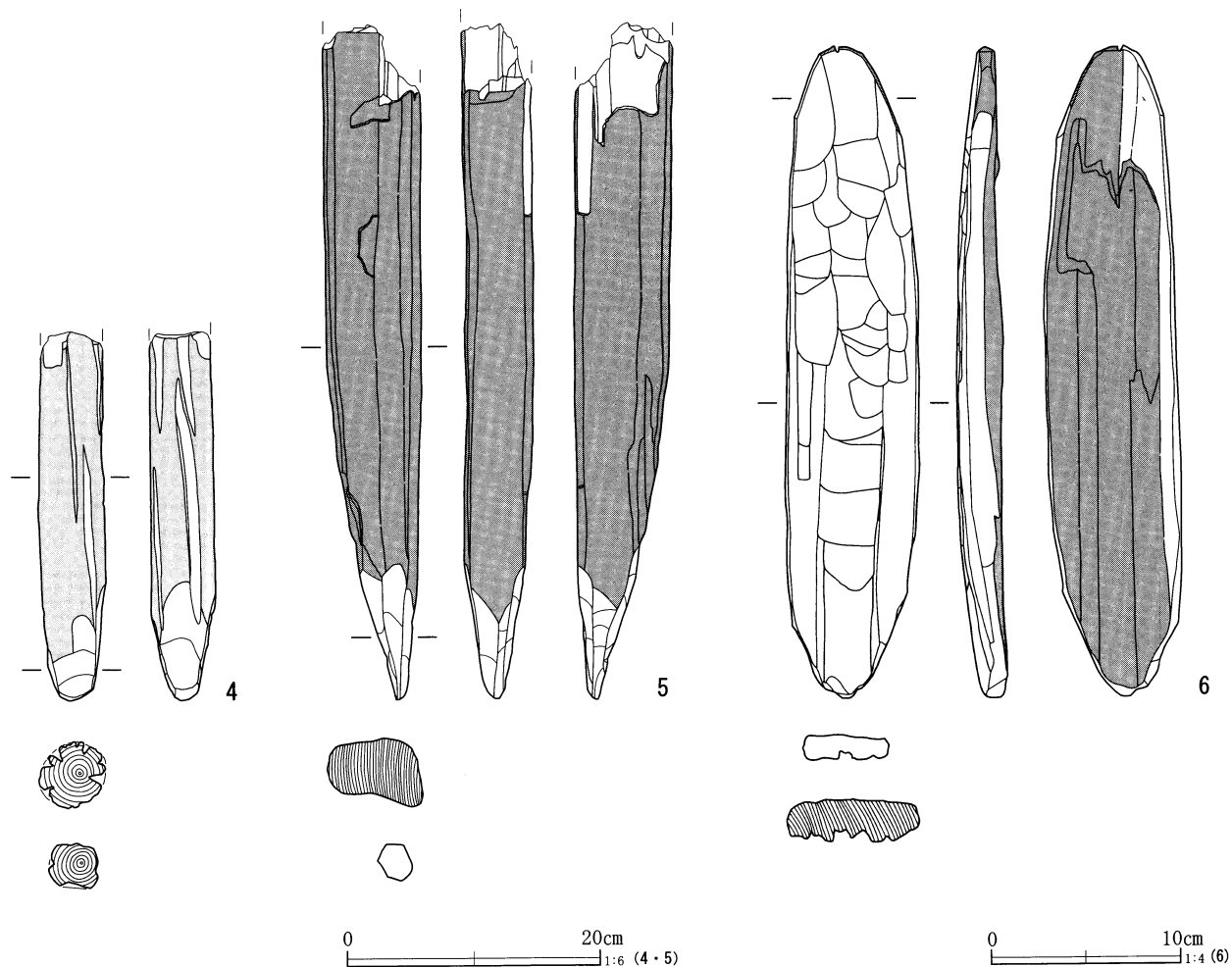
第 103 図 田舟出土状況



第 104 図 グリッド出土遺物 (1)



第 105 図 グリッド出土遺物 (2)



第 106 図 グリッド出土遺物 (3)

出土木製品を第104～107図に示した。

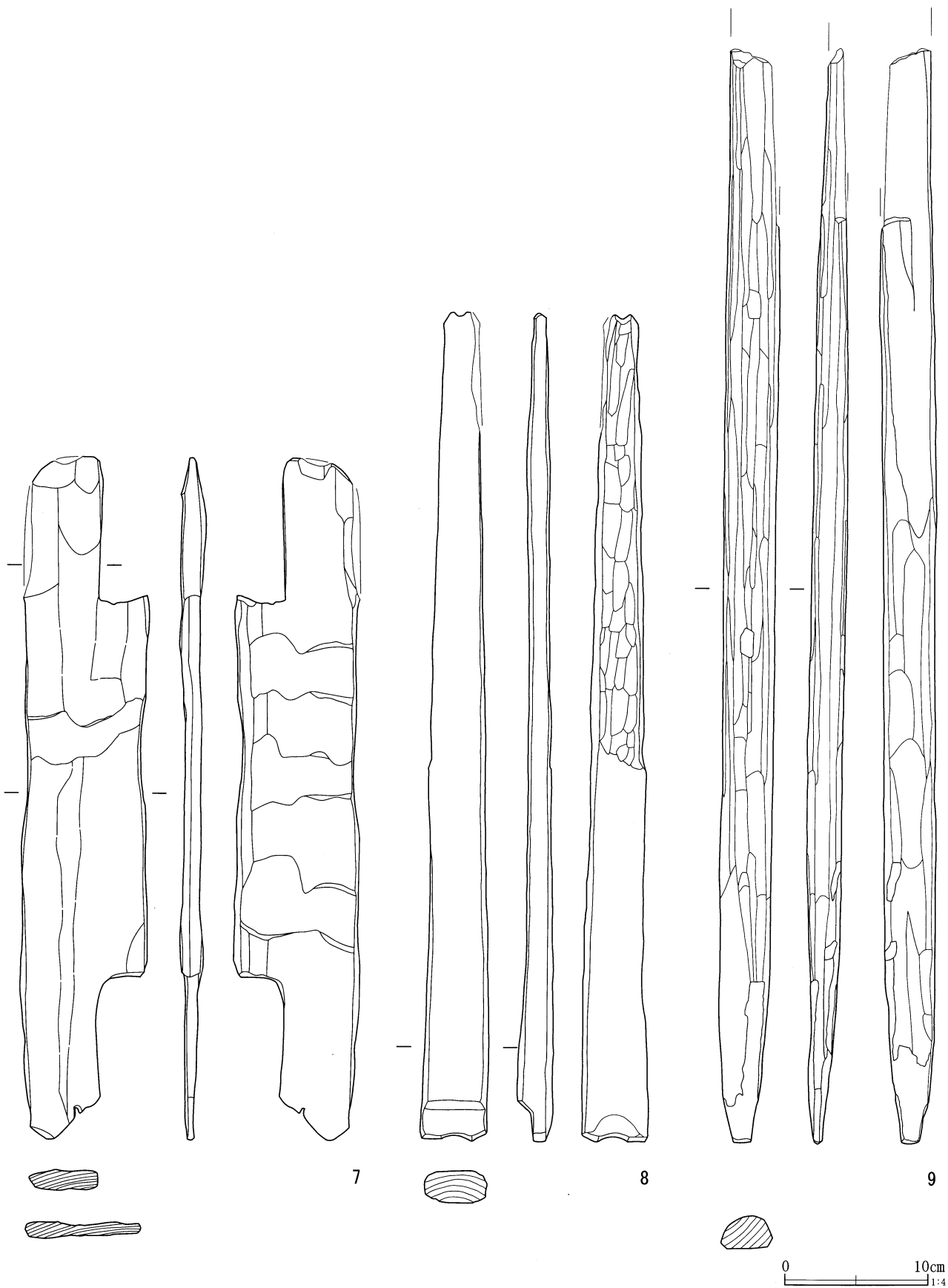
1は農耕具の田舟である。C23グリッドにおいて出土した。全長は171.0cm、幅は53.2cm、高さは16.4cm、内面の深さは13.6cmである。上下端は丸く曲線的に、側面は直線的に作られる。口縁の厚さは両端が最も厚く、側面に向かうに従って徐々に薄くなる。外面は、舟先から直線的に底部へとつながり、底部も直線的である。側面と底部の境には角が作られ、側面と底部の境界は明瞭になっている。内面では側面と底部の境界は見られず、曲線的である。両端の外面には二つ一組の把手が26.0cm間隔で作られる。把手の長さは6.4～7.4cm、径は2.9～3.8cmである。

2は農耕具の鍬の身で二又鍬である。C23グリッドにおいて田舟の直上で出土した。全長は57.8cmで、幅は11.4cmである。軸の長さは13.6cm、幅は3.4cm

で、刃部の長さは44.2cm、片刃の刃幅は4.6cmである。軸上端は丸く、外形は肩部まで直線的である。幅は、刃部に向かって広がっている。肩部の幅は非常に狭く、鈍角に作られる。刃部の両側縁も外湾することなく直線的で、二又の刃は開き気味である。軸部・刃部は、ともに薄い作りであり、軸部上端が最も厚く、刃部下端にいくに従って薄くなる。軸部前面には段が設けられ、軸上部が一段低くなっている。着柄のための段と考えられる。軸部の断面形は半円形で、刃部の断面形は扁平な楕円形を呈する。

3は杭である。F12グリッドにおいて出土した。全長は67.9cm、幅は6.1cmで、杭先は14.9cmである。割り材の端部と側面を削り出して作ったものである。断面形は台形を呈する。材端部の全面を斜めに削り落として杭先を四面に作り、杭先端の断面形は方形を呈する。





第 107 図 グリッド出土遺物 (4)

4は杭である。J16グリッドにおいて出土した。残存長は29.2cm、幅は5.2cmで、杭先は9.3cmである。芯持ち材を用いて作ったものである。断面形は円形を呈する。端部全面を削り落とし、杭先を四面に作っており、先端部の断面形は方形を呈する。杭先端以外に加工の痕跡は見られず、全面に樹皮面が残存する。

5は杭である。F12グリッドにおいて出土した。残存長は53.2cm、幅は7.6cm、杭先は10.5cmである。割り材を削り出したもので、断面形はいびつな楕円形を呈する。端部全面を斜めに削り落とし、杭先を七面に作っており、杭先端の断面形は七角形を呈する。杭先端の加工部以外は被熱の痕跡が見られる。焼失材を用いて杭としたものである。

6は用途不明の製品である。F12グリッドにおいて出土した。全長は34.2cm、幅は7.0cmである。割り材を削り出したもので、背面以外に細かな整形を施す。正面、側面とも直線的な作りである。上端の側面は長さ4.9cm、下端の側面は長さ5.6cmを削り落としている。正面のほぼ全面を縦方向に削る。背面・側面の一部に被熱の痕跡が見られる。全体的に縦方向の反りが見られる。

7は用途不明の製品である。F12グリッドにおいて出土した。全長は47.6cm、幅は7.6cmである。上

下端部には直角に近いL字状の抉りが作られる。上部の抉りは長さが9.5cm、幅が2.9cm、下部の抉りは長さが8.3cm、幅が2.6cmである。上下端部の側面を斜めに削り落として丸く作る。正面背面の端部を斜めに削り落として薄くしている。断面形は偏平な長方形を呈する。表面には凹凸が多く、厚さにばらつきがある。

8は用途不明の製品である。D21グリッドにおいて出土した。全長は57.6cm、幅は4.6cmである。割り材を削り出して作ったものである。外形は、表面・側面ともに直線的である。一端の幅が広く、もう一端に向けて徐々に幅が狭くなる。厚さは、一端が厚くもう一端に向けて徐々に薄くなる。背面の中央から上端にかけて、長さ1.4~3.8cm、幅0.2~1.2cmの加工幅で細かに削り込まれて薄く作られる。上下端部には半円形の抉りが作られ、上部の抉りは、幅1.2cm、深さ0.3cmで、下部の抉りは、幅2.2cm、深さ0.6cmである。下端部には、材の厚さの半分程度を削り込んだ段が作られる。

9は建築材である。残存長は76.2cm、幅は4.0cmである。割り材を細長い棒状に削り出したもので、断面形は半円形を呈する。背面は平坦で、正面は丸みを持つ。材の先端を斜めに削り落として尖らせる。厚さはほぼ一定だが、先端にいくほど薄くなる。

第16表 グリッド出土遺物観察表

挿図番号	番号	器種	部位	グリッド	全長	幅	厚さ	被熱	残存率	図版
104	1	田舟		C23	171.0	53.2 底部35.4	底部0.8~2.2	-	75	76
105	2	二又鋏	身	C23	57.8	刃(11.4) 片刃4.6	軸1.5 片刃1.3/0.9	-	90	77
105	3	杭		F12	67.9	6.1	4.6	-	100	78
106	4	杭		J16	(29.2)	5.2	5.3	-	-	78
106	5	杭		F12	(53.2)	7.6	5.3	○	-	78
106	6	不明製品		F12	34.2	7.0	2.2	○	100	79
107	7	不明製品		F12	47.6	7.6	1.9	-	100	79
107	8	不明製品		D21	57.6	4.6	2.2	-	100	80
107	9	建築材			(76.2)	4.0	2.2	-	-	80

### 3. 奈良・平安時代

奈良・平安時代の木製品が出土した遺構は、土壙と溝跡である。遺構と出土遺物については、第293集『北島遺跡Ⅸ』に詳述してあるが、必要な範囲で以下に抄録する。

#### (1) 土壙

##### 第160号土壙 (第111・112図)

北島遺跡第19地点で検出した土壙の中で最大のものである。調査区の西側、J14・15・16グリッドで検出し、第125号溝跡の北に位置する。

形状は、長楕円形である。規模は、長軸15.79m、深さ4.38mである。中央付近の底面でピットを多数検出した。

遺物は多量に出土した。出土土器の時期は7世紀後半、9世紀代、10世紀代、11世紀前半まで及び、

とくに10世紀後半の遺物が集中的に出土し、墨書土器も含まれている。溝跡(第91・125号溝跡)との重複関係を考え合わせて、所属時期は10世紀後半と把握された。

出土した木製品のうち、木札と板状の加工材2点は既報告である。木札は、「長さ7mm、幅3mmの切り込みが、上部の両側二箇所に入っている。上部は熱を受け焦げている。」

獣骨は4点出土している。ウマの脚部骨格片、骨片とシカの角で、本土壙に伴うものと考えられた。

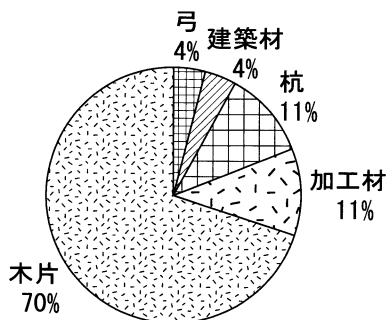
今回報告する木製品は、杭と丸木弓である。

出土状態は、杭が、中央付近の底面で検出されたピット(P1)埋土中層から、やや纏まって出土している。丸木弓は、P3上部から出土した。

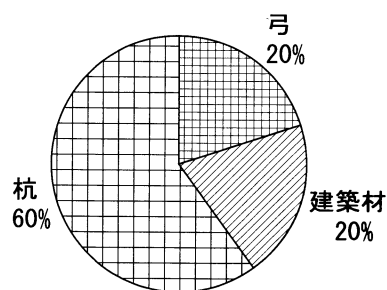
その他加工材、木片等が出土している。

第17表 第160号土壙出土遺物構成

種別	器種	部位	点数	割合
武器	弓		1	4%
建築材	建築材		1	4%
杭	杭		3	11%
	加工材		3	11%
	木片		20	70%
合計			28	100%



第108図 第160号土壙出土遺物構成

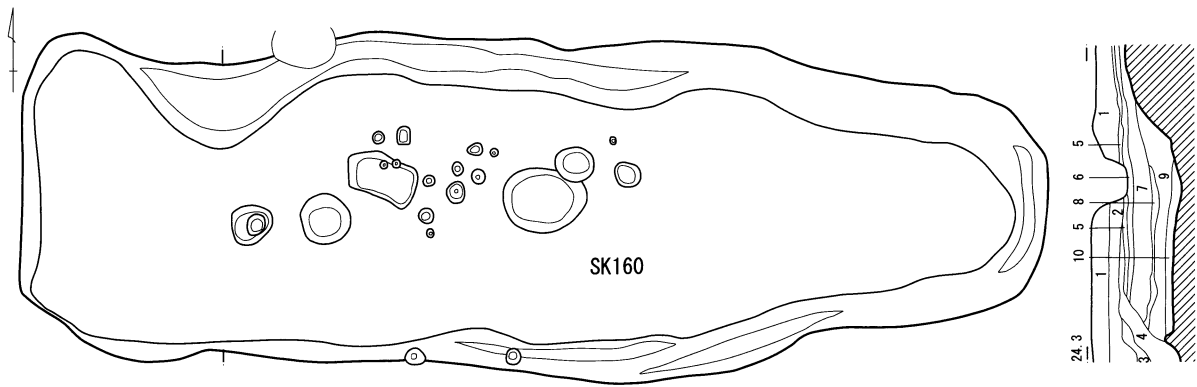


第109図 第160号土壙出土木製遺物構成



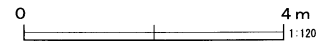
第 110 図 土壙全体図

0 40m 1:1200



第160号土壌

- 1 表土
- 2 暗褐色土 黄褐色ブロック (2~3mm) 少量
- 3 褐色土 黄褐色ブロック (3~5mm) 含む
- 4 暗褐色土 浅間山B軽石含む 黄褐色粘土粒子・炭化物粒子少量
- 5 暗褐色土 浅間山B軽石含む
- 6 黒褐色土 焼土ブロック・黄褐色粘土粒子 (1mm) まばら
- 7 黒褐色土 黄褐色粘土粒子含む
- 8 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック (2~3mm) 多量 炭化物 (2~3mm) 少量
- 9 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック (3~5mm) 多量 炭化物 (5~8mm) 少量
- 10 黒色土 黄褐色粘土ブロック (1~3mm) 多量



第 111 図 第160号土壌図

出土木製品を第113~114図に示した。

1は弓である。J 15グリッドから出土した。全長は151.8cm、幅は2.6cmである。芯持ち材を用いて作ったもので、材全面を0.2cm幅で細かく削り出している。長さ1m内外の短弓である。上部の弓弭は長さが2.4cm、幅が1.4cm、厚さが1.0cmである。下部の弓弭は長さが2.4cm、幅が0.7cm、厚さが0.3cmである。弓弭の形状は、二側面を切り落として凸状に作る。上下の弓弭とも直角に近い明瞭な段を持つ。弓幹の幅は2.6cmである。弓幹中央に二面からなる握りが作られ、握りの長さは10.0cm、幅は1.6cmである。棒樋は見られない。

2は建築材の横架材である。残存長は44.8cm、幅は4.8cmである。割り材を削り出したもので、断面形は方形を呈する。長方形の通し柄が二箇所穿たれる。上部の柄穴が長さ3.2cm、幅1.6cmである。下部の柄穴が長さ3.8cmである。

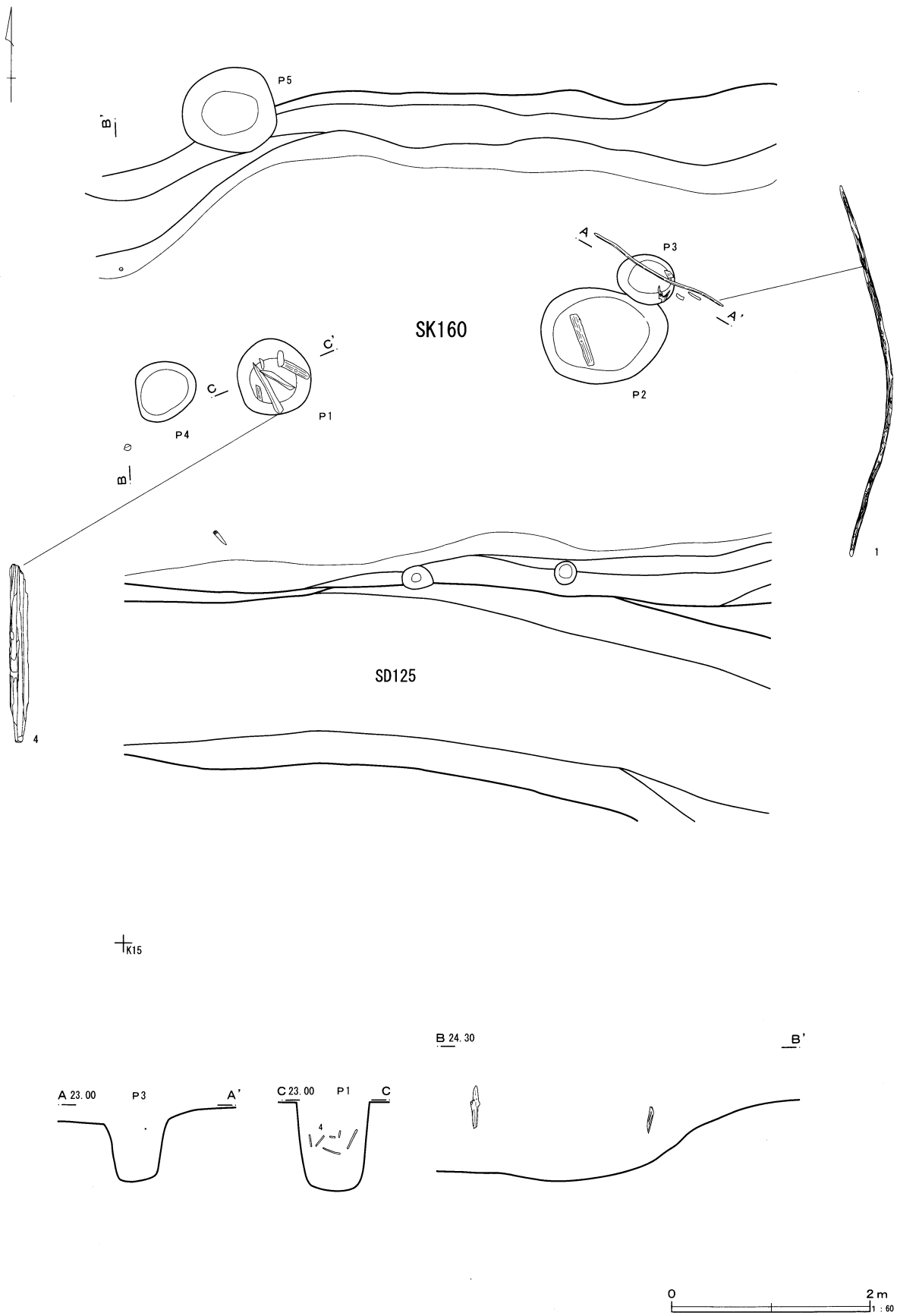
3は、木札である。『北島遺跡IX』において報告したものを再掲載した。J 15グリッドにおいて出土した。全長は10.0cm、幅は1.5cmである。長さ7mm、幅3mmの切込みが上部両端につくられる。上部に被熱の痕跡が見られる。

4は加工材である。J 15グリッドから出土した。残存長は49.0cm、幅は9.2cmである。割り材を板状に削り出したもので、断面形はいびつな方形を呈する。外形は直線的である。加工した痕跡は、ほとんど見られない。

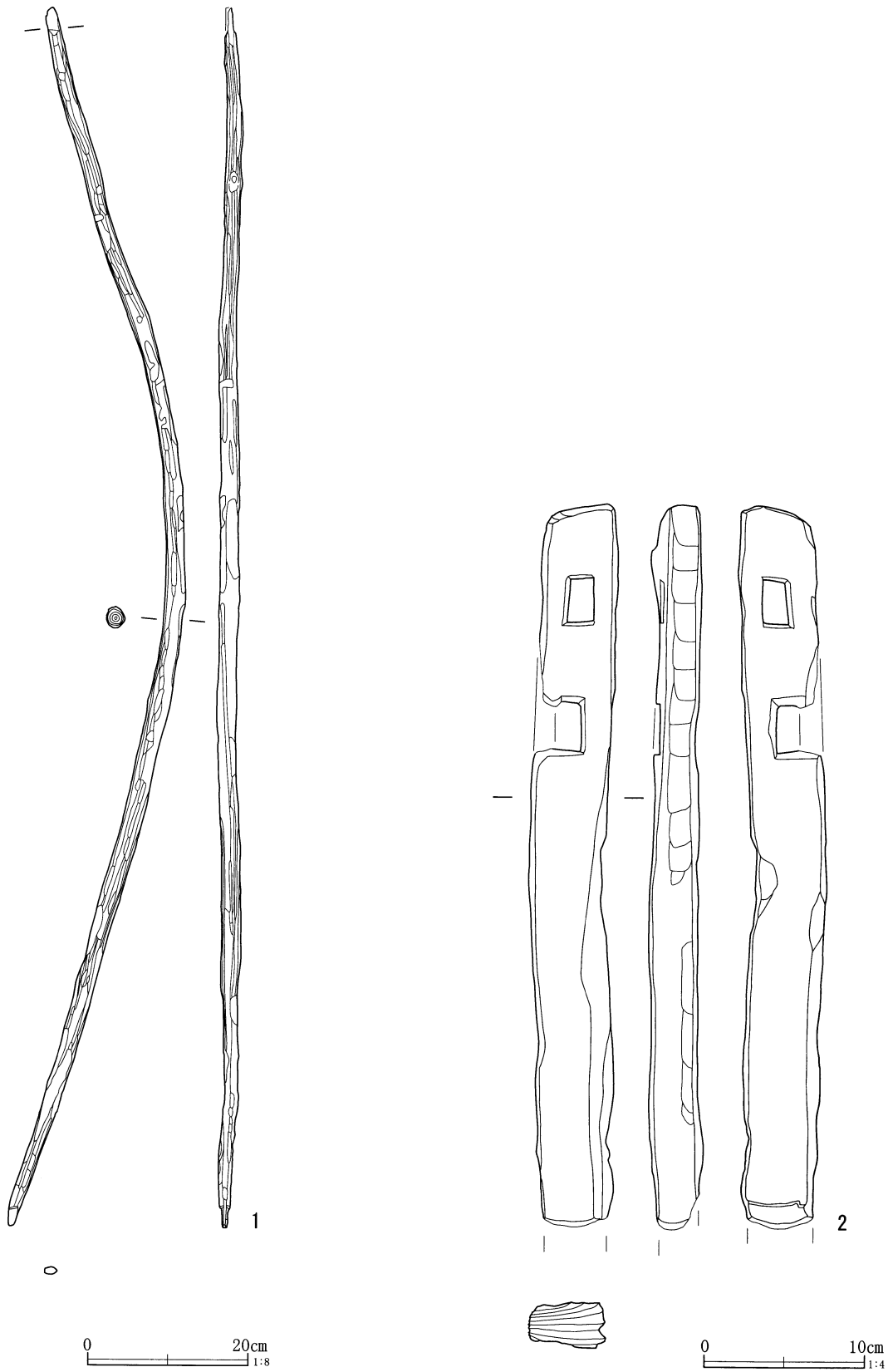
5は杭である。J 15グリッドから出土した。上部が欠損しており、残存長は73.2cm、幅は7.6cmで、杭先は16.2cmである。割り材を削り出したもので、断面形は三角形を呈する。材先端を斜めに削り落とし、杭先は五面に作られる。杭先端以外に、整形の痕跡は見られない。

第 18 表 第160号土壌出土遺物観察表

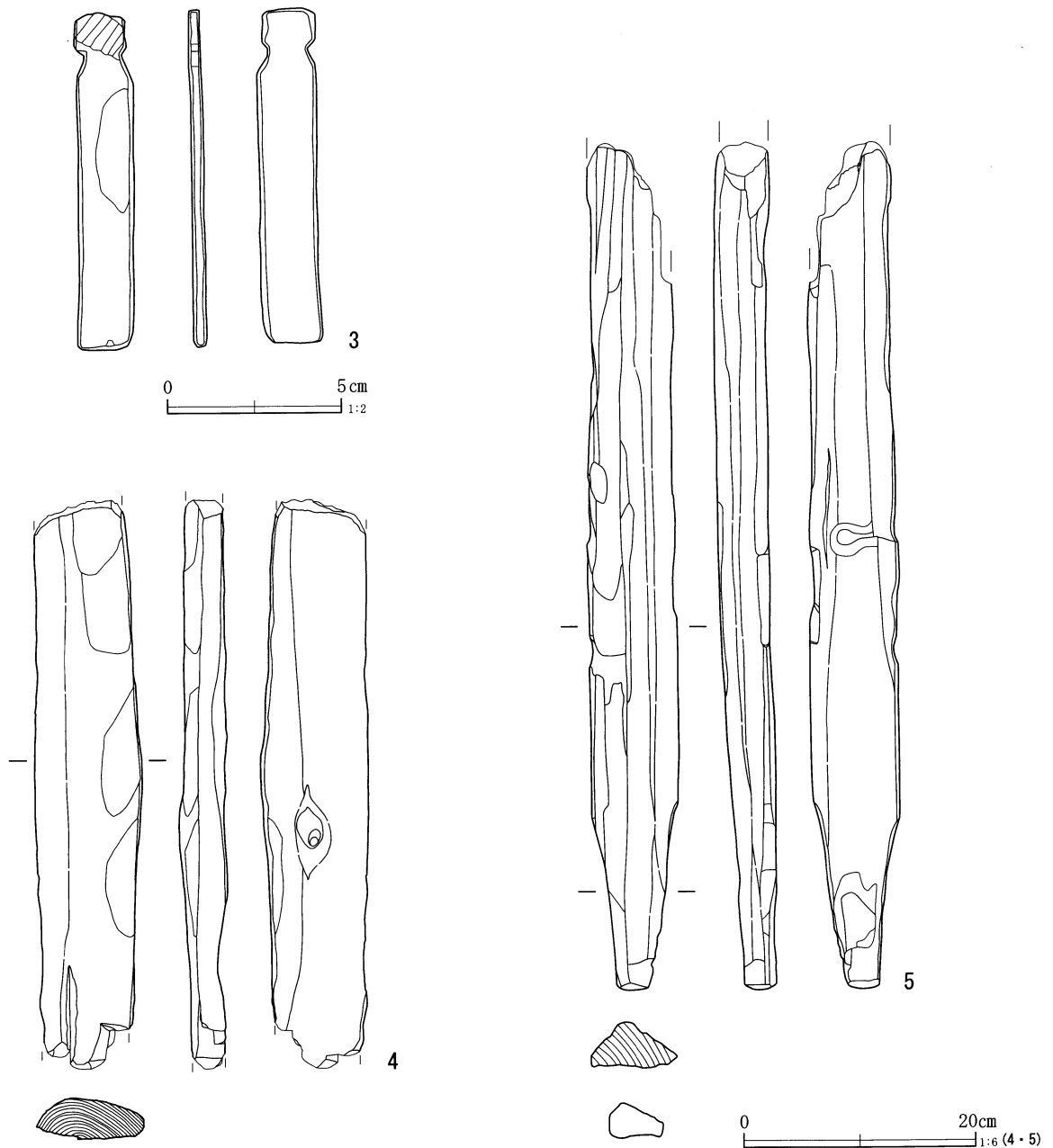
挿図番号	番号	器種	部位	グリッド	全長	幅	厚さ	被熱	残存率	図版
113	1	弓		J 15	151.8	2.6		-	100	81
113	2	建築材			(44.8)	4.8	3.8	-	-	82
114	3	木札			10.0	1.5	2.0	-	-	81
114	4	板状加工材		J 15	(49.0)	9.2	3.6	-	-	-
114	5	杭		J 15	(73.2)	7.6	3.8	-	-	82



第 112 図 第160号土坑遺物出土状況



第 113 图 第160号土坑出土遗物 (1)



第 114 図 第160号土壙出土遺物（2）

## （2）溝跡

### 第24号溝跡（第115図）

既報告で幹線用排水路とされた、調査区を西から東に向かって流れる溝跡である。

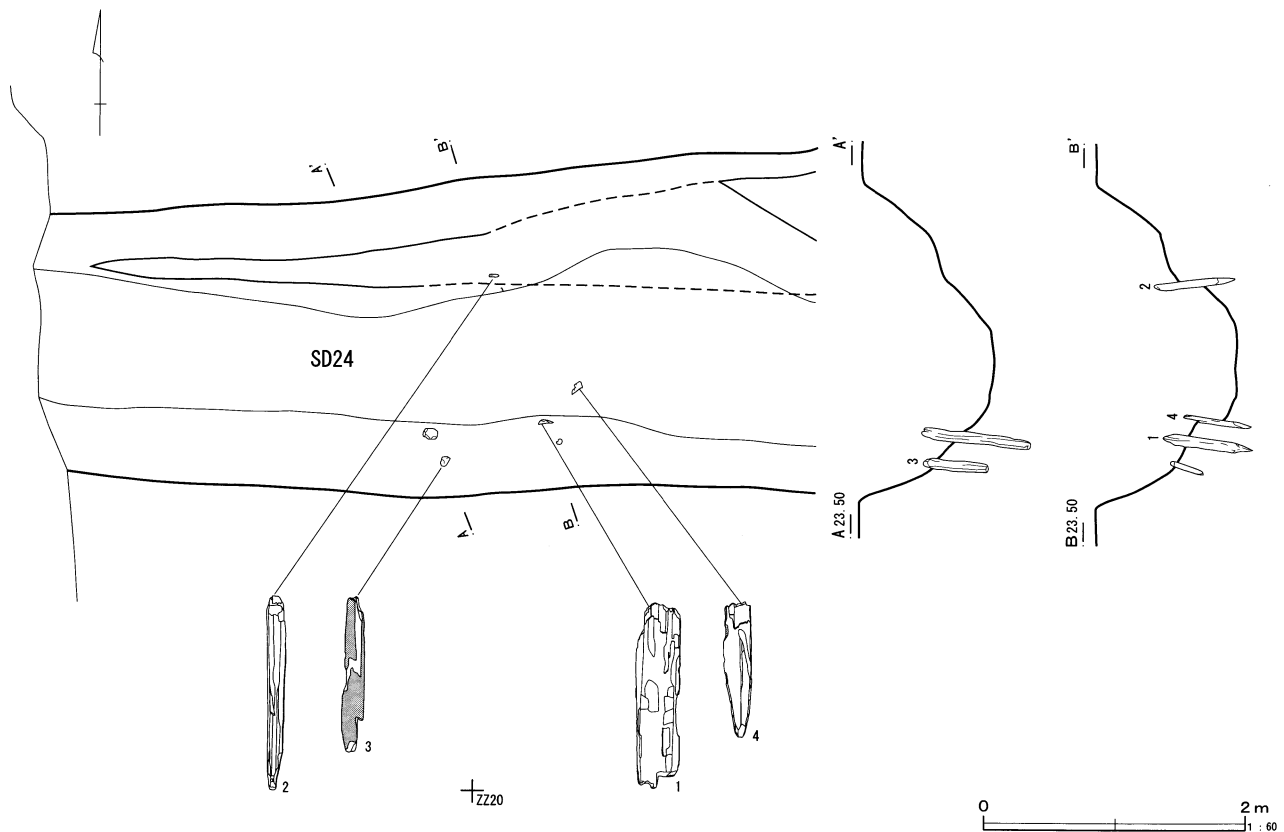
掘削幅2.52m、深さ1.04mである。

Z Y24グリッドから支線用水路の第26号溝跡、Z Y25グリッドから支線用水路の第19・22号溝跡を引水する。また支線用水路の第6号溝跡が、Z Y19グリッドの西側の調査区から引水すると把握されている。

出土土器は、混入と考えられる5世紀第Ⅲ四半期の土師器の坏を除いて、他は8世紀第Ⅳ四半期の土師器、須恵器の坏であった。

木製品は、杭と建築材で、いずれも溝跡の中段で深く打ち込まれた状態で検出された。護岸用の杭列であった可能性が高い。





第 115 図 第24号溝跡遺物出土状況

出土木製品を第116図に示した。

1は建築材である。ZY20グリッドにおいて出土した。残存長は57.8cm、幅は13.8cmである。割り材を薄い板状に作ったものである。表面の一部を削って調整する以外に加工の痕跡は見られない。上端部、下端部を欠損する。

2は杭である。ZY19グリッドにおいて出土した。残存長は60.0cm、幅は5.2cmで、杭先は長さ12.0cmである。割り材を削り出したもので、断面形は長方形を呈する。材端部を斜めに削り落として五面に作り、杭先とする。上端部が欠損している。杭先端部以外に加工は施されないが、全面とも平坦に作られ

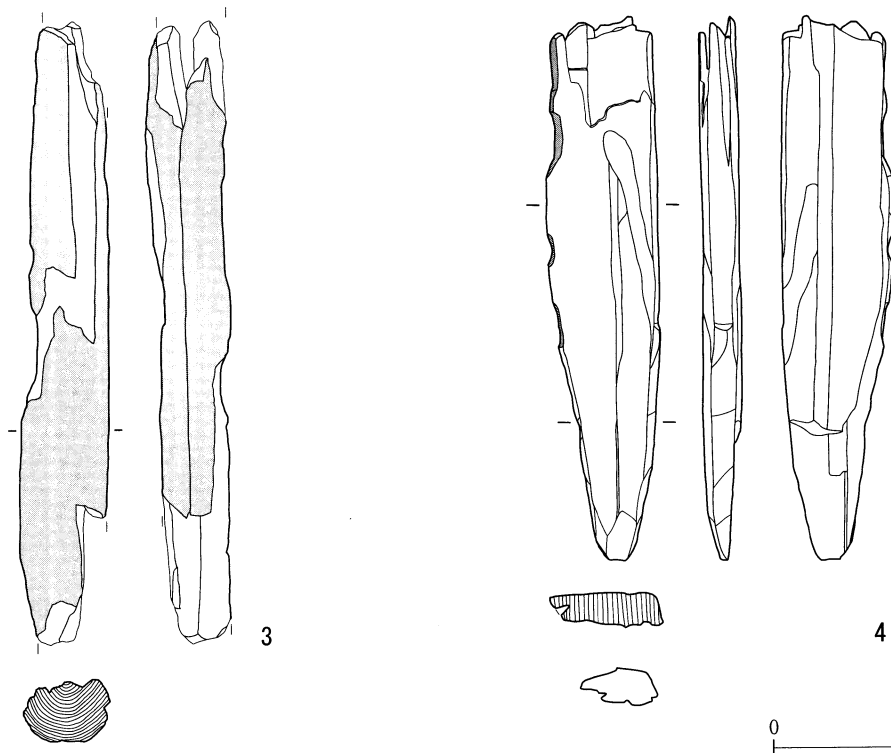
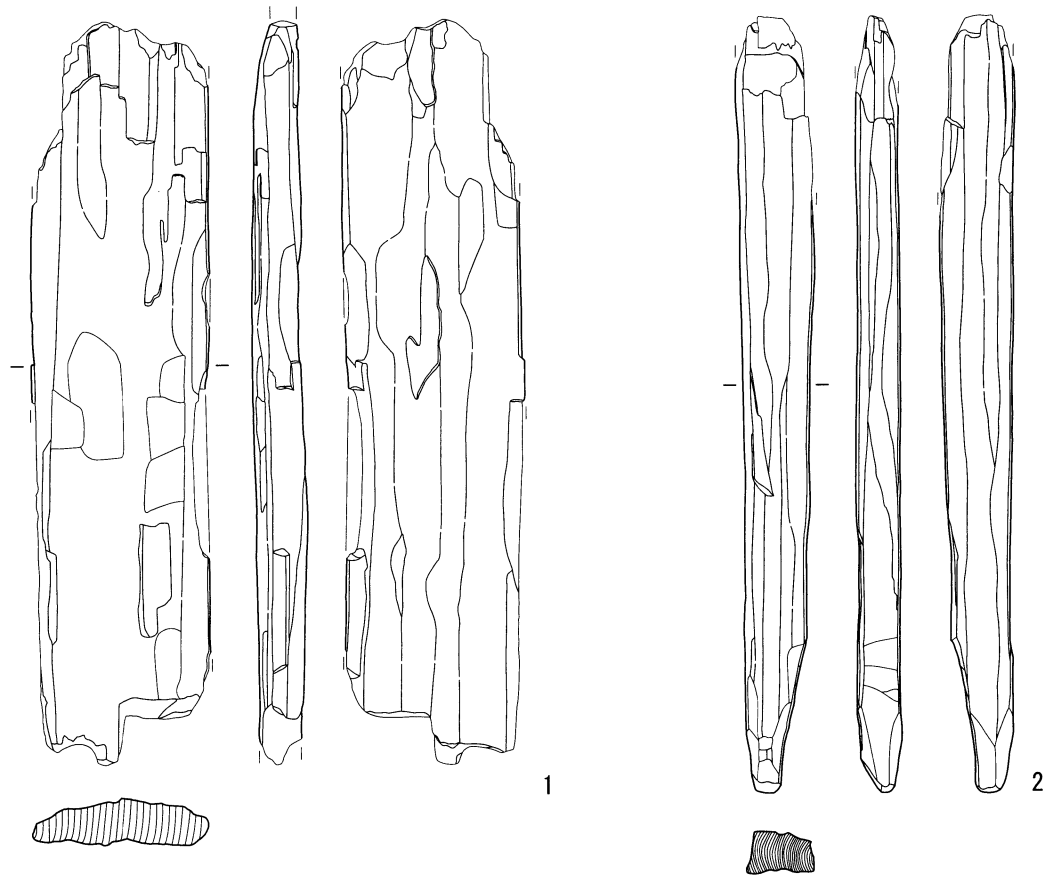
る。

3は杭である。ZY19グリッドにおいて出土した。上端・下端を欠損し、残存長は48.2cm、幅は6.8cmである。木材を半截して作ったもので、樹皮が残存する。明確な先端部はない。

4は杭である。ZY20グリッドにおいて出土した。全長は42.0cm、幅は8.7cmで、杭先端は長さ16.3cmである。割り材を削って板状に作ったもので、断面形は長方形を呈する。材の正面・側面の先端部を斜めに削り落として三面に作り、杭先とする。側面の一部に被熱の痕跡が見られる。先端部以外に加工の痕跡は見られない。

第 19 表 第24号溝跡出土遺物観察表

挿図番号	番号	器種	部位	グリッド	全長	幅	厚さ	被熱	残存率	図版
116	1	建築材		ZY20	(57.8)	13.8	3.6	-	-	-
116	2	杭		ZY19	(60.0)	5.2	3.4	-	-	83
116	3	杭		ZY19	(48.2)	6.8	4.8	-	-	-
116	4	杭		ZY20	42.0	8.7	2.8	○	100	83



0 20cm  
1:6

第 116 图 第24号沟迹出土遗物

# V 結語

## 1. 北島遺跡における木製品の様相

北島遺跡は、縄文時代から近世まで続く複合遺跡である。これまで22地点に及ぶ発掘調査の結果、本報告を含めて、弥生時代中期から近世までの木製品1453点が報告されている。各時期の木製品の内容は、以下の通りである。

弥生時代の木製品は、第19地点の水路に対して設けた堰跡の部材が多く、287点である。他には、工具（斧）2点、武器（弓）1点、容器4点、形代1点などが出土している。

古墳時代の木製品は、農具（鋤・鋤・横槌・堅杵・田舟）42点、工具（斧・楔）3点、建築材（柱材・垂木・梯子）46点、武器（弓）4点、錯1点、容器（槽・桶）9点、紡織具(?) 3点、形代（剣形）1点、杭44点などが出土している。

古代の木製品には、井戸の構築に使用された井戸杵が145点と多い。この他に、容器（曲物・柄杓・槽・高台椀）23点、建築材（蹴放し・柱材）20点、農具（鎌）1点、杭1点などが出土している。

中世の木製品には、井戸杵14点、容器（曲物・柄杓・椀・皿）33点、農具（横槌）1点、杭1点、などが出土している。

近世の木製品は、火桶の構築材が多く159点、その他には容器（桶・樽・柄杓・曲物・椀）33点、服飾品（下駄）3点、建築材（柱材）4点、護摩札1点などが出土している。

このように、弥生時代から近世にわたって木製品が使用されてきた様子が明らかになってきた。また、古墳時代には農具が多く、古代以降には容器が多いなど、器種の比率に増減がみられる。

埼玉県内では北島遺跡以外にも、熊谷市東沢遺跡・諏訪木遺跡、児玉郡児玉町壺町田遺跡、児玉郡美里町向居遺跡、児玉郡岡部町岡部条里遺跡・滝下遺跡、深谷市城北遺跡・深谷町遺跡、大里郡大里町下田町遺跡、行田市小敷田遺跡・池守遺跡・築道下遺跡、

坂戸市中耕遺跡・金井遺跡、さいたま市須黒神社遺跡、戸田市鍛冶谷・新田口遺跡などからの木製品の出土が知られている。これら多くの遺跡は、北島遺跡と同様に低地部の自然堤防に立地する。遺跡からは、農具（鋤・鋤・馬鋤・横槌・堅杵・大足・田下駄）、建築材（梯子）などが発見されている。

### 県内遺跡での木製品の出土状況

東沢遺跡は、古墳時代前期から古墳時代中期にわたり、北島遺跡の東端に隣接している。古墳時代前期の小川跡から鋤・横槌・容器・杭などが出土している。

諏訪木遺跡は、縄文時代から近世にわたる遺跡である、河川跡から鋤・大足・鐙などが出土している。

小敷田遺跡は、弥生時代中期から古代にわたる遺跡で、弥生時代の拠点集落である。掘立柱建物跡からは鋤・横槌・大足・えぶり・弓・容器・柱材、古墳時代後期の土壌からは鋤・堅杵・横槌・大足・田下駄・鎌・下駄、奈良・平安時代の土壌からは堅杵・横槌・田下駄・大足・木錘・曲物・弓・櫛・木簡、河川跡からは鋤・鋤・えぶり・堅杵・横杵・横槌・田下駄・斧柄・弓・下駄・梯子などが出土している。

池守遺跡は、古墳時代の遺跡である、沼地から鋤・膝柄・横槌・下駄・鐙、溝跡から大足・下駄・鐙・槽などが出土している。

築道下遺跡は、古墳時代後期から中世にわたる大規模な集落遺跡である、古代の井戸跡から曲物、古代から中世の井戸跡から横槌などが出土している。

下田町遺跡は、弥生時代中期から中世にわたる遺跡である、掘立柱建物跡では柱材、井戸跡から井戸杵・曲物・槽・椀・鞍・杭、溝跡からは、鋤・馬鋤・堅杵・横槌・紡錘車・槽・曲物・案・柱材・杭などが出土している。

鍛冶谷・新田口遺跡は、弥生時代後期から古墳時代前期にわたる遺跡である、古墳時代前期の溝跡からは鍬・斧柄・梯子、平安時代の井戸跡からは井戸杵、中世の井戸跡からは曲物などが出土している。

滝下遺跡は、古墳時代から奈良時代にわたる遺跡である、河川跡から弓・柱材・桁（梁）材・壁板材・垂木・斧・竪杵・横槌・膝柄・曲物・箱・蓋・陽物・斎串・立体人形・火鑽板・杭などが出土している。金井遺跡は、古墳時代から江戸時代にわたる遺跡である。中世の井戸跡から杵材・横槌などが出土している。

向居遺跡は、古墳時代前期から古墳時代後期にわたる遺跡である、古墳時代前期から後期の溝跡から鋤・杵などが出土している。

須黒神社遺跡は、縄文時代から古墳時代・近世の遺跡である、弥生時代後期末の土壇から梯子などが出土している。梯子は下端を突き刺した状態で出土した。

岡部条里遺跡は、古墳時代、中世から近世にわたる遺跡である、大溝で竪杵・曲物などが出土している。

壱町田遺跡は、中世の遺跡である、中世前半の井戸跡で横槌が出土している。

城北遺跡は、古墳時代後期、平安時代の遺跡である、河川跡で鍬・鋤・容器などが出土している。

深谷町遺跡は、縄文時代中期・古墳時代中期の遺跡である、古墳時代中期の溝跡から鋤の身・柄などが出土している。

中耕遺跡は、縄文時代、古墳時代前期の遺跡である、方形周溝墓から鋤などが出土している。

これらの出土品の中で、農具の変遷過程の把握を試みる。対象とする農具は、鍬・鋤・馬鍬・竪杵・横槌・田下駄・大足である。また、北島遺跡では梯子が数多く出土したため梯子も取り扱った。

## 県内遺跡における木製品の変遷

### ・鍬

鍬は、「直柄の鍬」と「曲柄の鍬」に分類される。

直柄鍬は身の孔に柄を差込んで固定し、曲柄鍬は膝柄と身の軸部を固定して使用するものである。

#### (ア) 直柄鍬（第117図）

直柄の鍬には、広鍬・狭鍬・小型鍬・柄穴・横鍬・柄穴諸手鍬がある。

広鍬は、大きく七類に分類されている（註1）。

北島遺跡出土の鍬（1・2）は広鍬Ⅳ類である。いずれも着柄隆起が作られ、明瞭な段を持つA型隆起である。A型隆起の中でも、刃部と頭部を分ける帯状の隆起が作られるのが特徴的で、「逆T状隆起」と呼ばれるものである。これらの鍬（1・2）には、泥除け装着用の耳状の突起または頭部の穿孔がある。泥除けを装着した状態での出土ではなかった。

北島遺跡以外では、Ⅵ類（3）、Ⅳ類（4・5）があり、古墳時代前期の製品である。3～5も逆T字状隆起である。

「逆T字状隆起」については、埼玉県北部など一部地域で見られる。なお、刃部と頭部を分ける隆起が帯状ではなく、稜線状の隆起を持つ鍬が東京都や千葉県の遺跡で見られ、1～5の持つ広鍬との関係が考えられる。

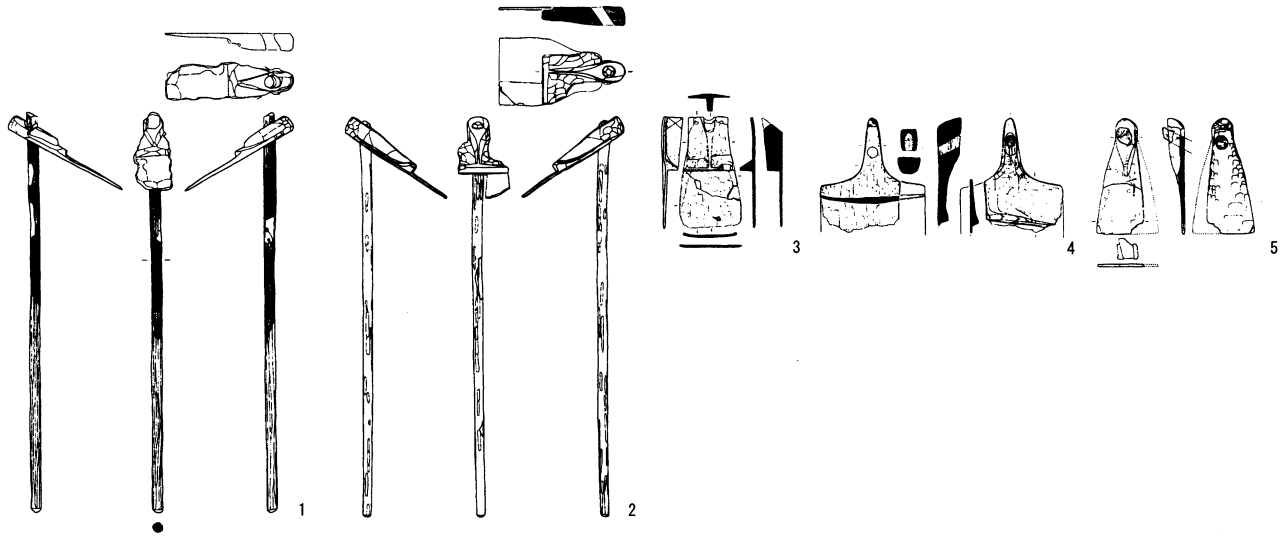
4のバチ形の鍬は、弥生時代後期の東海地方・古墳時代前期の群馬県の遺跡などでも見られる形態である。

狭鍬は、刃幅15cm以下のもので、五種類に分類されている（註2）。北島遺跡から狭鍬の出土はない。小敷田遺跡出土の9は狭鍬ⅡB式で、着柄隆起は明確な隆起を持たないB型隆起である。この狭鍬は弥生時代に多く、古墳時代にはほとんど見られなくなる。

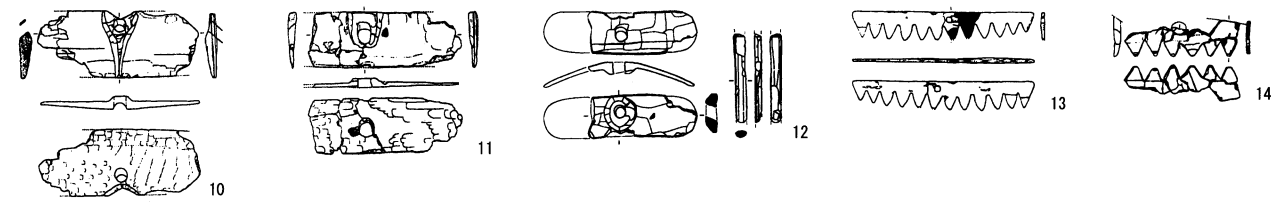
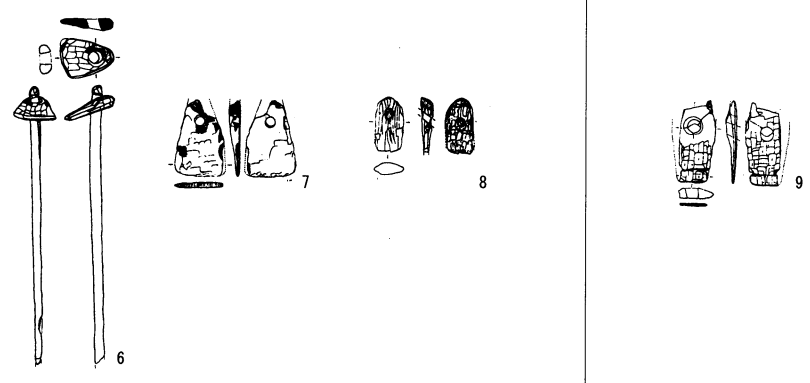
小型鍬については、北島遺跡出土の6は外形が三角形を呈している。小敷田遺跡の7も同様の形態である。いずれも古墳時代前期に属する。

柄孔諸手鍬（12）は、弥生時代の諸手鍬とは異なるものである。北島遺跡から一点出土し、古墳時代中期に属する。これは、古墳時代中期に群馬県・千

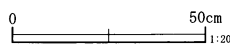
古墳時代前期



古墳時代前期



1. 2. 6. 12 北島遺跡      5. 7. 9. 10. 11. 13. 14 小敷田遺跡  
 3. 4 東沢遺跡      8 鍛冶谷・新田口遺跡



第 117 図 直柄鍬変遷図

葉県・静岡県など一部地域で見られる形態である。

(イ) 曲柄鍬 (第118図・第119図)

曲柄鍬は、軸部の形態によりナスビ型と膝柄の鍬の二種類に分けられ、それぞれが平鍬・二又鍬・三又鍬に分類される。

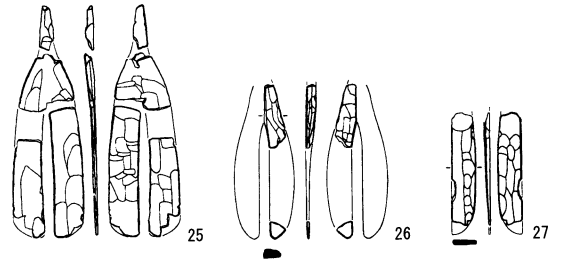
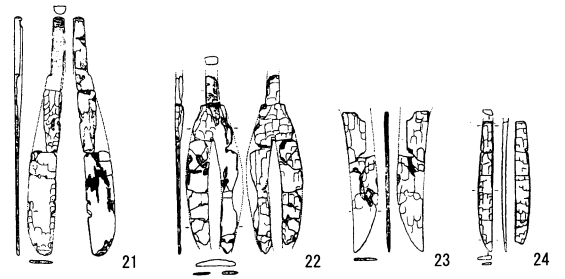
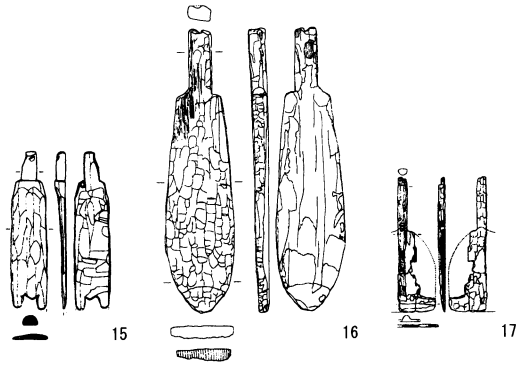
県内遺跡出土の平鍬は、刃部が平行で直線的な形態 (15)、このほか刃部が下膨れの形態 (16)、刃部の中央に隆起のある形態 (17)、ナスビ型鍬の軸部に似た突起を持つ形態 (18~20) の四種類に分類さ

れる。このうち北島遺跡の平鍬は刃部が平行で直線的な形態である。

18・19は、古墳時代後期の鍬の軸部であるが、刃部を欠損し、平鍬であるのか判断しがたい。ナスビ型鍬の軸部に似た 2 cm程の小さな突起が軸部に作られており、この軸は東北地方の古墳時代中期や後期以降の平鍬に見られる形態である。同じものと考えられる。

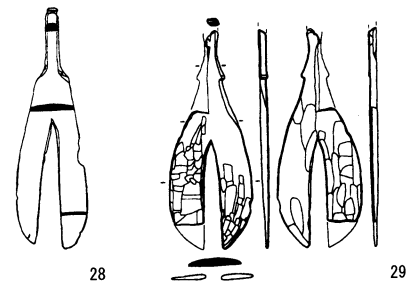
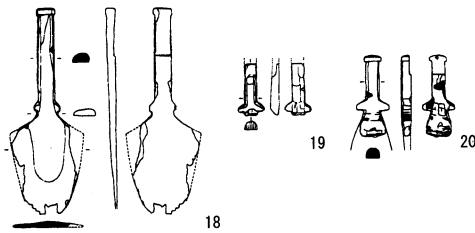
二又鍬は、刃部の外形で二種類に分けられる。刃

古墳時代前期



古墳時代中期

古墳時代後期



15. 25. 26. 27. 29 北島遺跡 18 城北遺跡  
16. 17. 19. 20~24 小敷田遺跡 28 池守遺跡



第 118 図 曲柄変遷図

部幅が一定の形態 (21~28)、最大幅が刃部の中央にある形態 (29) の二種である。

北島遺跡の二又鍬は、25~27・29である。29は古墳時代後期のナスビ型二又鍬である。刃部が半円形で刃幅が広いのが特徴的である。

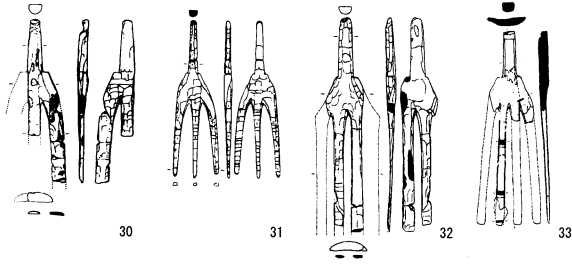
三又鍬・四又鍬はいずれも古墳時代前期に属する。

肩を大きく削り込む (30~33)。このうち30・32は東海系曲柄鍬である (樋上2000)。

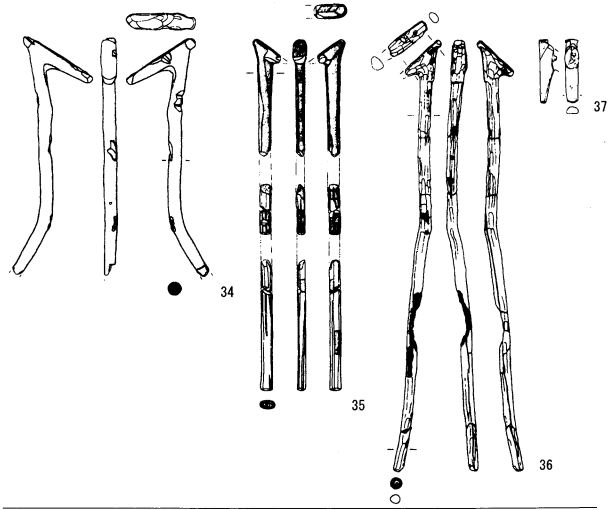
(ウ) 膝柄

膝柄は、曲柄鍬の身を固定するための柄である。北島では古墳時代前期 (34・35) ・後期 (38) のものがある。

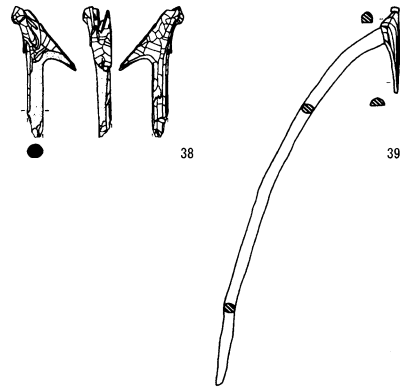
古墳時代前期



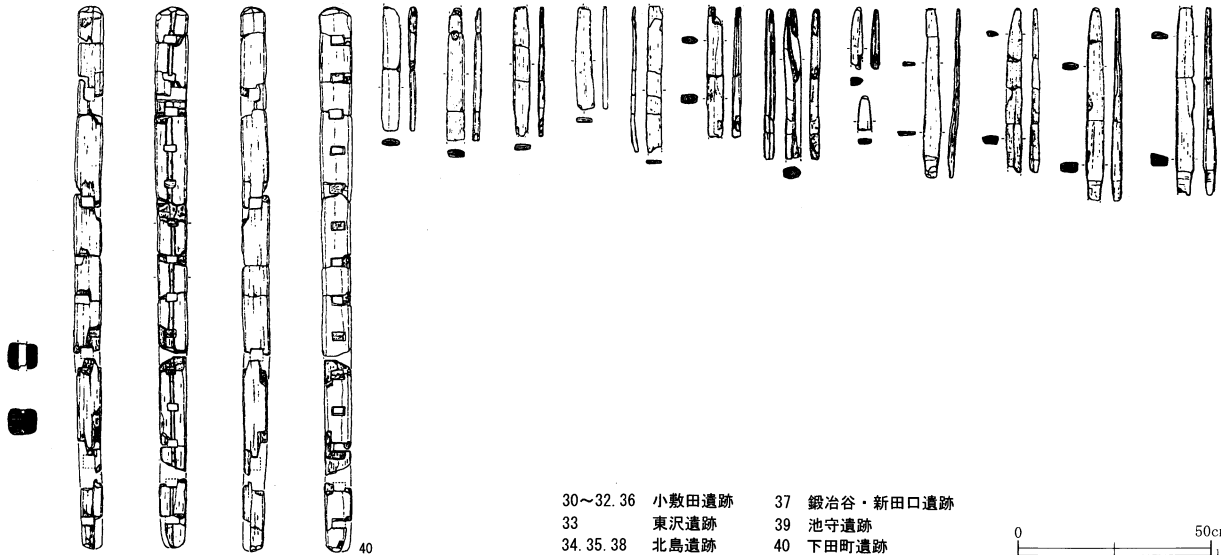
古墳  
中時代



古墳時代後期



古墳時代後期



30~32. 36 小敷田遺跡 37 鍛冶谷・新田口遺跡  
33 東沢遺跡 39 池守遺跡  
34. 35. 38 北島遺跡 40 下田町遺跡

0 50cm 1:20

第 119 図 曲柄・膝柄・馬鍬変遷図

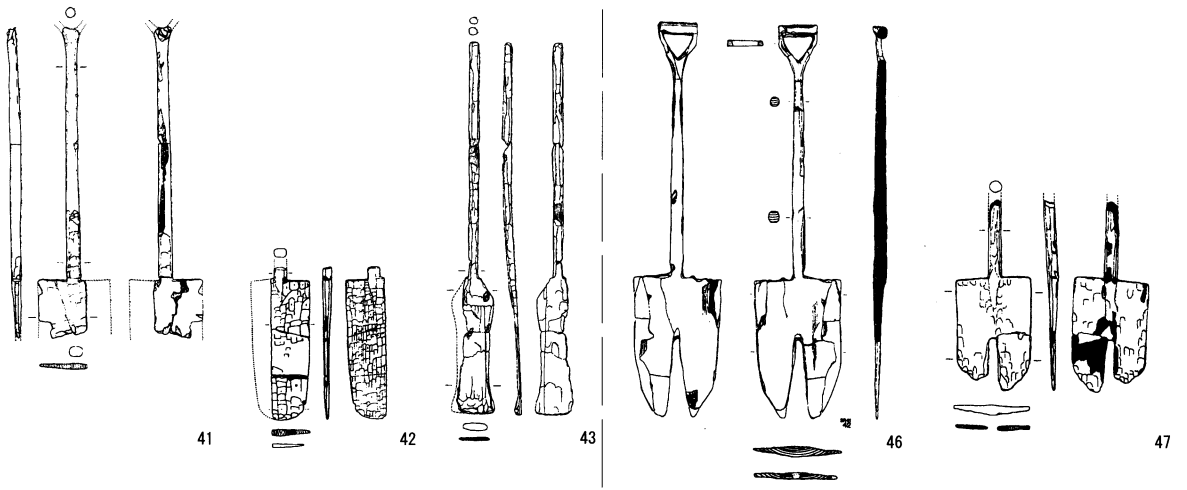
・馬鍬 (第119図)

馬鍬は、4世紀末から5世紀初頭の馬鍬が最も古いとされ、古墳時代後期以降には一般的に使われて

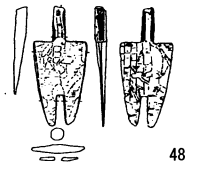
いたとされている。40は、下田町遺跡の7世紀に属する馬鍬である。

・鋤 (第120図)

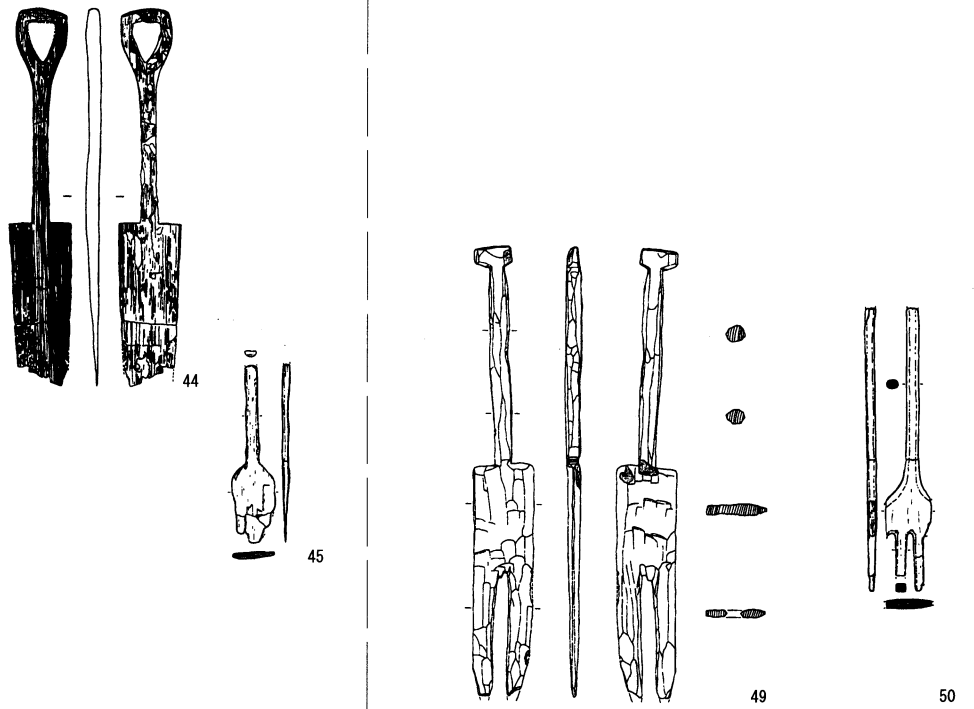
古墳時代前期



古墳時代中期



古墳時代後期

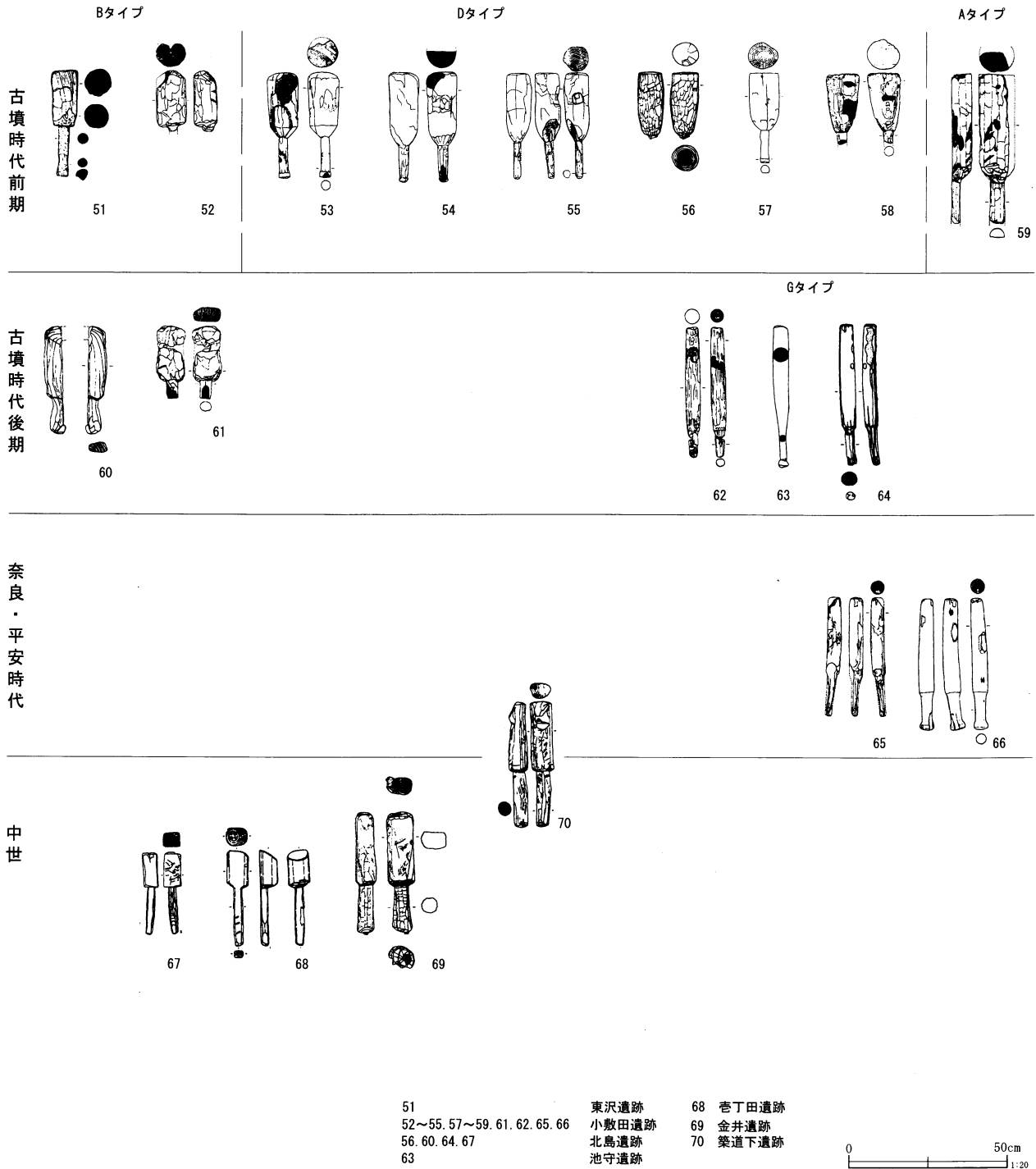


41. 42. 43. 47 小敷田遺跡 46 中耕遺跡  
44 向居遺跡 48 深谷町遺跡  
45. 50 下田町遺跡 49 城北遺跡

0 50cm 1:20

第 120 図 鋤変遷図





第 121 図 横槌変遷図

鋤は一木鋤と組合せの鋤とに大きく分けられる。県内では一木鋤のみ出土している。一木鋤は、身の先端が分かれな平鋤と、先端が二つに分かれた二又鋤に分類される。北島遺跡では、古墳時代前期に鋤の柄のみが出土している。

(ア) 平鋤

県内遺跡出土の平鋤の身の形態は、身幅15cm以上の広い形態 (41・42・44)、身幅10cm前後の狭く細

長い形態 (43・45) の二つに分けられる。

古墳時代後期の鋤 (44) は身が長大化し柄の長さに近くなる。

(イ) 二又鋤 三又鋤

二又鋤・三又鋤は、古墳時代前期から古墳時代後期に属する。身幅が広い形態 (46~48)、幅が狭くて細長い形態 (49・50) の二種に分類できる。

・横槌 (第121図)

横槌の研究は、渡辺誠による分類がその始めであった（渡辺1985）。民俗資料を基にした形態の分類・用途を示し、この分類を基に考古資料を分類し、形態ごとの存続時期を示した。形態はA～Gの7種に分類されている。A～Cは握部と敲打部の境界が直角に近く、D～Gは斜めの傾斜である。Aは太くて短い、Bは細くて長い、Cは極端に細長い、Dは太くて短い、Fは敲打部先端にタガ状隆帯のみられるもの、Gは敲打部と握部の境界が不明瞭なもの、と分類される。

その後は、横槌とされているものの中に工具が含まれている可能性や、断面が方形の横槌や敲打部が磨り減った使用痕がある製品に工具の可能性があると指摘もあった（上原編1993）。

県内では、渡辺氏による分類のA～GタイプのうちA・B・D・Gタイプがある。B・D・Gタイプは、敲打部の断面形・外形の違いによりさらに細かく分類できる。

Bは、敲打部の断面が円形を呈するB-1、敲打部の断面形が長方形を呈するB-2、B-2より握部・敲打部の長いB-3の三種類に分類できる。

Dは、敲打部が釣鐘型である。敲打部の径が一定で握部近くに稜を作るD-1、敲打部の径が一定で握部近くに稜を作らないD-2、敲打部の径が握部に向かうにつれ小さくなるD-3の三種類に分類できる。

Gは、細長い棒状の横槌である。握部と敲打部の境界が明瞭なG-1、境界が不明瞭なG-2の二種類に分類できる。

古墳時代前期にはA・B・Dタイプがみられる。Aタイプの59は全長が50cm以上で、掛矢である。B-1（51・52）、D-1（53・54）、D-2（55～57）、D-3（58）が存在する。

古墳時代中期の資料は確認できなかった。

古墳時代後期には、B・Gタイプがある。Bタイプは古墳時代前期のB-1と異なり、敲打部の断面形が長方形のB-2である（60・61）。Gタイプに

は、G-1（64）・G-2（62・63）がある。

奈良・平安時代にはGタイプがある。G-1である（65・66）。66は、古墳時代後期のG-1と比較すると、敲打部と握部の境界がさらに明瞭になり、握部が太くなっている。

中世には、Bタイプがある。B-2（67・68）・B-3（69）である。敲打部長を比較するとB-2（67）は10.6cm、B-3（69）は23.2cmと大きな差が見られる。70は69と同じ形態である。

北島遺跡では、古墳時代前期にD-2、古墳時代後期にB-2・G-2、中世にB-2がある。

タイプごとに見てみると、Dタイプは古墳時代前期にのみ見られた。Bタイプは古墳時代前期から中世まで見られるが、各時期で形態が大きく変化する。古墳時代前期は敲打部が円柱状、後期は断面が長方形、中世では敲打部が長くて断面が方形、敲打部が短くて断面が方形と変化している。Gタイプは古墳時代後期・奈良・平安時代に見られる。

竪杵（第122図）

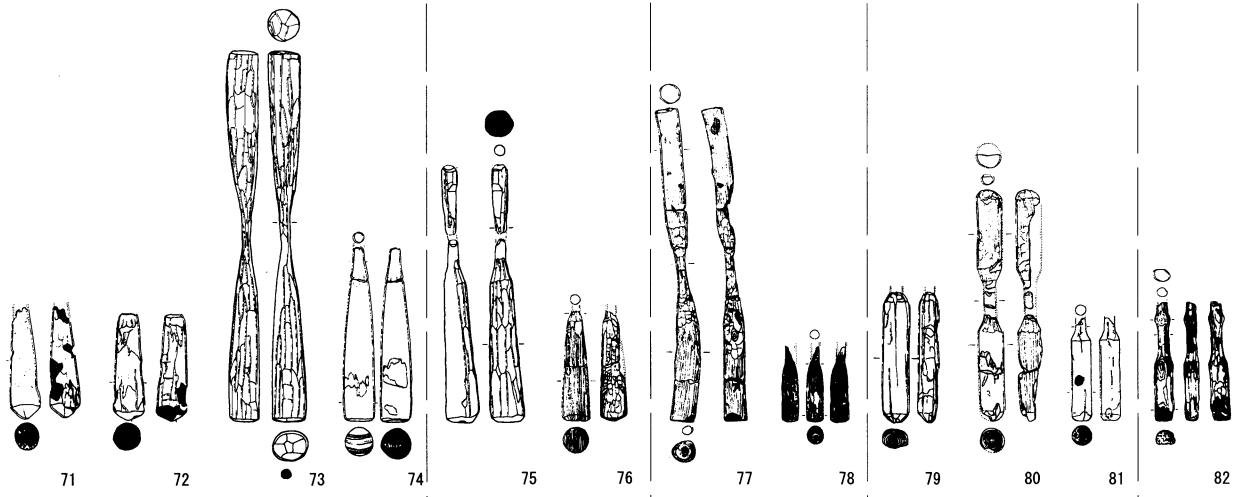
竪杵は、握部の形態・握部と搗部の境界の有無に基づいた分類（合田1988）、握部の形態に基づいた分類（上原編1993）などがある。

いずれの分類でも、握部は算盤玉状の節帯が付くもの、糸巻き状の節帯が付くもの、節帯がないものの三種類に分類されている。

後者の分類を用いると、県内では糸巻き状の節帯の付くA類はなく、算盤玉状の節帯のつくB類、節帯のないC類を確認した。

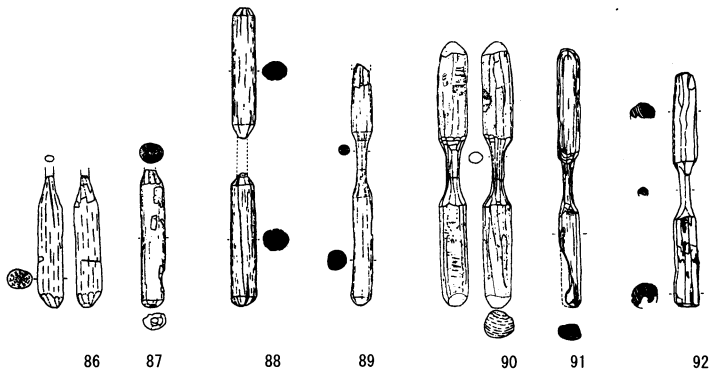
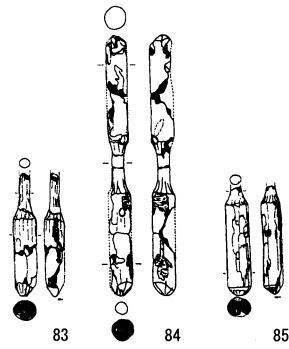
県内の資料のうちC類は、搗部の形態・握部と搗部の境界の有無、という分類項目によりさらに四種類に分類できる。搗部先端に最大径を持ち握部に向かって徐々に径が小さくなり、握部と搗部の境界がないもの（C-1）、搗部先端に最大径を持ち握部に向かって徐々に径が小さくなり、搗部と握部の境界が明瞭なもの（C-2）、搗部径が一定で搗部と握部の境界が不明瞭なもの（C-3）、搗部径が一定で搗部と握部の境界が明瞭なもの（C-4）の四

古墳時代前期

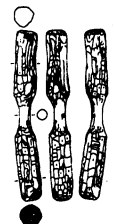
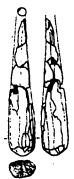


古墳時代中期

古墳時代後期



奈良・平安時代



71.72.74.76~85.93.94 小敷田遺跡  
 73.75.91 北島遺跡  
 86 岡部糸里遺跡  
 87~89 下田町遺跡  
 90 滝下遺跡  
 92 諏訪木遺跡

0 80cm  
 1:24

第122図 豎杵変遷図

種類である。

古墳時代前期には、B類(82)、C-1(73・74)、C-2(75・76)、C-3(77・78)、C-4(79～81)がある。搦部先端は突出が少なく平坦面がある形態が主流だが、突出して尖る形態(71・72・79・80)も存在する。

古墳時代中期の竪杵は確認できなかった。

古墳時代後期は、C-4(83～92)のみであった。このうち搦部先端が尖っている形態が多くを占める。これは古墳時代前期の四形態のうちC-4(79・80)の形態を受けついただと考えられる。

奈良・平安時代には、C-4(94)とC-1もしくはC-2(93)がある。C-1又はC-2の93は他形態の影響なのか先端部が尖っている。また、C-4(94)は全長52.8cmの短い竪杵で、先端部が平坦である。

形態は、A類・B類が古墳時代前期に各一点のみあり、他は全てC類であった。古墳時代前期にB類、C-1～4と5種あったものが、古墳時代後期以降はC-4のうちの搦部先端が尖る形態が主流になる。奈良・平安時代にはC-1もしくはC-2が再び見られるようになる。古墳時代前期で多種存在した形態が、時間を追うにつれてC-4の形態をとる傾向にある。

北島遺跡の竪杵は、古墳時代前期にC-1・C-2、古墳時代後期にC-4であった。

全長は、古墳時代前期では(48.0)～112.8cm、古墳時代後期では(73.2)～(100.8)cm、奈良・平安時代では52.8～(80.0)cmに収まり、全体的に短小である。一部50cm前後の小型の製品(82・94)が存在し、古墳時代前期・奈良・平安時代に見られた。また、B類は一般的に長く作られる、82は約70cmと小型であった。

#### ・大足 田下駄(第122図)

大足と田下駄にはそれぞれに異なる役割がある。しかし、足板と杵木が装着した状態で出土する例は多くなく、足板などの部材から大足か田下駄かを判

断するのは難しい。これまでになされた分類・分析は下記のようなものがある。

大足・田下駄の足板を合わせて大きく四種類に分類したものがある。横長の足板に4孔が穿たれた「ナンバ」、これに輪標をつけた「輪標付きナンバ」、縦長の足板に3孔を穿った「狭義の田下駄」、縦長の足板に3孔を穿ち両端に抉りを入れた「オオアシ」の四種類である(兼康1985)。

大足・田下駄を合わせて、杵の有無・孔数・足板の方向という項目をもとにした分類がある(秋山1993)。

「(1) 湿田で田植えや稲刈りなどの農作業をする時や湿田で芦を刈る時などに、足が沈まないため、あるいは切株などでけがをしないために着用する下駄(民具研究で言う「稲刈り田下駄」)。(2) 田の土をならしたり、緑肥を踏みこんで土と混ぜならす代ふみに用いる下駄(民具研究でいう「シロフミ田下駄」)」を田下駄」とし、二者を合わせた考察をし、緒孔の数・杵木との結合方法を基準とした分類がある(上原1994)。

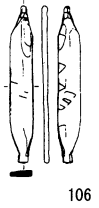
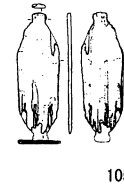
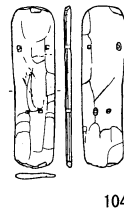
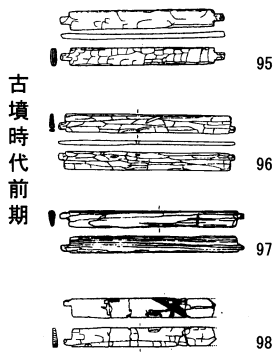
大足と田下駄を合わせた分類が多い中、板状田下駄・輪カンジキ型田下駄・大足というように明確に両者を分けた分類がある(中山1994)。

#### (ア) 大足

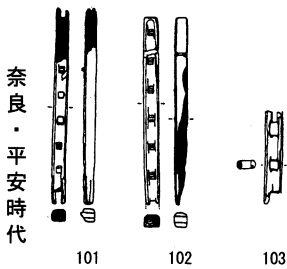
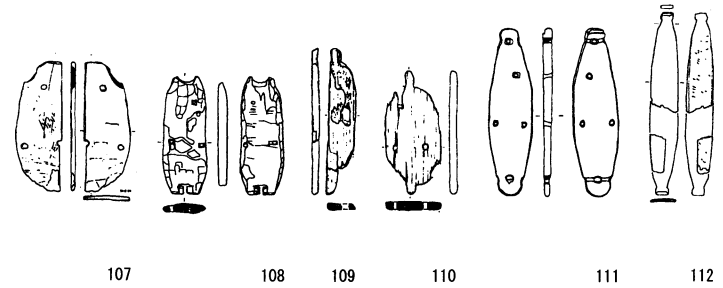
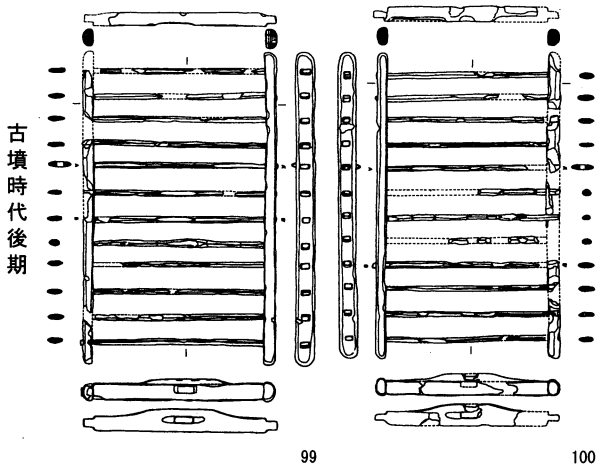
大足については杵木のみ確認し、足板は確認できなかった。北島遺跡からの出土はない。時期は、古墳時代前期・古墳時代後期・奈良・平安時代である。小敷田遺跡で出土した大足の杵木(99・100)は、足板を装着するための柄孔が穿たれている。12本ある横木のうち1本にのみ足板装着用の柄孔が穿たれている。足板がのる三本の横木は削られており、全長30cm前後、約4.5cm幅の出柄のついた足板が使われていたと考えられる。

#### (イ) 田下駄

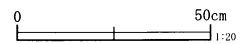
田下駄については足板のみ確認し、杵木は確認できなかった。北島遺跡からの出土はない。時期は古墳時代前期・後期である。



古墳時代中期



95~102, 104~108, 112 小敷田遺跡  
103 諏訪木遺跡  
109, 110 下田町遺跡  
111 池上遺跡



第 123 図 大足・田下駄変遷図

足板の分類方法は、まず杵木の有無で分けられる。杵木の付くもの (105~112) は、足板と杵木の装着方法 (釘・紐・柄結合) によって分類されるが、杵の装着法はいずれも紐結合であった。

外形は四種類に分けられる。端部にくびれがあり細長い形態 (106・111・112)、端部にくびれがあり短くて幅のある形態 (105・109・110)、くびれがな

い楕円形 (107・108)、長方形の板状でくびれがない形態 (104) の四種類である。

孔の間隔に一定の傾向は見られず、三孔式の間隔は横方向で7.8~9.2cm、縦方向で10~15.2cmであった。四孔式は、前壺の間隔が9.6cm、後壺の間隔が6.4cmで、縦方向の間隔が15.6cmであった。

・梯子 (第124図)

梯子は、大きく一木梯子と組梯子の二種に分けられる。県内遺跡では一木の梯子のみを確認した。

時期は、弥生時代後期末、古墳時代前期、奈良・平安時代であり、ほとんどが古墳時代前期に属する。時期による変遷・形態変化を考えることは不可能で、分類を試みる。

外形は段の形状と木取りによって分類できる。段の形状は、大きく四種類に分類できる。足掛け幅が広く下部が急傾斜（114～118・131）、足掛けの幅が狭く下部が急傾斜（113・119～122・132）、足掛けの幅が広く下部が緩傾斜（123～125）、足掛けの幅が狭く下部が緩傾斜（126～130）の四種類である。

木取りは全部で四種類に分類できる。丸木使用で断面が円形のもの（114・115・119・123・126～128）、芯を通る半截材で断面が半円形のもの（120・121）、芯を通る材で断面長方形のもの（116・124・125・129・130）、芯を通らない材（117・118・122）の四種類である。

その他の特徴をみてみると、全長については、79.2cmから165.6cmまでである。特定の数値に集中することはない。全長は使用する場所や用途に合わせて決定したものと考えられる。

幅については、三つの纏まりが見られた。9.6～11.5cm、13.2～15.6cm、17.28～20.4cmである。

上端の形状は、凸状のもの、丸く収めるもの、平坦なもの三種類があった。平坦な形態の中には、背面の上端を斜めに削り落とすものもある。他の部材との組み方により、上端の形態が変わると考えられる。

下端の形状は、丸く収めるもの、平坦なもの、凹状に抉りを入れたものの三種類がある。このほか、正面・背面を斜めに削り落とす、最下段のみを厚く丸太状に作っているものなどがある。梯子下端部の固定法により形態が変わると考えられる。

段間の長さは25.2～40.8cmとばらつきがあるが、段間の長さの取り方には一つの傾向が見られた。最上段・最下段以外の段間は同じ長さに作られ、最上

段がそれより短く、最下段がそれより長く作られるという傾向である。この傾向は、全長の差や段数に関係なく見られる。また、116のように最下段が短く作られるという逆のパターンも見られた。いずれにしる最上段・最下段以外の段間は、同じ長さに作られることが多い。

今回は梯子の形態のみを考察したが、用途や遺構との関係もあわせて分析することが必要だと考えられる。

#### 北島遺跡の木製品

ここまで県内における農具・梯子の様相を概観してきた。これらは古墳時代前期から中世に属する製品である。北島遺跡の製品は古墳時代前期・古墳時代後期・中世に見られ、ほとんどの製品が古墳時代前期に属する。なお、古代・中世以降は容器が組成の中心となっている。

北島遺跡の農具は古墳時代前期に集中していることもあり、同遺跡内での連続性・時期による変化などはみられない。また、他遺跡の製品に影響を与えている様子などはほとんど見られなかった。

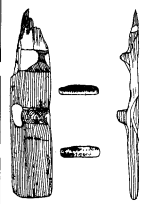
県内遺跡についても同様であるが、横槌・竪杵など一部では例外もある。古墳時代後期の池守遺跡（63）・北島遺跡（64）の横槌が奈良・平安時代の小敷田遺跡（65・66）に続いたと考えられ、古墳時代前期の小敷田遺跡（79・80）の竪杵の形態が古墳時代後期以降の形態の中心となっていくことなどである。

では、同時期における北島遺跡と他遺跡の製品の関係はどのようになっているのだろうか。

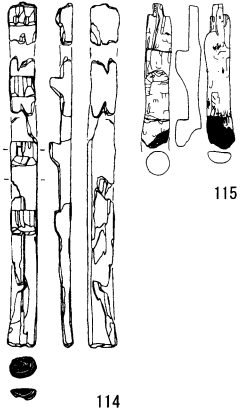
まず鍬についてだが、埼玉県内では北陸地方の特徴を持った鍬はなく、東海地方や南関東の鍬の特徴を持ったものが多いようである。その中でも、県内の広鍬・平鍬・二又鍬には遺跡ごとの特徴がある。出土点数が多くないことにも関係しているのだろうが、遺跡間で異なる種類の鍬を用いている。

ただし広鍬（1～5）は、着柄隆起が逆T字状隆起であるという共通の特徴を持つ。また、加工法に

弥生時代後期



113

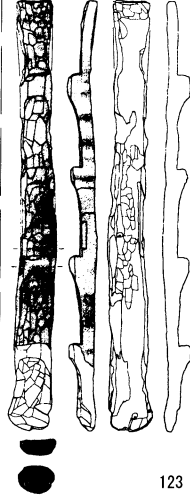


114

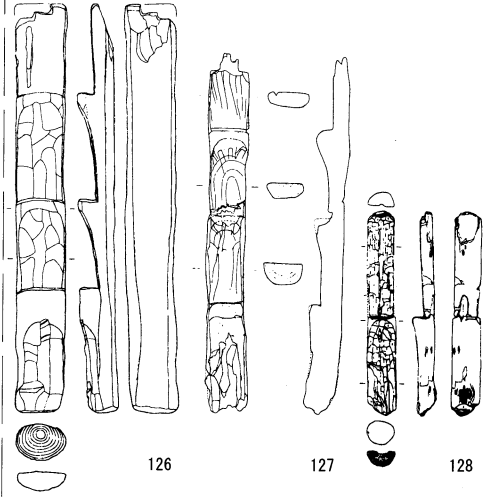
115



119



123

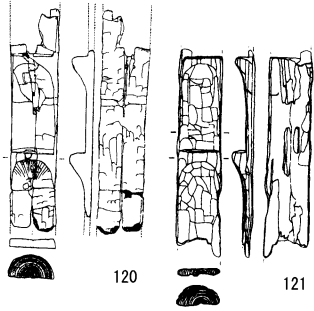


126

127

128

古墳時代前期

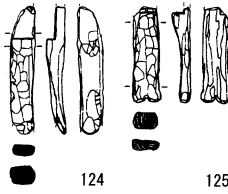


120

121

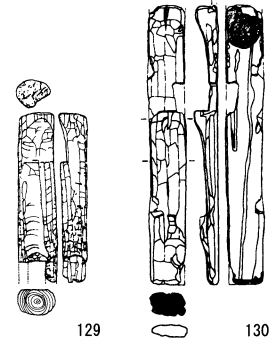


116



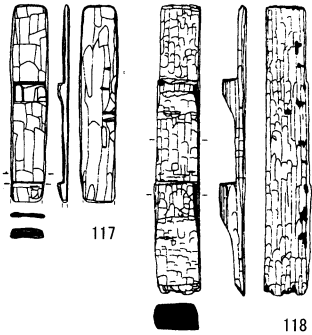
124

125



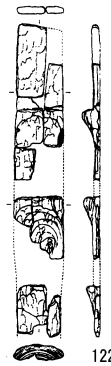
129

130



117

118

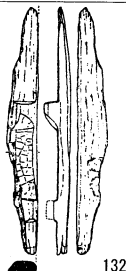


122

古墳時代後期



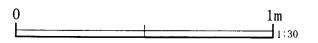
131



132

113  
 114. 117. 121. 123. 124. 125. 126. 130  
 115. 116. 118. 119. 120. 122. 128. 129. 131  
 127  
 132

黒須神社遺跡  
 北島遺跡  
 小敷田遺跡  
 鍛冶谷・新田口遺跡  
 下田町遺跡



第 124 図 梯子変遷図

注目すると、北島遺跡の平鍬（15）と小敷田遺跡の二又鍬（22）は、器種は異なるが、軸形態・後面の削り・肩部の切落としという加工法における共通点を見出すことはできる。異なる器種の間でも、隆起の形態・加工法など、共通の要素を見出すことができる。

ナスビ型鍬については、古墳時代後期に小敷田遺跡（19・20）が、東北地方にも見られる軸形態であるのに対し、北島遺跡ではそのような鍬は見られない。

一般的に、鍬は同じ遺跡内でも多種多様の展開を見せるものである。そう考えれば、北島遺跡・小敷田遺跡が選択した鍬の中で、着柄隆起・加工法などの共通する要素があるというのは、鍬を構成する要素・特徴に関しては、共通する認識を持っていたと

註

（1）広鍬は、黒崎1985、山田1986、などの分類がなされているが、本稿では上原1993の分類を用いた。

（2）刃幅15cm以下（黒崎1985）、刃幅15cm以下10～13cm前後（上原編1994）のものが狭鍬とされる。

考えられる。古墳時代後期のナスビ型鍬については、各遺跡が異なる外的要素を受け入れたのであろう。

対して横槌・堅杵は特徴が出にくいもので、時期差による形態の違いは見られるものの、各遺跡独自の特徴はみられなかった。

北島遺跡と小敷田遺跡とを比較すると、組成が異なることや、鍬の中でも各々異なる形態を用いるなどの差異が見られる。その一方、鍬における加工法や細部の特徴や、堅杵・横槌の一部に同じ形態を用いるなど共通する部分もあり、両遺跡の繋がりがうかがわれる。

農具・梯子の様相を概観してきたが、鉄器との関係や農具の画期、各器種における交流など論ずるべき点は数多く、これらを考察し農具を始めとする木製品の様相を明らかにしていきたい。



## 2. 古墳時代前期の出土土器について

北島遺跡から出土した古墳時代の土器は、前期、後期終末のものである。このうち後者については、既に『北島遺跡VI』（田中2002）で検討が行われている。ここでは、前期の土器群（『北島遺跡X』掲載資料）について若干の検討を行うことにした。資料数が多く、全体を十分に検討することができなかつたため概観にとどまらざるをえなかつたことを予め断っておきたい。

古墳時代前期の開始をいつに置くかは議論の分かれるところであるが、北島遺跡の土器群はそういった意味では誰が見ても古墳時代の土器、古式土器と認めるものである。この問題については、五領式土器の評価そのものと、全国的な物流の改変を前提とした共通する変化の方向性の評価の双方が重要と考えるが、それについては稿を改めて論ずるべきだろう。

調査においては、相当数の住居跡が切りあい関係にあり、本来その層位的関係を土器群の前後関係の前提にするべきなのであろうが、時間的制約もあり十分に咀嚼できなかつた。また、出土量全体では包含層や溝跡から出土するものが住居跡出土のものよりも多く、型式論的な検討にとどまらざるを得ない側面もある。各段階は、型式論的なまとまりと変化の連続性に基づいて設定したものである。

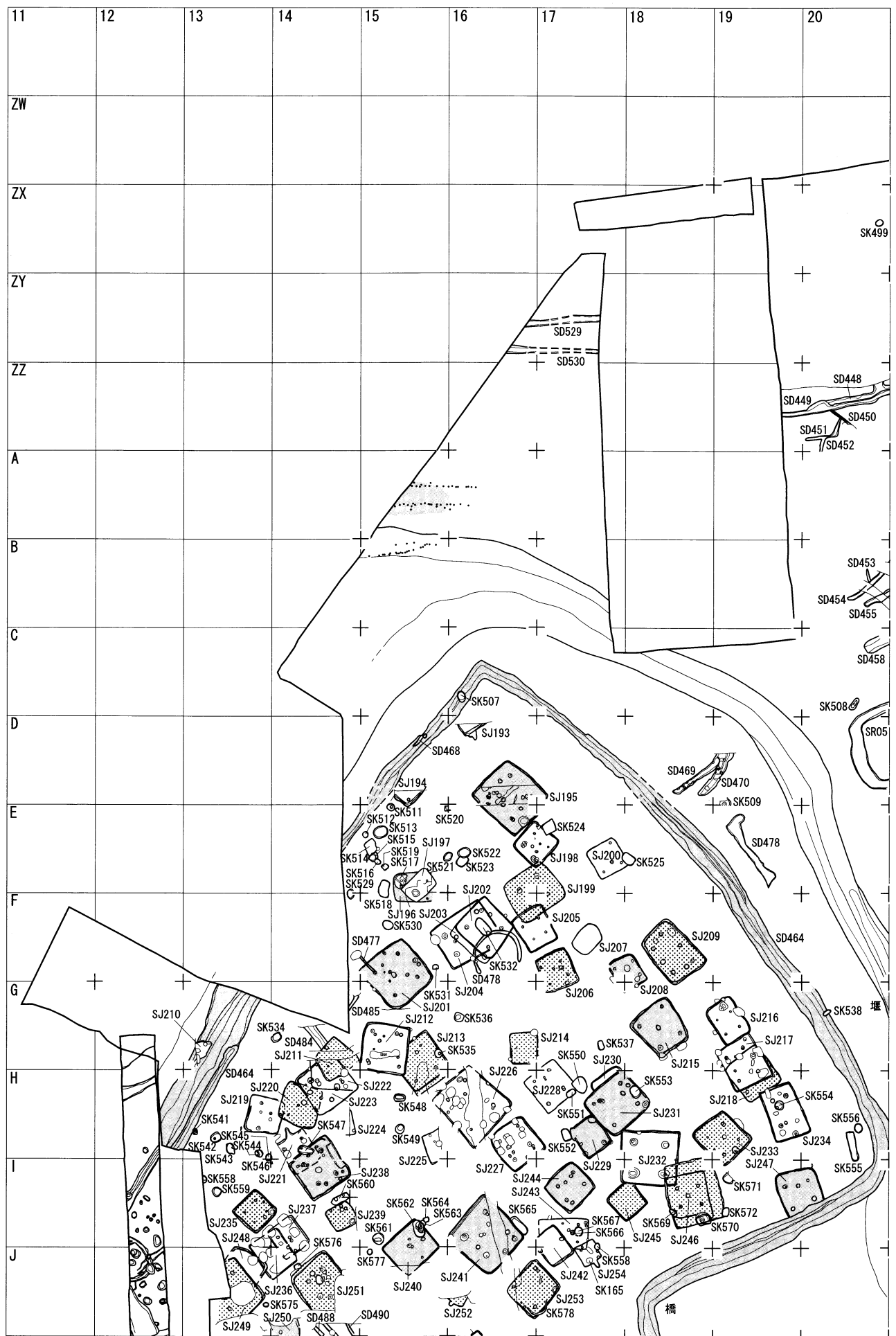
古墳時代前期の土器群は、およそ3段階に分けた。第1段階と第2段階双方の特徴を併せ持つものも多く、ここにもう一段階設けることも可能かとも思われたが、逆に集落の継続性と土器群の動態を如実に示すものとして、ここではあえて細分せずにとどめおくことにした。また、第1段階を遡る可能性を持つものもあるが、資料的に安定したものではないため第1段階に含めた。

第1段階の資料は、第195・196・201・208・215・229・231・238・240・241・244・247・250・259・261・270・276・279・288・308・310・318・327・331・332・339・341号住居跡、第1・2・4・6～

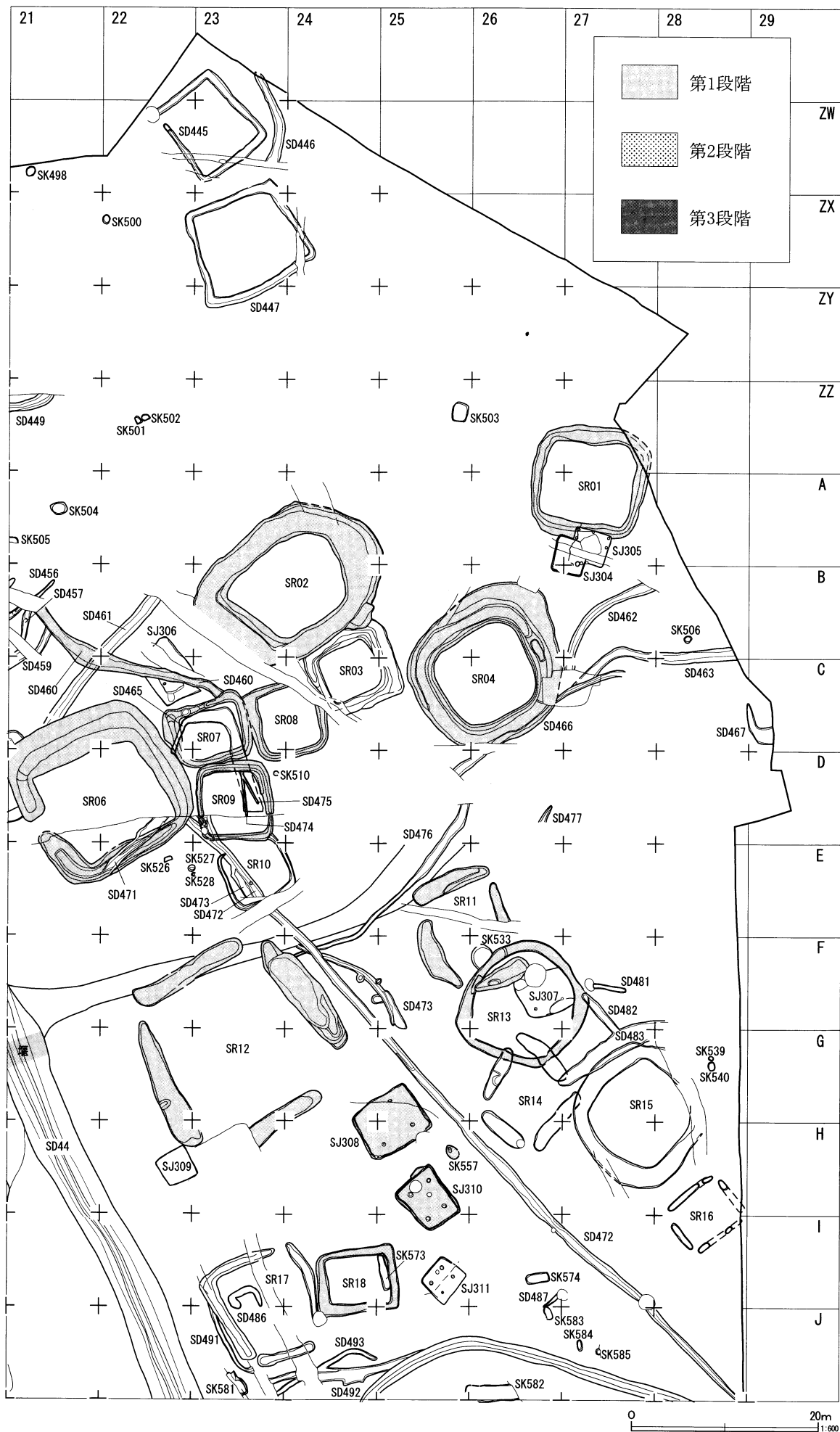
9・11・12・13・18・20・21・25・26号周溝墓、第423・460・464号溝跡、第510・557・701号土壇出土資料が該当する。球形胴の壺、甕を特徴とする段階である。口縁部と胴部の接合はきれいな「く」の字となり、弥生時代後期から部分的に取り入れられてきた組み合わせ成形手法の一つの到達点とも言える土器群である。縄文施文の壺や、吉ヶ谷式の流れを汲むものなどを更に遡らせることもできるが、共存する土器群からこの段階に含めた。甕は台付甕が大部分だが、一部に平底の甕が含まれる。口縁部は素口縁のものが大部分だが、一部線状の刻み目が施される。台付甕の脚台部は小型のものが多く、むしろバランスの良い大きさのものは少ないという特徴がある。高坏はこの段階には定着している東海地方西部に祖をもつ「元屋敷系」高坏と呼ばれるもので、第2段階に比して坏部が深く、脚部が「八」の字状に開くものである。裾部は連続するカーブを描き外側に屈曲しない。小型高坏も多くがこの段階のものである。器台は北陸系の大型のものと所謂小型器台がある。また、「柳ヶ壺」をはじめとする外来系土器群が多いのも特徴である。

第2段階は、第199・206・209・211・214・218・220・223・233・235・239・245・246・249・251・252・253・267・268・269・273・278・285・286・292・293・295・298・299・316・319・320・322・323・330・335号住居跡、第530号溝跡出土資料が該当する。前段階に続く球形の胴部を持つ壺、やや長胴化した球形胴の台付甕が特徴的である。前段階に比して、胴部と頸部、口縁部のバランスが崩れてくる。台付甕は口縁部の刻み目がほぼなくなり、胴部外面の刷毛目は縦方向のもののみになる。脚台部は小型のものが出てくる。高坏は坏部に大小のバリエーションがあり、脚部が一部柱状になるものがある。古宮遺跡の第I期の土器群（福田2004）と基本的に同様である。

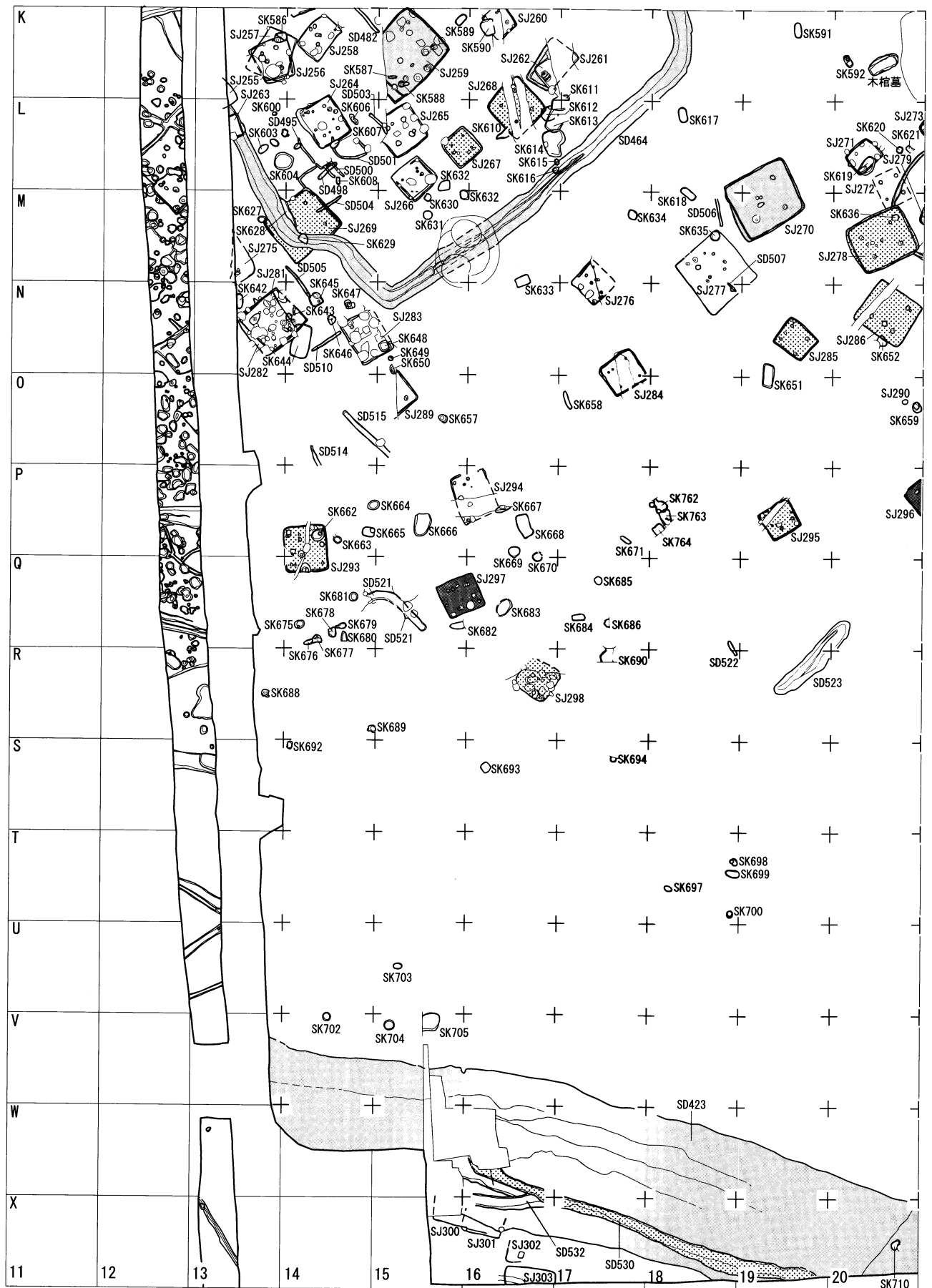
第3段階は、第296・297・314・336・337・340号



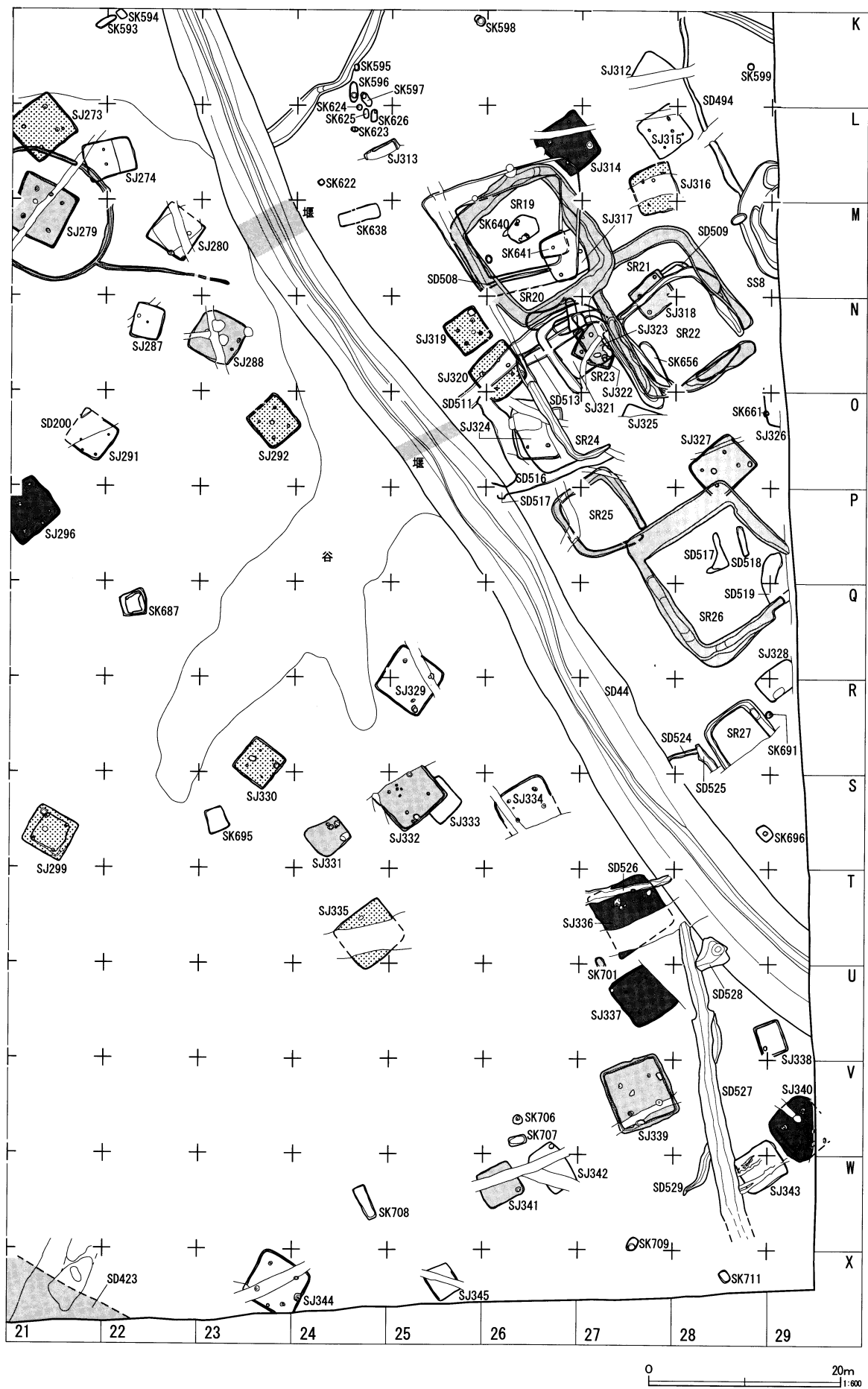
第 125 図 北島遺跡第19地点変遷図 (1)



第 126 図 北島遺跡第19地点変遷図 (2)



第 127 図 北島遺跡第19地点変遷図 (3)



第 128 図 北島遺跡第19地点変遷図 (4)

住居跡出土資料が該当する。前段階に比して、壺は長胴化して頸部のしまりが緩くなり、台付甕も同様に長胴化して口縁部が相対的に短く、脚台部が小型化する。高坏は坏部が小さいもののみとなり、脚部が柱状のものと大きく開くものがある。後者は端部が更に外側に屈曲する。器台は、器高の高い小型器台で、裾部端部が更に外側に広がる。

また、他時期の住居跡混入資料やグリッド出土資料は、第1段階に該当するものが大部分で、一部第2段階のものを含んでいる。

出土資料が部分的で各段階に置くことが困難なものとしては、第217・227・232・258・265・274・284・287・291・307・324・338・343号住居跡出土資料がある。

以下、各時期の資料について資料としてまとまりがある代表的なものを取り上げ、具体的にみていきたいが、資料数が多いこともあり、第2段階以降は古宮遺跡の検討とも重なるため、ここでは第1段階の資料について扱うこととする。

第1段階の土器としては、第240・244・247・250・270・279号住居跡、第1・2・6・7・9・11・21号周溝墓、423・460・464号溝跡出土資料を取り上げる。

第240号住居跡からは、台付甕、甕、高坏、小型器台が出土している（X第131図）。台付甕および甕は、口縁部がやや短く上方に伸びる「く」の字状のもので頸部の屈曲に強弱が見られる。口縁端部はいずれも丸く収められており、ヘラ状の工具により、刻み目が施されるものがある。胴部の刷毛目は横方向と縦方向のものがあり、両者の過渡的な様相を示している。口縁部に刻み目を持つものは木口状工具によるナデ調整が施されている。小型器台は大振りのもので、器受部が大きい。高坏は下位から大きく開くものである。器台としたもののうち4は複合口縁壺で、外面と口縁端面にLRの単斜縄文が施されており、壺の口縁部の可能性もあるが復元される径と傾きから器台に含めた。

第244号住居跡からは、壺、台付甕、高坏、小型器台が出土している。（X第137図）壺は法量がほぼ同じ中型のもので、肩部に縄文が施文されるものと所謂瓢壺のやや大型のものがある。縄文はLRの単斜縄文が4段施され、2段目と3段目に間隔があげられ、赤彩されている。第270号住居跡、第6号周溝墓出土の壺も沈線による区画を持ち、網目状捺糸文である相違は見られるが同様の段構成である。9は調整が丁寧で粘土も精選されている。甕はドーナツ状の底部を持つものと平底のものがある。全体の器形が分かる後者は胴部がナデ調整である。台付甕はいずれも素口縁で、端部は丸く収められている。頸部はいずれも「く」の字である。球形胴のもの、やや胴部が長いものがある。刷毛目は前者が横位に近い斜め方向のものであるのに対して、後者は縦方向である。脚台部も小型のものが含まれる。高坏は直線的に大きく開く坏部を持ち、下段の稜が不明瞭である。接合部が太く、そこからそのまま「ハ」の字状に開いている。一方で、接合部がやや細く柱状の部分から開くものも認められる。小型器台は、脚部の外面のヘラミガキが施されない。

第247号住居跡からは壺、台付甕が出土している（X第141図）。壺は中型のもので、単口縁、頸部は「く」の字状に接合する。胴部には縦方向のヘラ磨きが施される。台付甕および甕は、口縁部がやや短い「く」の字状のものである。口縁端部はいずれも丸く収められているが、3は部分的に端部が肥厚している。胴部の刷毛目は斜め方向である。

第270号住居跡からは、壺、台付甕、甕、高坏、小型高坏、鉢が出土している（X第168図）。壺は大型のもので、肩部にLRの単斜縄文が4段施され、2段目と3段目に間隔があげられ、赤彩されている。文様帯の下端にS字状結節があり、円形貼付文が施される点が相違するが、前述のように第244号住居跡と同一の構成である。台付甕はいずれも素口縁で、端部は丸く収められている。頸部はいずれも「く」の字で、球形胴である。胴部の調整は木口ナデと刷

毛目である。脚台部は径に対する高さが低く、扁平な印象を受ける。高坏は直線的に大きく開く坏部を持ち、下段の稜が明瞭である。小型高坏は文様が施されないもので、縦方向の丁寧なヘラミガキが施され、粘土も精選され、白っぽい印象を受ける。鉢は体部に対して底部が大きい。

第279号住居跡からは、壺、台付甕、甕が出土している（X第182図）。壺は大型のものと中型のものがある。中型のものは、複合口縁で複合部が開き加減のものである。口縁端部に面を持ち、LRの単斜縄文が施文されている。複合部外面には、LR、RL、LRの3段の単斜縄文が施文される。下端には棒状工具による押捺がある。棒状浮文は4単位貼付され、同様の工具による押捺が行われている。一見すると古い様相を呈するように見えるが、複合部の幅が狭く、開き加減であること、器肉の厚さが古いものに比べて均一での上塗りとした印象を受ける点から新しく位置づけられる。大型のものは頸部が急に窄まるもので、バランスの悪い器形が予想される。肩部に2単位の文様帯がある。この構成そのものは第244・270号住居跡、第6号周溝墓出土資料同様であるが、区画文が結節である点が相違している。上段はLR、RL、LRの3段で、羽状を意識していると考えられる。縄文は撚りが弱く間隔が開き、部分的にS字状結節文が施されている。下段は逆にRL、LR、RLの3段で、上段同様に羽状を意識していると考えられる。同様にS字状結節文が施されている。上段と下段の間は間隔があげられ、赤彩されている。台付甕はいずれも素口縁で、端部は丸く収められている。端部には棒状工具による押捺が施されている。頸部はいずれもすばまりが弱く、緩い「く」の字で、球形胴である。胴部の調整は木口ナデと刷毛目で、縦方向のものに横方向を重ねている。脚台部は径に対する高さが高いものと低いものがある。この住居跡のものは一見古い様相を呈しているが、壺の縄文は施文が乱れ、器形もバランスを欠き、器肉も均一で、新しい時期のものであることを感じ

させる。また、台付甕がいずれも口縁端部に面を持たず、脚台部が小さめであることも同様の新しい様相を示唆するものと思われる。

第318号住居跡からは、壺、台付甕、甕、高坏が出土している（X第250図）。壺は中型のものやや小型のもの、広口壺がある。中型のものは、口縁部と胴部の資料がある。口縁部は複合口縁のものと単口縁のものがあり、複合部はLRの単斜縄文が施文され、その上に2条の沈線が引かれている。あるいは吉ヶ谷式を意識したものであろうか。端部には棒状工具による刻み目が施される。単口縁のものには、頸部に刻み目のある凸帯が貼付されるものがある。胴部は球形胴のもので、下半に明瞭な作業単位が認められる。広口壺は大型のもので、中位やや下半が屈曲する。複合口縁で端部にはLRの単斜縄文が施文されている。中型の壺はプロポーションが広口壺と同様である。高坏は下半の稜が不明瞭である。

第339号住居跡からは、壺、台付甕、高坏、小型高坏、大型器台、小型器台が出土している（X第219図）。壺はごく小型のもので、複合口縁のものと単口縁のものがある。複合口縁のものは、複合部にRLの単斜縄文が施文されている。単口縁のものは球形胴で、頸部の接合が「く」の字である。台付甕は小型のもので、口縁部は所謂受口状口縁になっている。頸部の接合は「く」の字だが、括れが弱い。高坏は下半に稜を持ち、大きく開くものである。大型器台は、所謂装飾器台の流れを汲むものである。脚部には千鳥状の円形の透穴が開けられている。端部は若干外側に開いている。小型器台は器肉が厚いX字状のものと、脚部の上部が窄まり、柱状になる2者がある。前者には透穴が見られない。

第1号方形周溝墓からは、壺のみが出土している。（X第265図）球形胴の単口縁のものと、吉ヶ谷系のものがある。前者は器形のみを見るとより古くなりそうだが、口縁部の横ナデが広く均一で、それほど古くすることはできないと考えられる。同様に、吉ヶ谷系のものも縄文そのものが細かく、どちらかと

いけば南関東系の細縄文ともできそうなもので、吉ヶ谷系そのものではない。瓢壺は古い器形のようにだが、器肉が厚く、均一で新しいものと考えられる。

第6号方形周溝墓からは、壺、台付甕、高坏が出土している（X第271図）。壺は球形胴で、大中小がある。大型のものは赤彩されており、2段の文様帯を持つ。前述のように、この構成は第244・270号住居跡出土資料と同様のものである。各々2段の網目状燃糸文が施文される。区画は上段の上位が刻み目、それ以外はヘラ状工具による3条の沈線によって行われている。器面全体は「つるん」とした感触で、均一である。中型の壺は単口縁で、接合部は「く」の字である。器面に凹凸が目立ち、実測図で受ける印象よりも古い感がある。台付甕は、「く」の字状口縁で、端部には面を持つ。全体に丁寧な作りで、刷毛目も整然としている。脚台部は小型で、ナデ調整である。高坏は大小がある。大型のものは下半に稜をもって大きく開くものである。小型のものは柱状の接合部になっている。器面に凹凸があり、調整も丁寧で実測図から受ける印象よりも古いと考えられる。

第7号方形周溝墓の壺は球形胴で、大小がある（X第272図）。大型のものは複合口縁で、「く」の字状の接合である。複合部外面は平坦に仕上げられているが、全体の形状は「柳ヶ壺」を志向しているものと思われる。接合部は厚く、胴部下半に明瞭な粘土紐の積み上げの単位を認めることができる。器面に凹凸があり、球形志向が明瞭で、この段階の代表的な壺の一つといえるだろう。小型のものは実測図で受ける印象よりも頸部が細めで、戸田市鍛冶谷・新田口遺跡で見られるような北陸系の脚付の細頸壺を志向している可能性がある。やはり、胴部下半に明瞭な粘土紐の積み上げの単位を認めることができる。

第9号方形周溝墓の壺はやや長めの球形胴で、口縁端部の下端に粘土紐を巡らせ肥厚させるものである（X第275図）。「く」の字状の接合で、胴部下半

に明瞭な粘土紐の積み上げの単位を認めることができる。器面に凹凸があり、球形志向が明瞭である。この段階の代表的な壺の一つといえるだろう。

第11号方形周溝墓からは壺と高坏が出土している（X第277図）。壺はやや長めの球形胴で、やや緩い「く」の字状の接合である。単口縁で口縁部は大きく開いている。口縁部内面にはLRの斜縄文が4段施され、上端と2-3段目の間はS字状結節により区画されている。外面の胴部上位にも同様の文様が施されている。

第21号方形周溝墓からは壺、甕、高坏が出土している（X第289図）。壺は球形胴で、ややつぶれた印象を受けるものである。頸部は「く」の字状の接合で、突帯が貼付されている。胴部下半に明瞭な粘土紐の積み上げの単位を認めることができる。吉ヶ谷系の甕は寸詰まりの感が強い。胎土が全体的に粗く、意図的な粘土の選択が行われている可能性がある。

第26号方形周溝墓の壺は球形胴のものやや長めの球形胴のものがあり、いずれも単口縁である（X第294図）。頸部は「く」の字状の接合で、前者は圧着の際の押さえが顕著である。器面に凹凸があり、球形志向が明瞭である。この段階の代表的な壺の一つといえるだろう。

第464号溝跡からは、壺、台付甕、高坏、大型器台、小型器台、鉢が出土している（X第66~73図）。壺は大中小がある。大型のものには、単口縁、複合口縁と所謂柳ヶ壺があり、胴部の大きさはほぼ同じである。単口縁のものは、球形胴で、特に54と113は、非常によく似ており、方形周溝墓の「対」の土器を思わせるものである。複合口縁のものは、いずれも端部の外周に複合部を貼付するものである。複合部が広く、棒状浮文と円形浮文が貼付されるもの、複合部外面と内面に山形のヘラ描文が入れられるもの、複合部の幅が狭く文様が施されないものがある。全体の器形が知れるものが少ないため確実ではないが、山形文を施文されるものは球形胴で、「く」の字接合であり、文様があるものは同様の器形である



可能性が高い。これに対して、複合部の幅が狭いものは立ち上がり直立気味で、頸部の屈曲はそれほど強くないようである。柳ヶ壺系のものは、いずれも意匠はほぼ同じで複合部外面に凹線と棒状浮文、内面にヘラ描きによる綾杉文が施される。頸部は段状になっている。中型のものは、単口縁のもののみで、大型のものと器形、調整等は同様である。小型のものには単口縁のものと、所謂瓢壺、受け口状口縁の壺がある。単口縁の5は、口縁部が直立気味で、頸部の屈曲が緩やかで底部が大きい。瓢壺は大小があり、大型のものは口縁部が長く、直線的に伸びる。それに対して小型の4は、口縁部が内湾し、端部は内剥ぎ状になっている。口縁部が受け口状のものは、平底である。受け口の部分に2本1単位の棒状浮文が4単位貼付されている。胴部外面の刷毛目は斜め方向で、中位に大きな接合単位が認められる。台付甕の胴部と同様のもので、東海地方西部系と思われる。

台付甕は、単口縁とS字状口縁のものがある。

単口縁のものは大部分が刻み目を持たないものである。11の刻み目は、棒状工具によるものである。胴部の刷毛目は浅く、概ね斜め方向が一定せず、新しい様相を見せている。それ以外のものは、頸部が「く」の字状接合が基本であるが、口縁部が直立気味で屈曲が弱くも長胴気味であることから新しい印象を受けるが、実測図には表現できない器面の凹凸が著しく、口縁部も後の段階のものほど均一でない。刷毛目は横方向のものと斜め方向のものがあるが、概して整然として丁寧である。また、縦方向のナデを施すものもあるが、量的には少ない。脚部は胴部とバランスの良い中型のものと、小型のものがあり、量的には後者が多い。ただし住居跡出土資料が、成形、調整手法が相似しているのに対して、バリエーションがみられるのが特徴的である。

S字状口縁台付甕は、胴部が球形のものとやや長めのものがあり、前者が口縁部のS字も整い、頸部内面に指オサエが見られ、肩部に横刷毛が見られる

のに対して、後者はS字の形態が乱れ、指オサエ、横刷毛が見られない。また、前者は胴部の刷毛目が羽状の構成をとり、後者は羽状のものとそれが乱れたものが見られる。

甕は球形胴を呈するもので、頸部の接合は「く」の字である。胴部の外面にはヘラ磨きが施され、広口壺を意識している可能性もある。

高坏は全体の形状が知れるものが少ないが、脚部上位の形態から、本来はいくつかの形態のものがあったと考えられる。全体が分かるものは、下端に稜を持ち、大きく直線的に開く坏部に、大きく開く脚部が付くものである。脚部の形態は、複数見られ、接合部からそのまま大きく開くものと、上位が柱状を呈するものや下半が内湾して開くものがある。溝跡出土資料のため、混入の可能性もあるが柱状となるものがこの時期から含まれる可能性も考えておきたい。

大型器台は、第339号住居跡出土資料同様、所謂装飾器台の流れを汲むものである。第339号住居跡のものが、透穴が千鳥状で円窓であるのに対して、この資料は透かしが三角形で4窓、器受部の端面に面を持つものである。

小型器台は通常のタイプのものと、台付甕の脚部を改変したものがある。前者は脚部の上半がやや長く、柱状になるものである。脚端部は直線的に開くが、更に外側に開かない。ヘラ磨きも後の段階のものより丁寧である。後者は台付甕の下半のみで下段の接合部が面を持ち端部になっている。

鉢は、いくつかのタイプがあり、底部が大きく、胴部があまり張らず、頸部の屈曲が弱いものと、小型の球形の体部に短い口縁部がつくもの、やや大きく扁平な体部に大きく直線的に伸びる口縁部が付くものがある。

甗は単孔で、外面の調整が刷毛目の複合口縁のものと、外面の調整が磨きで単口の縁のものがある。

蓋は1点のみで、刷毛目と木口状工具によるナデによって仕上げられている。

第423号溝跡からは、壺、台付甕、甕、高坏、柑、鉢が出土している（X第338図）。

壺は大きく外反する複合口縁の中型のもの、胴部上半にLRの単斜縄文が3段施される小型のもの、所謂瓢壺がある。縄文施文のものは吉ヶ谷系とできるであろうか。また、二重口縁の口縁部が付く可能性が高い、頸部に刻み目のある段が貼付された胴部上位の破片が出土している。台付甕は端部に刻み目を施すものと素口縁のもの、受け口状口縁のものがある。頸部はいずれも「く」の字状の接合で、球形胴のものやや長めの球形胴のものがある。刷毛目は斜め方向に施された後、上位に横方向の刷毛目を加えるものがある。刻み目は、ヘラ状工具により刺突風に施され、端部は丸く収められている。単口縁のものには、口縁部が長いものが含まれ、あるいは新しいものである可能性もある。受口状口縁のものは、頸部内面が、工具によりきれいに平滑に仕上げられている。脚台部は中型のもの小型のものがある。小型のものは器高に対する高さが低く、扁平な印象を受けるものもあるが、全体としては器高と径がほぼ等しいものである。高坏は直線的に大きく開く坏部を持ち、下段の稜はあまり明瞭でない。柑には、扁平なものと器高が高いものがあり、後者は台付甕同様新しいものである可能性がある。鉢には大小がある。大型のものは柑形のもの内彎する単口縁のものがある。小型のものは、底部から緩やかに内彎して立ち上がるものと、頸部風の屈曲がみられるものがある。ミニチュアの鉢が2点含まれている。

以上、第1段階の資料の代表的なものについて具体的に見てきた。前述のように、この段階は球形胴の壺と台付甕によって特徴付けられ、器形のバランスが良い時期として設定した。しかし、そう設定した条件にうまく合致するものもあればずれるものもあり、むしろ後者のほうが多い。特に、長胴気味の壺や、台付甕の「く」の字になりきれない頸部の接合状況、壺同様の長胴化傾向、小型の脚台部は、大宮台地や荒川低地であれば、第2段階に下げる積極

的な要素となりえるものである。筆者も実測図のみを見た段階ではそのように感じていた。しかし、実際の資料は、器面の凹凸が顕著で、丁寧にバランス良く仕上げられており、第2段階の資料とは一線を画するものであり、先の特徴は第1段階における地域的特色と捉えなおした方が良いと考えるに至った。

球形胴の壺・甕、「く」の字状接合、大型・中型を基本とする脚台部、一定程度見られるナデ甕の存在といった要素が、大宮台地や荒川低地における同時期の武蔵野台地や上総地域とのつながりを示すものとするならば、壺の文様構成や特徴的な脚台部の様相、また、次の段階における中実の柱状高坏の卓越する様相は、吉ヶ谷・十王台系土器群との交流や、栃木県域との関係を予想させる。

こうした地域色ともいえる様相は、機会を改めて論じねばならないであろう。

一方で、荒川低地同様に、所謂外来系土器群が多いのが、この段階の特徴である。特に、熊谷低地は北陸地方東北部系土器が多いことで知られている。

北島遺跡でも関東地方に多く見られる北陸系土器を祖とする大型器台や、装飾器台といったものが見られる。また、東海系のものが多く、S字状口縁台付甕や所謂「柳ヶ壺」系のもの、瓢壺、器台が見られる。これは東海地方との交流を示すものであると同時に、群馬県域の石田川式との交流を示すものと考えられる。

こうした在来系土器群、外来系土器群に見られる他地域との交流の様相は、比田井克仁氏が大枠を示し、かつて筆者も論じたことがあるような交流経路の存在を示すものである（比田井1987・1993、福田1989・1990・1991）。

こうした交流は折衷土器ともいえる個体を生み出している。第343号溝跡69は、所謂「柳ヶ壺」系のものだが、本来内面の施文はヘラ描きとなるべきだが羽状の縄文に置換されている。在地の縄文と東海地方からの新しい情報との混交のあり方を示すものである。

同様の文様の並置される状況は、中条条里遺跡第2号方形周溝墓（鈴木2004）出土資料の、櫛描きによる波状文と縄文の関係にも同様に表われている。

東海地方系のものと在来の縄文、両者が文様構成要素として対等に扱われているということは、外来系の要素を在来の社会が取り入れる主体性を示すものとも言えよう。

以上、北島遺跡第19地点の古墳時代前期の土器について、第1段階の土器を中心に検討を行った。

大宮台地や荒川低地との差異や、外来系要素と在地系要素の並置的状況から、両者の関係性を垣間見る事ができたが、検討としては甚だ不十分というほかはない。

本来なら、周辺遺跡の資料、特に小敷田遺跡（吉田1991）、田谷遺跡（大谷2004）も含めて検討すべきところなのだが、前述のように、今回の検討で実測図に表われない部分を観察する必要性を痛感したこともあり、あえて踏み込まないこととした。この観察の問題も含めて改めて論ずることとしたい。

第2段階以降については、古宮遺跡での検討（福田2004）と重なる部分が多く、そちらを参照願いたい。これまで別稿で述べてきたように、いずれ低地

遺跡全体の土器の検討を行いたいと考えているので、その中で改めて扱いたいと考えている。

その際には、古宮遺跡の検討でも述べたように、近接する北島、天神東、小敷田3遺跡間の共通点、相違点について、改めて問題にしたい。

周辺地域との関係については、古宮遺跡の検討でも述べたように、古宮遺跡、中条条里遺跡の第I・II期が書上編年の第3段階古・新段階に併行すると考えられるため、本稿における第2・3段階が同様の位置づけに、現段階では第1段階を書上編年の第2段階に併行するものとしておきたい。

古宮遺跡検討でも述べたが、熊谷低地は県内でもこの時期の集落が密集する稀有な地域である。その様相を整理し、大宮台地や荒川低地、また本庄・児玉地域や比企地域、群馬県域や栃木県域との関係性を検討することは、埼玉県のみならず北関東地方の古墳時代前期の実態を把握するために欠くことができない情報を提供すると考えられる。

本稿では残念ながら十分な検討が果たしえなかった。筆者がこれまで進めてきた低地遺跡の検討とも合わせ、後考を期することにしたい。

#### 参考文献

- 大谷 徹 2004 『北島Ⅷ／田谷』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第292集  
鈴木孝之 2004 『古宮／中条条里／上河原』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第298集  
田中広明 2002 『北島遺跡Ⅴ』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第278集  
比田井克仁 1987 「南関東出土の北陸系土器について」『古代』第83号 P45～82 早稲田大学考古学会  
比田井克仁 1993 「東国における外来土器の展開」『翔古論聚』P71～102 久保哲三先生追悼論文集刊行会  
福田 聖 1989 「鍛冶谷・新田口遺跡の外来系土器（1）」『戸田市立郷土博物館研究紀要』第4号 P11～24 戸田市立郷土博物館  
福田 聖 1990 「鍛冶谷・新田口遺跡の外来系土器（2）」『戸田市立郷土博物館研究紀要』第5号 P25～49 戸田市立郷土博物館  
福田 聖 1991 「鍛冶谷・新田口遺跡の外来系土器（3）」『戸田市立郷土博物館研究紀要』第6号 P41～63 戸田市立郷土博物館  
福田 聖 2004 「古墳時代の土器について」『古宮／中条条里／上河原』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第298集 P407～414  
吉田 稔 1991 『小敷田遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第95集

### 3. まとめ

北島遺跡の発掘調査は、平成16年度開催の彩の国さいたま国体を前に関連施設建設の事前調査として、平成10年7月から開始され、平成12年の12月で終了した。また田谷遺跡の発掘調査は、平成11年度と14年度短期間で実施、終了した。整理報告書作成作業は、平成12年度から開始され、順次報告書を刊行し、平成16年度をもって完了する運びとなった。

調査の結果、多くの遺構と出土遺物を検出し、多大な成果を挙げることができた。詳細については各報告書に譲り、以下では若干のまとめを行い、北島遺跡の整理報告書刊行のしめくくりとしたい。

遺構については、各時代にわたる居住域と生産領域が検出されたことが、最も注目される点である。弥生時代中期は、集落と水田跡が第19、17地点で検出された。水源としての河川跡、引水のための堰跡(堤)、水路跡も検出されている。また明確な墓域ではないが、土器棺墓も存在した。

また多くの出土土器によって、弥生時代中期後半の埼玉県北部地域の土器型式「北島式土器」を提唱するに至った。

続く弥生時代後期の遺構群は検出されなかったが、古墳時代前期には、区画溝で囲われた集落と水田跡、畠跡、墓域としての方形周溝墓群を各地点で検出することができた。

同期の集落としては、弥生時代中期の集落と共に関東地方でも屈指のものとなる。区画溝内外の住居跡群は、特に傑出したものはなく豪族居館跡とすることは難しい。引水路は、弥生中期に開鑿された水路が、該期まで機能していたと考えられ、堰跡も検出された。用水的側面からみると、弥生中期の技術がその後を規定する完成度の高いものであったことがわかる。また弥生時代には確認できなかった畠跡が、比較的広範囲に検出されている。

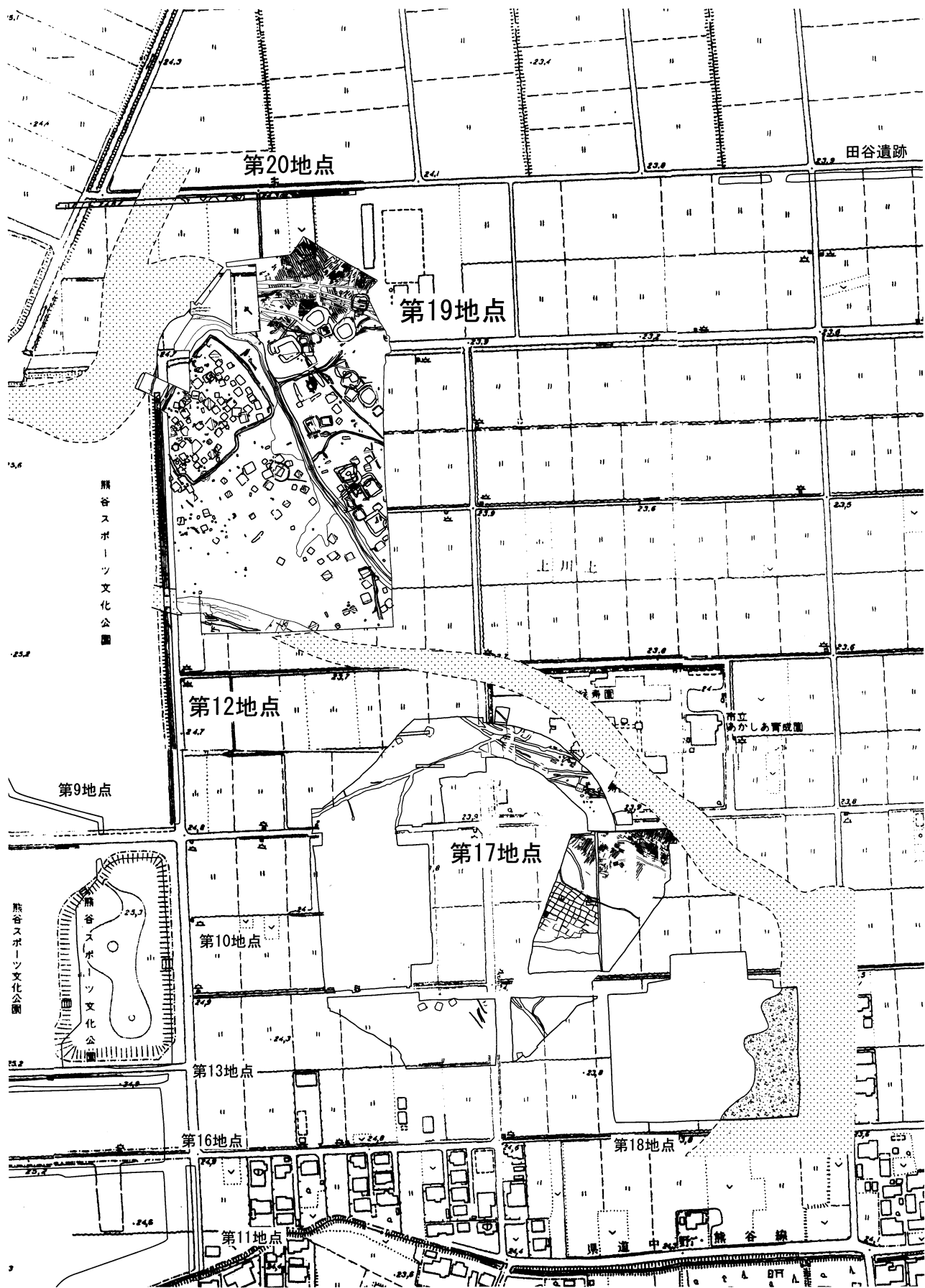
多量の出土土器等は、生活実態、交通諸関係等を明らかにする好資料を提供するものである。

古墳時代後期の集落は、縮小気味であったが、墓域としての古墳群を検出することができた。8基の古墳跡によって構成されるが、中条古墳群の一支群と把握できるものである。円筒埴輪と形象埴輪による良好な埴輪列が認められた。今後熊谷新扇状地地域の古墳を考える上で、恰好の資料を提供するものである。

7世紀から11世紀代は、律令体制成立の直前期から成立、変質、崩壊ないし荘園制成立期まで及んでおり、集落の変遷も多岐にわたっている。これらについては古代に関する報告に詳述されている。特に9世紀以降10世紀代まで続く大形区画溝と内部の建物群は、出土遺物と共に本遺跡の特殊性を示すもので、豪族居宅と把握された。9世紀以後班田制が崩壊し、国司が直接経営する勅旨田と親王賜田が拡大するが、承和元年播磨郡の荒廃田123町も勅旨田化された。本遺跡との対応関係は、今後の資料蓄積によって明らかにされるであろう。尚、自然遺物では馬、牛等獣骨が多量に出土しており、牧関連施設としての側面も留保しておくべきであろう。

生産域については、第17地点で条里型地割が検出され、水田跡、大溝等が調査された。集落と生産域との対応関係は、耕地の拡大、均質化のため古墳時代前期以前と比較して不明瞭である。用水は、古墳時代前期以前とは全く異なり、大溝の掘削により公水化が達成され以後最も安定的な耕地形態となったと考えられる。天仁元年の浅間B軽石降灰後復旧した耕地形態も条里型地割とみられ、現今まで本遺跡周辺部で広く確認できる条里型地割の淵源となるものであった。

今後資料の蓄積が進めば、当該期の居住と生産域の実態が明確になり、さらに荘園制のもとでの集落ないし村落と生産域、或いは畠作の問題等も明らかになって行くであろう。



第 129 図 北島遺跡の居住域と生産領域

# 参考文献

- 青木克尚・櫻井和哉 1996 『深谷城跡(第4次)』深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第49集 深谷市教育委員会
- 赤熊浩一 1994 『金井遺跡B区』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第146集
- 赤熊浩一・岡本健一 2004 『下田町遺跡I』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第296集
- 秋山浩三 1993 「大足の再検討」『考古学研究』第40巻第3号 P53~79 考古学研究会
- 浅野晴樹 1989 『北島遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第81集
- 新屋雅明 1988 『赤城遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第74集
- 飯塚武司 1993 「古墳時代から古代の武蔵・相模国を中心とした工具・農具の変遷」『法政考古学』第20集 P215~234  
法政考古学会
- 飯塚武司 1994 「古代多摩丘陵の木器生産」『研究論集XⅢ』P215~234 財団法人東京都教育文化財団・東京都埋蔵文化財センター
- 飯塚武司 2004 「弥生時代の木器生産を巡る諸問題」『考古学研究』第51巻第1号 P91~133 考古学研究会
- 伊藤雅文 1991 『畝田遺跡』石川県立埋蔵文化財センター
- 岩崎しのぶ・望月由佳子 1996 『瀬名遺跡V』静岡県埋蔵文化財調査研究所報告第79集 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 岩崎卓也 2000 『古墳時代史論』雄山閣
- 岩瀬謙・大谷徹・栗岡潤 2003 『如意遺跡IV』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第285集
- 上原真人 1991 「農具の変遷—鋤と鋤—」『季刊考古学』第37号 P46~52 雄山閣
- 上原真人 1994 「西日本の農具の変遷」『古代における農具の変遷—稲作技術史を農具から見る—』P1~10  
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 上原真人編 1994 『木器集成図録』近畿原始編 奈良国立文化財研究所
- 大谷 徹 1991 『北島遺跡Ⅲ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第103集
- 大谷 徹 2004 『北島Ⅷ/田谷』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第292集
- 大谷弘幸 2002 「木製農具の変遷と若干の問題」『研究紀要23』P55~106 財団法人千葉県文化財センター
- 岡村秀典 1989 「鉄製工具」『弥生文化の研究』第5巻 P65~76 雄山閣
- 岡本幸男 1987 『向居遺跡』美里町遺跡発掘調査報告書第5集 美里町遺跡調査会
- 小川浩一 1995 「五所四反田遺跡検出の木製農耕具について」『研究紀要Ⅲ』P11~32 財団法人市原市文化財センター
- 金箱文夫編 1989 『赤山 本文編』川口市遺跡調査会報告第12集 川口市遺跡調査会
- 兼康保明 1989 「田下駄」『弥生文化の研究』第5巻 P97~101 雄山閣
- 榎古環境研究所 2004 「第17地点の自然科学分析」『北島遺跡Ⅶ』P176~188
- 河上邦彦 2000 「出土木器の樹種」『橿原考古学研究所研究成果第3冊 大和木器資料I』P49~88 奈良県立橿原考古学研究所
- 栗岡 潤 1999 『天神東遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第240集
- 黒崎 直 1989 「くわとすき」『弥生文化の研究』第5巻 P77~84 雄山閣
- 黒崎 直 1996 『日本の美術』第357号 至文堂
- 恋河内昭彦 1998 『向田A・向井田B・壱丁田遺跡』児玉町文化財調査報告書第27集 児玉町教育委員会
- 合田茂伸 1988 「弥生時代の杵と臼」『網干善教先生華甲記念 考古学論集』P193~207 網干善教先生華甲記念会
- 埼玉県立博物館編 1982 『寿能泥炭層遺跡発掘調査報告書—自然遺物編—』埼玉県教育委員会
- 埼玉県立博物館編 1984 『寿能泥炭層遺跡発掘調査報告書—人工遺物・総括編—』埼玉県教育委員会
- 齋藤国夫 1980 『小針遺跡発掘調査報告書—B区—』行田市文化財調査報告書第10集 行田市教育委員会
- 齋藤国夫 1981 『小針北遺跡』行田市遺跡調査会報告第1集 行田市遺跡調査会
- 齋藤国夫 1981 『池守遺跡』行田市文化財調査報告書第12集 行田市教育委員会
- 澤出晃越 1985 『深谷町遺跡』深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第9集 深谷市教育委員会

- 寺社下博 1979 『中条条里遺跡調査報告書Ⅰ』昭和52年度熊谷市埋蔵文化財調査報告 熊谷市教育委員会
- 寺社下博 2002 『北島遺跡』平成14年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書 熊谷市教育委員会
- 寺社下博・金子正之 1988 『天神遺跡』昭和62年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書 熊谷市教育委員会
- 菅谷通保 1994 「新保・小敷田・国府関(1)―広グワの検討―」『年報』No.8 P36～47 財団法人長生郡市文化財センター
- 杉崎茂樹 1993 『中耕遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第125集
- 杉山真二・藤原宏志 1987 「川口市赤山陣屋跡遺跡におけるプラント・オパール分析」『赤山 古環境編』P281～298
- 鈴木公雄 1984 「寿能泥炭層遺跡の調査の意義―特に木製品・漆製品を中心に―」『寿能泥炭層遺跡発掘調査報告書 自然遺物編』P847～858
- 鈴木孝之 1998 『北島遺跡Ⅳ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第195集
- 鈴木孝之 2004 『古宮／中条条里／上河原』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第298集
- 鈴木三男・能城修一・植田弥生 1982 「樹木」『寿能泥炭層遺跡発掘調査報告書 自然遺物編』P261～282
- 鈴木三男・能城修一・植田弥生 1984 「加工木の樹種」『寿能泥炭層遺跡発掘調査報告書 人工遺物・総括編』P699～724
- 鈴木三男・能城修一 1989 「掘立柱建物検出柱材の樹種」『北島遺跡Ⅱ』P148～149
- 鈴木三男・能城修一 1991 「樹種同定分析 小敷田遺跡の木材化石群集」『小敷田遺跡』P268～318
- 鈴木三男 1991 「小敷田遺跡の植物的自然―植物化石研究のまとめに代えて―」『小敷田遺跡』P348～350
- 鈴木三男・能城修一 1991 「樹種同定分析 小敷田遺跡の木材化石群集」『小敷田遺跡』P268～318
- 田中 琢ほか 1990 『年輪に歴史を読む 日本における古年輪学の成立』奈良国立文化財研究所学報第48冊  
奈良国立文化財研究所
- 田中広明 2002 『北島遺跡Ⅴ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第278集
- 田中広明 2004 『北島遺跡Ⅸ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第293集
- 千野裕道 1984 「池上遺跡出土の炭化材樹種」『池守・池上』P297～300
- 辻誠一郎編 1987 『赤山 古環境編』川口市遺跡調査会報告第10集 川口市遺跡調査会
- 辻誠一郎・橋屋光孝・鈴木茂 1987 「川口市赤山陣屋跡遺跡の花化石群集」『赤山 古環境編』P105～128
- 辻誠一郎・小杉正人・遠藤邦彦・宮地直道・南木睦彦・能城修一 1987 「川口市赤山陣屋跡遺跡をとりまく古環境」  
『赤山 古環境編』P299～307
- 富田和夫 2002 『熊野遺跡(A・C・D区)』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第279集
- 鳥羽政之・宮本直樹 1997 『滝下遺跡』岡部町埋蔵文化財調査報告書第2集 岡部町教育委員会
- 中井 均 1991 「木製農耕具―畜耕関係を中心に―」『考古学ジャーナル』No.335 P18～22 ニューサイエンス社
- 中島 宏 1984 『池守・池上』埼玉県教育委員会
- 永野 巖 1986 「埼玉の風土と森林」『新編埼玉県史 別編3 自然』P253～455 埼玉県
- 中村倉司 1979 「東沢遺跡出土木器」『中条条里遺跡調査報告書Ⅰ』P44～54
- 中村倉司 1989 『北島遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第88集
- 中山正典 1994 「農具の形態と機能―民具資料との接点―」『古代における農具の変遷―稲作技術史を農具から見る―』  
P27～40 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 中山正典 1994 「静岡県における弥生時代・古墳時代の木製農具」『瀬名遺跡Ⅲ』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第47  
集 P143～162 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 中山正典 1994 「田下駄の形態変遷と機能」『瀬名遺跡Ⅲ』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第47集 P163～190  
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 西口正純 1986 『鍛冶谷・新田口遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第62集
- 西田正規 1984 「池上遺跡第5号住居址から出土した炭化物について」『池守・池上』P301
- 能城修一・鈴木三男 1986 「鍛冶谷・新田口遺跡出土木材の樹種」『鍛冶谷・新田口遺跡』P398～410
- 能城修一・鈴木三男 1988 「赤城遺跡の出土木材」『赤城遺跡』P473～482

- 能城修一・鈴木三男 1991 「第12・13地点から出土した木材の樹種」『北島遺跡Ⅲ』P100～103
- 能城修一・鈴木三男 1987 「川口市赤山陣屋跡遺跡から出土した木材遺体群集」『赤山 古環境編』P203～280
- 能城修一・鈴木三男 1989 「川口市赤山陣屋跡遺跡出土加工木の樹種」『赤山 本文編』P375～426
- 能城修一・鈴木三男 2004 「後谷遺跡第4次発掘調査において出土した木材の樹種」『後谷遺跡第4次・第5次発掘調査報告書』  
P70～75 桶川市教育委員会
- 野中仁・福田聖 1993 「方形周溝墓出土の木製品」『研究紀要』第10号 P115～160 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 橋屋光孝 1991 「花粉同定分析 小敷田遺跡の花粉化石群集」『小敷田遺跡』P337～342
- 浜野美代子 1986 『須黒神社遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第56集
- パリノ・サーヴェイ株式会社 1984 「花粉、珪藻、鉍物分析」『池守・池上』P303～317
- パリノ・サーヴェイ株式会社 1986 「鍛冶谷・新田口遺跡試料微化石分析」『鍛冶谷・新田口遺跡』P413～441
- パリノ・サーヴェイ株式会社 1989 「北島遺跡出土試料の花粉、珪藻土分析」『北島遺跡』P653～677
- パリノ・サーヴェイ株式会社 1998 「北島遺跡の古環境変遷」『北島遺跡Ⅳ』P485～503
- パリノ・サーヴェイ株式会社 2000 「一本木前遺跡の自然科学分析」『一本木前遺跡』平成11年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書  
P242～248 熊谷市教育委員会
- パリノ・サーヴェイ株式会社 2003 「北島遺跡から出土した木材の樹種同定分析について」『北島遺跡Ⅵ』P521～524
- パリノ・サーヴェイ株式会社 2004 「下田町遺跡の自然化学分析」『下田町遺跡Ⅰ』P439～453
- パリノ・サーヴェイ株式会社 2004 「建築材及び井戸枠」『北島遺跡Ⅸ』P460～464
- 樋上 昇 1989 「木製農具の地域色とその変遷—勝川遺跡出土資料を中心として—」『年報 昭和63年度』P92～125  
財団法人愛知県埋蔵文化財センター
- 樋上 昇 1990 「弥生時代中期における木製農具の器種組成について」『岡島遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書  
第14集 P80～97 財団法人愛知県埋蔵文化財センター
- 樋上 昇 1994 「木製農具の地域色について—ナスビ形鋏を中心に—」『古代における農具の変遷—稲作技術史を農具から見る—』P41～47 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 樋上 昇 2000 「3～5世紀の地域間交流—東海系曲柄鋏の波及と展開—」『日本考古学』第10号 P41～70  
日本考古学協会
- 藤原宏志 1984 「池上遺跡におけるプラント・オパール分析」『池守・池上』P293～296
- 古瀬清秀 1991 「農具」『古墳時代の研究』第8巻 P71～91 雄山閣
- 穂積裕昌 2000 「弥生時代から古墳時代の木器生産体制について」『研究紀要』第9号 P23～32  
三重県埋蔵文化財センター
- 穂積裕昌 2002 『六大A遺跡発掘調査報告』三重県教育委員会
- 町田 章 1989 「木器の生産」『弥生文化の研究』第5巻 P27～36 雄山閣
- 町田章・上原真人編 1985 『木器集成図録 近畿古代編』奈良国立文化財研究所
- 松井和幸 2004 「馬鋏の起源と変遷」『考古学研究』第51巻第1号 P76～93 考古学研究会
- 南木陸彦 1991 「種子同定分析 小敷田遺跡の大型植物化石」『小敷田遺跡』P319～337
- 南木陸彦・吉川純子・矢野祐子 1987 「川口市赤山陣屋跡遺跡の大型植物遺体」『赤山 古環境編』P131～202
- 宮本直樹 1998 『岡部条里遺跡』岡部町埋蔵文化財調査報告書第3集 岡部町教育委員会
- 宮本長二郎 1988 「住居と集落」『季刊考古学』第23号 P65～68 雄山閣
- 宮本長二郎 2003 「弥生・古墳時代の建築」『東北芸術工科大学 歴史遺産研究』創刊号 P1～20  
東北芸術工科大学歴史遺産学科
- 宮本長二郎 2004 「日本古代尺度論考 —弥生・古墳・律令時代—」『東北芸術工科大学 歴史遺産研究』No.2 P19～41  
東北芸術工科大学歴史遺産学科
- 宮本長二郎・工楽善通 1990 「住まいの考古学」『季刊考古学』第32号 P14～16 雄山閣



- 村上由美子 1996 「臼と杵の変遷について」『志賀考古』第15号 P1～30 志賀考古学研究会
- 村上由美子 2002 「木製楔の基礎的論考」『史林』第85巻第4号 P36～75 史学研究会
- 山川守男 1995 『城北遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第150集
- 山口譲治 1989 「臼と杵」『文明のクロスロード Museum Kyushu』第9巻第1号 P34～37 博物館等建設推進九州会議
- 山田昌久・飯島克巳・山浦正恵 1984 「木製品・加工木について」『寿能泥炭層遺跡発掘調査報告書 自然遺物編』  
P781～784
- 山田昌久 1986 「くわとすきの来た道」『新保遺跡Ⅰ』関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第10集  
P168～188 群馬県教育委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 山田昌久 1994 「農具の形態と機能—文献資料との接点—」『古代における農具の変遷—稲作技術史を農具から見る—』  
P11～26 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 山田昌久 1994 「関東地方北部における農具の変遷」『古代における農具の変遷—稲作技術史を農具から見る—』  
P149～177 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 山田昌久 2003 『考古資料大観』第8巻 弥生・古墳時代 木・繊維製品 小学館
- 山本暉久・谷口肇 1993 『池子遺跡群Ⅸ』かながわ考古学財団調査報告書45 財団法人かながわ考古学財団
- 山本 靖 2000 『築道下遺跡Ⅳ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第246集
- 吉川純子 1988 「赤城遺跡の大型植物遺体」『赤城遺跡』P470～472
- 吉田 稔 1991 『小敷田遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第95集
- 吉田 稔 2003 『北島遺跡Ⅵ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第286集
- 吉田 稔 2004 『北島遺跡Ⅶ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第291集
- 吉野 健 2001 『諏訪木遺跡』熊谷市遺跡調査会埋蔵文化財報告書 熊谷市遺跡調査会
- 吉川昌伸 1988 「赤城遺跡の花粉化石」『赤城遺跡』P455～461
- 若林邦彦 2001 「弥生～古墳時代における製作途上木器の出土傾向～鉄器普及との関係～」『大阪文化財研究』第20号  
P41～50 財団法人大阪府文化財調査研究センター
- 渡辺一雄 1989 「弓・矢」『弥生文化の研究』第5巻 P165～172 雄山閣
- 渡辺 昇 1983 「集落ごとの木器保有形態」『関西大学考古学研究質開設三十周年記念 考古学論叢』P741～757  
関西大学文学部考古学研究室
- 渡辺 誠 1985 「ヨコヅチの考古・民俗学的研究」『考古学雑誌』第70巻第3号 P52～93 日本考古学会
- 渡辺 誠 1991 「木製品の民具学的研究」『考古学ジャーナル』No.335 P2～6 ニューサイエンス社

# 附 編

北島遺跡では、弥生時代から中近世までの遺構や遺物が数多く発見されている。なかでも、北島遺跡の立地的な特性から、木製品の出土が多い。本書においては、北島遺跡第19地点の遺構から出土した農耕具や建築材などの木製品について報告した。そこで、これらの木製品について、各器種の用途と選定

された樹種の特徴との関連を明らかにするために、樹種同定を行った。また、熊谷市小敷田遺跡等の周辺遺跡の樹種選定傾向と比較することによって北島遺跡出土木製品の特徴を抽出し、さらに、北島遺跡周辺の古環境から復元される植生等から用材の供給元の追求も目的とする。

## 北島遺跡第19地点出土木製品の樹種同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

### <目次>

はじめに

1. 試料

2. 分析方法

3. 結果

はじめに

北島遺跡は、荒川左岸と利根川右岸に挟まれた沖積低地から微高地にかけて位置し、縄文時代晩期から中近世にかけての複合遺跡である。地形的には、荒川が形成した新扇状地の扇端部付近に位置し、微高地は扇状地上に形成された自然堤防とされる(籠瀬1990)。

本遺跡では、これまでに弥生時代中期を中心に花粉分析による古植生復元や樹種同定による木材利用状況の調査を行っている(パリノ・サーヴェイ株式会社1998・2003)。花粉分析結果では、コナラ属、アカガシ亜属の木本花粉とともに、イネ科や水生植物の花粉化石の多い結果が得られている。また、樹種同定では、木製品にイヌガヤ、アカガシ亜属、ムクノキ、ケヤキ、ヤマグワが見られ、杭にはヤマグワが確認されている。

本報告では、古墳時代前期の木製品について樹種同定を行い、木材利用に関する資料を得ることを目的とする。

4. 考察

<表一覧>

表1 樹種同定結果

表2 器種別種類構成

1. 試料

試料は、農耕具や建築材などの木製品27点である。各試料の詳細は、樹種同定結果と共に表1に記した。

2. 分析方法

各試料の接合面または破損面を利用して、5mm～1cm角程度の木片を採取した。33については、破損が少なく、木片を採取すると傷が目立つことから、製品から直接切片を作製した。木片試料については、剃刀の刃を用いて木口(横断面)・柁目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を作製する。切片をスライドガラス上に載せ、ガム・クロラール(抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入してプレパラートを作製する。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。同定結果は、植物分類に従い、科・亜科・属・亜属・節・種で表示する。種は、組織的に種単位に分類できる種類と、日本に1種のみ自生し、過去に他種が自生したと考えられていない種類については種で同定する。同じ

グループ内に複数種があり、木材組織から種類間の区別が困難な場合には、科・亜科・属・亜属・節のグループ名で同定する。この際、分類群や木材組織の特徴、保存状況により、同定できるグループの単位が異なる。

### 3. 結果

樹種同定結果を表1に示す。木製品は、針葉樹5種類（モミ属・スギ・ヒノキ・ヒノキ属・カヤ）と広葉樹9種類（コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属アカガシ亜属・ムクノキ・エノキ属・ヤマグワ・キハダ・アカメガシワ・ヌルデ・ムクロジ）に同定された。各種類の解剖学的特徴等を記す。なお、埼玉県内の生育状況については、「埼玉県の裸子植物」（高橋1998a）・「埼玉県の被子植物」（高橋1998b）を参考にした。

・モミ属（Abies） マツ科

軸方向組織は仮道管のみで構成され、早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は狭

い。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は粗く、じゅず状末端壁が認められる。分野壁孔はスギ型で1分野に1～4個。放射組織は単列、1～20細胞高。

日本に生育するモミ属には、ウラジロモミ・トドマツ・モミ・シラビソ・オオシラビソの5種類がある。埼玉県内にはトドマツを除く4種類が生育するが、ウラジロモミ、オオシラビソ、シラビソの3種は奥秩父の山地に生育しており、平野部周辺ではモミ1種のみが生育する。

・スギ（*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don）  
スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞の壁は滑らか。分野壁孔はスギ型で、1分野に2～4個。放射組織は単列、1～15細胞高。

埼玉県内では、社寺林・山林に植栽されたものが

第1表 樹種同定結果

試料番号	挿図	番号	遺構	種類	器種	部位	樹種
1	33	1	第423号溝跡	農耕具	鍬	身	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
						柄	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
2	34	2	第423号溝跡	農耕具	鍬	身	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
						柄	ヌルデ
3	90	1	堰跡	農耕具	鍬	柄	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
4	90	2	堰跡	農耕具	諸手鍬	身	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		3				柄	アカメガシワ
5	39	11	第423号溝跡	農耕具	鋤	柄	コナラ属アカガシ亜属
6	82	2	河川跡	農耕具	鋤		コナラ属コナラ亜属クヌギ節
7	38	10	第423号溝跡	農耕具	糸巻き		ヒノキ
8	41	16	第423号溝跡	農耕具	堅杵		コナラ属アカガシ亜属
9	83	4	河川跡	農耕具	堅杵		コナラ属コナラ亜属クヌギ節
10	41	18	第423号溝跡	農耕具	横槌		モミ属
11	82	3	河川跡	農耕具	横槌		ヒノキ属
12	97	5	谷	武器	弓		ヒノキ
13	44	23	第423号溝跡	建築材	横架材		スギ
14	第302集報告		第278号住居跡	建築材	柱		ムクノキ
15	45	24	第423号溝跡	建築材	梯子		キハダ
16	45	25	第423号溝跡	建築材	梯子		ヤマグワ
17	47	31	第423号溝跡	建築材	梯子		エノキ属
18	48	35	第423号溝跡	建築材	垂木		ムクロジ
19	54	48	第423号溝跡	部材	杭		アカメガシワ
20	59	64	第423号溝跡	紡織具	紡錘車		コナラ属アカガシ亜属
21	100	12	谷	紡織具	織機		カヤ
22	59	63	第423号溝跡	容器	槽		キハダ
23	104	1	グリッド	祭祀具	田舟		キハダ
24	第302集報告		土壌墓	木棺	木棺		ヤマグワ

多いが、自生もあるとされる。

・ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、1分野に1～3個。放射組織は単列、1～15細胞高。

埼玉県内では、山地に自生するが、庭園などに植栽されたものも多いとされる。

・ヒノキ属 (*Chamaecyparis*) ヒノキ科

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は単列、1～15細胞高。

今回の樹種同定結果を考慮すれば、上記ヒノキの可能性が高いが、分野壁孔が観察できなかったため、同属のサワラとの区別ができず、ヒノキ属とした。

・カヤ (*Torreya nucifera* Sieb. et Zucc.)

イチイ科カヤ属

軸方向組織は仮道管のみで構成され、早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。仮道管内壁にかすかにらせん肥厚が認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、1分野に1～4個。放射組織は単列、1～10細胞高。

埼玉県内のほぼ全域の山林等に疎らに生育する。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1～3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減しながら放射状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

コナラ属は、いわゆる「どんぐり」の種類であり、コナラ亜属は中でも落葉広葉樹を主とするグループである。クヌギ節は、どんぐりが2年目に熟すグループで、クヌギとアベマキの2種が含まれる。埼玉県内にはクヌギが山地・丘陵から平地に至る広い範囲で生育するが、アベマキは僅かに植栽されているのみで自生は確認されていない。そのため、今回の試料もクヌギの可能性が高いが、組織から両種を分類することは困難である。

・コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高のものと複合放射組織とがある。アカガシ亜属は「どんぐり」の種類のうち、常緑樹からなるグループで、イチイガシ・アカガシ・ハナガシ・ツクバネガシ・アラカシ・ウラジロガシ・シラカシ・オキナウウラジロガシの8種類がある。埼玉県内では、シラカシが生垣によく利用されるが、他にもイチイガシ、アラカシ、ウラジロガシが生育している。木材組織から種を分類することは困難である。

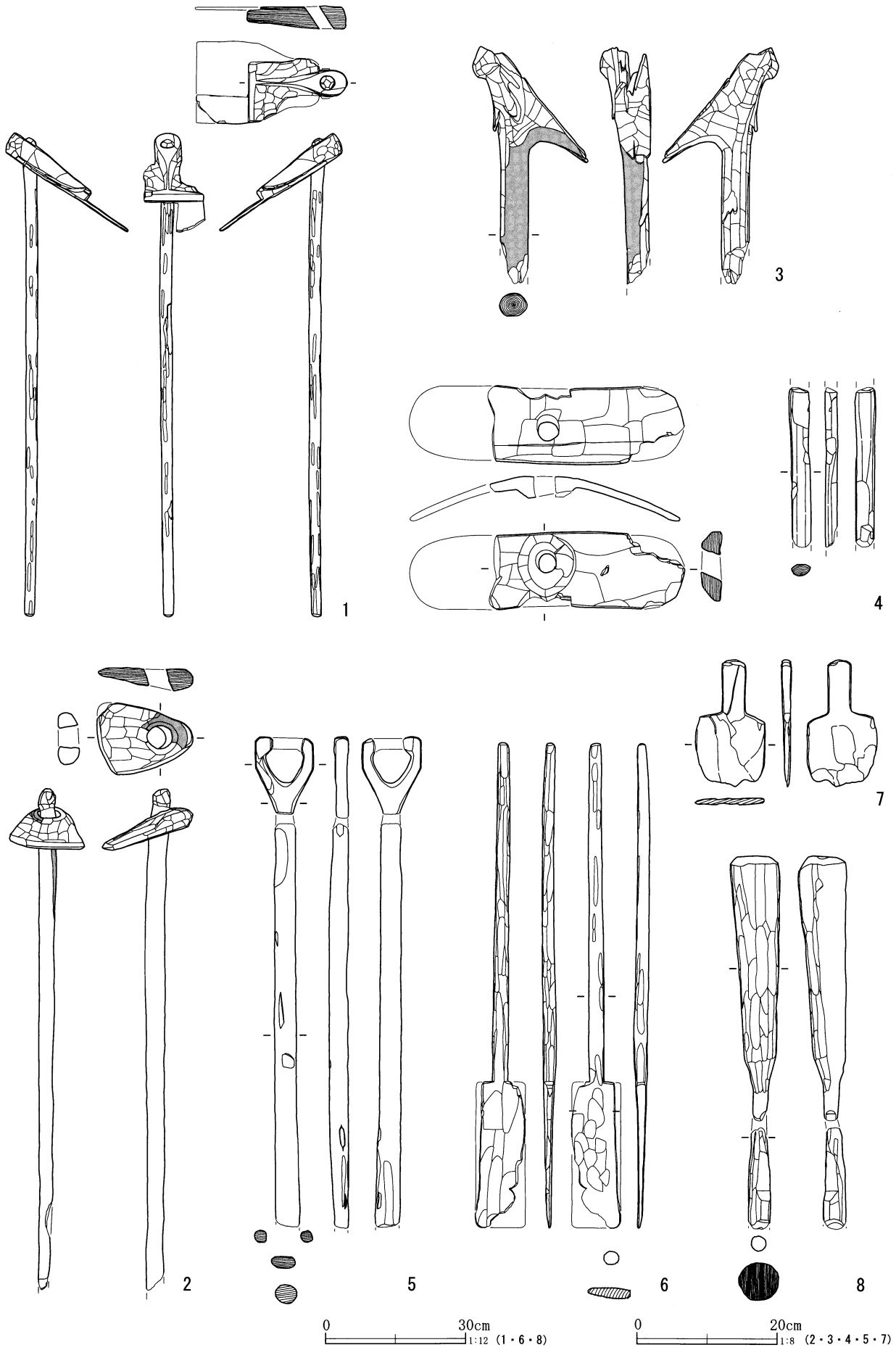
・ムクノキ (*Aphananthe aspera* (Thunb.) Planchon) ニレ科ムクノキ属

散孔材で、横断面では角張った楕円形、単独または2～3個が複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1～5細胞幅、1～20細胞高。柔組織は周囲状およびターミナル状。

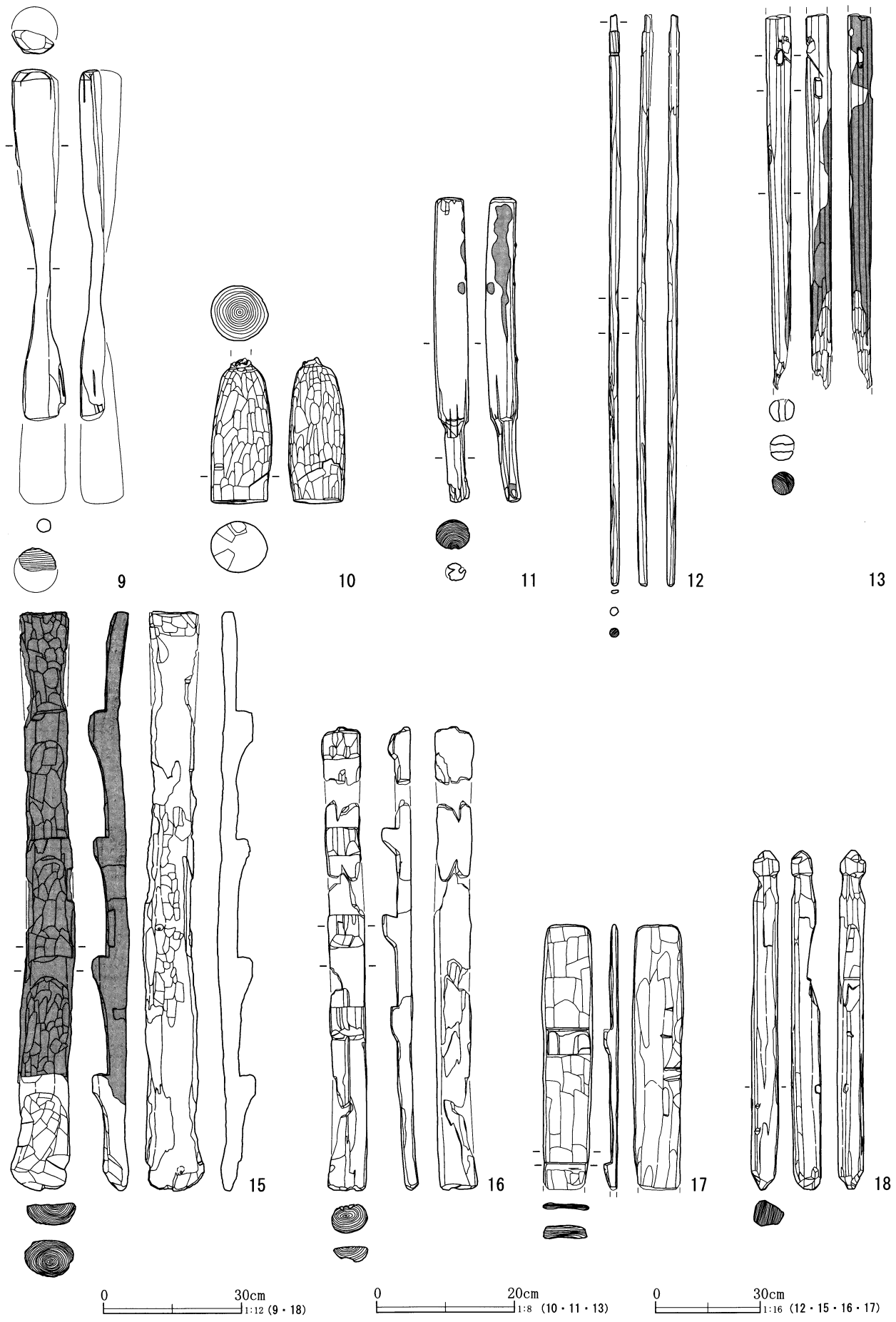
埼玉県内では、山地から平地にかけて広く生育し、人家付近や道路脇などに植栽されることもある。

・エノキ属 (*Celtis*) ニレ科

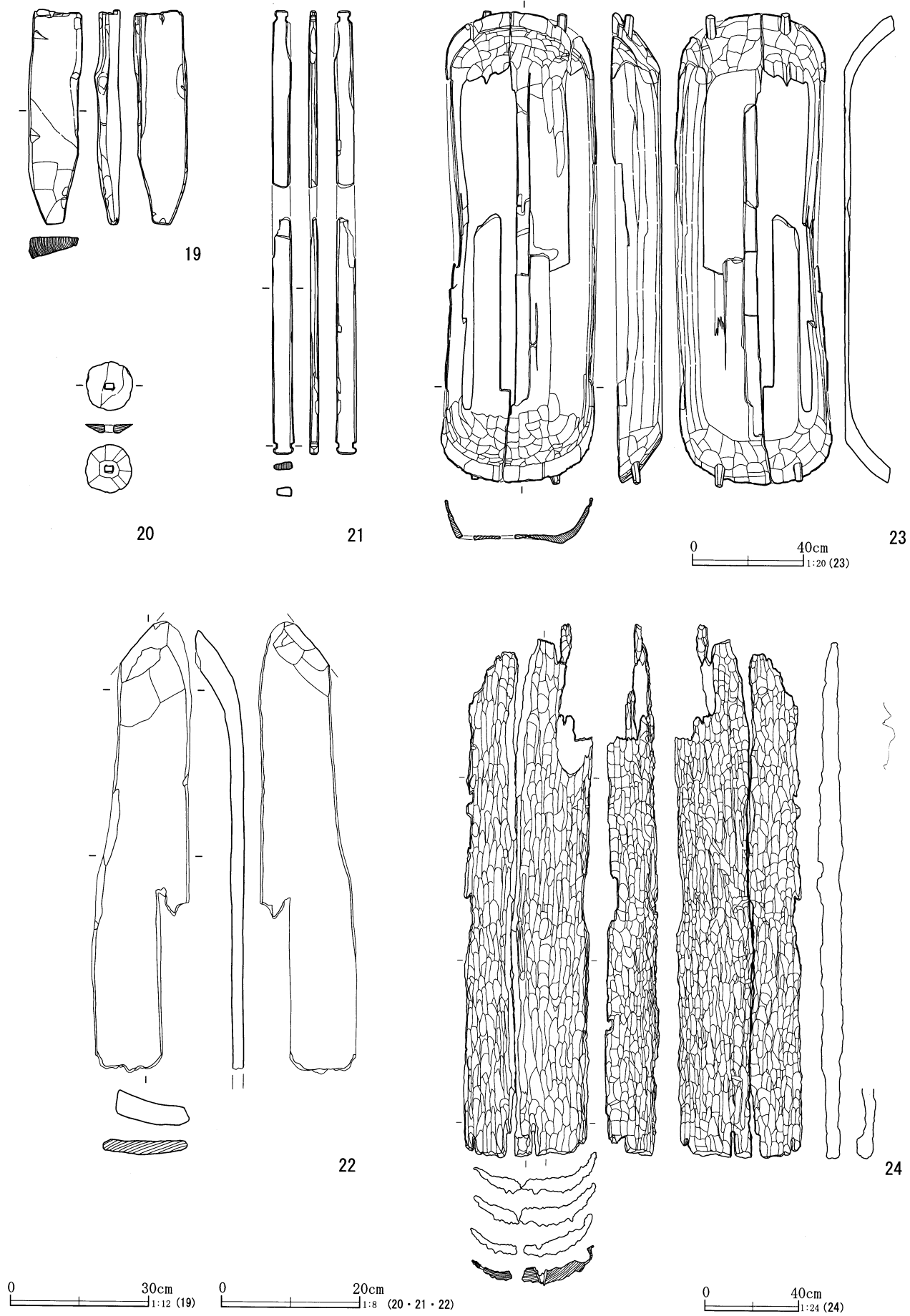
環孔材で、孔圏部は1～3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放



第 130 図 木器分析試料 (1)



第 131 図 木器分析試料 (2)



第 132 図 木器分析試料 (3)

射組織は異性、1～10細胞幅、1～50細胞高で鞘細胞が認められる。

エノキ属には、エゾエノキ・エノキ・コバノチョウセンエノキ・クワノハエノキの4種類がある。埼玉県内では、エノキが沖積地を中心に広く生育するが、エゾエノキも山地を中心に生育している。

・ヤマグワ (*Morus australis* Poiret)

クワ科クワ属

環孔材で、孔圏部は1～5列、孔圏外への移行は緩やかで、晩材部へ向かって管径を漸減させ、のち塊状に複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1～6細胞幅、1～50細胞高で、しばしば結晶を含む。

埼玉県内では、低山地や丘陵地の林縁部等を中心に生育する。

・キハダ (*Phellodendron amurense* Ruprecht)

ミカン科キハダ属

環孔材で、孔圏部は2～5列、孔圏外でやや急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1～5細胞幅、1～40細胞高。

埼玉県内では、変種のヒロハノキハダが秩父山地を中心に生育しているが、キハダの生育は確認されていない。

・アカメガシワ (*Mallotus japonicus* (Thunb.) Muell-Arg.) トウダイグサ科アカメガシワ属

環孔材で、孔圏部は1～5列、孔圏外への移行は緩やかで、小道管は漸減しながら放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は単列異性、1～30細胞高。

埼玉県内では、二次林に普通にみられ、放棄された畑地等にも先駆植物として生育が認められる。

・ヌルデ (*Rhus javanica* L.) ウルシ科ウルシ属

環孔材で、孔圏部は2～4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減する。大管は管壁は薄く、横

断面では楕円形、単独、小管は管壁厚は中庸、横断面では楕円形～やや角張り、2～3個が複合、複合部はさらに厚くなる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1～3細胞幅、1～40細胞高で、時に上下に連結する。

埼玉県内では、山地から平地の林縁部などに生育する。

・ムクロジ (*Sapindus mukorossi* Gaertn.)

ムクロジ科ムクロジ属

環孔材で、孔圏部は1列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合して配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1～細胞幅、1～40細胞高。柔組織は周囲状～連合翼状、帯状およびターミナル状。

埼玉県内では、人家や公園に植栽されたものが主で、逸出して野生化したものもある。

#### 4. 考察

出土した木製品の時期は、古墳時代前期で、建築材、農耕具、木棺、紡織具がある。木製品の器種別種類構成を表2に示す。

第2表 器種別種類構成

種類・器種	樹種	モミ属	スギ	ヒノキ	ヒノキ属	クヌギ	カヤ	アカガシ	垂属	ムクノキ	エノキ属	ヤマグワ	キハダ	アカメガシワ	ヌルデ	ムクロジ	合計
農耕具	竪杵					1	1										2
	横槌	1		1													2
	鋏	身				4											4
		柄				1								1	1		3
	鋤		1		1	1										3	
武器	弓			1													1
建築材	梯子									1	1	1					3
	垂木															1	1
	横架材	柱	1							1							
杭														1			1
容器	槽											1					1
紡織具	紡錘車				1												1
	織機					1											1
祭祀具	田舟												1				1
木棺	木棺											1					1
合計		1	1	2	2	1	7	2	1	1	2	3	2	2	1	1	27



古墳時代前期の木製品27点には、針葉樹5種類（モミ属・スギ・ヒノキ・ヒノキ属・カヤ）、広葉樹9種類（クヌギ節・アカガシ亜属・ムクノキ・エノキ属・ヤマグワ・キハダ・アカメガシワ・ヌルデ・ムクロジ）が確認された。

カヤを除く針葉樹4種類の木材は、木理が通直で割裂性が高く、加工が容易であり、ヒノキ・ヒノキ属では耐水性も高い。カヤは、他の針葉樹よりも重硬な材質を有し、耐水性が高い。一方、広葉樹では、クヌギ節、アカガシ亜属、ヤマグワが重硬な材質を有し、強度も高い。エノキ属・キハダも比較的硬く強度の高い部類に入る。ムクノキは、強度は中程度であるが、靱性に富む。ヌルデも強度は中程度で、耐朽性も高くはないが、吸湿しにくい特徴がある。アカメガシワは広葉樹としては軽軟で保存性も低い。ムクロジは、材が緻密であるが、比較的軽軟な部類に入り、耐朽性も高くない。

これらの種類のうち、アカガシ亜属、ムクロジ、ムクノキ、カヤは暖温帯常緑広葉樹林の構成種であり、クヌギ節、ヤマグワは二次林の構成種となる。また、アカメガシワは、伐採された後の陽地にいち早く生育する先駆的樹木である。エノキ属、ムクノキ、ヌルデ、キハダは自然堤防上等に生育する。全体的に台地上よりも、自然堤防上などの低地に生育する種類が多くみられるが、これは遺跡周辺の地形環境を反映したものと考えられる。これらの広葉樹材を中心とした組成は、本遺跡における花粉分析結果や比較的近い小敷田遺跡から出土した五領期の自然木の樹種同定結果（鈴木・能城1991 パリノ・サーヴェイ株式会社1998）とも調和的である。一方、モミ属、スギ、ヒノキ、ヒノキ属については、現在の遺跡周辺には植栽以外には生育は確認できない。このうち、モミ属は、遺跡周辺の地形環境を考慮すれば、比企丘陵縁辺部などの斜面地に生育していた可能性が考えられるが、出土した広葉樹材と比較して遠方からの搬入と考えられる。スギについては、植栽されたものが県内に広く見られるが、本来自生し

たものであるか不明である。また、ヒノキ属（ヒノキ・サワラ）も山地などに自生が見られるが、植林が広く本来の自生範囲などは不明である。これらの木材も他地域からの搬入の可能性はあるが、現時点では詳細は不明である。

木製品の木材利用をみると、針葉樹が7点、広葉樹が20点であり、広葉樹材の利用が多く、推定される古植生とも調和的である。このことは、遺跡周辺で入手が容易な広葉樹を中心とした木材利用が行われていたことを示しており、このことが北島遺跡における古墳時代前期の木材利用の特徴として挙げられる。

複数の試料について樹種同定を行った器種としては、梯子、堅杵、鋏、鋤がある。梯子と堅杵では、いずれも樹種が異なっており、遺跡周辺で入手可能な種類を利用している。杵のクヌギ節やアカガシ亜属は、重硬で強度の高い材質が選択された背景に考えられる。これらの木材は、遺跡周辺で生育していた樹木の中から、用途に応じて選択され利用されていたことが推定される。また、横槌は2点あり、ヒノキ属・モミ属に同定されているが、今後の分析例を蓄積して検討したいと考える。

鋏・鋤類では、鋏の身が全てクヌギ節、鋤がクヌギ節とアカガシ亜属であり、利用される種類が限定される傾向がある。一方、鋏の柄では試料によって樹種が異なり、身に見られるような選択性は認められない。鋏・鋤類の身については、これまでの調査でアカガシ亜属が多く利用されていることが明らかとなっている（鈴木1988）。関東地方においても、千葉県から出土した鋏・鋤にアカガシ亜属が多く利用されているが、群馬県・埼玉県・東京都から出土した鋏・鋤にはアカガシ亜属に混じってクヌギ節やコナラ節が多く見られる（高橋1996）。これは、アカガシ亜属の自生北限（群馬県安中市周辺）に近いために、アカガシ亜属よりもコナラ亜属の木材の入手が容易であり、その結果としてコナラ亜属の利用が多かったと考えられる。一方、柄については、こ

れまでの調査でも雑多な組成になる傾向が指摘されており、その理由として、堅い材質の柄を用いることで刃先を破損しないように、軽軟で折れやすい木材を選択した可能性が考えられている（鈴木1988）。本遺跡についても、アカメガシワやヌルデは折れやすい材質であり、同様の可能性が指摘できる。なお、ヌルデとアカメガシワは丸木のまま利用されており、このこともアカメガシワやヌルデが周辺で入手可能な木材を利用したことを示している。クヌギ節の柄は、堅い木材を丸棒状に加工していること、身と同じ樹種を利用していることから、他の鋏とは利用状

況が異なる。鉄製の刃先を装着していたなど、鋏の形態や利用方法の違いに起因する可能性があるが、現時点では詳細は不明であり、今後鋏の形態も含めた検討が必要である。

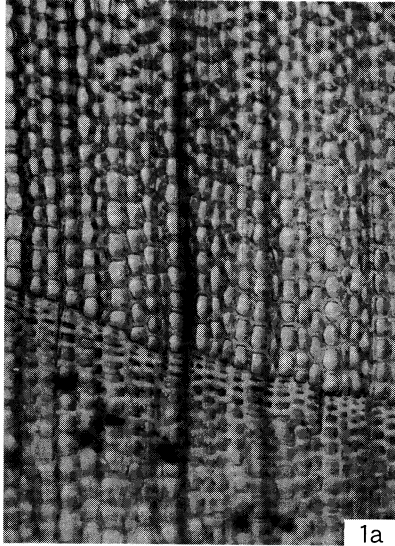
その他の製品については、1器種1点のため、利用される種類の傾向等は不明であるが、基本的には遺跡周辺で入手可能な木材を利用したと考えられる。

本地域における木材利用については、時期別・用途別の利用傾向を把握するにはまだ資料が少ない。今後さらに資料を蓄積すると共に、木製品の形態、木取り、利用状況等も含めて木材利用を検討したい。

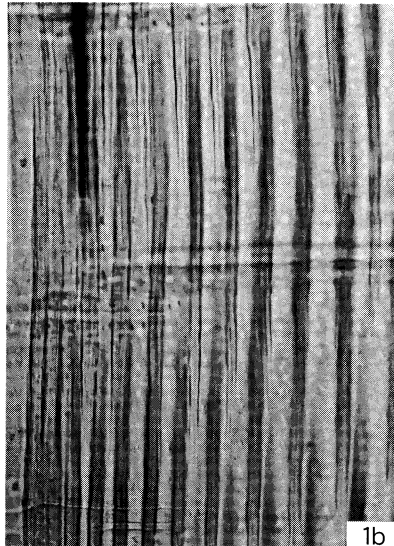
#### 引用文献

- 籠瀬良明 1990 『自然堤防の諸類型 - 河岸平野と水害 -』 古今書院 P202
- バリノ・サーヴェイ株式会社 1998 「北島遺跡の古環境変遷」『北島遺跡IV 第2分冊』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第195集 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 P485～503
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2003 「北島遺跡から出土した木材の樹種同定分析について」『北島遺跡VI第2分冊』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第286集 埼玉県・財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 P521～524
- 鈴木三男 1988 「農具及び工具」『日本の遺跡出土木製品総覧』 島地 謙・伊東 隆夫編 雄山閣 P50～57
- 鈴木三男・能城修一 1991 「小敷田遺跡の木材化石群集」『小敷田遺跡<河川跡遺物編・第II分冊>』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第95集 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 P268～318
- 高橋重男 1998a 「埼玉県の裸子植物」『1998年度版 埼玉県植物誌』伊藤 洋編 埼玉県教育委員会 P81～86
- 高橋重男 1998b 「埼玉県の被子植物」『1998年度版 埼玉県植物誌』伊藤 洋編 埼玉県教育委員会 P87～288
- 辻誠一郎 1985 「関東地方における縄文時代以降の植生史：照葉樹林の消長をめぐって」『群落研究』 2 P8～10
- 山田昌久 1986 「くわとすきの来た道」『新保遺跡I 弥生・古墳時代大溝編 - 関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第10集<本文編>』 群馬県教育委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 P168-188

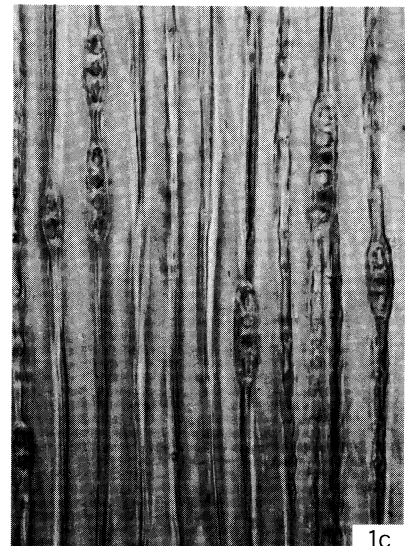
図版1 木材(1)



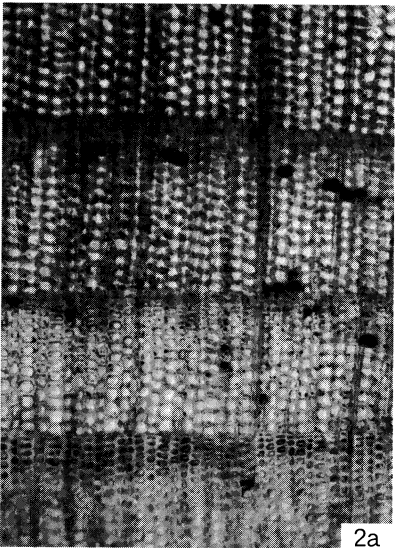
1a



1b



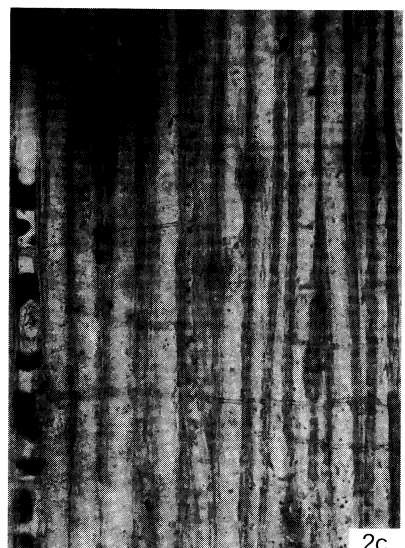
1c



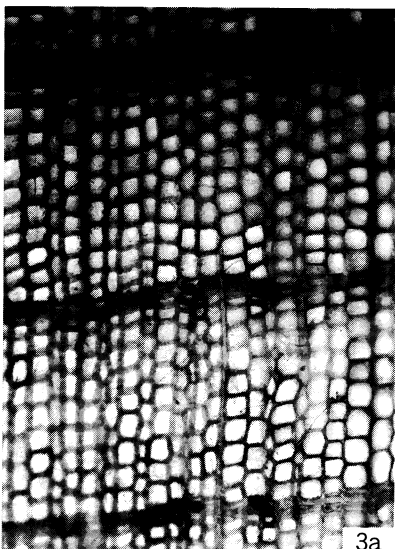
2a



2b



2c



3a



3b



3c

- 1.ヒノキ(試料番号12)
- 2.ヒノキ科(試料番号11)
- 3.カヤ(試料番号21)

a:小口、b:柁目、c:板目

200  $\mu$ m:a  
100  $\mu$ m:b,c

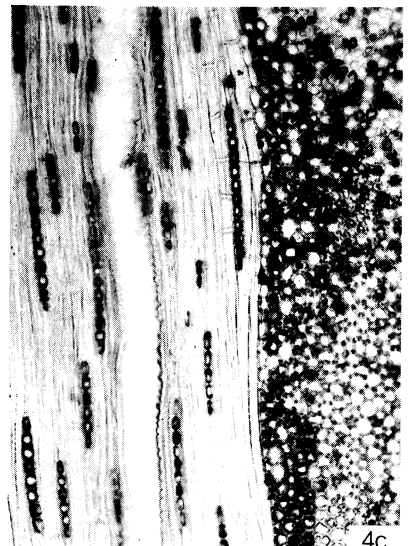
図版2 木材(2)



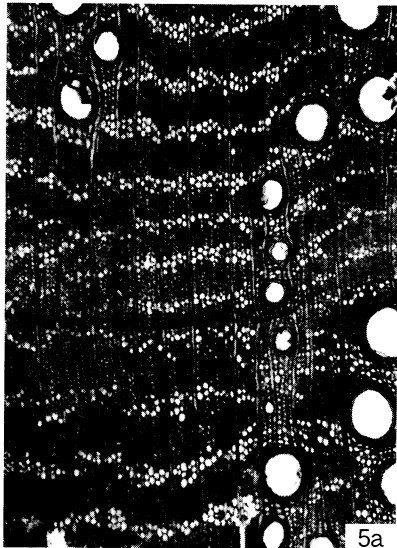
4a



4b



4c



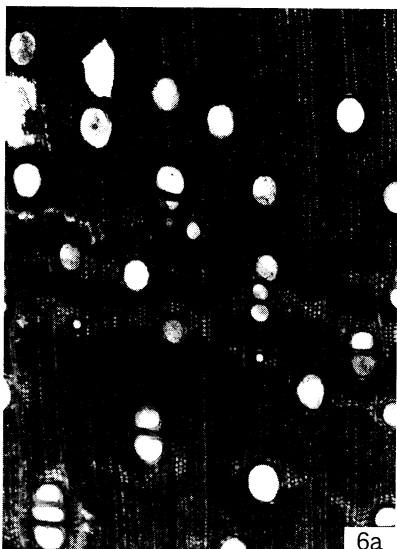
5a



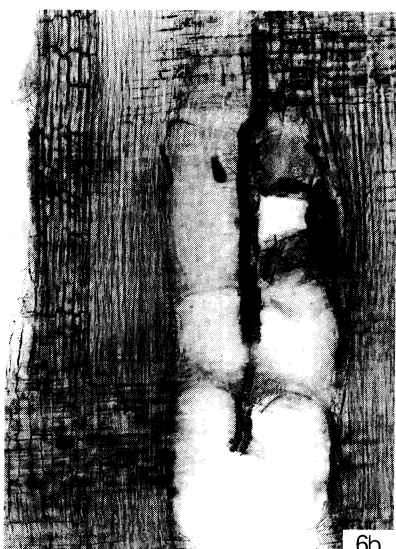
5b



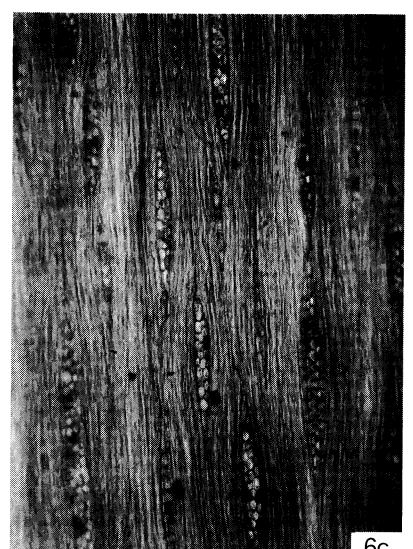
5c



6a



6b



6c

4.コナラ属コナラ亜属クヌギ節(試料番号1柄)

5.コナラ属アカガシ亜属(試料番号5)

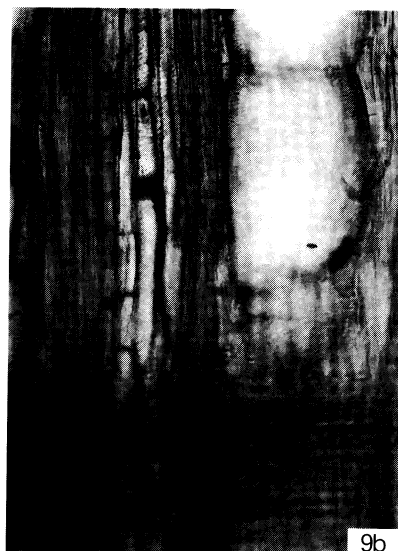
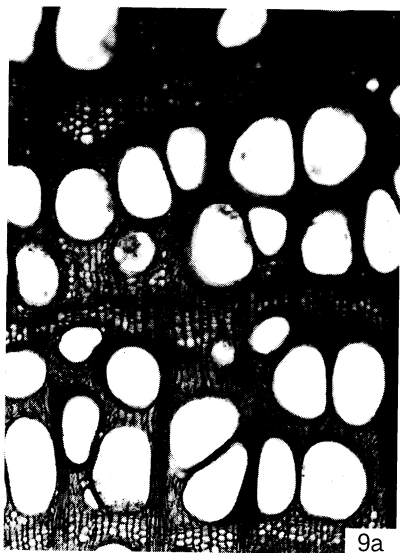
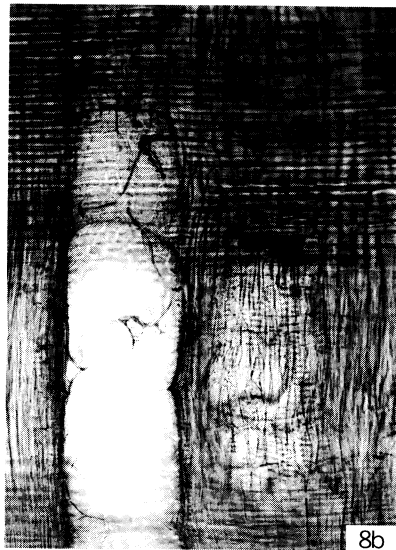
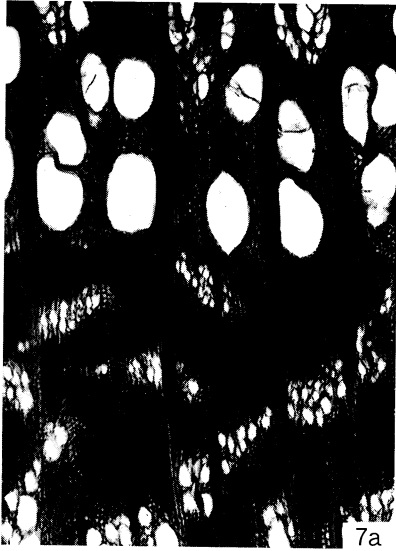
6.ムクノギ(試料番号14)

a: 小口、b: 柁目、c: 板目

200  $\mu$  m:a

200  $\mu$  m:b,c

図版3 木材(3)



7.エノキ属(試料番号17)

8.ヤマグワ(試料番号16)

9.キハダ(試料番号22)

a:小口、b:柁目、c:板目

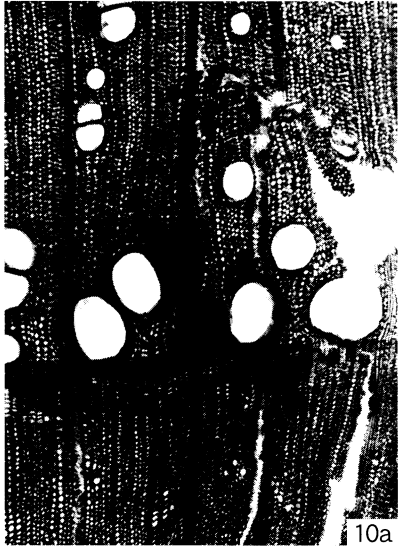
200 μ m:7・8a

200 μ m:9a

200 μ m:7・8b,c

200 μ m:9b,c

図版4 木材4



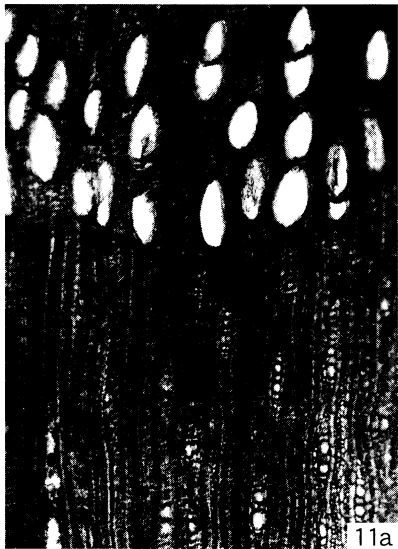
10a



10b



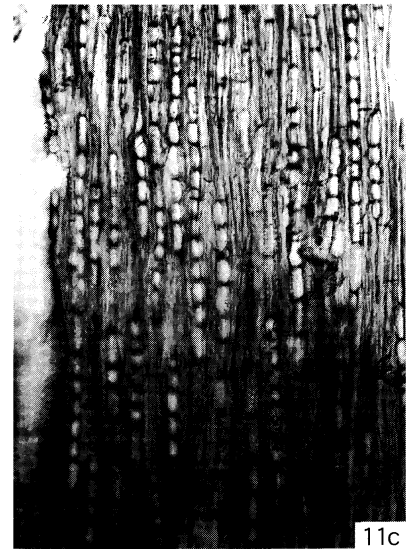
10c



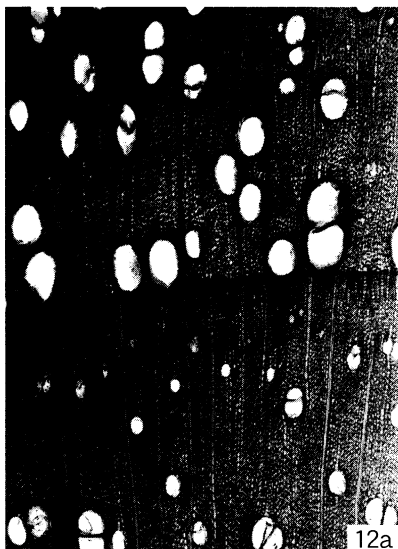
11a



11b



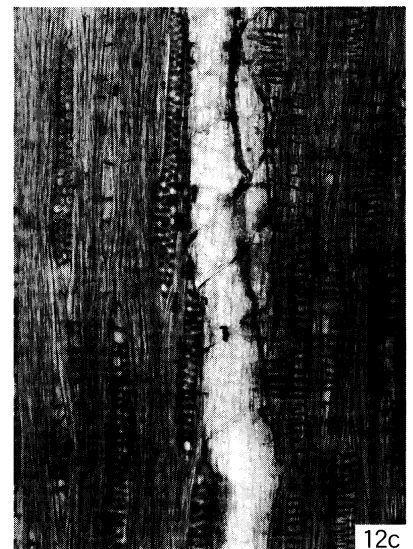
11c



12a



12b



12c

10.キハダ(試料番号15)

11.アカメガシワ(試料番号4柄)

12.ヌルデ(試料番号2柄)

a:小口、b:柾目、c:板目

200 μ m:10・12a

200 μ m:11a

200 μ m:10・12b,c

200 μ m:11b,c